函南町古文書資料集（二）

大土肥渡辺家古文書

序

私たちの郷土函南町は、わが国でも有数の観光地―伊豆半島―への玄関口に位置し、北には富士を仰ぐ風光明媚な土地であります。温暖な気候風土に恵まれた自然環境とも相まって、いまや人口は三五、〇〇〇人を超え静岡県下第一位の町として発展を続けています。

こうした状況において、社会生活の変化や多様化、それをとりまく環境も急変を遂げております。古くより伝わる風俗や慣習なども我々の目前からいつの間にか姿を消していくものも少なくはありません。

こうした現状に対し、貴重な資料の消滅や散逸を防ぎ、当町の近世の正しい歴史を知るため、昭和六十年度より町内古文書収集調査事業を実施し今日に至っております。

今回ここに、その第二次調査成果として大土肥・渡辺家（清氏所蔵）古文書が二か年の調査期間を経て資料集として発刊できることは誠に意義深いことと存じます。本書が当函南町及び周辺地域における近世史を研究する上での好資料として広く活用されることを切望して発刊の序といたします。

終わりに、本書の刊行にあたりご尽力をいただいた調査員の皆様方、そして暖かいご理解とご協力を賜りました渡辺　清様に対しまして深甚なる謝意を表する次第であります。

平成四年三月

函南町教育委員会教育長

露木　稔

凡例

一、本書は静岡県田方郡函南町大土肥に所在する渡辺家古文書資料集である。

二、本書に掲載した資料は渡辺家古文書のうち、近代以降を除いた三六三点（平成二年三月末調査現在）のうち主要な二八一点である。

三、本書に係る資料は、平成二年度に函南町教育委員会が渡辺家より借り受けて、原本をコピー収集したものである。

四、本書に係る事業は、函南町教育委員会が計画した町内古文書収集調査事業の第二次調査として、平成二年三月より平成四年二月にかけて行ない、資料の解読・原稿執筆は次の調査員（函南町歴史研究会会員）に依頼し実施したものである。　（敬称略、五十音順）

　香川　幸夫　　笠松　幸一

　田中　悟　　水上　和子

なお、原本のコピーは　瀬川　さい（函南町中央公民館職員）が行なった。

五、本書を構成する分類基準は、「静岡県史」（静岡県）で行なっている近世資料分類例に拠り、それは次のとおりである。

　A類　支配関係　　B類　土地関係　　C類　貢租関係

　D類　村制関係　　E類　諸産業関係　　F類　商業関係

　G類　交通・通信関係　　H類　水利・土木関係

　K類　宗教・習俗・身分関係

六、本書を構成するにあたり次の点を統一している。

（一）文章は読み下し文とした。

（二）前行にある［被］［可］のように次行で読み下す場合、その文字の位置を示すため、前行に（　）書きで示した。

（三）○○衛門、○兵衛、候は活字体とした。

（四）虫喰、損傷などの不明箇所は、字数を推算し□□とした。

（五）文章及び文字の読み方が難解な箇所はルビをつけた。

（六）原文を尊重し、異体字は忠実にそのまま使用するように努めた。なお、宛字、誤字、その他疑問と思われる原字も原文のまま書いて（ママ）とした。

七、本書の編集は、調査員の香川　笠松　田中　三氏が行なった。

八、本事業に係る事務局は、函南町教育委員会社会教育課が担当した。

九、本書に係る資料（原本写、解読文、未掲載を含む）は事務局で保管している。

十、本書を作成するにあたり、調査の趣旨にご理解を示され快く資料をご提供くだされた渡辺　清氏に対しまして、心より厚く御礼を申し上げます。本書の刊行をもって、僅かではありますがそのご好意に対する責務の一端を果たしたものと存じます。

目次

A類 1
B類 45
C類 55
D類 125
E類 167
F類 195
G類 201
H類 257
K類 271

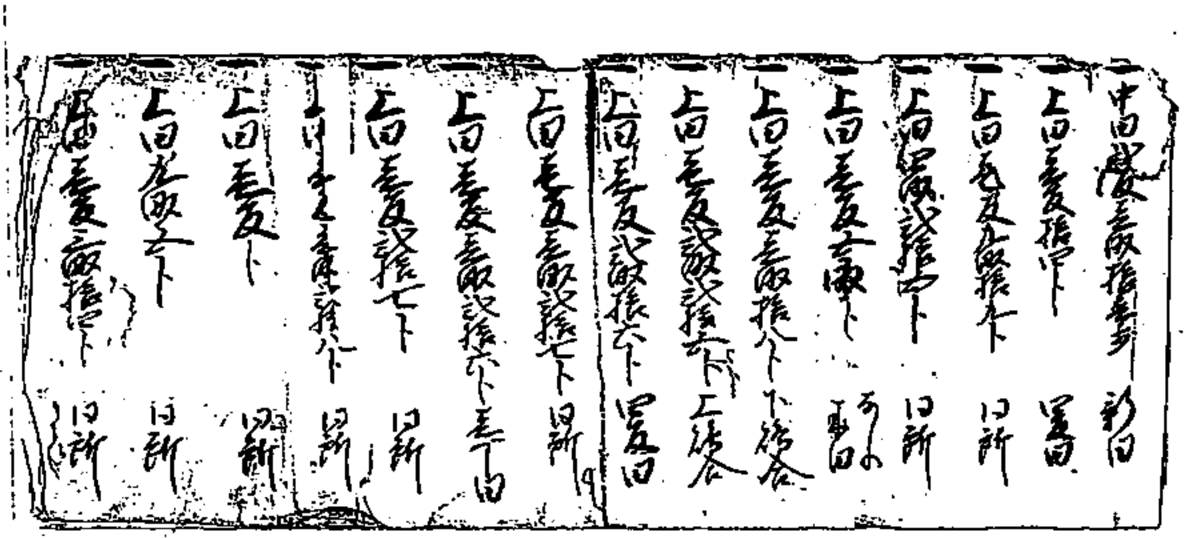
A　類

標題	差出人	請取人	年月日	
1、豆州三嶋御役所貸附金質地帳	大土肥村惣兵衛	浦野庄兵衛	宝暦六年正月（一七五六）	1
2、差上申一札之支（韮山御貸付金借用）	名主宗右衛門他二名	浦野庄兵衛	文化十二年十二月（一八一五）	7
3、下知書（旗本勝手賄金返方について）	井出甚右衛門 浦野庄兵衛㊞	大土肥村名主 宗右衛門殿他	文化十三年十月（一八一六）	9
4、御　触　留			文政二年（一八一九）	11
6、乍恐以書付奉願上候（若者徒党にて強姦）	大土肥彦三郎	韮山役所	文政六年六月（一八二三）	16
7、御願申連印一札之事（栄蔵他百姓代一名の出府断の願）	大土肥村百姓 武右衛門他二十三名	大土肥村 宗右衛門殿	文政七年八月（一八二四）	19
7、申渡覚（名主本役未難組極、見習其まま彦三郎是迠之通用向村用万端無差支）六通	浦野喜兵衛	大土肥村名主 宗右衛門	酉年六月（文政八年?）（一八二五）	22
8、韮山御役所御触書写（寺院僧侶への達）			文政十三年一月二十五日（一八三〇）	29
9、下知之事（御米十五俵、村方窮養育のための御見捨場）	土屋織部㊞	大土肥村役人中へ	天保十二年二月（一八四一）	35
10、申渡（麦貸付）	地頭所大屋織部	大土肥村組合親 倉次郎	文久二年十月十三日（一八六二）	36
11、申渡（積立麦売渡し）	地頭所㊞	大土肥村 組頭倉次郎へ	文久三年十一月（一八六三）	37
12、定（井出志摩守制札写）	井出志摩守正次	大宮	五月吉日	38
13、（敵殺害の者手配）				40
14、御触書（無宿、長脇差、所持の者召捕べし）	当村役人		九月	42

宝暦六年　　大土肥村

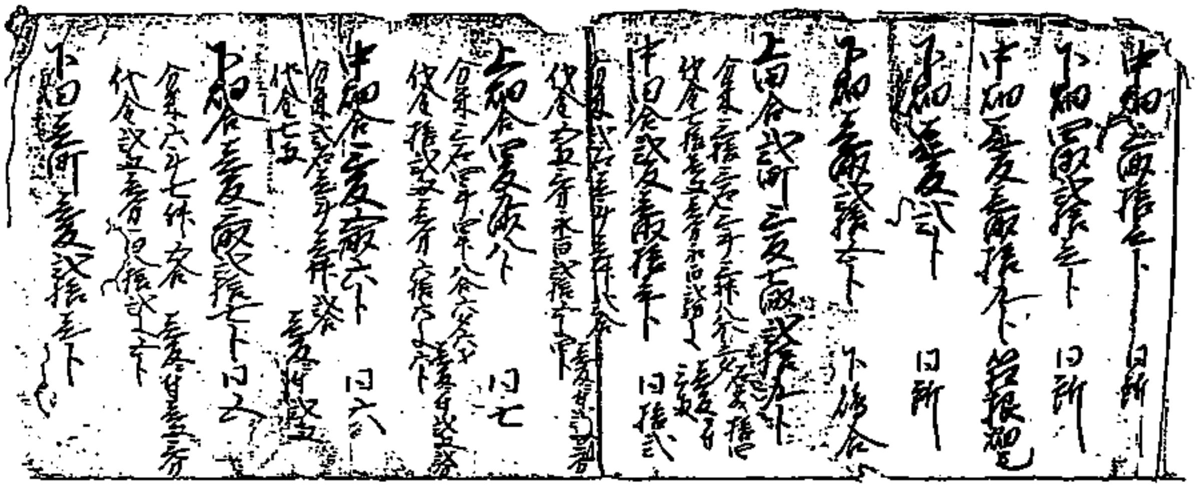
豆州三嶋御役所貸附金質地帳

子ノ正月　　惣兵衛



一、中田弐反壱畝拾壱歩　新田
一、上田壱反拾四歩　四反田
一、上田壱反九畝拾九歩　同所
一、上田四畝弐拾五歩　同所
一、上田壱反五畝歩　なしの木田
一、上田壱反壱畝拾八歩　下嶋合
一、上田壱反弐畝弐拾五歩　上嶋合
一、上田壱反弐畝拾六歩　四反田
一、上田壱反壱畝弐拾七歩　同所
一、上田壱反壱畝弐拾六歩　壱丁田
一、上田壱反弐拾七歩　同所
一、上田壱反壱畝弐拾八歩　同所
一、上田壱反歩　同所
一、上田九畝五歩　同所
一、上田壱反三畝拾四歩　同所

一、上田八畝三歩　壱丁田
一、上田弐反七畝　西原前
一、上田壱反　六反田
一、上田弐反六畝弐拾七歩　道之前
一、上畑壱反弐拾歩　大畑毛
一、上畑壱反壱畝六歩　川嶋
一、上畑四畝六歩　川﨑
一、中畑壱反弐畝弐拾壱歩　大畑毛
一、上畑弐畝拾弐歩　かうや　うしろ
一、下畑弐畝　下嶋合
一、上畑四畝拾五歩　川﨑
一、上畑三畝弐拾八歩　角畑毛
一、上畑六畝拾壱歩　上之段
一、上畑六畝　同　所
一、中畑七畝拾五歩　同　所



一、中畑三畝拾壱歩　同　所
一、下畑四畝弐拾壱歩　同　所
一、中畑壱反壱畝拾九歩　箱根畑毛
一、下畑壱反弐歩　同　所
一、下畑壱畝弐拾五歩　下嶋合

上田合弐町三反七畝弐拾九歩　石森拾四
分米三十三石三斗三升八合三夕　壱反ニ付
代金七拾壱両壱分永百弐拾文　三両

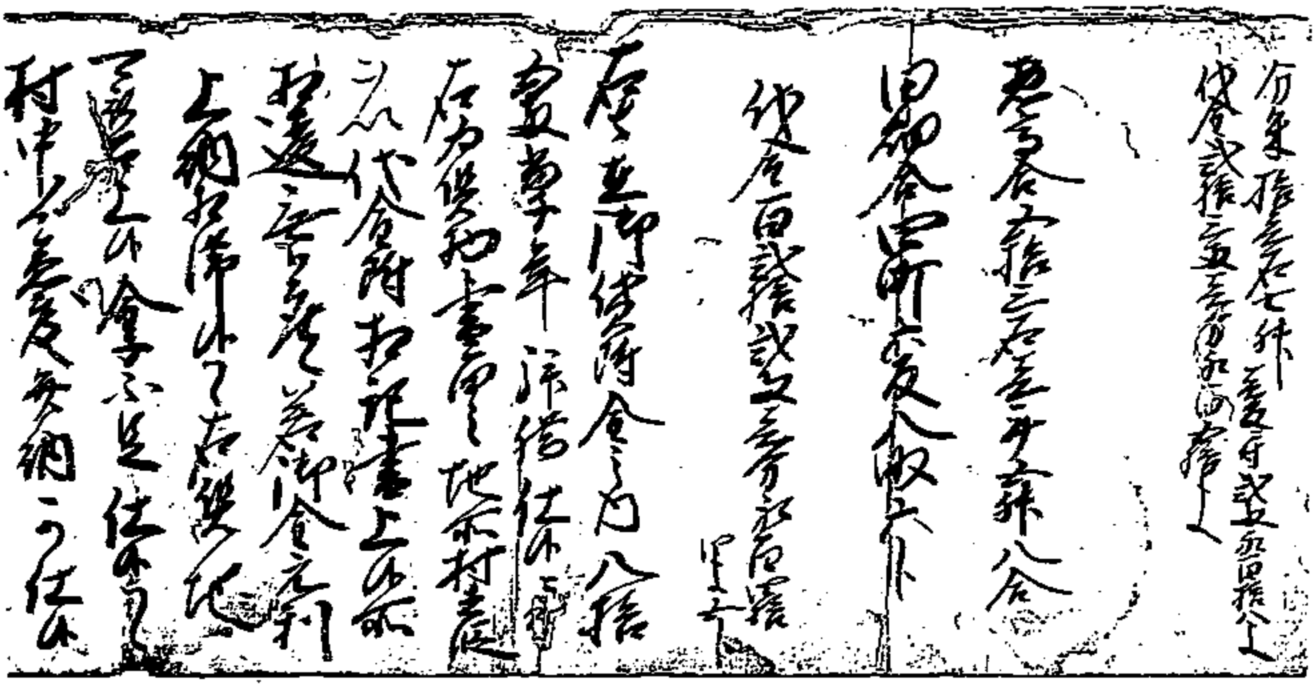
中田合弐反壱畝拾壱歩　同拾弐
分米弐石壱斗壱升弐合
代金五両三分永百弐拾五文四分　壱反ニ付弐両三分

上畑合四反九畝八歩　同七
分米三石四斗四升八合六夕六才
代金拾弐両壱分六拾六文六分　壱反ニ付弐両弐分

中畑合三反五畝六歩　同六
分米弐石壱斗壱升弐合
代金七両　壱反ニ付弐両

下畑合壱反三畝弐拾七歩　同五
分米六斗七升五合
代金弐両壱分百八拾弐文五分　壱反ニ付壱両三分

下田壱町壱反弐拾壱歩



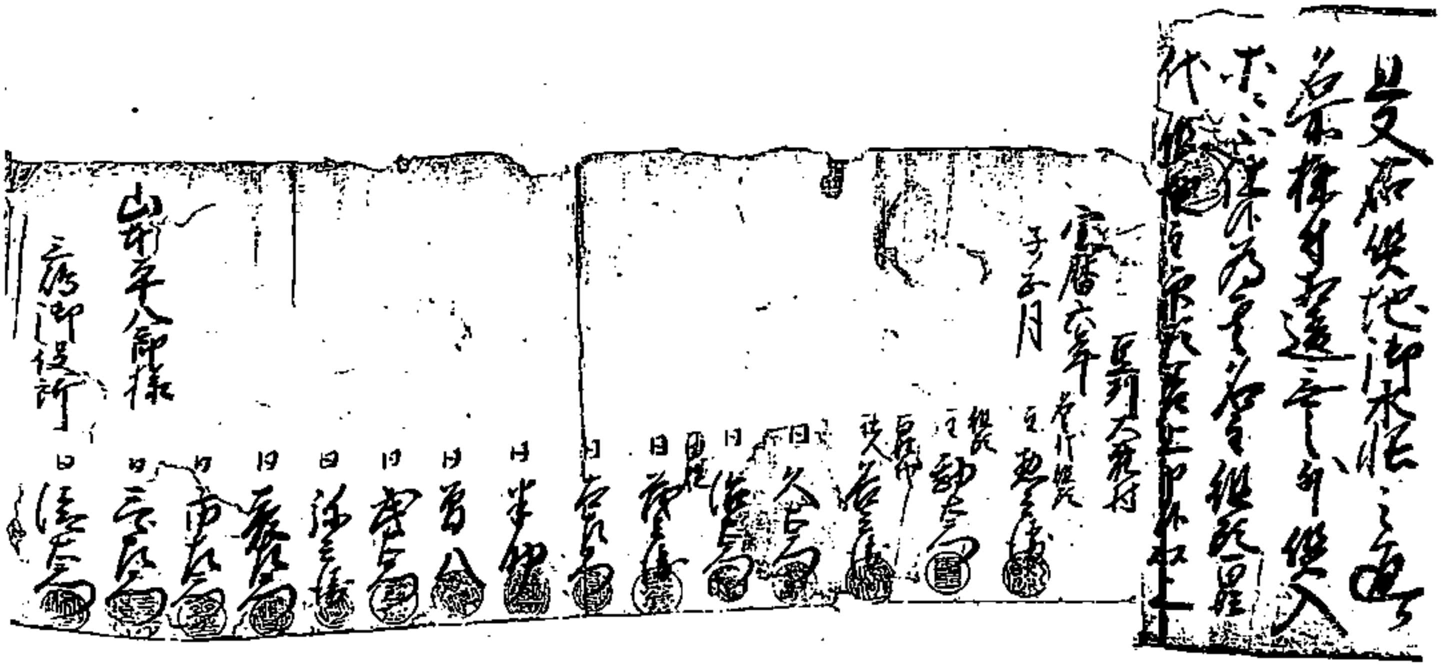
分米拾壱石七升
　　　　壱反ニ付弐両永百拾八文
代金弐拾三両壱分永百五拾文

惣高合五拾三石壱斗五升八合

田畑合四町六反八畝六歩

代金百弐拾弐両壱分永百四拾
　　　　　　　　四文五分

右は、在御貸附金之内八拾
五両當子年拝借仕り候ニ付き
右質物為(として)書面之地所村直段(ねだん)
ヲ以て代金附き相記し書上げ候所
相違御座無く候、若し御金元利
上納相滞り候ハゞ右質地
召上げられべく候、金子不足仕り候ハゞ
村中ゟ急度弁納仕るべく候



且又右質地御水帳之通り
名前株付き相違之れ無く、外質入れ
等ニ仕らず候、其為名主組頭百姓
代質地主印形差上げ申し候以上

豆州大土肥村

宝暦六年

子ノ正月

名主代組頭
主　惣兵衛㊞

組頭
主　勘右衛門㊞

百姓代
証人善兵衛㊞

同　久右衛門㊞

百姓
同　治右衛門㊞

同　茂兵衛㊞

同　太左衛門㊞

同　半　助㊞

同　曽　八㊞

同　武右衛門㊞

同　弥兵衛㊞

同　彦左衛門㊞

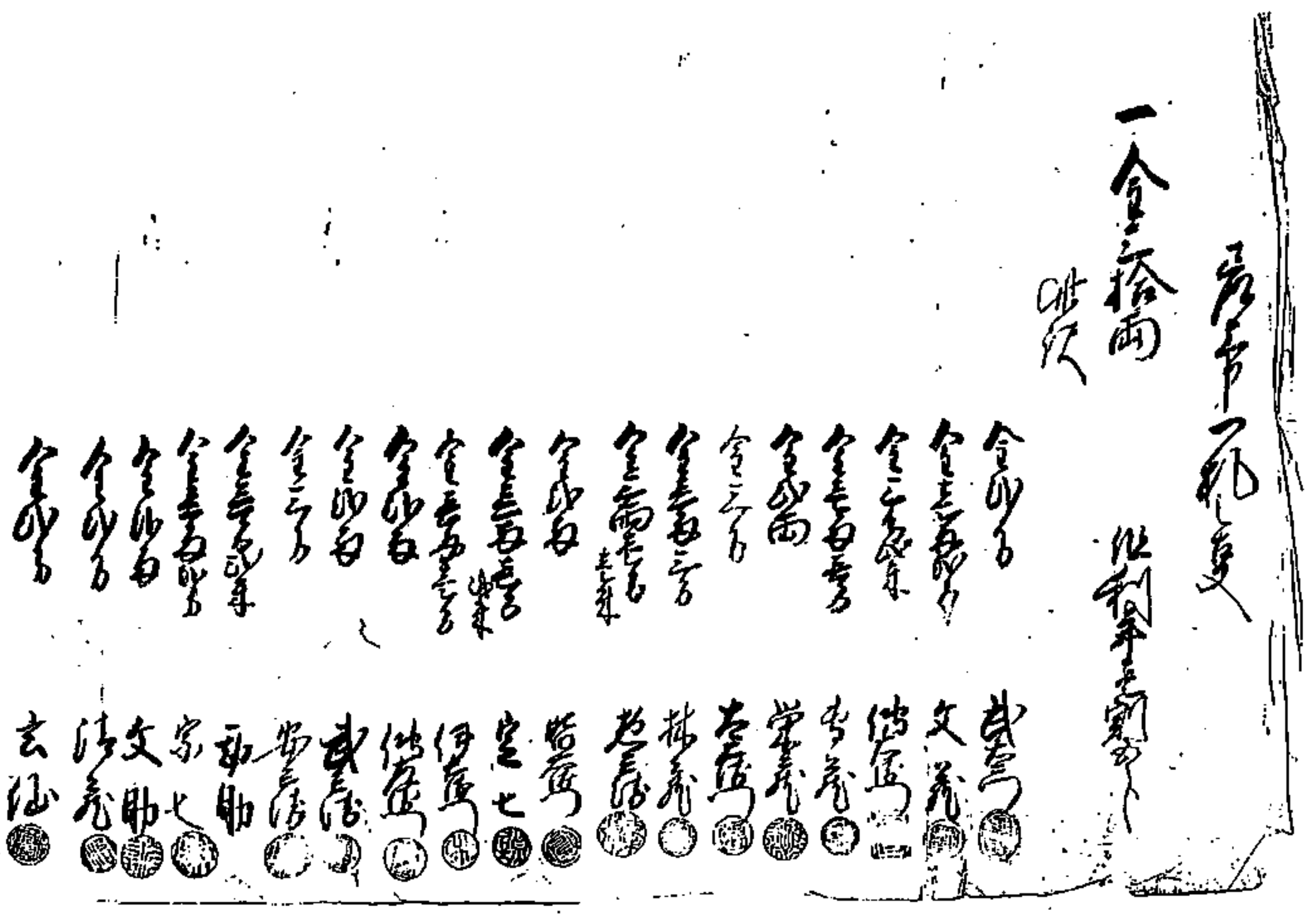
同　市左衛門㊞

同三郎左衛門㊞

同　滑右衛門㊞

山本平八郎様

三嶋御役所

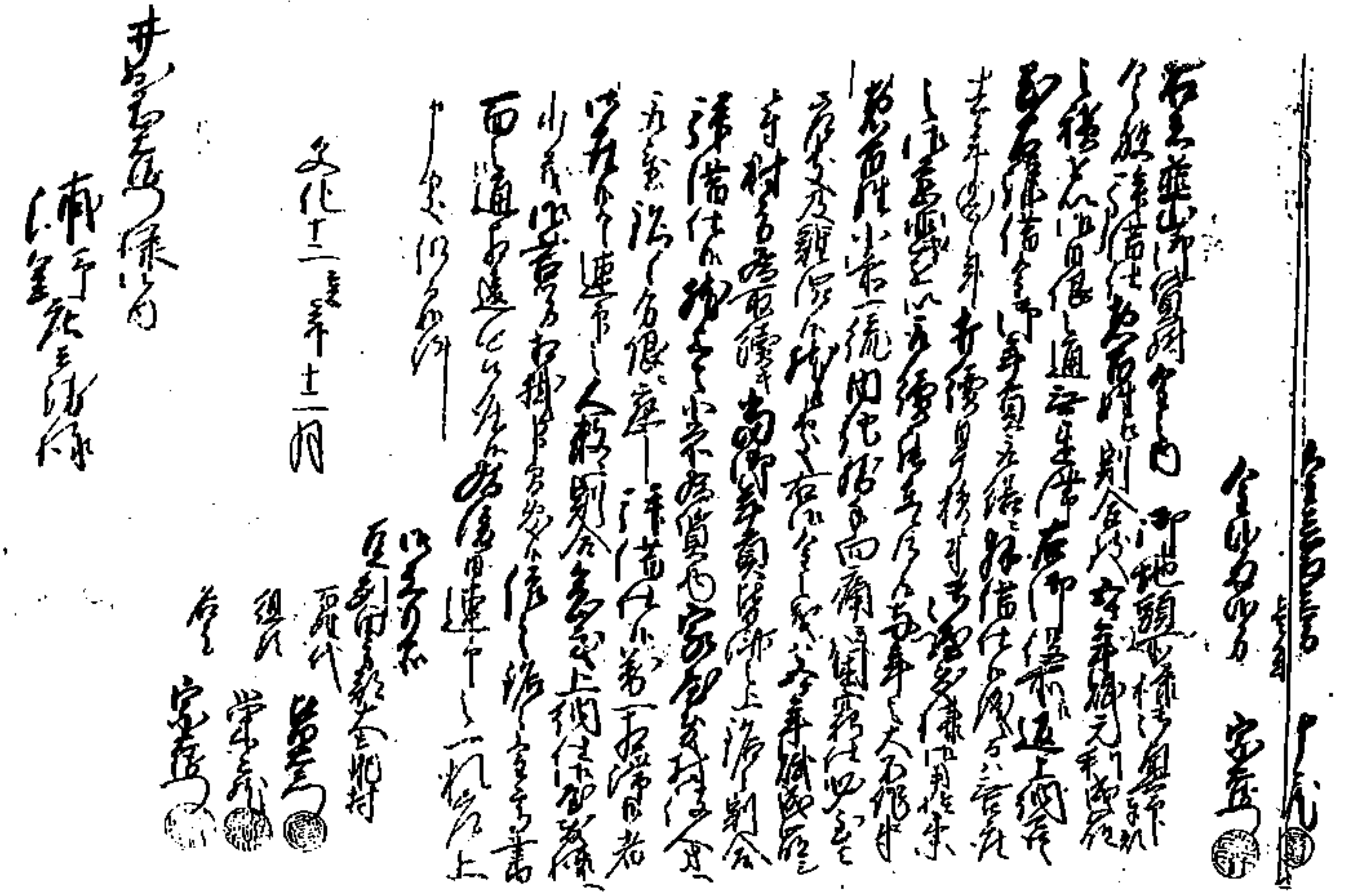


差上申一札之叓（こと）

一、金三拾両　但利年壱割五分

此訳

金弐分　武右衛門㊞
金壱両弐分　文　蔵㊞
金三分弐朱　伝右衛門㊞
金壱両壱分　専　蔵㊞
金弐両　栄　蔵㊞
金三分　太左衛門㊞
金壱両三分　林　蔵㊞
金三両壱分　惣兵衛㊞
壱朱
金弐両　皆右衛門㊞
金壱両壱分　定　七㊞
弐朱
金壱両壱分　伊右衛門㊞
金弐両　伝左衛門㊞
金弐両　武兵衛㊞
金三分　安兵衛㊞
金壱分弐朱　勘　助㊞
金壱両弐分　宗　七㊞
金弐両　文　助㊞
金弐分　清　蔵㊞
金弐分　玄　仙㊞



金壱両壱分　十　蔵㊞
壱朱
金弐両弐分　宗右衛門㊞

右は韮山御貸附金之内、御地頭所様奥印願い奉り
今般拝借仕り、惣百姓江割合致し五ヶ年賦元利成崩し
之積りを以て御日限之通り遅滞無く右役所江返上納仕るべく候
尤も右拝借金、御年貢取り繕いニ拝借仕り候義ニてハ御座無く
去年酉之年、打ち續く旱損ニ付き御屋敷様御用捨米等
之御慈悲を以て取り續き罷り在り候得共、両年之大不作ニ付き
惣百姓小前一統内証勝手向き痛み困窮仕り、差し支え
必至与難渋に及び候、然ル處右御金之儀ハ五ヶ年賦成し崩シ
ニ付き村方取り續キの為当御年貢皆済之上銘々割合
拝借仕り候　然る上は小前為質物家屋敷村役人方へ
取り置き銘々分限ニ應じ拝借仕り候萬一相滞り候者
御座候ハゞ連印之人数ニ割合、急度上納仕り御屋敷様へ
少しも御苦労相掛け申す間敷く候、之れに依り銘々金高書
面之通り相違御座無く候後日の為連印之一札差し上げ
申す處仍(よって)而件(くだん)の如し

文化十二亥年十二月

御知行所
豆州田方郡大土肥村
百姓代　皆右衛門㊞
組頭　栄　蔵㊞
名主　宗右衛門㊞

井出甚右衛門様御内
浦野庄兵衛様

下知書

御地頭所御勝手向き、其村々承知之通り近来達々御不如意ニ罷り成り候ニ付き當夏中御仕法成され、御取替え明細御暮し方帳面ニ相記し勘定致し候所、臨時入金之れ無く候而は、仕法相附かず候間今般其両村ヱ頼母子講無尽相企て候様申し付け候得ば格別之丹精を以て惣百姓并に越石百姓迄相談ニ及び金弐拾弐両都合調達致し、右金残らず上納候ニ請取り候、御前ニ於ても、御満足思召され候、然ル上は来ル丑年大司脇會合ゟ満會迄大司利金壱割弐分五厘掛合等、連中取り究メ勘定之通り両村年々御年貢上納米之内ニて伺い及ばず引取り置き会席ヱ差出申されべく候、右金之儀は、一旦御暮し方御仕法ニ相立て、一入趣意金之儀ニ之れ有り候得ば、聊等閑ニ思し召されず候、縦令何様之水旱凶作ニても休會延年等決して申し付け間鋪候、仍て下知書相渡し置き候条　毛頭相違之れ無く候以上

文化十三子年十月

井出甚右衛門内

浦野庄兵衛㊞

御知行所

大土肥村

名主

宗右衛門殿

組頭

栄蔵殿

百姓代

皆右衛門どの

間宮村

名主代

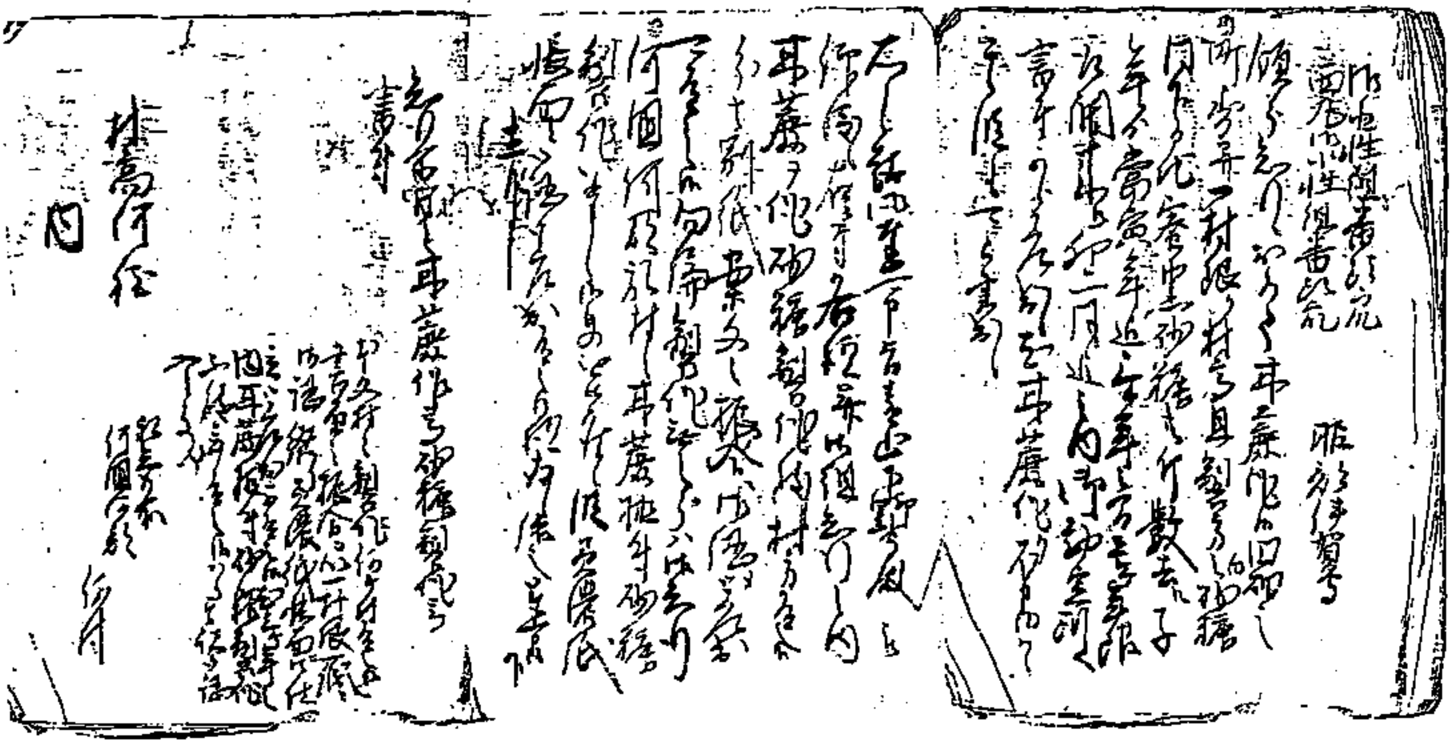
儀右衛門殿

組頭

百姓代

表書之通り相違之無き者也

井甚右衛門㊞



御小姓組番頭衆
西丸御小姓組番頭衆

服部伊賀守

領分知行ニおいて甘蔗作り候田畑之
町歩并ニ一村限り村高、且つ製方之白砂糖
同下々地蜜黒砂糖共斤数去ル子
年ゟ当寅年迄、三ヶ年之間壱ヶ年限
取り調べ、来ル卯二月迄之内御勘定所へ
書付差し出されべく候、尤も甘蔗作り申さず候ハヾ
其段も書き出されべく候、
右之趣御達し申すべき旨、青山下野守殿
仰せ渡され候、右ニ付き各様并ニ御組知行之内
甘蔗ヲ作り砂糖製作致し候村方これ有り候
分は、別紙案文之振合いニ御認メ差出し
これ有るべく候、勿論製作これ無き分ハ、御知行
何国何郡村々に於いて甘蔗植え付け砂糖
製作いたし候もの御座無く候段、美濃紙
帳面ニ御認め差出しこれ有り候様存じ候、依之御達し申し候

以上

十二月　日

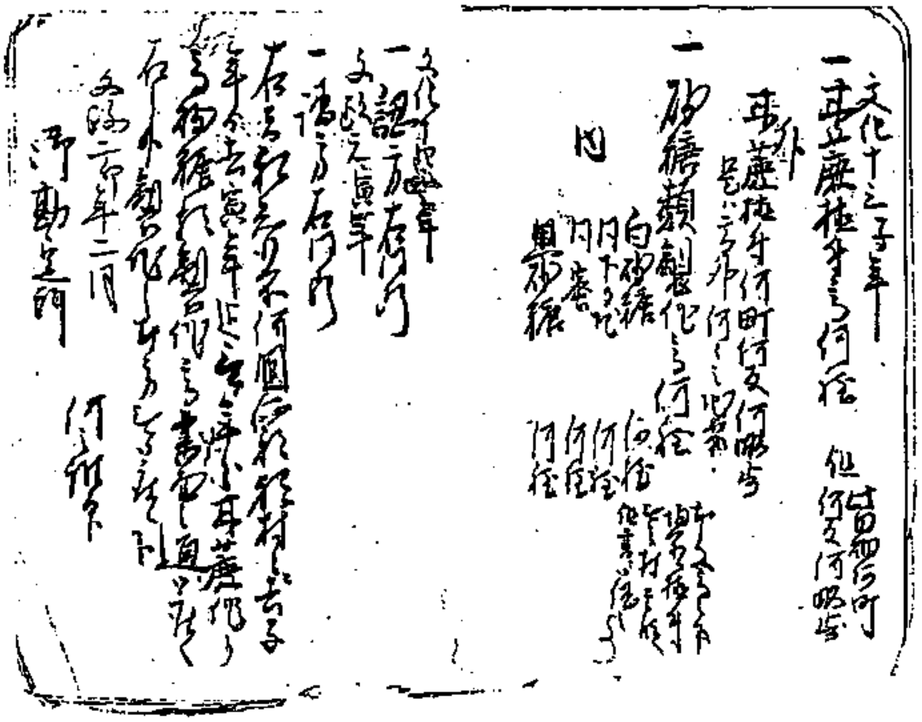
知行所村々甘蔗作高砂糖製作高
書付

本文村々製作何ヶ村これ有り候共
書面之振合いヲ以て一村限り一紙ニ
御認綴り、美濃紙帳面ニ仕立てられ
御差出しこれ有るべく候、尤も三ヶ年之
内甘蔗植え付け砂糖製作
致さざる年これ有り候ハヾ其の訳御認め
入り之事

村高何程

私知行所
何国何郡何村

内



文化十三子年

一、甘蔗植付高何程　但此田畑何町何反何畝歩

外

甘蔗植付何町何反何畝歩

是ハ高外何々之地所

本文高之外場所植付無之村其段但書ニ御認之事

一、砂糖類製作高何程

内

白砂糖　何程

同下タ地　何程

同蜜　何程

黒砂糖　何程

文化十四丑年

一、認方右同断

文政元寅年

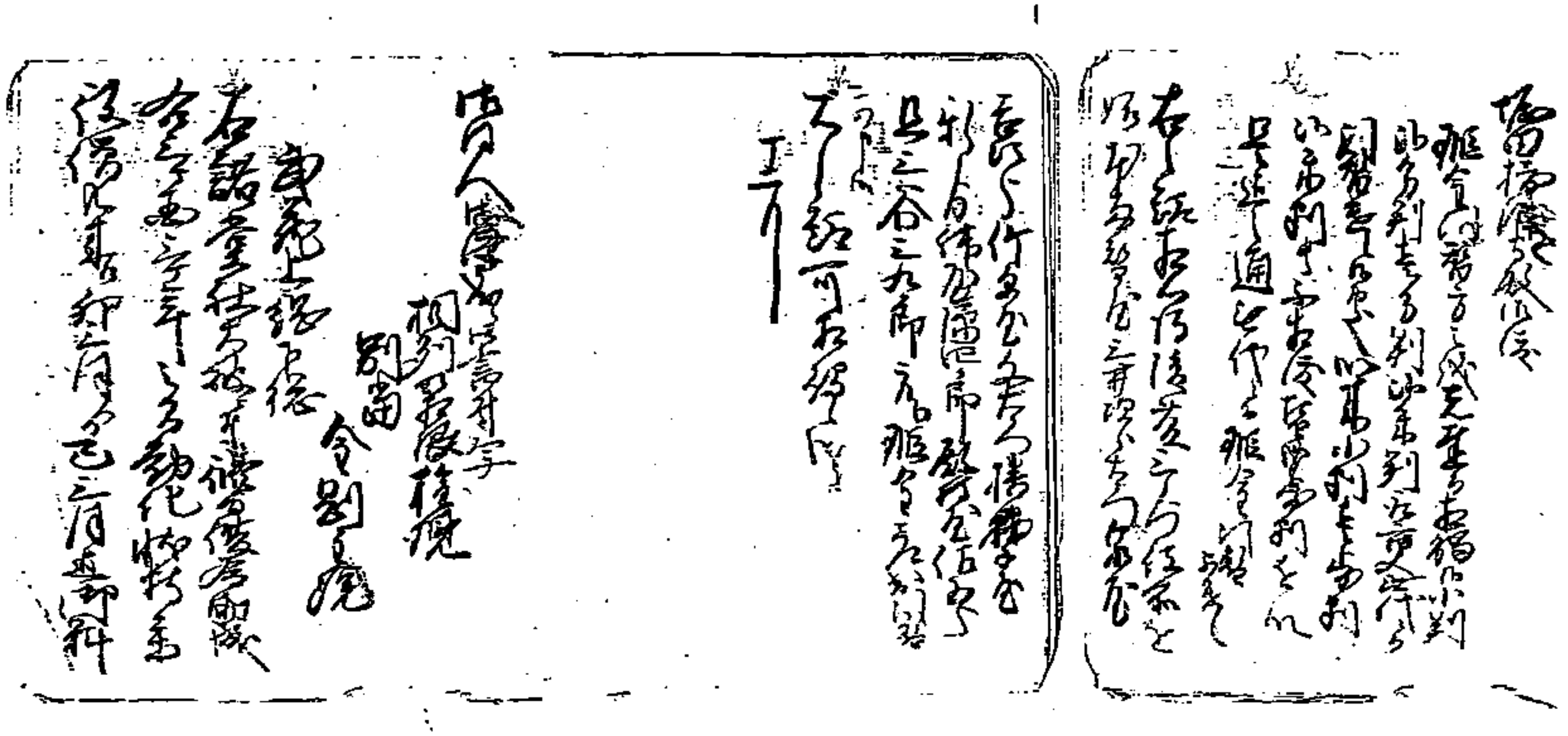
一、認方右同断

右は、私知行所何国何郡村々ニ於いて去る子年ゟ去る寅年迄三ヶ年分甘蔗作リ高、砂糖類製作高書面之通りに御座候、右之外製作之村方御座無く候、以上

文政二卯年二月

何之誰印

御勘定所



堀田播磨守殿御渡

鍛金引き替え方之儀、先達て相触れ候、小判
弐分判、壱分判、弐朱判取更ェ無代ニて
引替え遣わし候処、以来小判壱歩判
弐朱判は、相渡らず、皆弐歩判を以て
是迄之通り無代ニて鍛金引替え遣わすべく候
右之趣相心得、後藤三右衛門役所を
始め本両替屋三井次郎右衛門宗屋
吉次郎、竹原屋文右衛門、播磨屋
新右衛門、桝屋源四郎、殿村屋佐五郎
且　三谷三九郎方ェ鍛金差出し引替え
申すべく候
右之趣相触れべく候以上

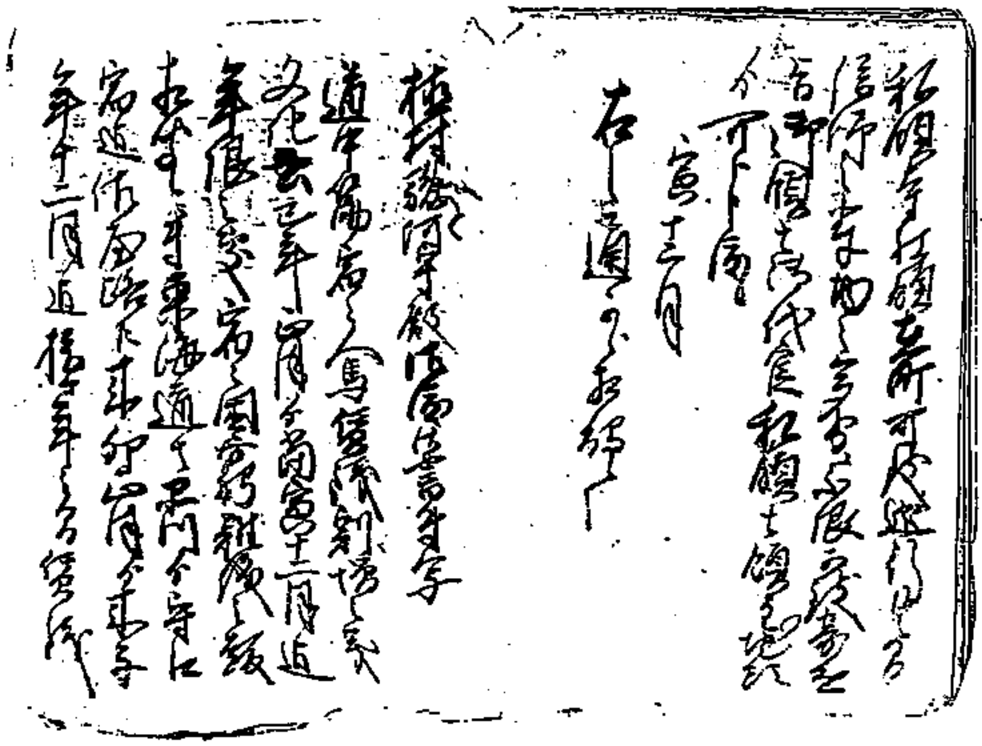
十　二　月

御同人御渡し成され候御書付写

相州箱根権現
別当
金剛主院

武蔵、上総、下総

右諸堂社大破ニ付き修覆為助成
右三ヶ国三ヶ年之間勧化状持参
役僧入来候、卯三月ゟ巳三月迄御料



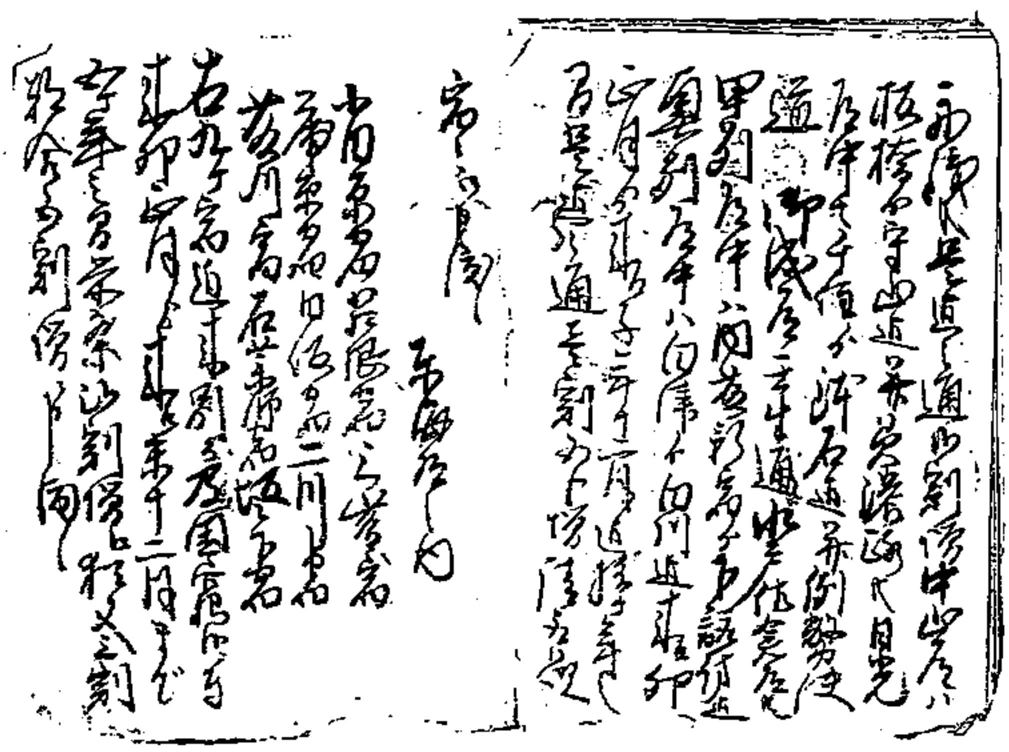
私領寺社領在町、巡行致すべく候間
信仰之輩、物之多少ニ限らず寄進致すべき
旨、御領は御代官、私領は領主地頭
ゟ申し渡されべく候、

寅十二月

右之通り相触れられべく候以上

植村駿河守殿御渡御書付写

道中筋宿々人馬賃銭割増し之儀
文化六巳年正月ゟ當寅十二月迄
年限之処頃、宿々困窮難儀之趣
相聞き候ニ付き東海道は品川ゟ守口
宿迄、佐屋路共来る卯正月ゟ来子
年十二月迄拾ヶ年之間賃銭



船銭共是迄之通り弐割増し、中山道ハ板橋ゟ守山迄并に美濃路共日光道中は、千住ゟ鉢石迄并に例幣使道、御成道、壬生通、水戸佐倉道共甲州道中ハ内藤新宿ゟ下諏訪迄奥州道中は、白津ゟ白川迄来ル卯正月ゟ来ル子十二月迄拾ヶ年之間是迄之通り壱割五分増し請取り候様

宿々江申し渡され候

東海道之内

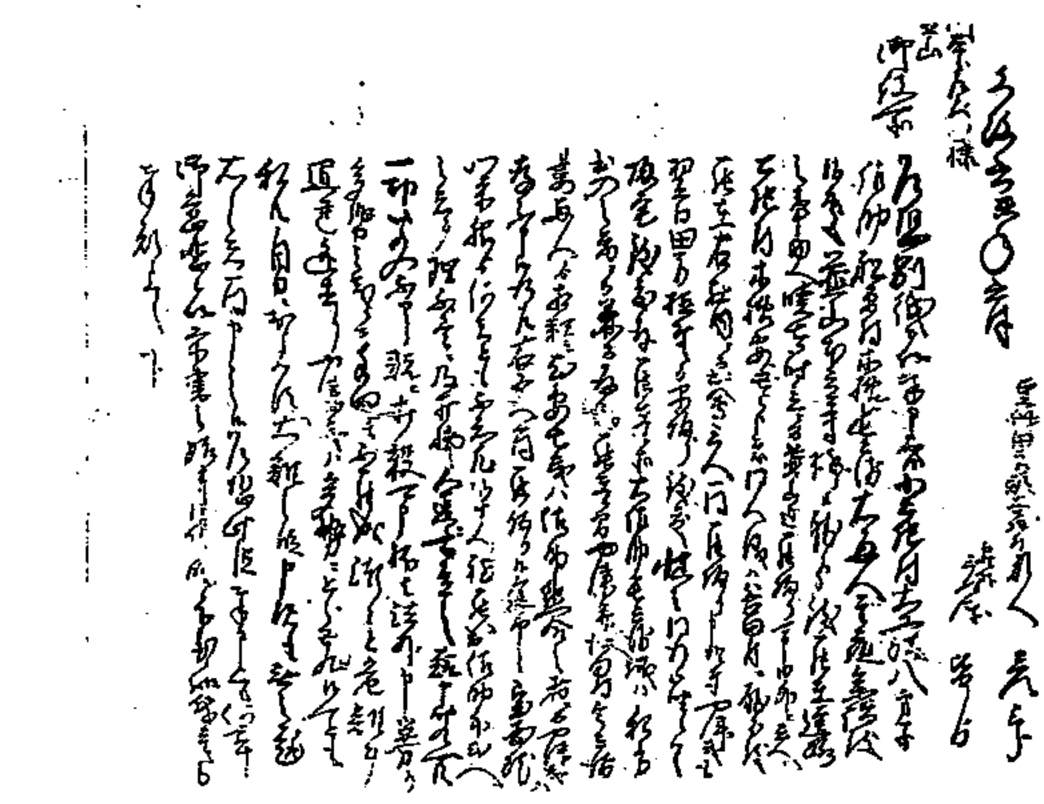
小田原宿、箱根宿、三嶋宿
蒲原宿、日坂宿、二川宿
藤川宿、石薬師宿、坂之下宿

右九ヶ宿、近来別して困窮に及び候ニ付き来る卯正月ゟ来ル未十二月まで五ヶ年之間前条弐割増し江猶又三割都合五割増しニ申し渡し候、

乍恐以書付奉願上候

一、井出甚右衛門知行所豆州田方郡大土肥村名主宗右衛門
倅彦三郎申上げ奉り候、私姪ゆつと申し當廿三才ニ罷り成り候女子
先月十八日夜心願ニ因テ當御支配所三嶋宿小濱
七面神社ヱ通夜籠リ致し候處、翌十九日田方植付けニ付き
暁七ツ時頃、同行男女五人連れ立ち罷り帰り候途中、同所
宝國院門前近辺ニて若もの共凡弐拾人程道脇暗がり木影ゟ
一同ニ罷り出道行之者共ヲ無ニ無懸ニ打擲致し追いちらし
ゆつ壱人ヲ凡拾人程ニてとりおさへ候ニ付き迯退(にげのか)ンと操(も)ミあせり候へ共
女之手弱く力及ばず高聲ニ同行之者ヲ呼び叫び候得ば、口に
手拭ヲわり込ミ大勢ニて手足をとり山林之内墓所と覚敷き
所ヱ引ずり参り同類躰之若もの共追々欠け附け参り大勢ニて
強(よう)姦致され半死半生之苦ミ言語ニ述べがたく段々小勢ニ相成り候内
夜明け方ニ罷り成り一同迯げ去り、右之始末ニて發道具櫛こうがい笄
懐中もの紙入れようさしきせるたばこ入れ其外風呂敷包み小遣銭等
残らず取失い行方相知れ申さず誠に大難ニて身之内所々怪我致シ
身體弱り歩行も自由ならず、漸々と同宿市ヶ原町身寄りの者
宅迄罷り参り右之委細物語り直ニ自害致すべき趣ニ候處親類共
打寄り一同差留メ、存命之れ無く候ては怨みヲ晴し事も出来兼何れにても
御上様御慈悲之御威光ヲ以て　右怨み人共之御穿鑿願い上げ奉り
鬱憤ヲ晴シ呉れ申すべき趣を申し聞ケ早々療養致し今日迄存命
罷在り候、誠ニゆつ儀此上も無き恥辱ヲ缺キ一生ヲ捨候身分ニ相成り
不便ニ存じ奉り候へ共手掛リも之れ無く残念乍ら是迄延日ニおよび候處

日ニ増し評判とりどり噂觸言等承りに及び其の手筋ヲ以て相糺し候處
同所宮倉町与八悴平八申し口ニて同傳馬町下駄屋新兵衛弟子
熊次郎同久保町梅木屋儀兵衛悴恵吉同連行寺町
忠助外ニ私心當り之者同長谷町藤助悴藤右衛門　右名前
相知れ申し候之れに依り右宿役人方ヱ掛合に及び候處、彼是申し紛らし
三四日延ばし置き右之内三人欠落ち致し候躰ニて私度々罷越し掛合候ても
投遣りニ致置、得と取敢申さず候ニ付き右之趣を以て恐れ乍ら御願申上げべくと
存じ奉り候内宿役人之内問屋与右衛門年寄万平右両人ニ相頼まれ候由ニて
川原ヶ谷村名主賀左衛門罷越し右一件願立て之儀暫く猶豫致し呉れ候様
申し来たり、尚又内済侘之趣意ハ宿役人中得と掛合之上
熟談相頼み申すべき旨嘉左衛門之を申すニ付き其意に任せ候處追々日延べ
いたし一昨十三日同人方ゟ申し来り候は、宿役人等閑之
致し方ニて一条之調べ方埒明き申さず段々延日ニ罷成り候、併今夕方
迄ニは急度否申し来り候筈ニ御座候間、何分明十四日朝まで
出訴差し扣呉れ候様之れを申し、万一明朝迄無沙汰ニ御座候ハヽ
勝手次第御願い成さるべき旨申し参り候、之に依り恐れ乍ら止むを得ざる事
御訴訟申上げ奉り候、何卒前文申上げ奉り候名前之者共
召出為され御吟味之上娘壱人相廢リ候難渋恐れ乍ら
御勘察之御慈悲偏ニ願上げ奉り候、右之段地頭所
添翰ヲ以て御願い申上げべき之處差し掛かリ候儀ニ付き恐れ乍ら
出訴奉り候、何卒御慈悲を以って前書申上げ奉り候始末御糺し
下し置かれ候様幾重ニも願上げ奉り候、猶御尋ね之儀ハ恐乍ら口上ヲ以て
申し上げ奉るべく候以上　　井出甚右衛門知行所



豆州田方郡大土肥村願　人　彦三郎
百姓代
差添　皆右衛門

文政六未年六月

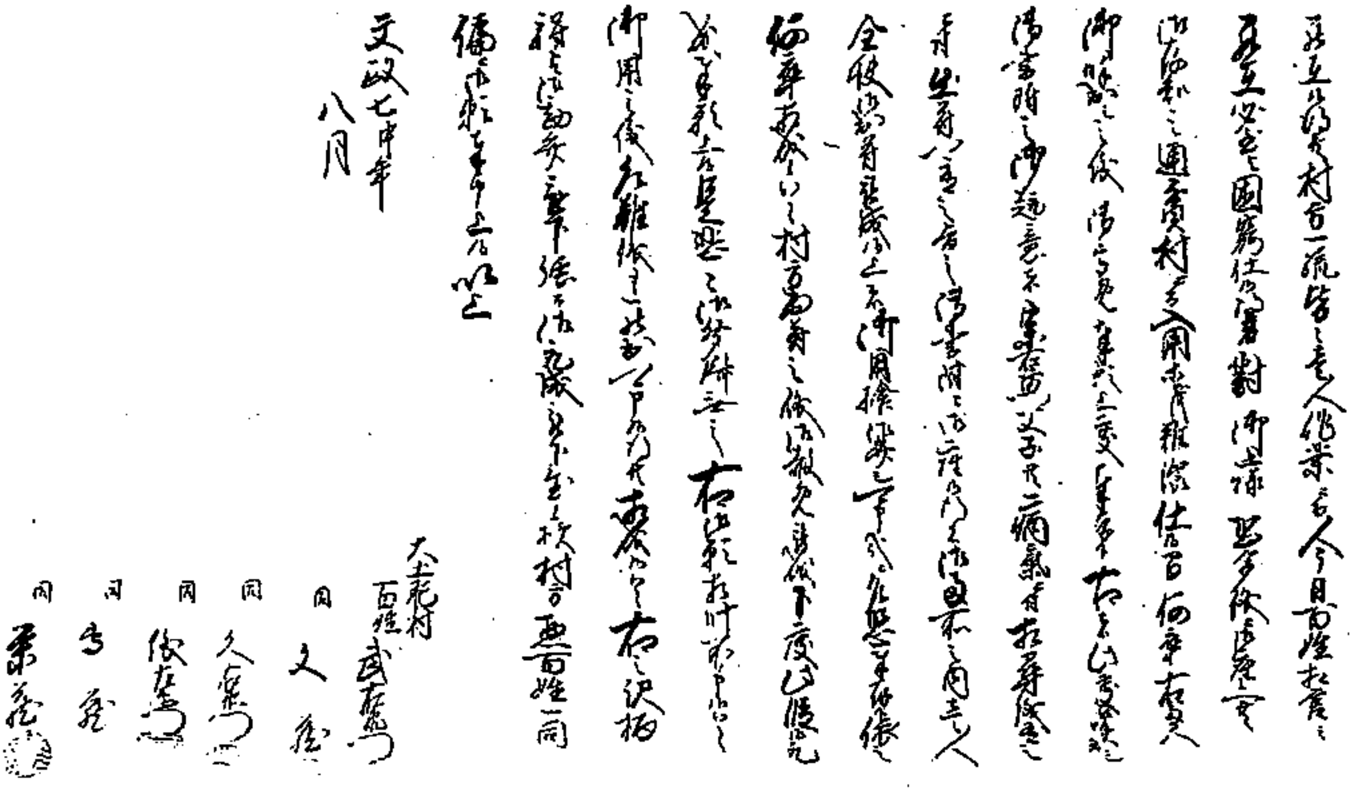
江川太郎左衛門様

韮山
御役所

恐れ乍ら別紙ヲ以て申上げ奉り候、小土肥村大工清八弟子佐助、船原村木挽長兵衛右両人、其夜参詣致し候處、韮山本立寺様ニも残りゟ致し罷り在り遠路之事故暁七ツ時立ちニて韮山迄罷り帰リ申すべき由外ニ壱人土肥村木挽安七と申す者、同人儀ハ谷田村ニ残分致し罷り在り右社内ニて出會三人一同罷り帰り申し候ニ付きゆつ儀も翌日田方植付けニて早帰り致度く、幸ニ同行御座候ハバ帰宅致し度く存じ罷り在り候処、右佐助、長兵衛儀ハ私方出入り之者ニて兼て存じ罷り在り候間、ゆつ并に仁田村宇兵衛妻両人ゟ相頼ミ尤も安七義ハ佐助懇合之者ニてゆつ義ハ存じ申さず候得共、右五人一同罷り帰り候途中宝國院門前脇ゟ何者とも知れず凡弐拾人程罷り出佐助外弐人之者ヲ理不尽ニ打擲に及び人違いニ之れ有るべき趣申聞かせ候得共一切聞き入れ申さず、既ニ打殺し申すべし抔と法外に申募り多勢之義ニて手向かいも罷り成らず、漸々と危難ヲ遁れ迯去リゆつ義ハ多勢ニとらわれ候へども私共自力ニ及ばず大難之段申訳も之れ無き趣右之者一同之を申し候、恐れ乍ら此の段申上げ奉り候、何卒御慈悲ヲ以て前書之始末御吟味下し置かれ候様幾重にも願上げ奉り候、以上

御願申連印一札之事

一、今般御屋敷様ゟ當村栄蔵并に外百姓代之者壱人、来ル廿三日迄出府これ有るべき旨之御書附頂戴畏み奉り御請け申し上げ奉り候處、田畑耕作時節柄ニ付き御慈悲之御日延べ御願い下され候様御頼み申し候、然ル處近年隣村一統不作、度々旱(ひでり)損旁ニて當村百姓到って困窮仕り、御定免中隔年之如く御検見御用捨米等御願い申し上げ御上様江も御苦労相掛ヶ去る未年迄も御用捨米拾五俵外ニ拝借返納米等も頂戴仕り、有難き仕合わせニ存じ奉り候、右躰御救い下し置かれ候上は、急度皆済致すべき御年貢米等之儀も行き届き兼、既ニ小前百姓之内今以て納め不足等これ有り御上様は、申し上げるに及ばず、貴殿之御勘弁旁々を以て漸々取続き



罷り在り候得共、村方一統皆々壱人作業ニて今日百姓相営ミ
罷り在り困窮必至と仕り候得ば御上様へ対し恐れ多き儀ニ御座候へ共
御存知之通り貧村ニて入用等も難渋仕り候間、何卒右両人
御呼出シ之儀御高免願上げ奉り度く存じ奉り候、右者此度御呼出シ
御書附之御趣意は、宗右衛門父子共病気ニ付き相尋ねる儀これ有る
ニ付き出府これ有るべき旨之御書附ニ御座候得ば、御両所之内壱人
全快御出府被成(なされ)候上者(は)、御用捨御弁シ可申(もうすべき)哉ニ乍恐(おそれながら)奉存(ぞんじたてまつり)候依之
何卒相成り候ハヾ村方出府之儀御赦免成し下され度く、此の段御取り
成シ願上奉り候是非々々御聞済みこれ無く右御願相叶い申さず候ハヾ
御用之儀難儀乍(ながら)も罷り出申すべく候得共、相成り候ハヾ右之訳柄
得と御勘弁下され、強いて御取り成し下し置かれ候様村方惣百姓一同
偏ニ御頼み申し上げ奉り候以上、

文政七申年

八月

大土肥村

百姓 武右衛門 ㊞

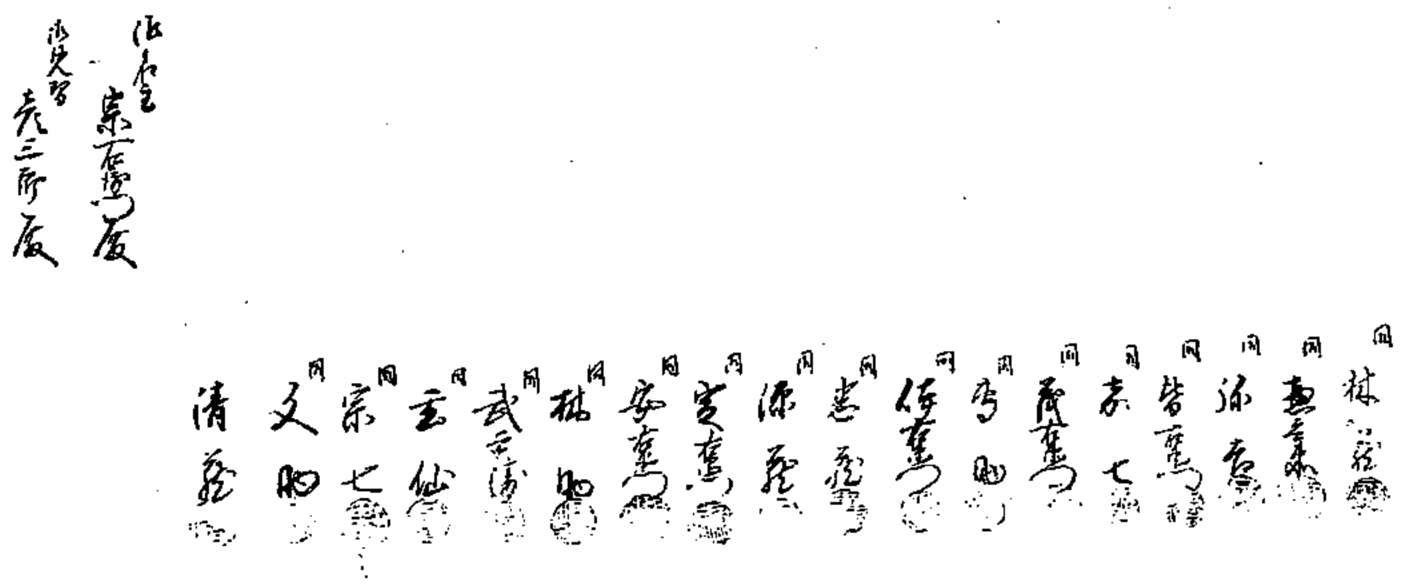
同 文蔵 ㊞

同 久右衛門 ㊞

同 儀右衛門 ㊞

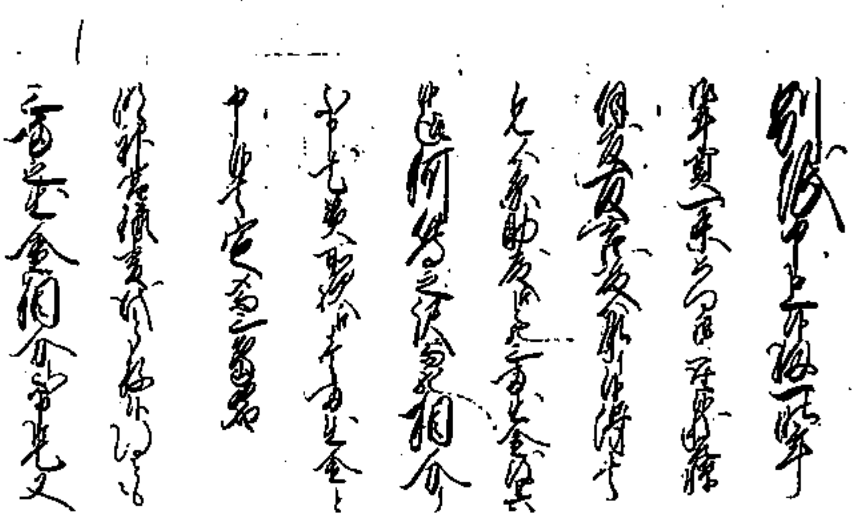
同 専蔵 ㊞

同 栄蔵 ㊞

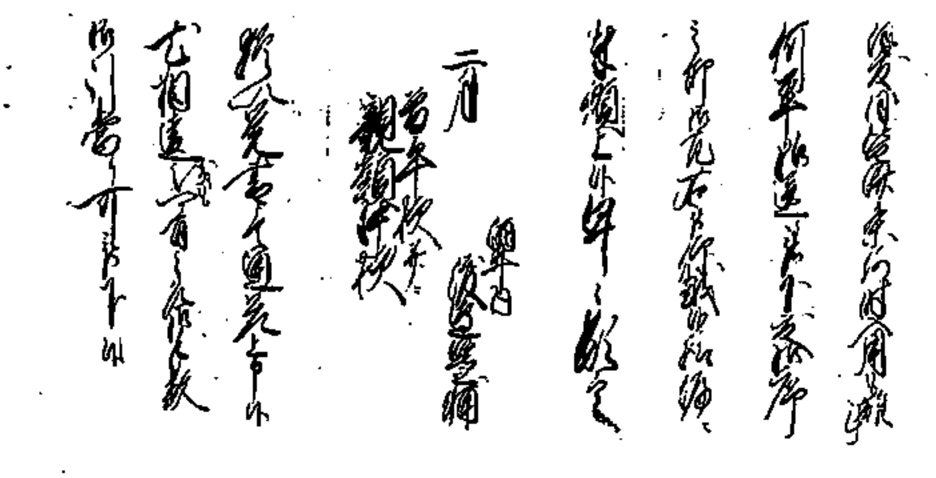


同 林蔵 ㊞
同 惣兵衛 ㊞
同 弥吉 ㊞
同 皆右衛門 ㊞
同 嘉七 ㊞
同 茂右衛門 ㊞
同 専助 ㊞
同 伊右衛門 ㊞
同 忠蔵 ㊞
同 源蔵 ㊞
同 定右衛門 ㊞
同 安右衛門 ㊞
同 林助 ㊞
同 武兵衛 ㊞
同 玄仙 ㊞
同 宗七 ㊞
同 文助 ㊞
清蔵 ㊞

御名主 宗右衛門殿
御見習 彦三郎殿



別紙申し上げ候、扨(さて)一昨年
御年貢一条如何に御座候哉、憚り乍ら
伺い度く友吉殿ゟ承り候得ば
兄ゟ圓助殿ぇ宛三両出金致し呉れ
候趣、何等之訳ニて哉相分かり
申さず、尤も貴所様ぇ壱両出金と
申し候は、定メて三島宿
明神宮様妻代と存じ候得ども
三両之出金相分かり申さず、是又

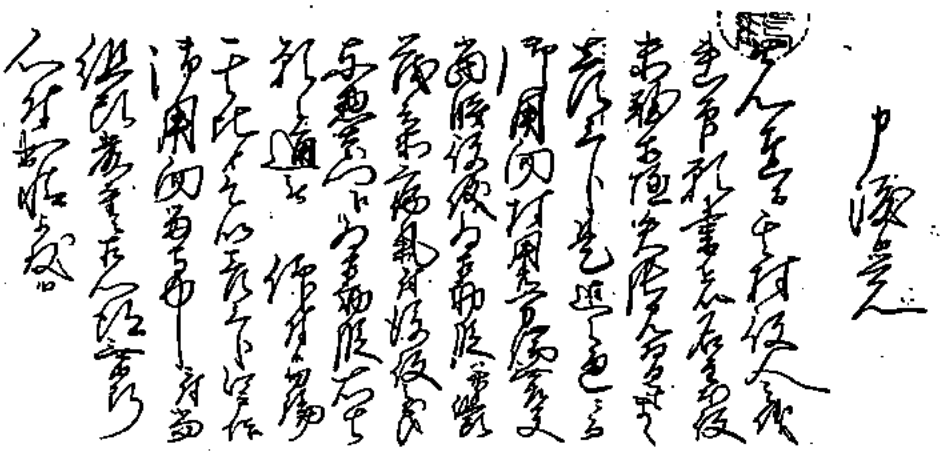


伺い度く同皆済条何時入用も斗り難
何卒お送り下され度く、御序いで
之節御左右仰せ越され候様、偏ニ
願い上げ奉り候、早々頓首

酒井内
二月　　渡辺堅之輔

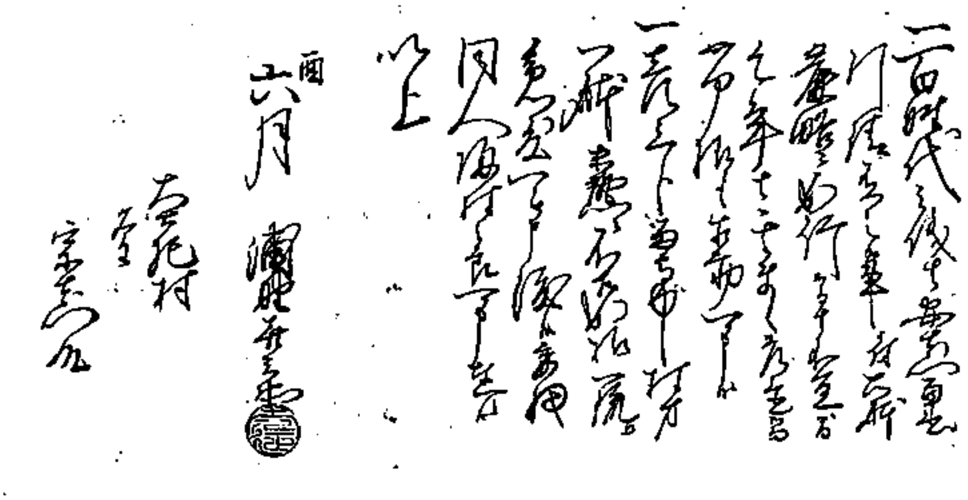
曽平様并ニ
親類中様

猶以て覚書壱通差し上げ申し候
尤も相違之儀もこれ有るべく御手数乍ら
御引き当り下さるべく候



申渡候覚

先達って其の村役人之儀
連印願書を以て名主本役
未だ相極め難く矢張り見習い其まゝ
彦三郎是迄之通りニて
御用向き村用共万端差し支え無く
當時役儀相勤め為す段并に組頭
茂兵衛病気ニ付き後役之儀
与惣右衛門江相勤め為す段、右は、
願いの通り仰付けられ候、勿論
其の比ゟ今以て彦三郎江戸詰め
御用向き留守中ニ付き尚
組頭厳重ニ相心得油断無く
心付け出精致すべく候

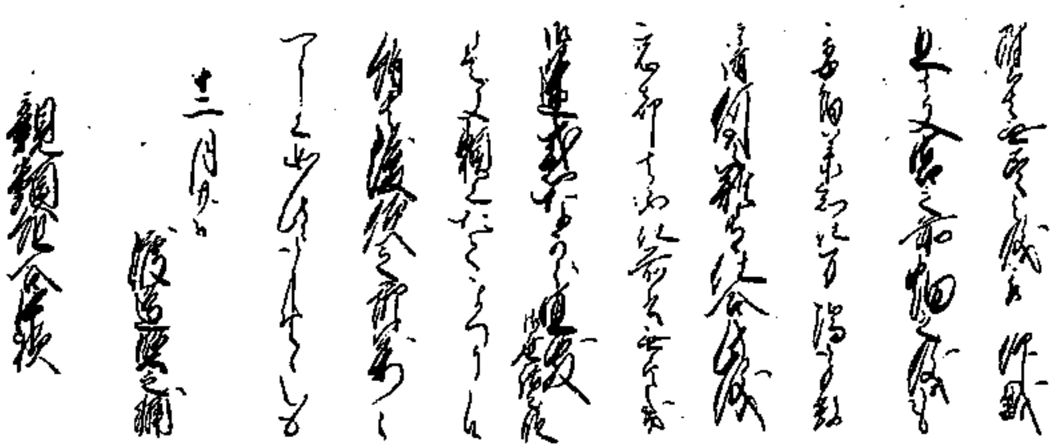


一、百姓代之儀は、安右衛門當春
引き請けこれ有る候事ニ付き右躰
麁略(そりゃく)ニ成り行き候ては宜(よろ)しからず候間
今年は其のまゝ差し置き候て
如何様にも相勤め申すべく候
一、彦三郎留守中村方
一躰未熟ニ相成らざる様一統江
急度申し渡されべく候　委細
同人帰村之節申し達っすべく候
以上

酉
六月　浦野喜兵衛㊞

大土肥村
名主
宗右衛門殿

別紙申し上げ候　就いては
積立て米之儀　先日申上げべき候處
取り紛れ延月　申訳け御座無く
彼是御世話様ニ預り有難き仕合せに
存じ奉り候、且つ積立て米之儀は、
半金相済み候ニ付き半金丈之儀ニて
右金子之儀は、残り諸道
具、又は坂こわれ抔御拂い
下され、若し又不足御座候得ば
少々は竹抔も入り、右代金ニて
御上納下され度く、何共御手数
ながら宜敷く御取り斗い、偏ニ
願い上げ奉り候



附いては無尽之儀　仰せ越され
且は、又宮之前畑之儀も
委細承知仕り、万端御手数
ヲ請け何共有り難き仕合せ、此儀
忘却は仕(つかまつ)らず、前書無尽之義
御迷惑ながら宜敷く御世話之段
是又頼み上げたてまつり候
餘(よ)は、後便之節萬々(ばんばん)
申し上げべく此(かく)の如くに御座候以上

十二月廿日

渡辺堅之輔

親類組合中様

取急ぎ文面前後御用捨可下（くださるべく）候

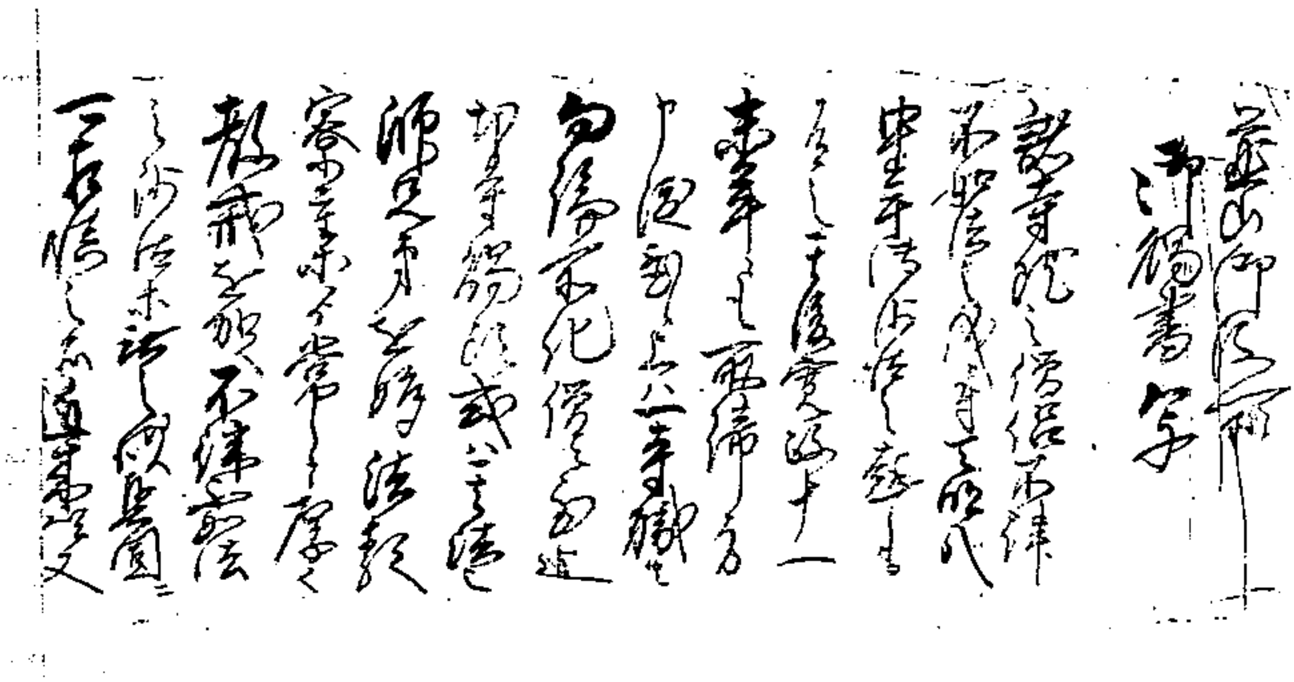
覚

一、蔵米壱俵半　　勤務中御手當分

一、同三俵後分覚　　八石目役除

一、金三両餘　　元利共村役立替分

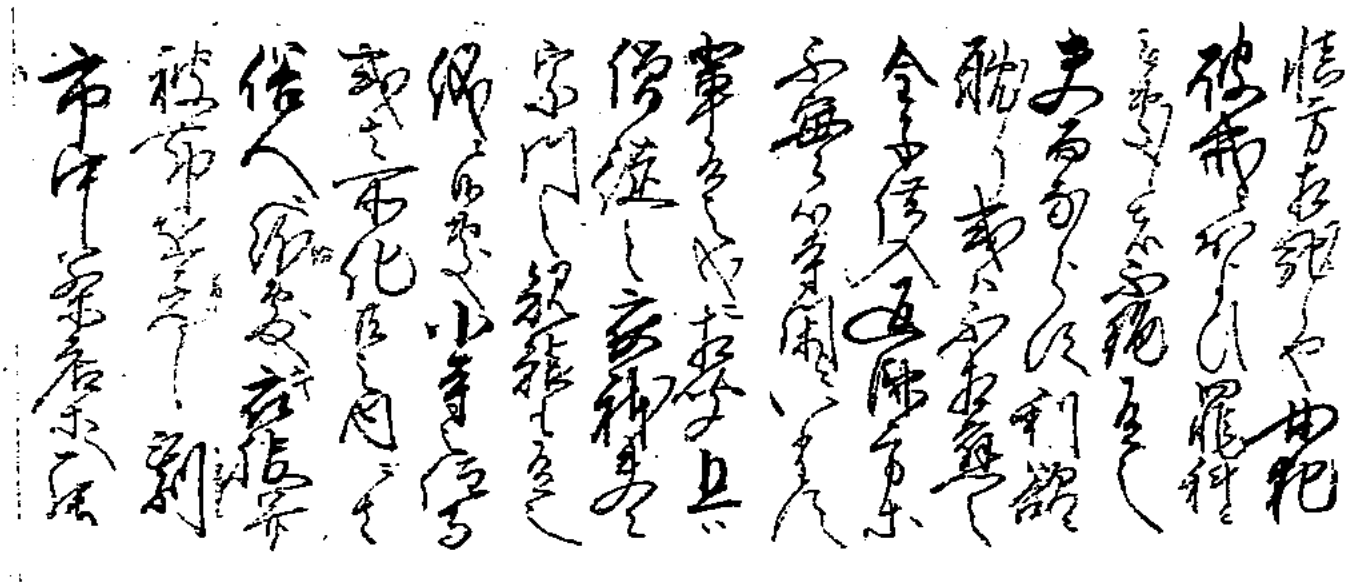
此段立替え之儀は、仁田村ニて四反田堰普請入用出金分丈大八殿ゟ借用江引き、右ニ付き前分立替え之内圓助殿江入れべく候右之通り有増（あらまし）書出し差し上げ申し候間、御手数乍ら御引當て下され度く願上げ奉り候、以上



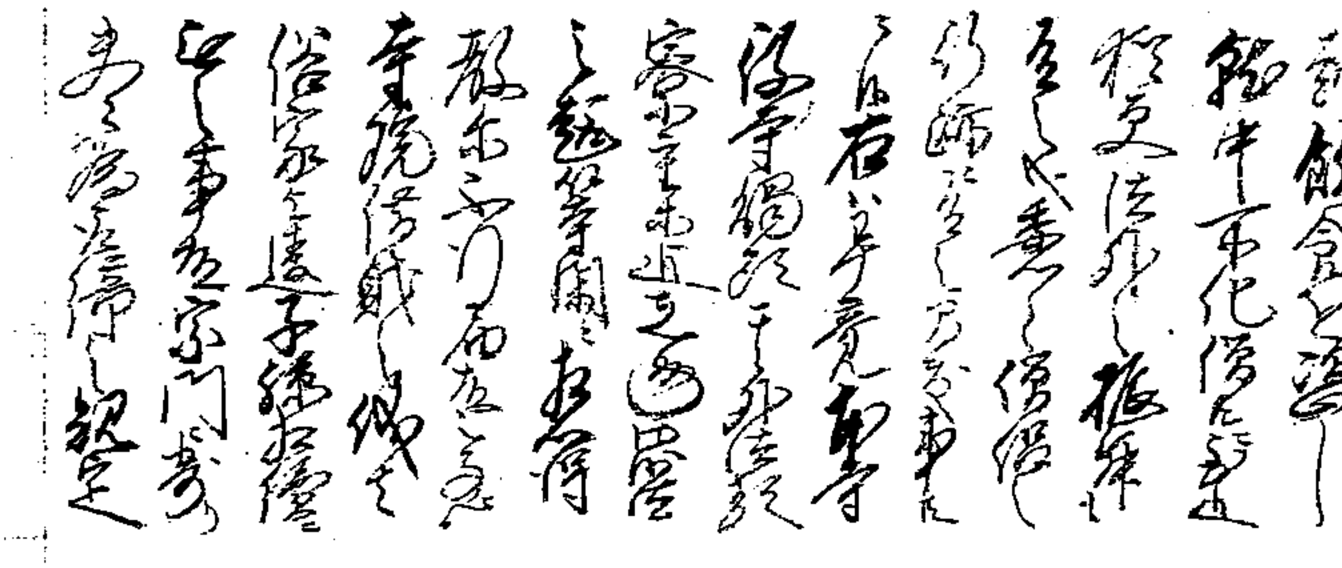
韮山御役所

御触書写

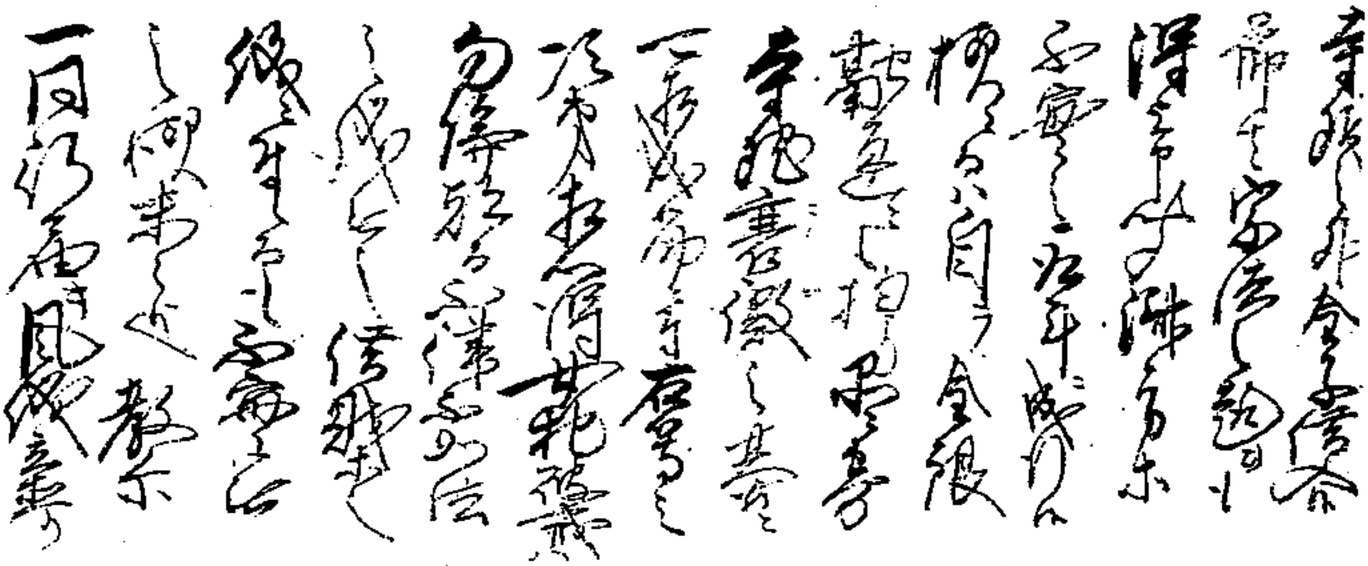
諸寺院之僧侶不律
不如法之儀ニ付き天明八
申年御沙汰之趣も
之れ有り　其後寛政十一
未年ニも取締り方
申し渡し置き候上ハ一寺職は
勿論所化僧ニ至る迠
本寺觸頭（ふれがしら）或ハ其法之
師兄弟を始メ法類
寮主等ゟ常々厚く
教戒を加へ不律不如法
之沙汰等之れ無き様堅固ニ
相慎むべき之所、近来猶又



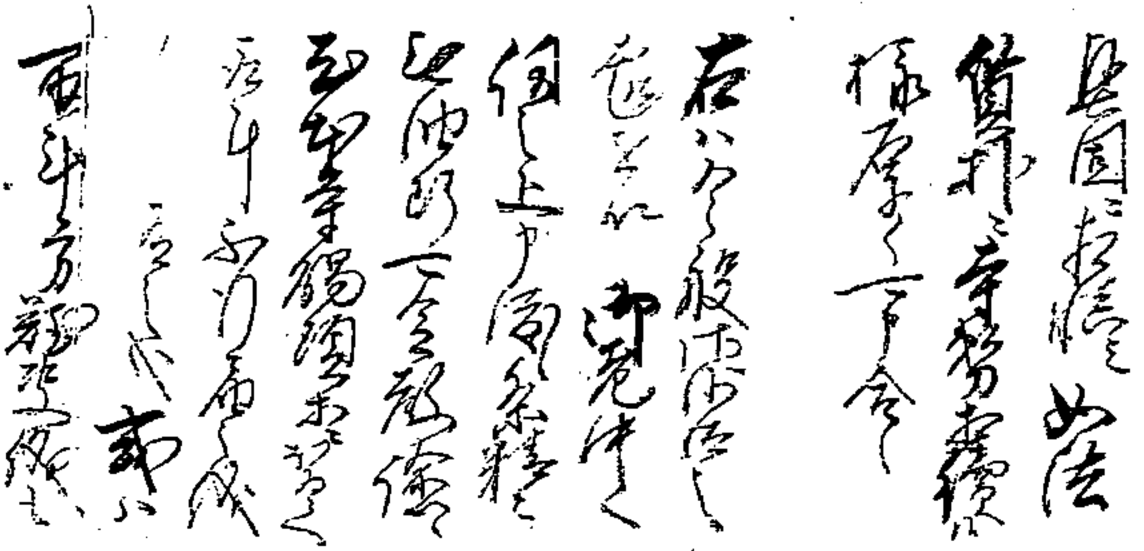
愼方相弛み候や　女犯
破戒ニおよび罪科ニ
處され候者絶えず之れ有り
夫而已(それのみ)ならず利欲ニ
耽り或ハ不相應之
金子借入れ。返済方等
實(みの)らず　等閑ニいたす
輩之れ有る哉ニ相聞き且は
僧徒之衣躰　夫々
宗門之規矩も之れ有る
儀ニ候處、小寺之住寺
或は、所化共之内ニは、
俗人ニ紛らわ敷き衣服并に
被布を着し、剰(あまつさえ)
市中茶店等へ罷り



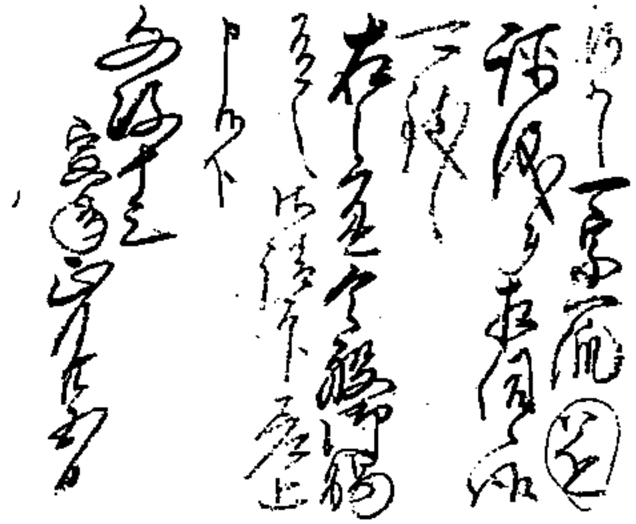
越し飲食を恣し
就中所化僧共ニ至る迄
猶更法外之振舞いも
之れ有り哉、悉く僧侶之
行跡ニ之れ有る間敷き事共
ニ候、右ハ畢竟本寺
役寺觸頭、其外法類
寮主等迄、先年御沙汰
之趣、等閑ニ相心得
教示不行届き故之事ニ候
寺院借財之儀は、
俗家と違い子孫相続ニ
之れ無き事故宗門ニ寄り
夫々取締り之為、規定



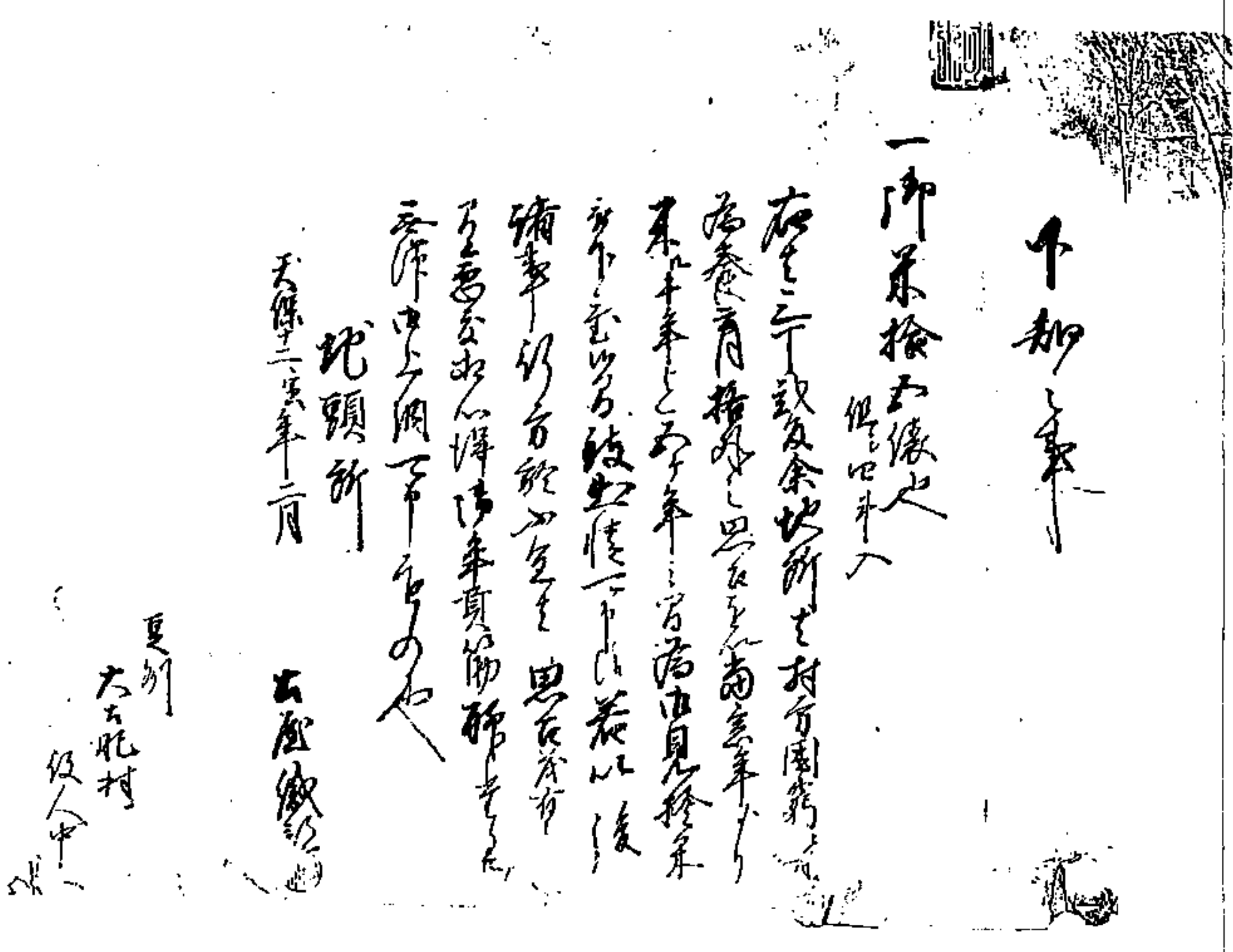
寺附き之外金子借入れ候
節は、宗法之趣ヲも
得と申し聞け済方等
不實(ふじつ)之取り斗(はか)らいニ成行き候
様ニてハ自ラ金銀
融通ニも拘わり品ニ寄り
寺院衰微之基ニ
相成るべき筋ニ付き、右等之
次第相心得、女犯破戒ハ
勿論、都而(すべて)不律不如法
之儀之れ無く借財等之
儀ニ付き候ても不實之れ
無き様末々迄、教示
一同行き届キ風儀立ち直り



堅固ニ相慎ミ如法
質朴ニ寺務相續け候
様厚く申し合う可く候
右ハ今般御沙汰之
趣を以て御老中へ
伺い之上申渡し候条、精々
油断無く教諭令しむべく候
尤も本寺觸頭等ニおゐて
取り斗らい不行届き之儀
　之れ有る哉、或ハ
取り斗らい方決し難き儀も



候ハバ一宗一統（遂）
評議ヲ遂げ相伺い候様
致すべく候
右之通り今般御触れ
之れ有り御請け印差し上げ
申し候以上
文政十三
寅年正月廿五日



下知之事

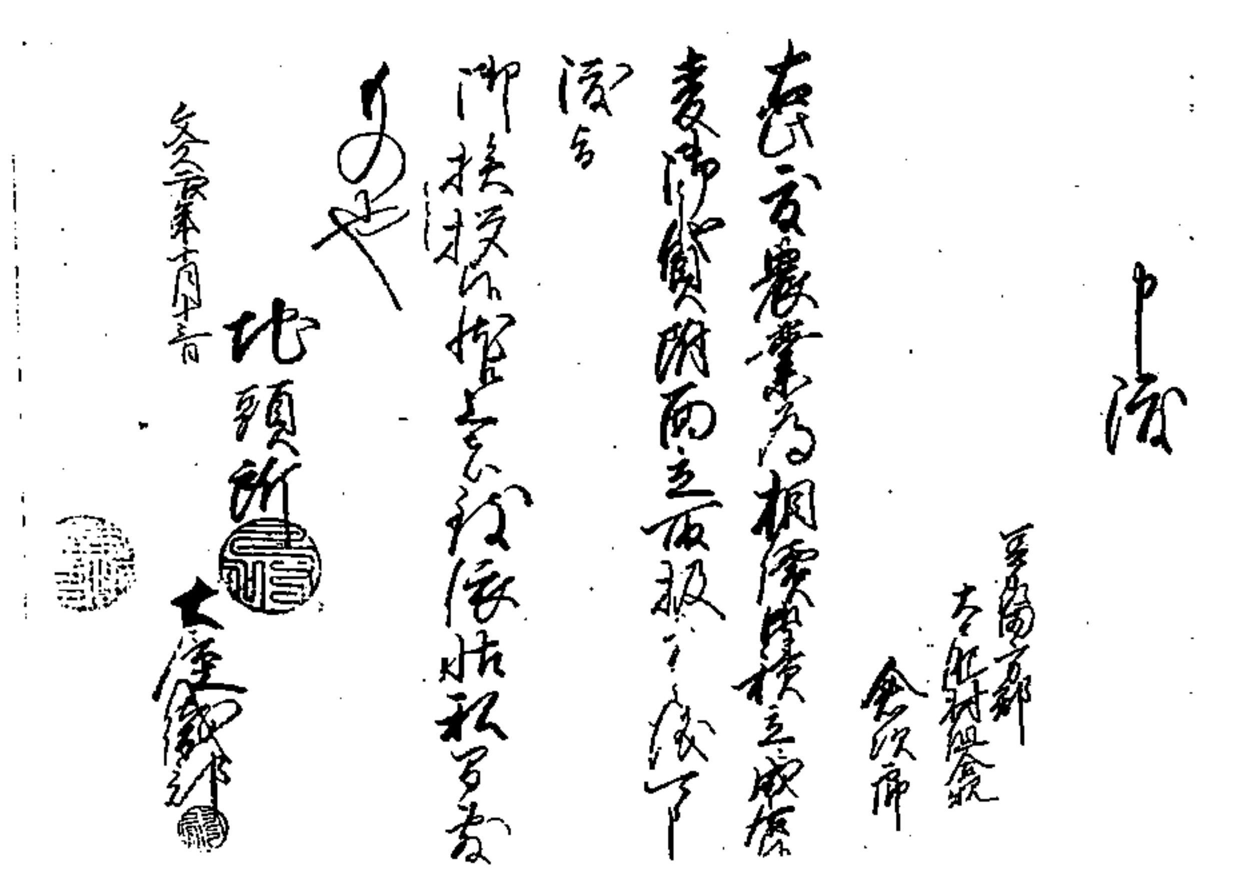
一、御米拾五俵也
　但シ四斗入り

右者、三丁弐反余地所は、村方困窮ニ付き
為養育格外之思召しを以って、当寅年より
来ル午年迄五ヶ年之間為御見捨米
下し置かれ候間、出精致し申す可く候、若し以後
諸事行方宜しからざるに於いて者、思召も之れ有る
間急度相心得、御年貢筋聊たり共
滞り無く御上納申す可きもの也

天保十二寅年二月

地頭所　　土屋織部㊞

豆州
大土肥村
役人中



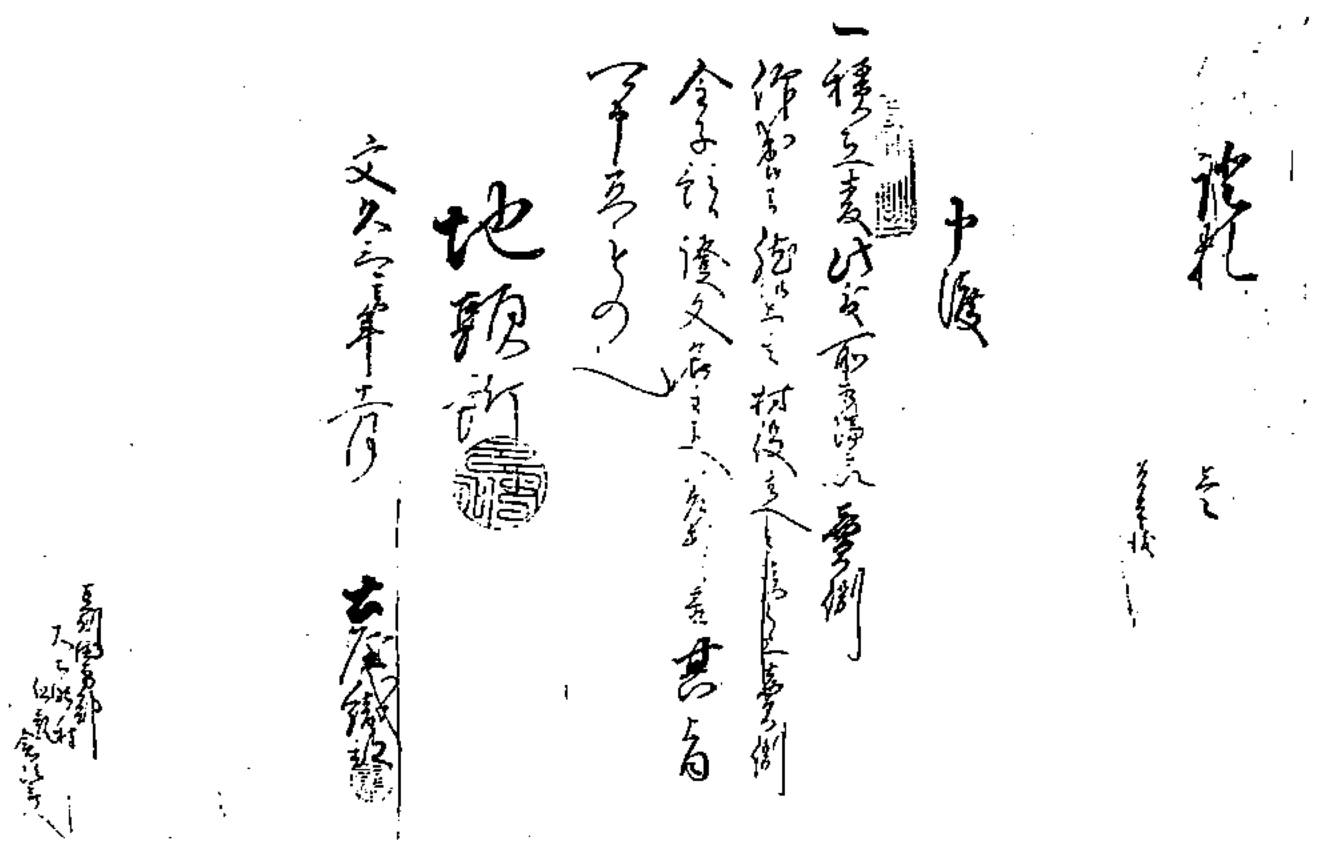
申渡

豆州田方郡
大土肥村組合親
倉次郎

右此度農業相続の為御積立てニ成り居り候
麦御貸附け、面立ち　取扱い方之儀申し
渡すべき旨
御挨拶候、然ル上は依怙致し私聞敷く
もの也

地頭所㊞

文久二戌年十月十三日
土屋織部㊞



証札　壱

曽平渡

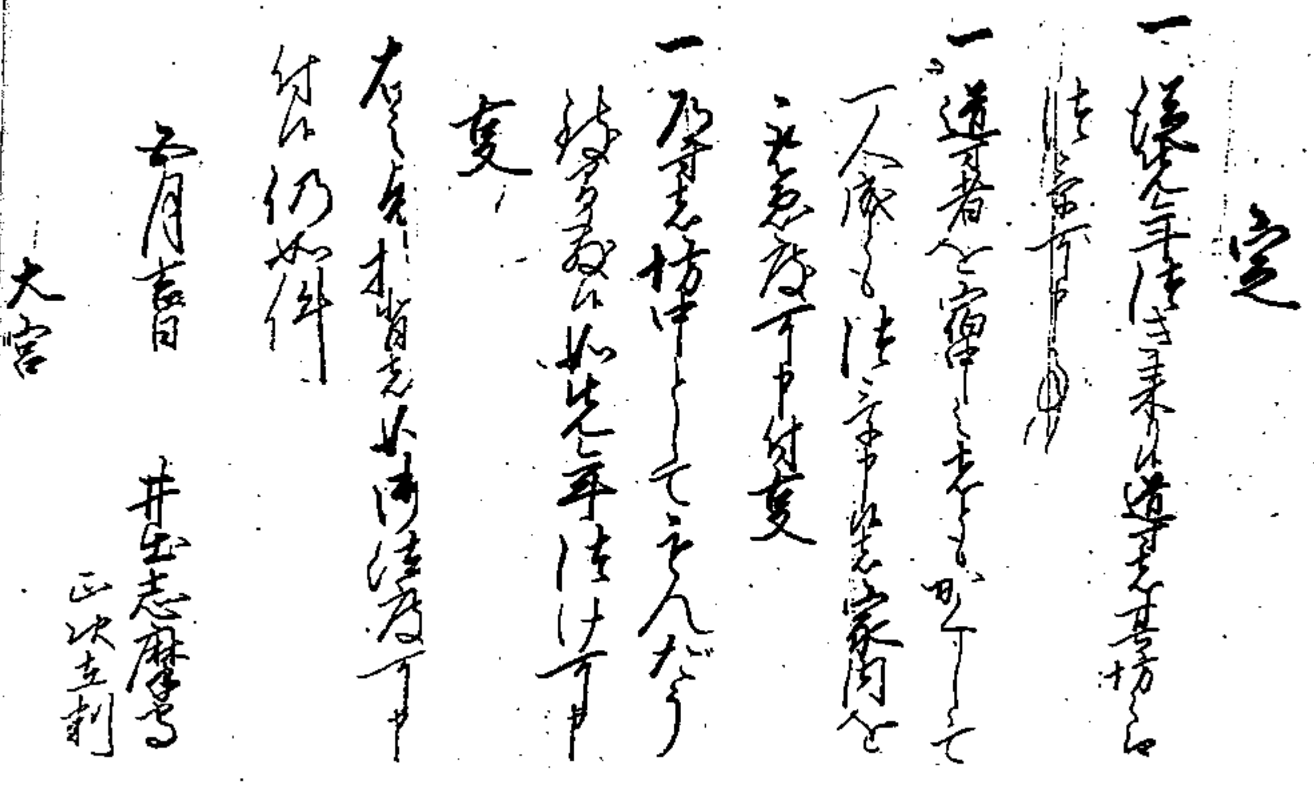
申渡

一、積立て麦、此の度所相場ヲ以て賣り捌き
仰せ出し候間、然ル上は、村役共へ相談之上賣り捌き
金子預り證文名主へ差し出し置き、其旨
申し立てべきもの也

地頭所㊞

文久三亥年十一月　土屋織部㊞

豆州田方部
大土肥村
組親
倉次郎へ



定

一、先年従りつき来り候導者、其の坊々江
　つけ申すべき事

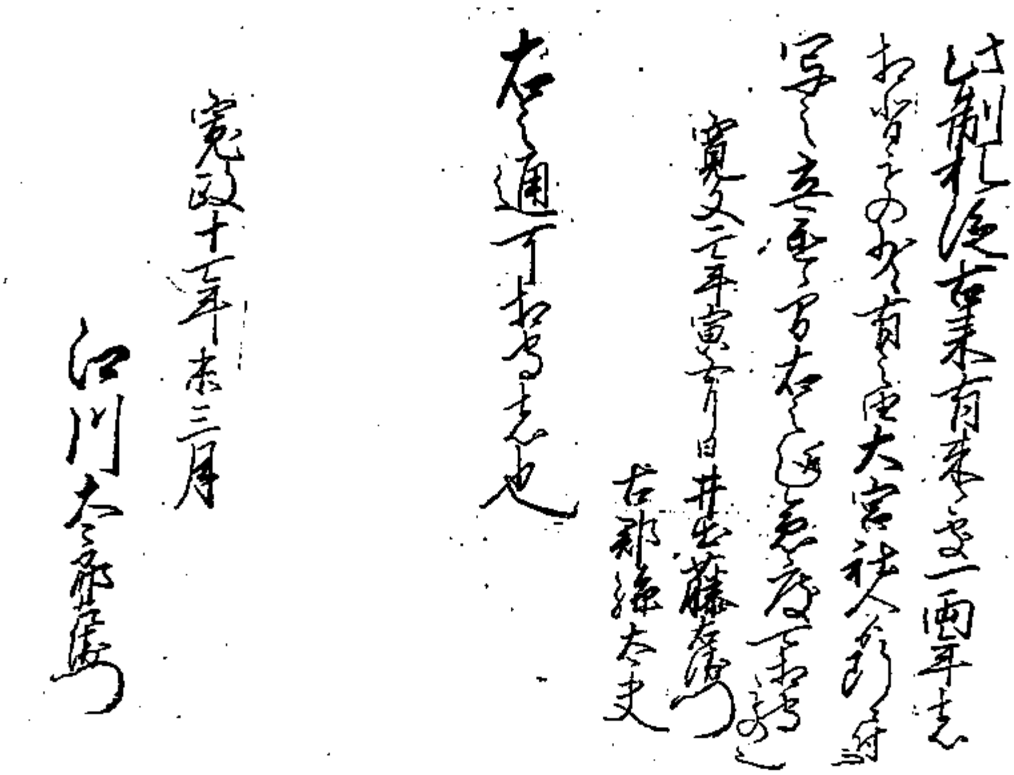
一、導者を宿中之者どもかくし候て
一人成りとも、つけ申し候は、家内を
取急度申し付けべき叓

一、導者坊中として、もんだう
致す間敷く候、先年の如くつけ申すべき
叓

右之旨相背く者御法度の如く申し
付けべく候仍って件の如し

五月吉日　井出志摩守
　　　　　正次在判

大宮

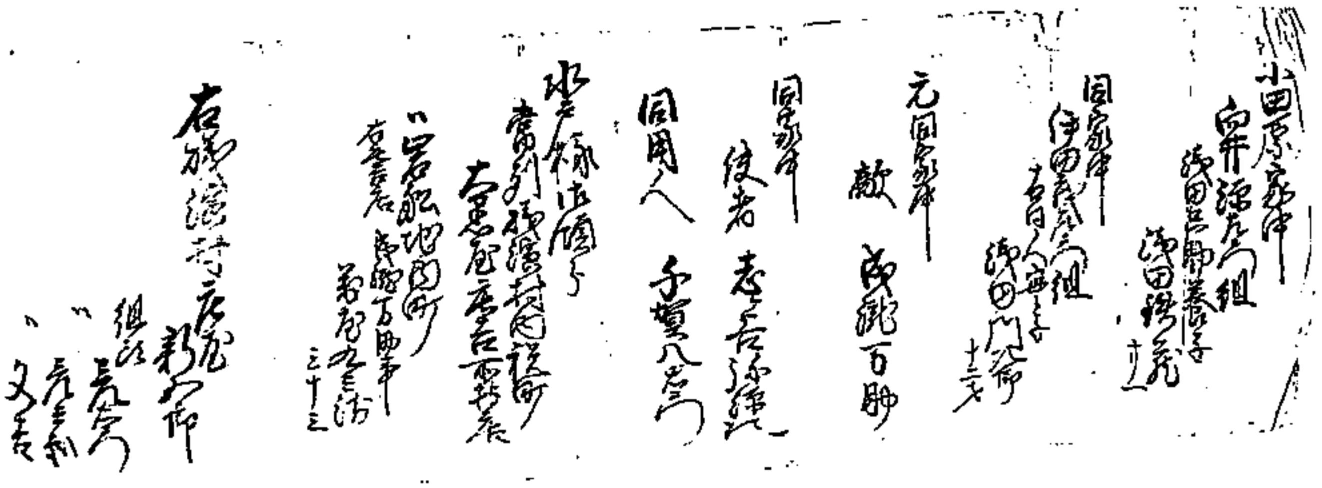


此制札古来従り有来り候處、一両年は、
相背くもの少々之れ有る由大宮社人ゟ断りニ付て
之を写し立て置き候間、右之趣急度相守るべき
もの也

寛文二年寅五月日　井出藤左衛門
古郡孫太夫

右之通り相守るべき者也

寛政十一年未三月
江川太郎左衛門



小田原家中
向井源左衛門組
浅田只助養子
浅田鉄蔵
廿一

同　家中
伊田茂左衛門組
右同人實子
浅田門次郎
十二才

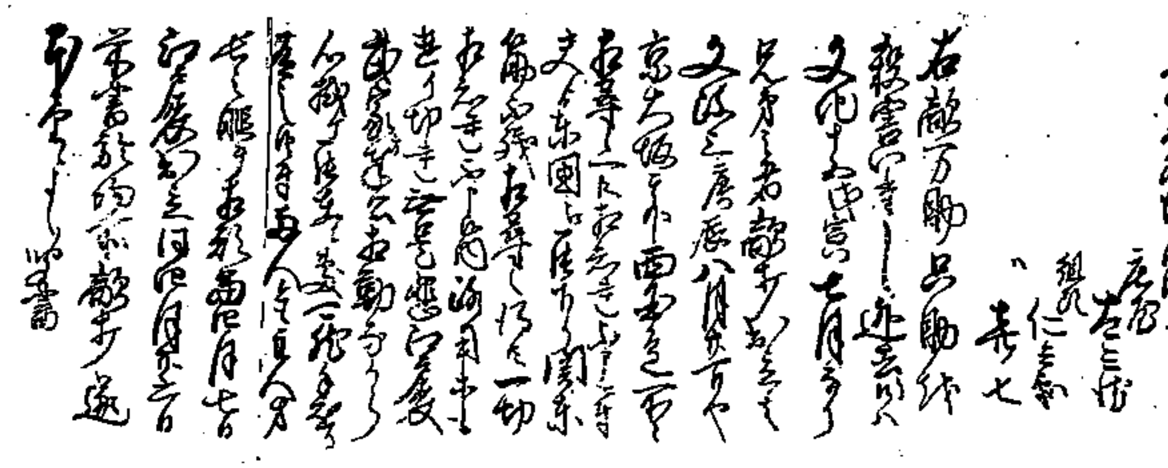
元同家中
敵　成瀬万助

同　家中
使者　志ヶ谷弥源次

同用人　千賀八右衛門

水戸様御領分
常州磯濱村内祝町
大黒屋庄吉所持店
〃岩船池内町
右庄吉店　成瀬万助事
萬屋九兵衛
三十三

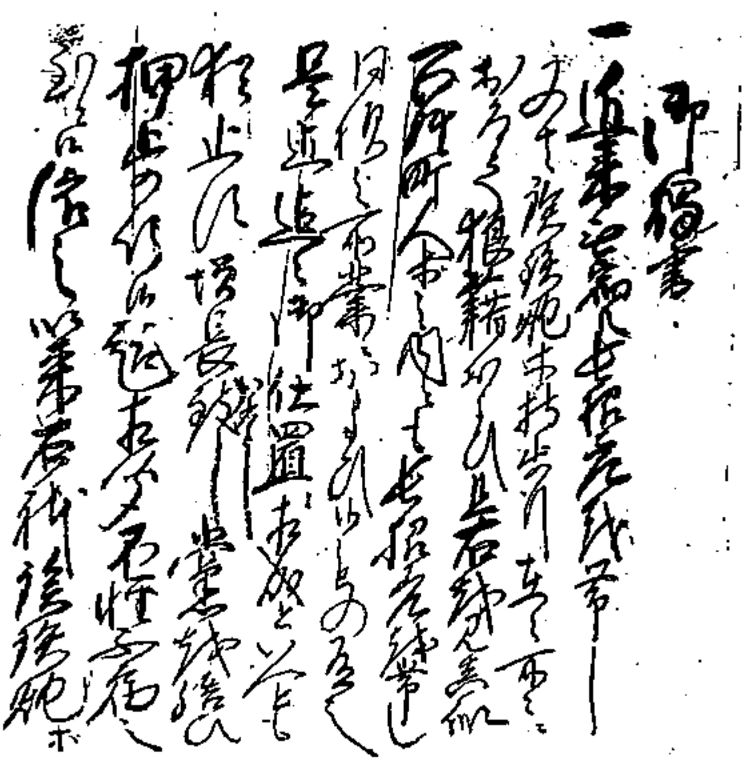
右磯濱村庄屋
新五郎
組頭　彦右衛門
〃　彦兵衛
〃　文吉



右岩船池内町
庄屋　太兵衛
組頭　仁兵衛
〃　喜七

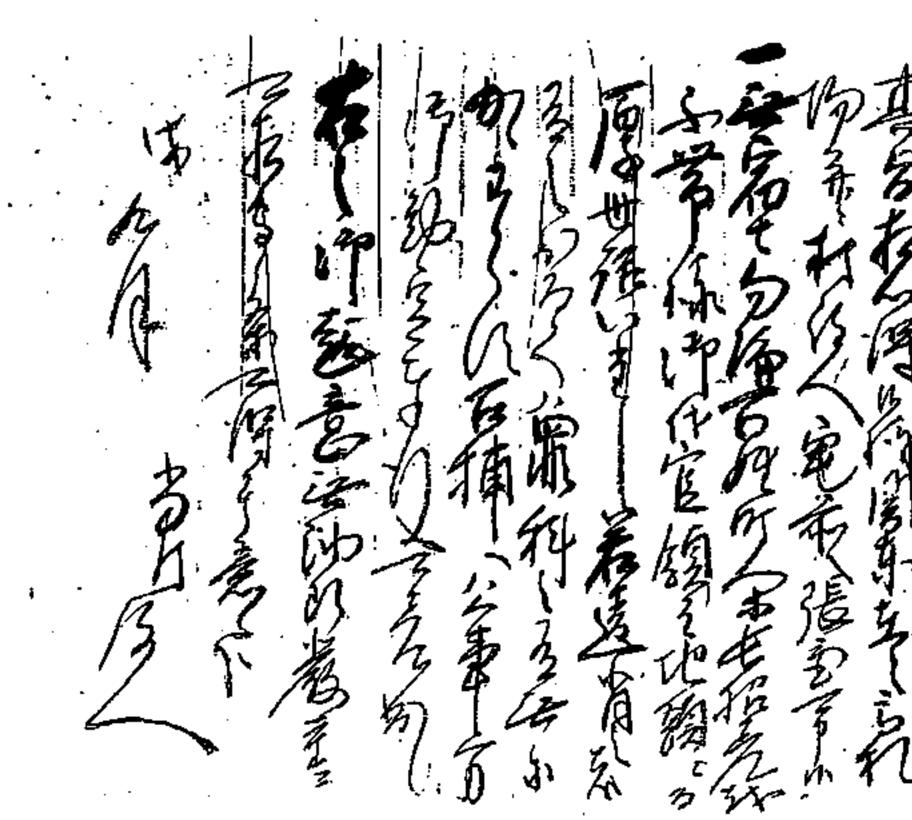
右敵万助只助を
殺害いたし迯去り候ハ
文化十五戊寅七月なり
兄弟之者敵打ち出立は
文政三庚辰八月廿一日也
京大坂其外西国邊所々
相尋ね候へ共、相知れ申さずニ付き
夫ゟ東國ェ罷り下り関東
筋残らず相尋ね候得共、一切
相しれ申さず候内、路用等も
遣い切れ是悲無く江戸表
武家方奉公相勤めながら
心掛ヶ罷り在り候處、然るべき手懸り
之れ有りニ付き両人とも主人方
長之暇ヲ相願い當四月七日
江戸表出立、同四月廿六日
前書場所に於いて敵打ち
本望遂げ候よし、聞書き

御触書之写
無宿長脇（差）共可召捕



御触書

一、近来無宿共長脇差しを帯し
又は、銃鉄砲等持ち歩行、在々所々に
おいて狼籍におよび、且つ右を見真似
百姓町人等之内にも長脇差しを帯し
同様之所業ニおよび候もの之れ有り
是迄追々御仕置きニ相成るといへども
猶止まず増長致し黨を結び
押し歩行候趣相聞き、軽からず不届き之
至りニ候、之に依り以来右躰銃鉄砲等

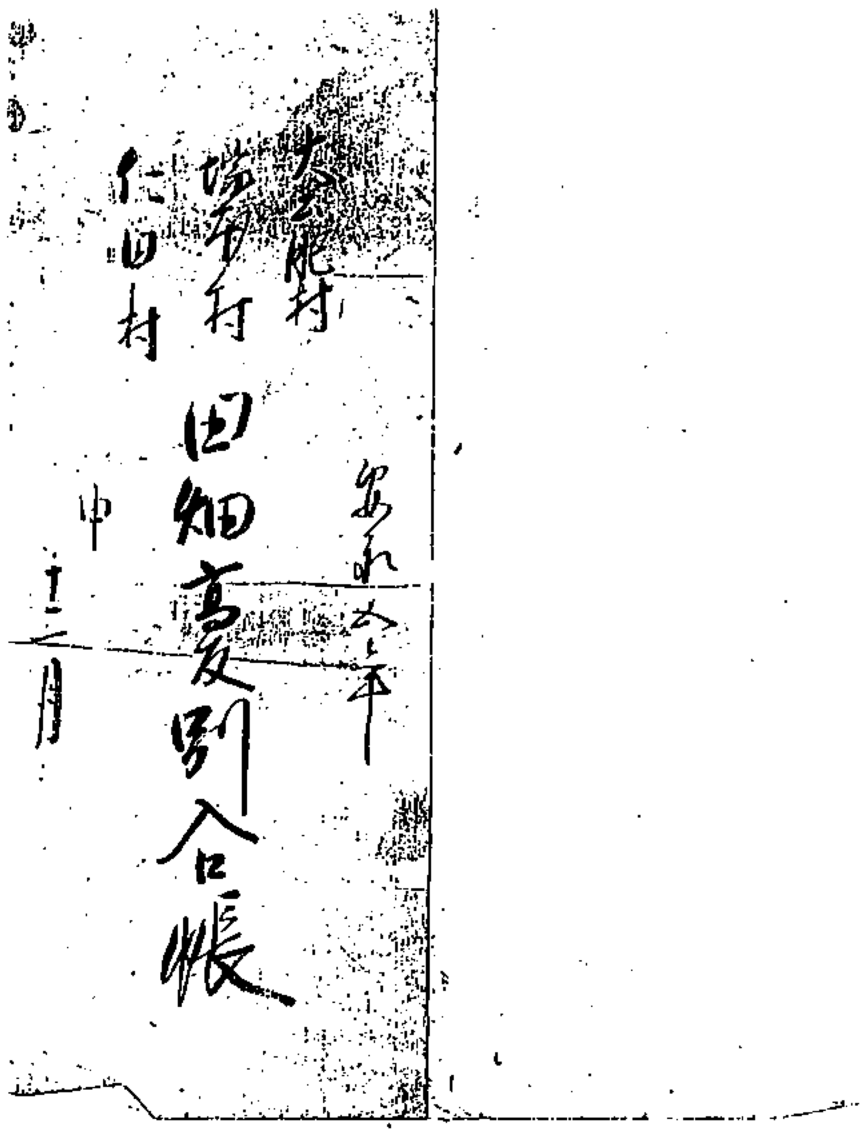


携え候者ハ勿論長脇差し等
帯し又は、所持致し歩行候者共ハ
悪事有無、無宿有無之差別無く
死罪其外重科ニ行ハるる之間
其旨相心得候様、関東在々高札
場并に村役人宅前へ張り置き申すべく候
一、無宿は勿論百姓町人等長脇差しを
帯ざる様御代官領主地頭ニて
厚く世話いたし、若し違背之者
之れ有るにおゐてハ罪科之有無に
かゝわらず召捕らへ公事方
御勘定奉行へ差し出すべく候
右之御趣意油断無く厳重ニ
相守るべき条其意を得べく候以上

戌九月　　当村役人

B 類

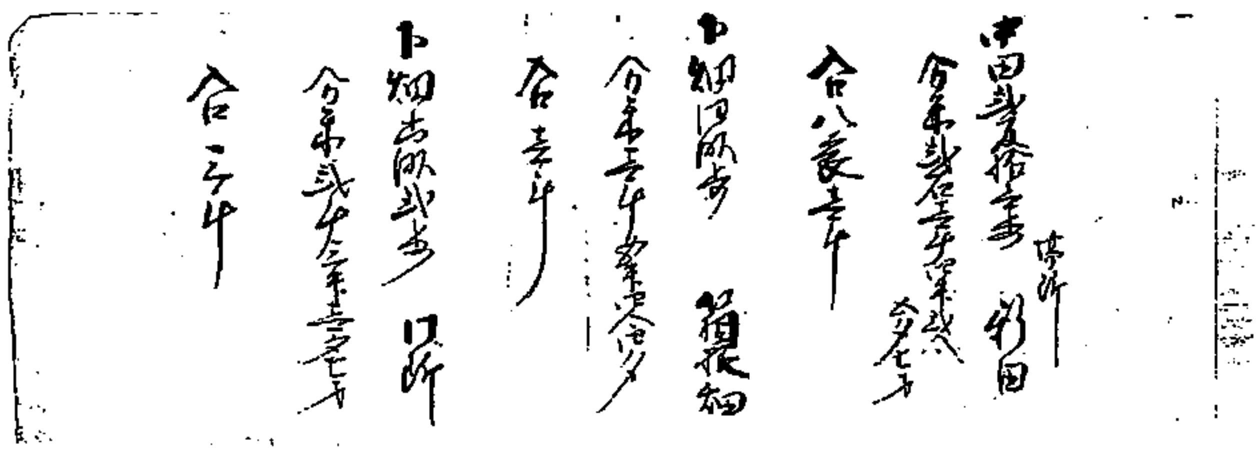
	標題	差出人	請取人	年月日	
1、	大土肥村・塚本村・仁田村 田畑高反別入口帳	豆州大土肥村百姓十五名仁田村、塚本村名主他	清左衛門殿	安永五申年十二月（一七七七）	45
2、	書付之事（伊勢屋小七所持田畑賄）	浦野庄兵衛 惣右衛門他一名	大土肥村百姓 十蔵方へ	文化十五年二月（一八一八）	54



安永五年

大土肥村
塚本村
田畑高反別入口帳
仁田村

申
十二月



場所

中田弐反拾壱歩　新　田

分米弐石壱斗四升弐合
五勺七才

入口八表(俵)壱斗

下畑四畝歩　箱根畑

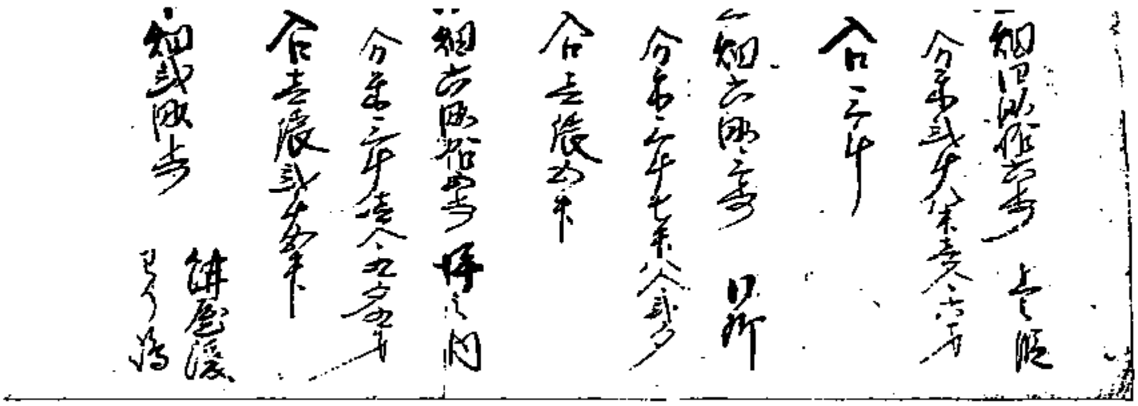
分米壱斗五升四合四勺

入　口　壱　斗

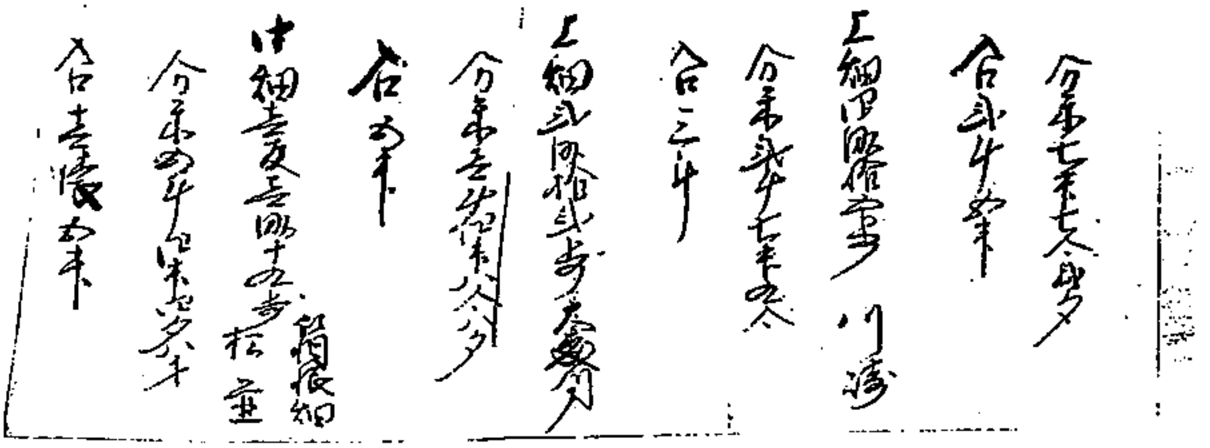
下畑六畝弐歩　同　所

分米弐斗三升壱勺七才

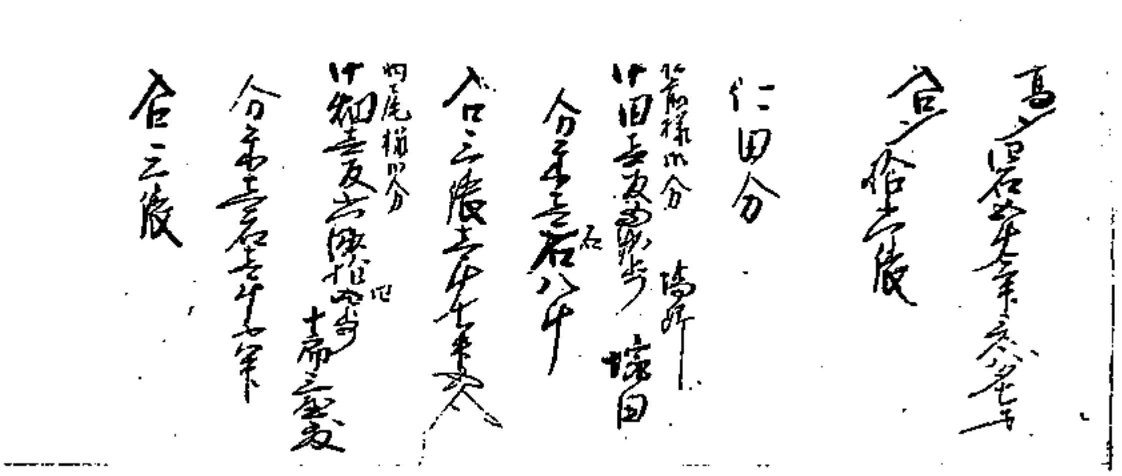
入　口　三　斗



畑四畝拾六歩　上之段
分米弐斗八升壱合六才
入口三斗
畑六畝三歩　同　所
分米三斗七升八合弐勺
入口壱俵五升
畑六畝拾五歩　坪之内
分米三斗壱合九勺九才
入口壱俵弐斗五升
畑弐畝歩　餅屋後
わり嶋



分米七升七合弐夕(勺)
入口弐斗五升
上畑四畝拾五歩川崎
分米弐斗七升九合
入口三斗
上畑弐畝拾弐歩大森川
分米壱斗四升八合八勺
入口五斗
中畑壱反壱畝十九歩　箱根畑　松並
分米五斗四升四勺八才
入口壱俵五升



高〆　四石五斗三升三合八勺七才

入口〆　拾六俵

仁田分

松前様御分　場所

中田壱反五畝歩　塚田

分米壱石八斗

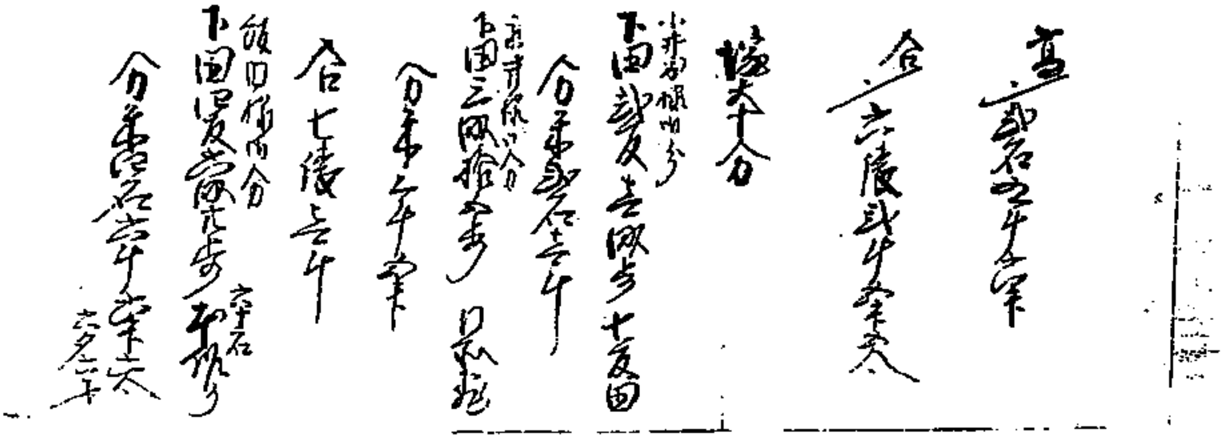
入口三俵壱斗七升五合

西尾様御分

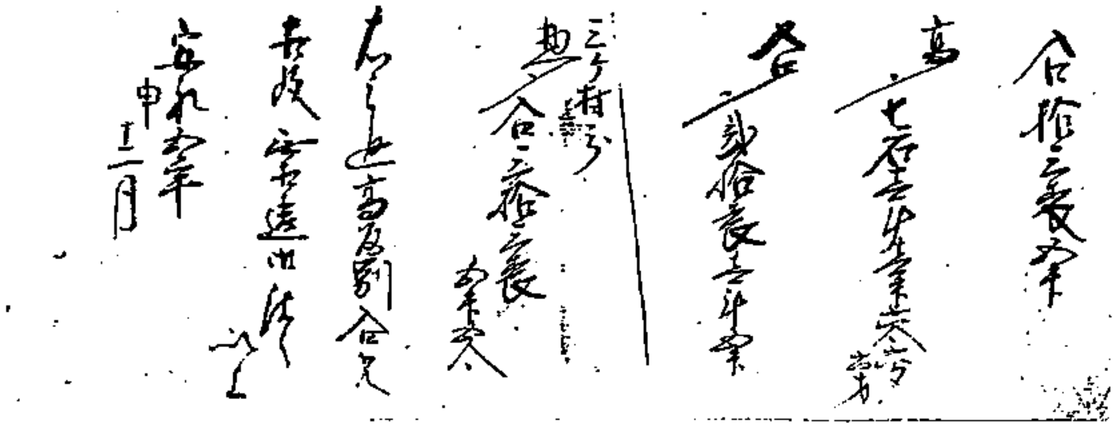
中畑壱反六畝拾四歩　十郎三屋敷

分米壱石壱斗六升

入口三俵



高
〆弐石九斗六升
入口
〆六俵弐斗五升五合
塚本分
小井出様御分
下田弐反壱畝歩　七反田
分米弐石壱斗
永井様御分
下田三畝拾五歩　同所飛
分米弐斗五升
入口七俵壱斗
飯田様御分　　六十石
下田四反六畝廿歩　本作り
分米四石六斗六升六合
六勺六才



入口拾三表（俵）五升

高

〆七石壱斗壱升六合六勺

六才

入口

〆弐拾表（俵）壱斗五升

三ヶ村分

惣〆入口三十三表（俵）

五升五合

右之通高反別入口共

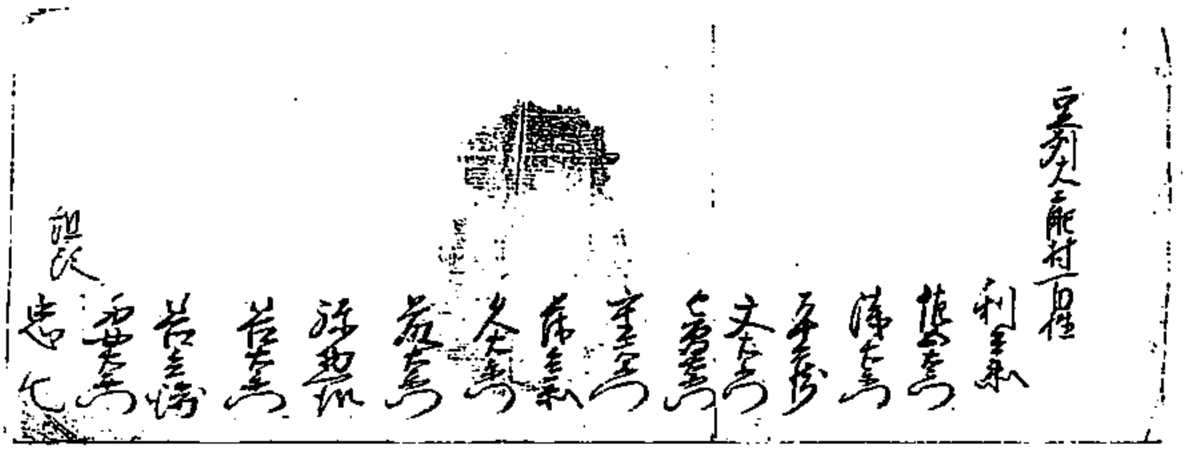
相改無相違御座候

以上

安永五年

申

十二月



豆州大土肥村百姓

利兵衛

佐五右衛門

浅右衛門

平蔵

文右衛門

与曽右衛門

重右衛門

茂兵衛

久右衛門

藤右衛門

弥惣治

善右衛門

善兵衛

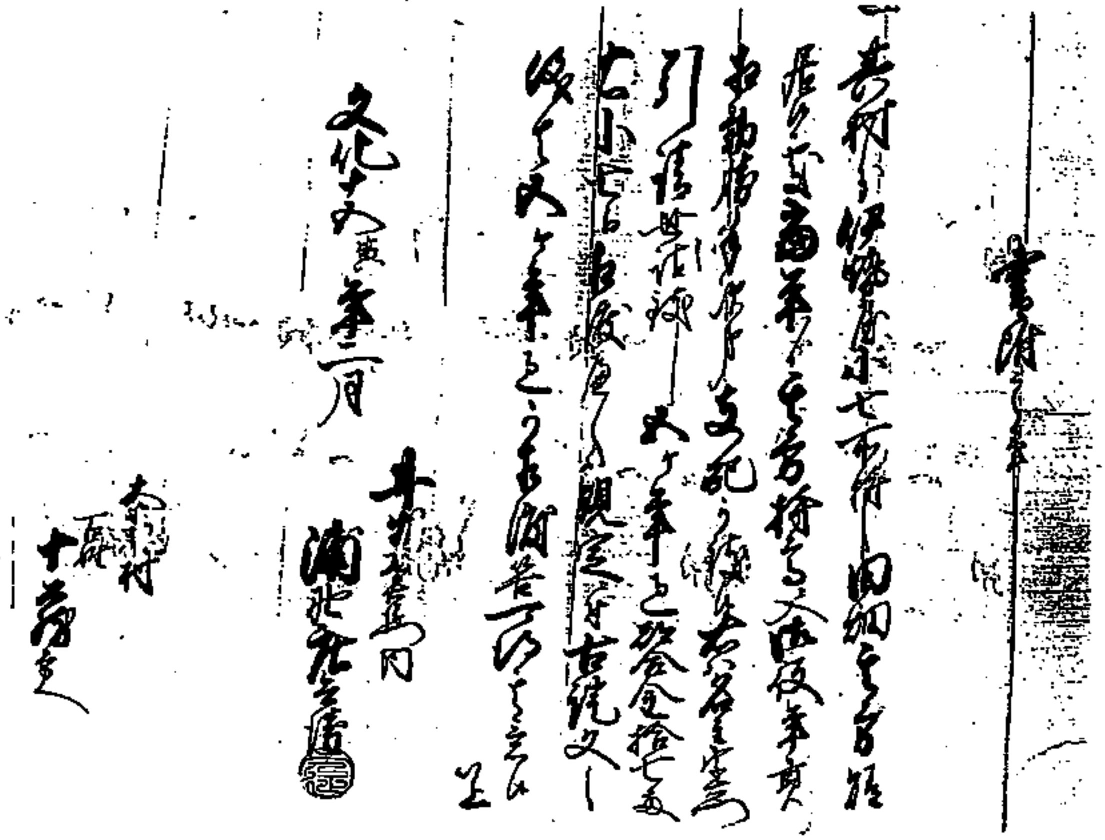
要右衛門

組頭

忠七

仁田村
名主 惣左衛門
組頭 傳兵衛
同 村
名主 仁右衛門
塚本村
名主 惣右衛門
組頭 清左衛門
同 村
名主 六右衛門
同 村
名主 賀 七

清左衛門殿



書付之事

一其村分伊勢屋小七所持之田畑其方賄
居候処当年ゟ其方持高ニ入、御役年貢
相勤勝手次第支配可致（いたすべく）候、右八名主宗右衛門
引請世話致し五ヶ年過、都合金拾七両
右小七江相渡すべく、規定ニ付右證文之
儀者（は）五ヶ年過可相渡筈可得其意（そのいをえべく）候

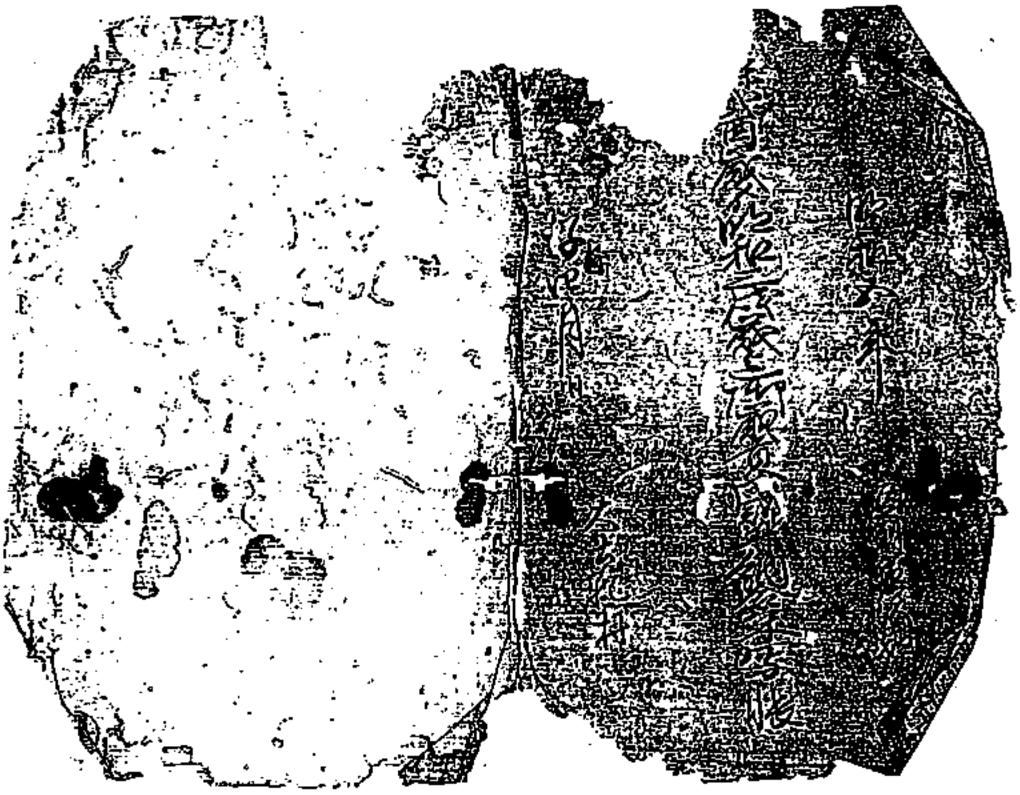
以上

井出甚右衛門内
文化十五寅年二月　浦野庄兵衛㊞

大土肥村
百姓
十蔵方へ

C 類

標題	差出人	請取人	年月日	
1、享保弐歳より　明和三歳迄割附納米写帳			明和五年四月（一七六八）	55
2、覚（御屋鋪類焼につき出金受取）	池田平右衛門㊞	大土肥、間宮、玉川村名主	安永十年三月二十九日（一七八一）	61
3、覚（大土肥、玉川、間宮村定免物成）	井出藤次郎	御勘定所	天明五年六月（一七八五）	62
4、寅之御年貢皆済目録書上			文政二年（一八一九）	67
5、未年役割帳	大土肥村名主		文政六年十二月十八日（一八二三）	71
7、差上申御定免御請書之事	大土肥	井出志摩内　園田喜三郎	文政十年八月（一八二七）	95
7、申渡之事（年貢米相場）	土屋織部	伊豆四ケ村	天保十三年十二月（一八四二）	98
8、申渡之事（相場極ニ付御物成残金納）	土屋織部	四ケ村役人衆中	天保十三年十二月（一八四二）	99
9、戌年御賄諸掛取調帳	定助惣代　渡辺曽平		嘉永三戌年極月（一八五〇）	100
10、覚（貸付麦）	曽平	井出様　土屋織部		116
11、家財売払代金ヲ以御年貢割合納帳	五人組　栄蔵他三名		申年二月	117



明和五年　豆州君沢郡

享保弐酉歳ゟ明和三戌歳迄御年貢御割付納合米写帳

子四月日　大土肥村

享保弐酉年
一、米八拾弐石八斗四升三合壱勺　納　辻
享保三戌年
一、米八拾弐石八斗四升三合壱勺　右同断
享保四亥年
一、米八拾弐石八斗四升三合壱勺　右同断
享保五子年
一、米八拾四石四斗八升八合九勺　右同断
享保六丑年
一、米七拾七石六斗壱升壱合七勺　右同断
享保七寅年
一、米八拾七石弐斗三升五合　右同断
享保八卯年
一、米八拾七石弐斗三升五合　右同断
享保九辰年
一、米八拾七石弐斗三升五合　右同断
享保十巳年
一、米八拾七石弐斗三升五合　右同断
享保十一午年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断

享保十弐未年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十三申年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十四酉年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十五戌年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十六亥年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十七子年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十八丑年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保十九寅年
一、米八拾弐石三斗五合　右同断
享保弐十卯年
一、米九拾五石九斗三升弐合　右同断
元文元辰年
一、米九拾五石九斗三升弐合　右同断

元文弐巳年
一、米八拾八石七斗五升七合　右同断
元文三午年
一、米九拾弐石壱斗三升八合　右同断
元文四未年
一、米九拾弐石壱斗三升八合　右同断
元文五申年
一、米九拾弐石壱斗三升八合　右同断
寛保元酉年
一、米九拾弐石壱斗三升八合　右同断
寛保弐戌年
一、米九拾弐石壱斗三升八合　右同断
寛保三亥年
一、米九拾七石六斗五升弐合　右同断
延享元子年
一、米九拾八石五斗六升四合　右同断
延享弐丑年
一、米九拾壱石三斗　右同断
延享三寅年
一、米九拾壱石三斗　右同断

延享四卯年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
寛延元辰年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
寛延弐巳年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
寛延三午年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦元未年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦弐申年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦三酉年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦四戌年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦五亥年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦六子年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦七酉年
一、米九拾壱石三斗弐升壱合　右同断
宝暦八寅年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断

宝暦九卯年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦十辰年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦十一巳年
一、米九拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦十二午年
一、米八拾四石五斗弐升壱合　右同断
宝暦十三未年
一、米八拾四石五斗弐升壱合　右同断
明和元申年
一、米八拾四石五斗弐升壱合　右同断
明和弐酉年
一、米七拾弐石五斗弐升壱合　右同断
明和三戌年
一、米八拾四石五斗弐升壱合　右同断

右之通享保弐酉歳ゟ明和三戌歳迠
五拾ヶ歳御年貢御割付納合米斯の如くに
御座候以上

大土肥村
名主　要右衛門㊞
組頭　茂兵衛㊞
百姓代　清左衛門㊞

明和五年子四月日

江川太郎左衛門様

韮山
御役所

覚

大土肥村名主
惣右衛門

一、金八両弐分
一、金四両弐分　玉川村
〆金弐拾三両也

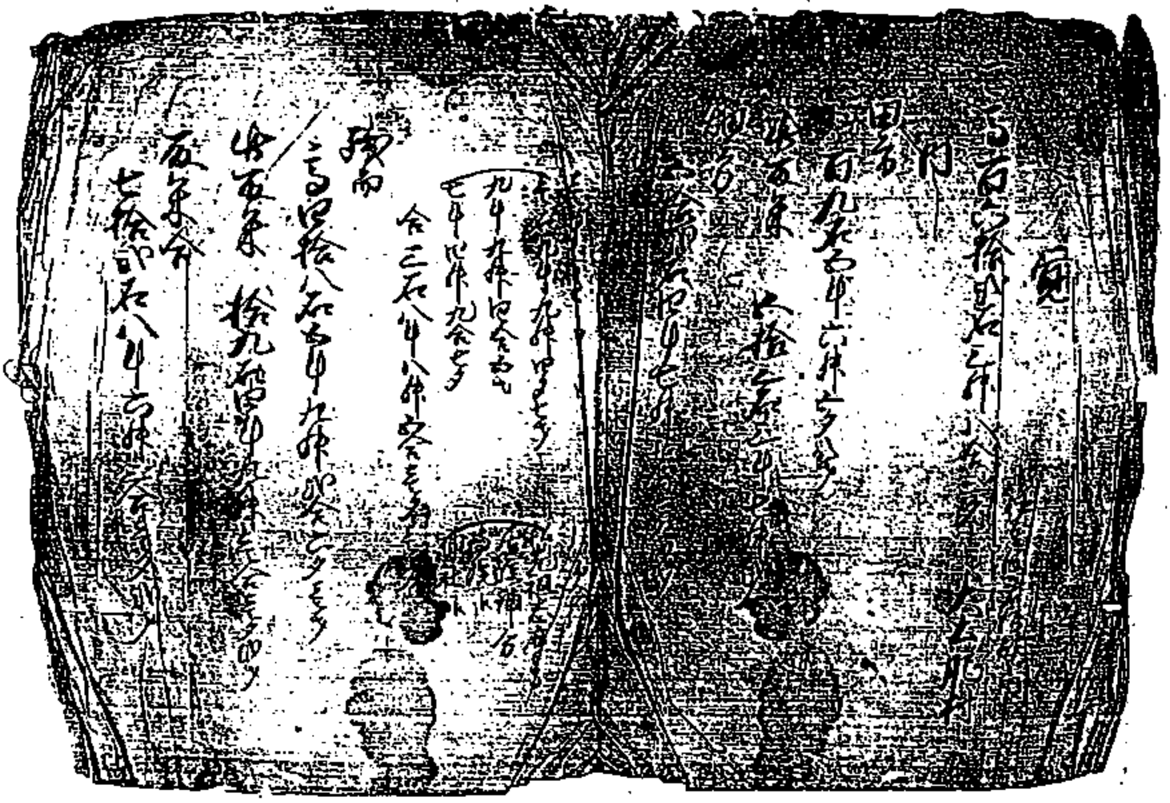
右者御屋敷御類焼ニ付　御普請金之内ニ差出
慥ニ請取上納仕候處相違無之候、御返済之儀者當丑之
暮ゟ来ル卯ノ暮迄三ケ年ニ御返済之御定メニ候
依而證文如件

安永十丑年三月廿九日　池内平右衛門㊞

大土肥村名主
惣右衛門方
間宮村名主
与左衛門方
玉川村名主
新右衛門方

表書之通承届之候以上

藤次郎㊞



覚

一、高百六拾弐石三升八合三勺　伊豆國君沢郡之内 大土肥村

内

田方

百九石五斗六升五勺八才

此取米　五拾三石三斗七升弐合

畑方

五拾弐石四斗七升七合七勺弐才

内

壱斗五升□□□　川欠引

壱石九斗九升四勺七才　我先祖志摩守 居屋敷分

九斗九升四合五才　寺院江

七斗四升九合七勺　神社江

合三石八斗八升五合壱勺壱才

残而

高四拾八石五斗九升弐合六勺壱才

此取米　拾九石四斗九升壱合壱勺弐才

取米合

七拾弐石八斗六升三合壱勺弐才

此取米　八升四升六合弐勺
取米合
三拾弐石九斗
此俵　九拾四俵
但欠口米共ニ
四斗入ニ詰候
伊豆國君沢郡之内
一、高三拾九石四斗壱升弐合　玉川村
内
田方
三拾七石六斗八升七合
此取米　拾九石弐斗七升七合三勺
畑方
壱石七斗弐升五合
此取米六斗七升二合七勺
此取米合
拾九石九斗五升
此俵五拾七俵
但欠口米共ニ
四斗入ニ詰候
伊豆國君沢郡之内
一、高三拾七石九斗三升壱合　長伏村

此俵　弐百八俵壱斗八凮

米　三俵五升八合　　口米

二口〆

弐百拾壱俵壱斗弐升壱合壱勺

但　四斗入ニ諸俵

伊豆國君沢郡之内

一、高六拾八石八斗八升四合　間宮村

内

田方

六拾六石七斗壱升四合七勺

内

弐石四斗五升　　川欠引

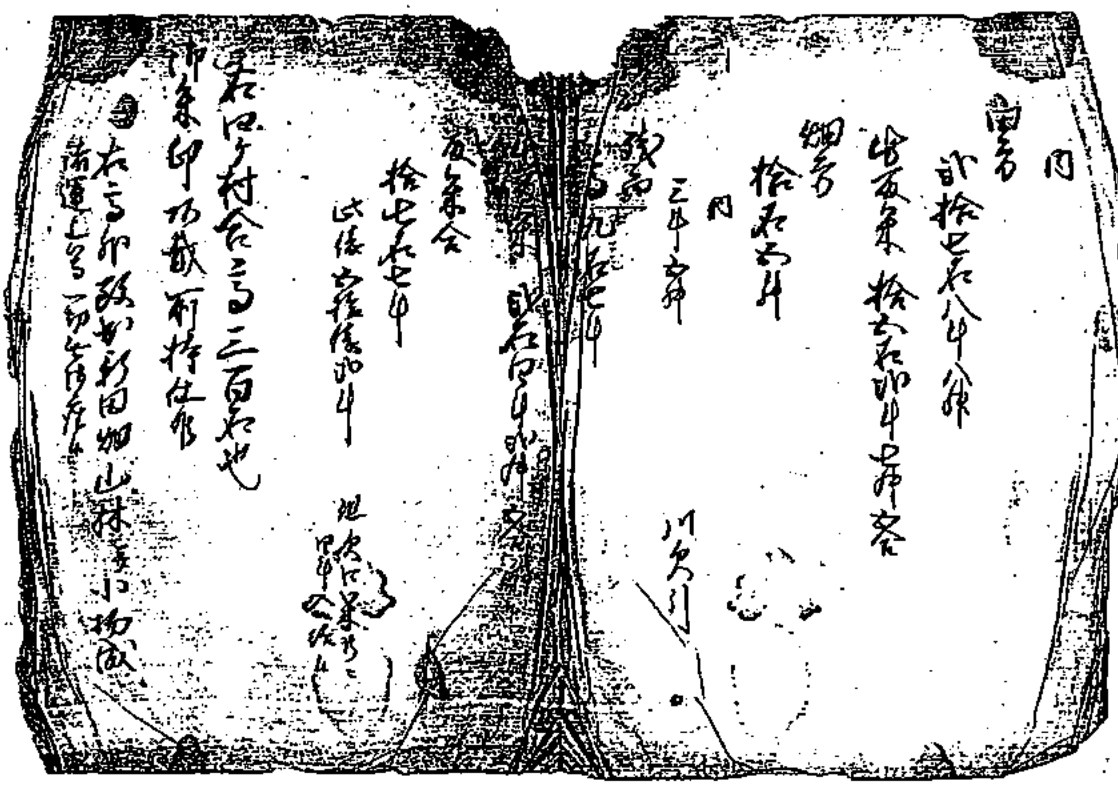
残而

高六拾四石弐斗六升四合七勺

此取米　三拾弐石五升三合九勺八才

畑方

弐石壱斗六升九合三勺



内

田方

弐拾七石八斗八升

此取米　拾五石弐斗七升五合

畑方

拾石五升

内

三斗五升　　　川欠引

残而

高九石七斗

此取米　弐石四斗弐升五合

取米合

拾七石七斗

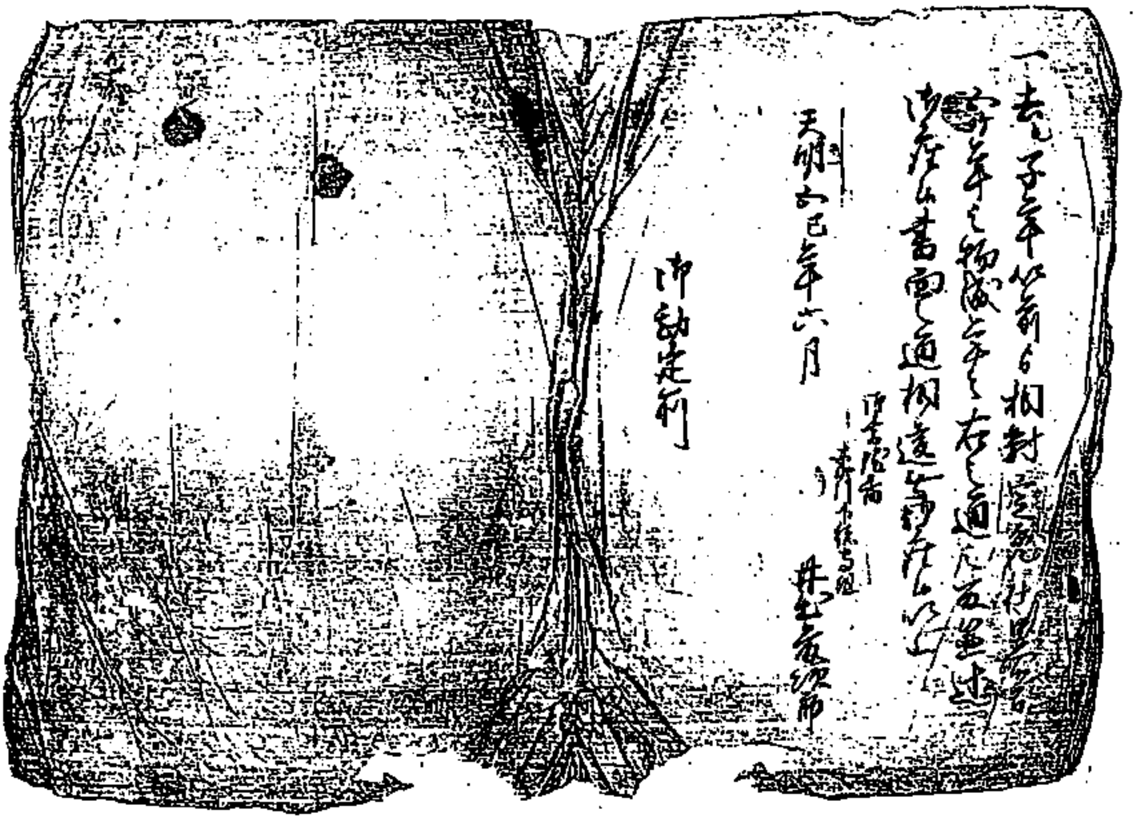
此俵　五拾俵弐斗　但欠口米共ニ四斗入ニ詰候

右四ヶ村合高三百石也

御朱印頂戴所持仕り候

右高外改書新田畑山林并に小物成り

諸運上等一切無御座く候

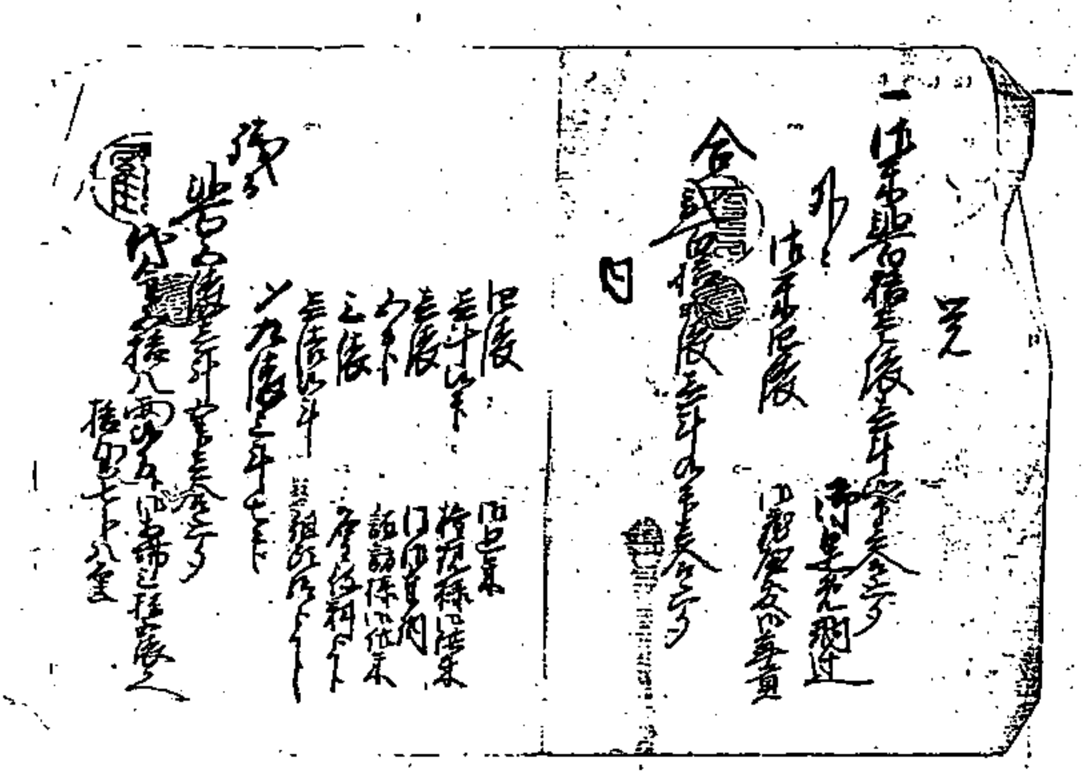


一、去ル子年以前ゟ相対定免ニ仕置き候間
五ヶ年之物成り年々右之通り之取箇辻ニ
御座候書面之通り相違御座無く候、以上
御書院番
森川下総守組
井出藤次郎
天明五巳年六月
御勘定所

文政弐卯年　二月

寅之御年貢皆済目録書上

豆州田方郡
大土肥村
名主　宗右衛門



覚

一、御米弐百拾壱俵壱斗弐升壱合六勺　御定免納辻

外ニ

御米四俵　御蔵屋敷御年貢

合

弐百拾五俵壱斗弐升壱合六勺

内

四俵　御廻米

壱斗弐升　権現様御供米

壱俵　同御奉納

五升　諏訪様御供米

三俵　名主役料下さる

壱俵弐斗　組頭給下さる

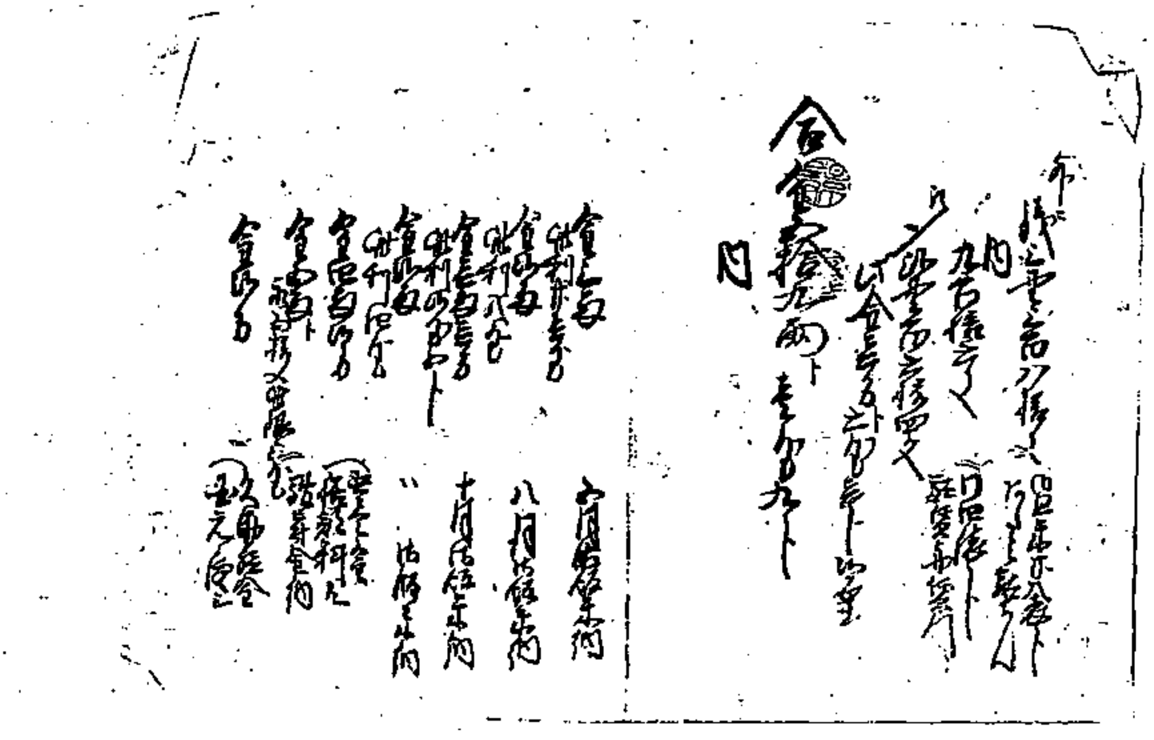
〆九俵三斗七升

残而

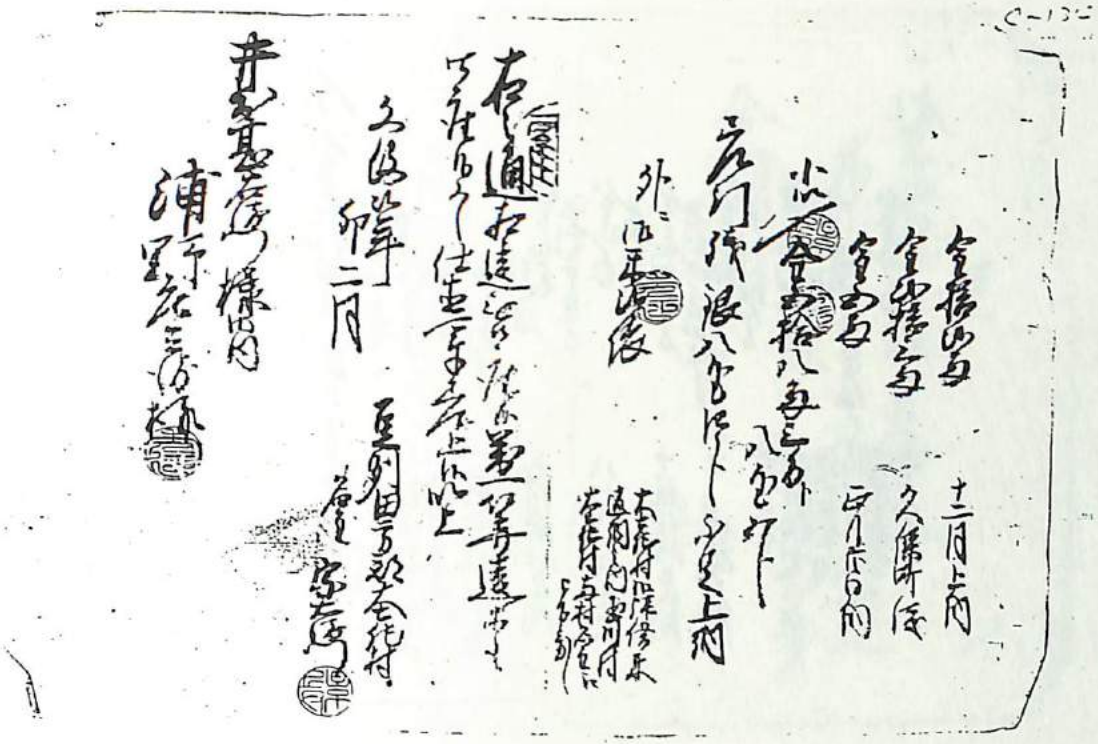
弐百五俵壱斗五升壱合六勺

代金五拾八両弐分ト御相場三拾五俵かへ

拾匁七分八厘



外ニ
錢三貫三百八拾文　御廻米廿八俵分
　　　　　　　　　あたミ駄ちん
内
九百拾六文　　　　同四俵分
　　　　　　　　　駄賃舟賃引き
以
〆弐貫百六拾四文
此金壱分ト六匁壱分弐厘
合金五拾九両ト壱匁九分
内
金三両　　　　五月御飯米納
此利廿壱匁
金弐両　　　　八月御飯米納
此利八匁
金壱両壱分　　十月御飯米納
此利弐匁五分
金弐両　　　　〃御飯米納
此利四匁
金四両弐分　　無尽金
　　　　　　　膳部料共
金五両ト　　　駿府金納
永五拾貫此銀三匁
　　　　　　　久助給金
金弐分　　　　国元渡シ



金拾弐両　　十二月上納

金弐拾三両　久保町渡し

金五両　　　正月廿日納

小以〆金五拾八両三分ト
八匁五分

差引残銀八匁四分不足上納

外ニ御米弐俵　大土肥村拝借米
返納之内玉川村
大土肥村両村名主江
下し置かれ候

右之通相違御座無く候、萬一算違い等も
御座候ハヽ仕直し差上げ奉る可く候以上

文政弐年　豆州田方郡大土肥村

卯二月　名主宗右衛門㊞

井出甚右衛門御内

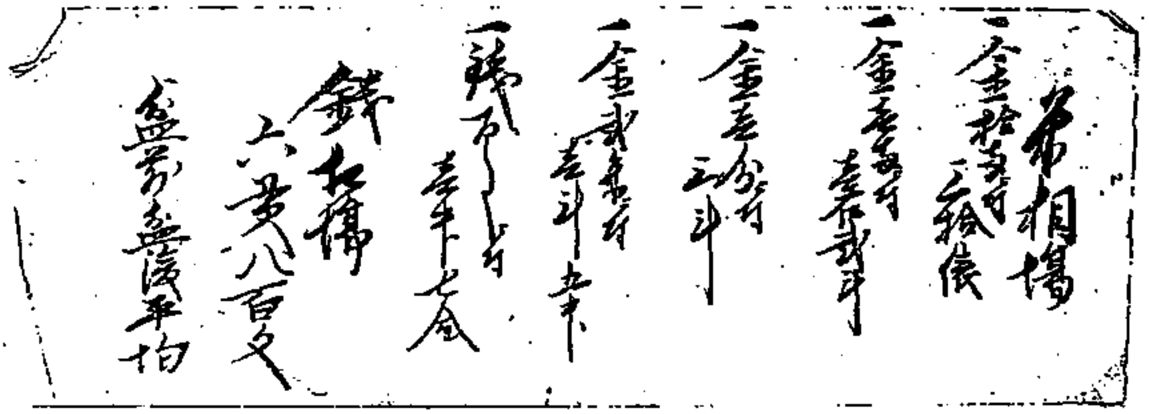
浦野庄兵衛様㊞

文政六年

未年役割帳

大土肥村

十二月十八日　名主



米相場

一、金拾両ニ付き
　三拾俵

一、金壱両ニ付き
　壱石弐斗

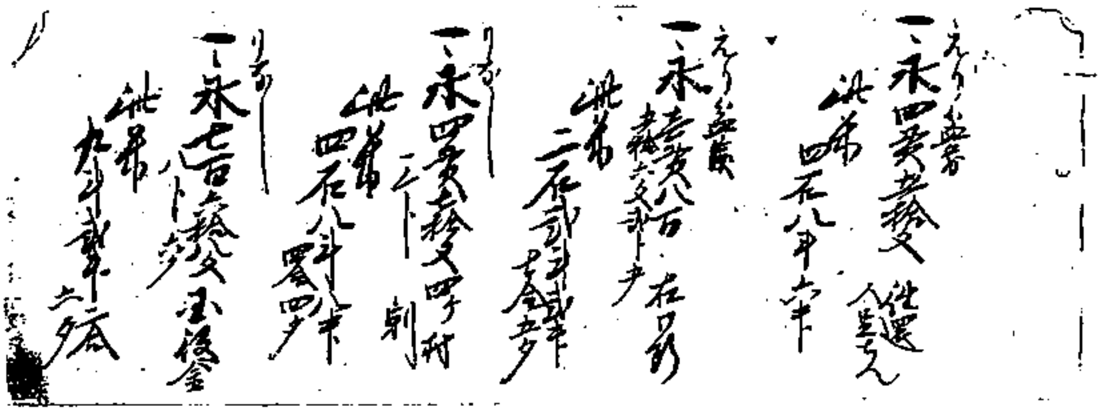
一、金壱分ニ付き
　三斗

一、金弐朱ニ付き
　壱斗五升

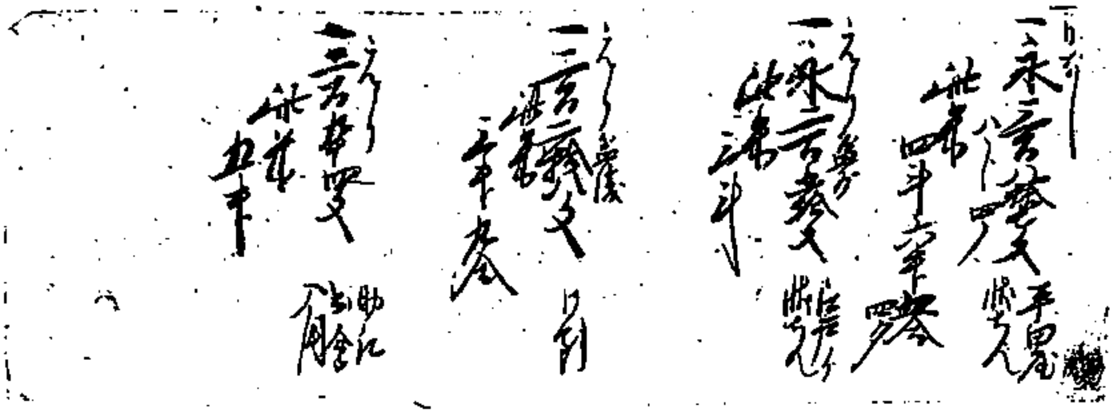
一、銭百文ニ付き
　壱升七合

銭相場
　六貫八百文

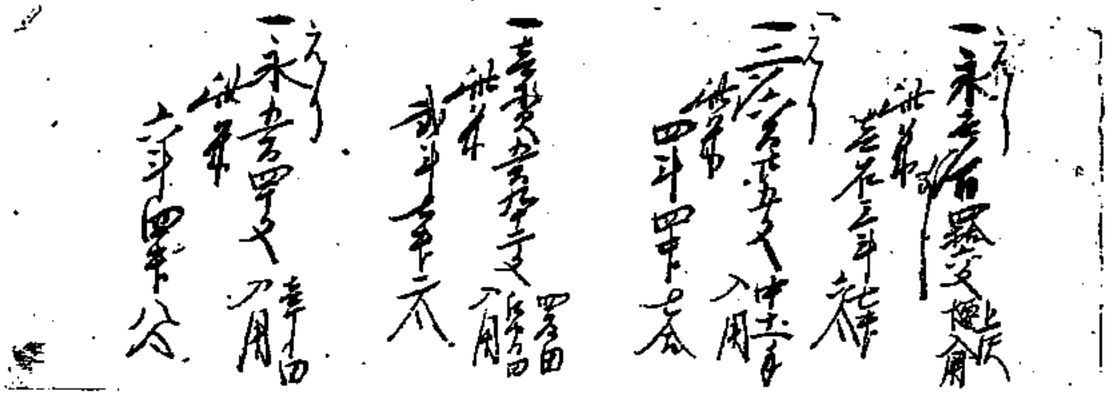
盆前盆後平均



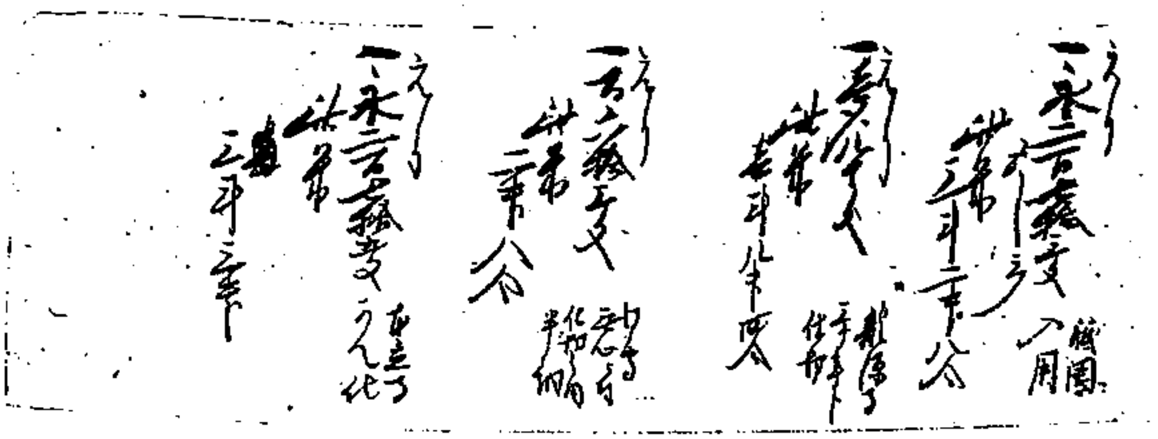
元り盆前
一、永四貫五拾文　往還
人足ちん
此米
四石八斗六升
元り盆後
一、永壱貫八百　右同断
五拾六文二分五厘
此米
二石弐斗弐升
七合五勺
りなし
一、永四貫七拾文　四ヶ村
三分　割り
此米
四石八斗八升
四合四勺
りなし
一、永七百六拾八文　国役金
八分六厘
此米
九斗弐升二合
六勺



りなし
一、永三百八拾七文　平田屋
　　　八分四厘　　　状ちん
　　此米
　　四斗六升五合
　　　四勺
元り盆前
一、永二百五拾文　江戸ゟ
　　此米　　　　　状ちん
　三斗
元り盆後
一、二百二拾八文　同断
　　此米
　三升九合
元り　　　　　　助郷
一、二百九十四文　出会い
　　此米　　　　入用
　五升



元り
一、永壱貫百四拾六文　上沢堰入用
　　五分
　此米
　　壱石三斗七升
　　六合
元り
一、二貫六百廿五文　中土手入用
　此米
　　四斗四升七合
　　　　　　　　　四反田
一、壱貫五百九十二文　江間田入用
　此米
　　弐斗七升二合
元り
一、永五百四十文　壱丁田入用
　此米
　　六斗四升八合

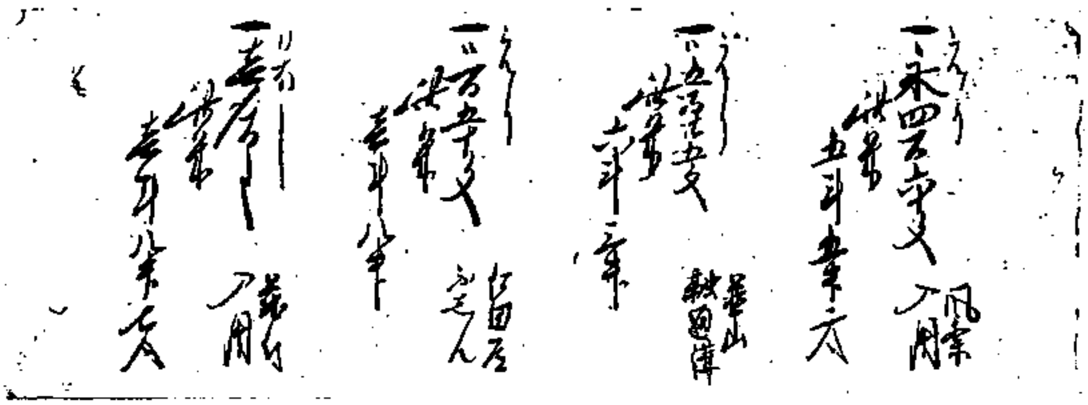


元り
一、永二百七拾三文 祇園入用
　　五分三厘
　此米
　三斗二升八合

元り
一、壱貫八十文 瀧源寺三ヶ年分仕切
　此米
　壱斗八升四合

元り
一、百六拾三文 同寺無心ニ付仕切之内半納
　此米
　二升八合

元り
一、永二百七拾五文 本立寺かん代
　此米
　三斗三升

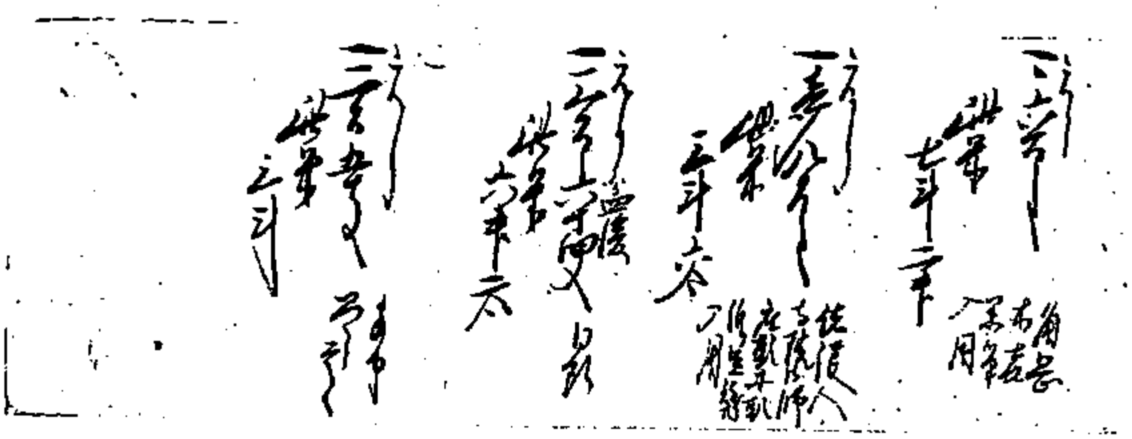


元り
一、永四百六十文　風祭 入用
　　此米
　　五斗五升二合

元り
一、〃五百廿五文　韮山 融通講
　　此米
　　六斗三升

元り
一、〃百五十文　仁田屋 ふしん
　　此米
　　壱斗八升

りなし
一、壱貫百文　蔵付き 入用
　　此米
　　壱斗八升七合

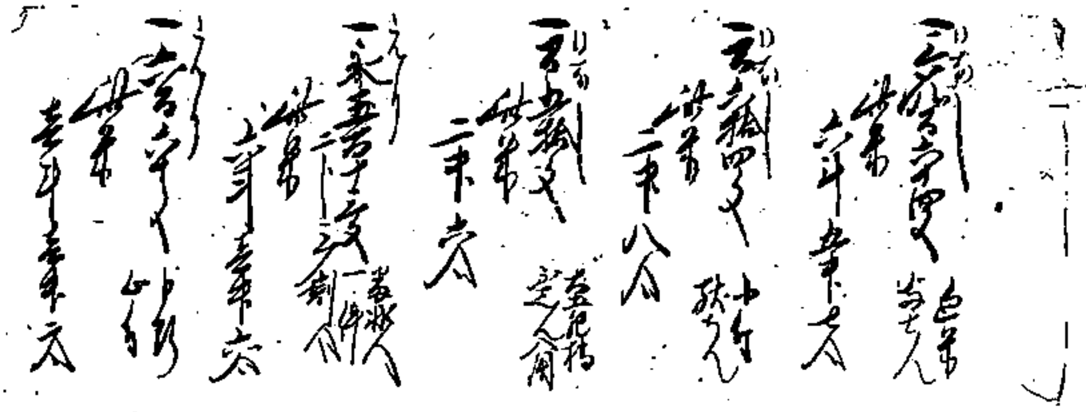


元り　角岡
一、永六百文　木喜
墨筆
此米　入用
七斗二升

元り　諸浪人
一、壱貫八百文　寺院お飾
座頭船頭
此米　泊り足銭共
入用
三斗六合

元り盆後
一、三百六十四文　同断
此米
六升二合

元り　安中
一、二百五十文　ろうそく
此米
三斗



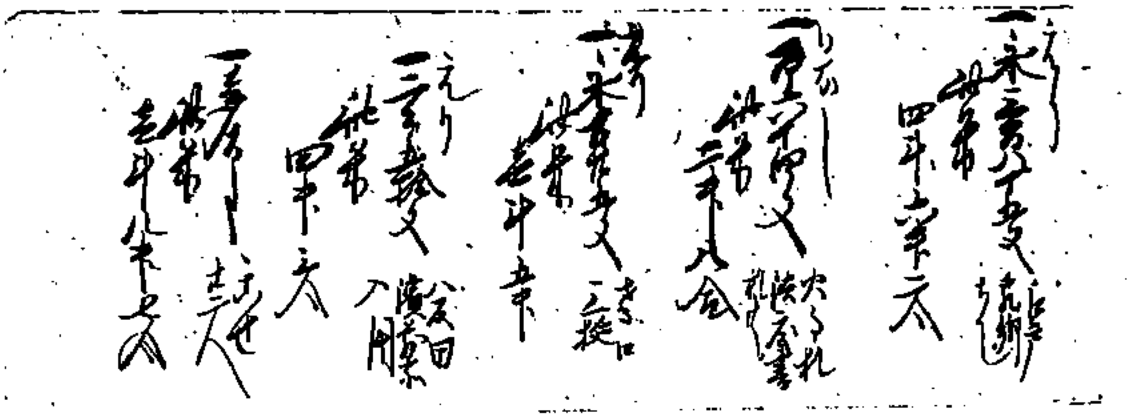
りなし　　　　　　　　廻米
一、三貫八百六十四文　だちん
　　此米
　　　六斗五升七合

りなし　　　　　　小付
一、百六拾四文　駄ちん
　　此米
　　　二升八合

りなし　　　　　大土肥橋
一、百五拾文　ふしん入用
　　此米
　　　二升六合

元り　　　　　　番非人
一、永五百十三文　一件
　　　二分三厘割合
　　此米
　　　六斗壱升六合

元り　　　　　同断
一、六百六十文　心付け
　　此米
　　　壱斗壱升二合



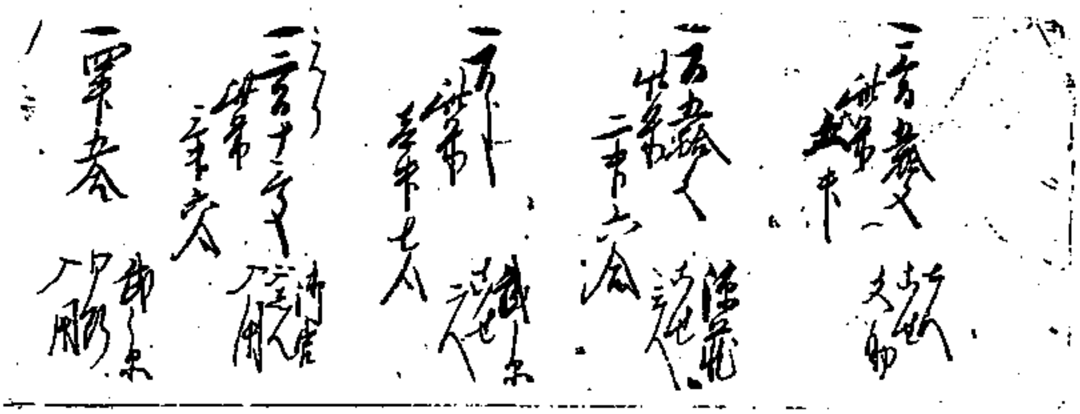
元　り　　　　　　江戸
一、永三百八十五文　飛脚
　此米　　　　　　ちん
　　四斗六升二合

りなし　　　　　　火事札
一、百六十四文　　法度書
　此米　　　　　　札共
　　二升八合

元　利　　　　　　蔫口
一、永百廿五文　　三挺
　此米
　　壱斗五升

元　り　　　　　　八反田
一、二百五拾文　　濱前所
　此米　　　　　　入用
　　四升三合

　　　　　　　　　ごぜ
一、壱貫百文　　　廿二人
　此米
　　壱斗八升七合



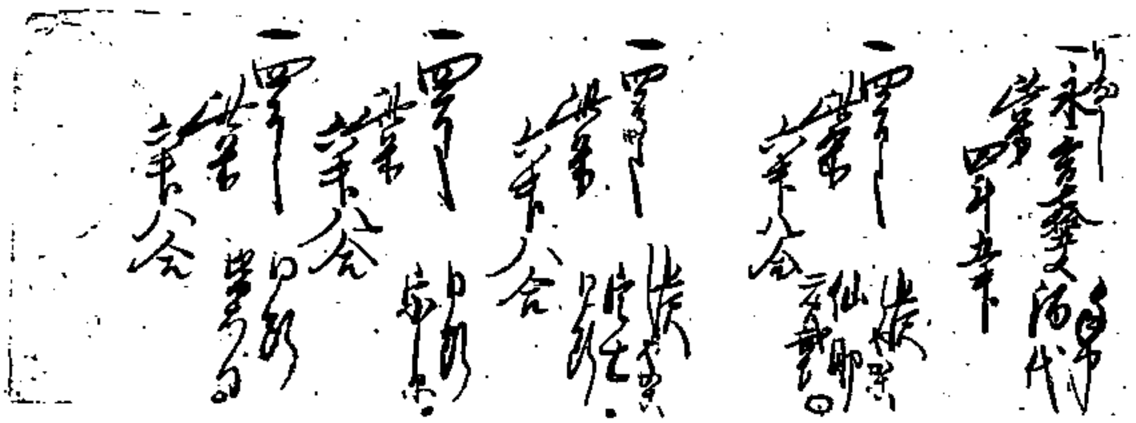
一、三百五拾文　　七人
　此米　　　　　　ごぜ
　六升　　　　　　文助

一、百五拾文　　　源蔵
　此米　　　　　　ごぜ
　二升六合　　　　三人

一、百文　　　　　武兵衛
　此米　　　　　　ごぜ
　壱升七合　　　　二人

元り
一、二百十三文　　御宮
　此米　　　　　　ふしん
　三升六合　　　　入用

一、四升五合　　　武兵衛
　　　　　　　　　同断
　　　　　　　　　入用



りなし
一、永三百七拾五文　年中
　此米　酒代
　　四斗五升

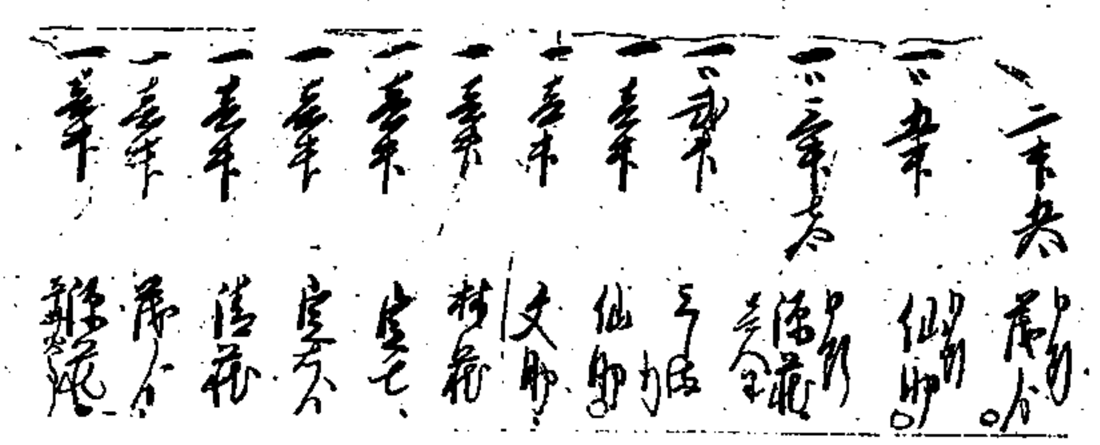
一、四百文　上沢じゃかご　仙助
　此米
　六升八合　二間弐本

一、四百文　上沢じゃかご　定七
　此米
　六升八合　同断

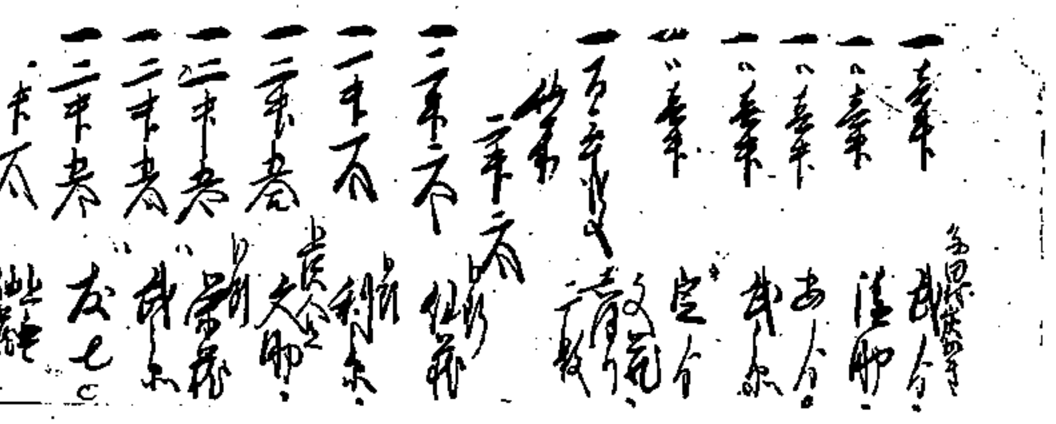
一、四百文　同断　宗兵衛
　此米
　六升八合

一、四百文　同断　皆右衛門
　此米
　六升八合

一、百五拾文　上沢人足 宗兵衛
　此米 二升五合
一、〃二升五合　同断 弥吉
一、〃七升五合　同断 十蔵 三人
一、〃二升五合　同断 清蔵
一、〃五升　同断 安右衛門
一、〃二升五合　同断 定七

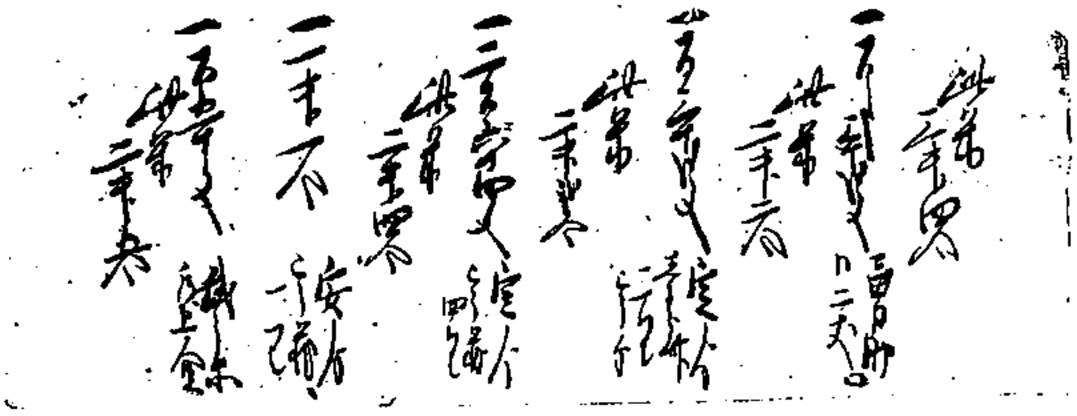


一、〃二升五合　同断　茂右衛門
一、〃五升　同断　仙助
一、〃三升七合　同断　源蔵　壱人半
一、〃弐升　三しま　行
一、壱升　仙助
一、壱升　文助
一、壱升　林蔵
一、壱升　定七
一、壱升　定右衛門
一、壱升　清蔵
一、壱升　茂右衛門
一、壱升　源蔵　平井火事

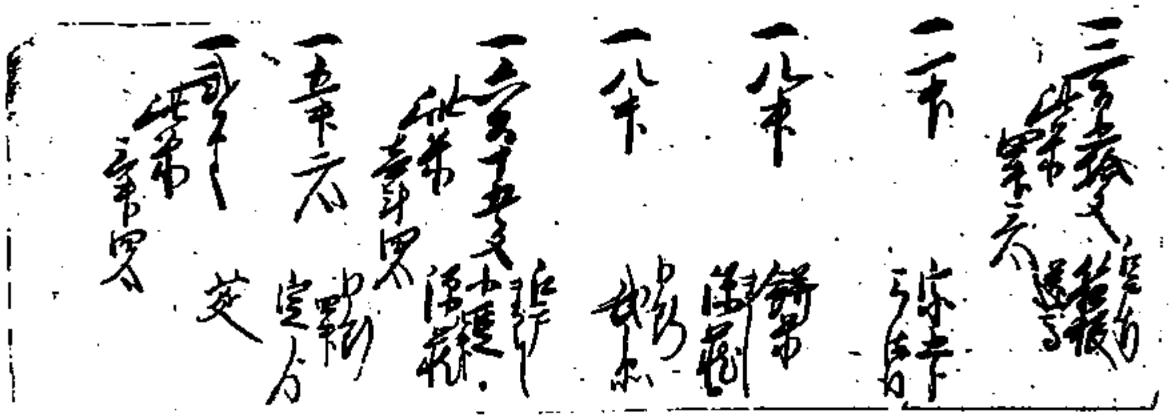


一、壱升　多田村炭かき　武右衛門
一、〃壱升　清　助
一、〃壱升　安右衛門
一、〃壱升　武兵衛
一、〃壱升　定右衛門
文　蔵
一、百三十弐文　しぼり
二　枚
此　米
二升二合
一、二升二合　同断　仙　蔵
一、一升一合　同断　利兵衛
一、二升五合　上沢人足　文　助
一、二升五合　同断　栄　蔵
一、二升五合　〃　武兵衛
一、二升五合　〃　友　七
上□
一、一升一合　仙蔵二包

一、二百文　仙助
此米　竹ミ
三升四合
八ツミぞ
一、百五拾文　川さらへ
此米　十蔵
二升五合
同断
一、二升五合　源蔵
同断
一、二升五合　定七
同断
一、二升五合　勇助
同断
一、二升五合　弥吉
一、百　文　定右衛門
此米　八反田濱所
壱升七合しぼり
下手かへ
一丁田
一、弐百文　定右衛門
もっこう
三　文



此　米
三升四合
一、百文三十弐文　勇　助
此　米　同二丈
二升二合
一、百三十弐文　定右衛門
しがら竹
二　わ
此　米　こう分
二升弐合
一、二百六十四文　定右衛門
こう蔵
四　わ
此　米
二升四合
一、一升一合　安右衛門
こう蔵
一　わ
一、百五十文　武兵衛
此　米　水上人足
二升五合



一、二百五拾文　江戸行　箱根
　此米　送馬
　　四升三合
一、一升　宗五郎　三しま行
一、八升　餅米　まし　源蔵
　同断
一、八升　武兵衛
　江戸　ヲくり
一、六百十五文　小豆　八升
　此米　源蔵
　　壱斗四合
　同断
一、五升二合　四升　定右衛門
一、弐百文　筵
　此米
　　三升四合

一、壱貫弐百文　役割取盛

　此米　入用

　　弐斗四合

一、壱斗五升　同断

一、弐百文　真木代

　此米

　　三斗四合

一、弐百文　あぶら代

　此米

　　三斗四合

一、百　文　たばこ

　此米

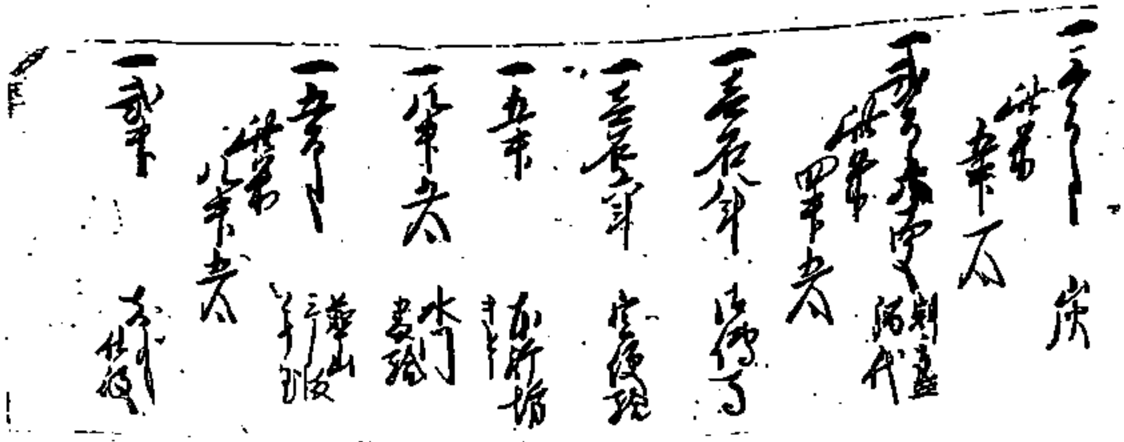
　　壱升七合

　　　　役割

一、四百文　筆墨帳紙

　此米

　　六升八合



一、三百文　炭
　此米
　　五升一合

一、弐百六十四文　割取盛
　　　　　　　　　酒代
　此米
　　四升五合

一、壱石八斗　御傳馬

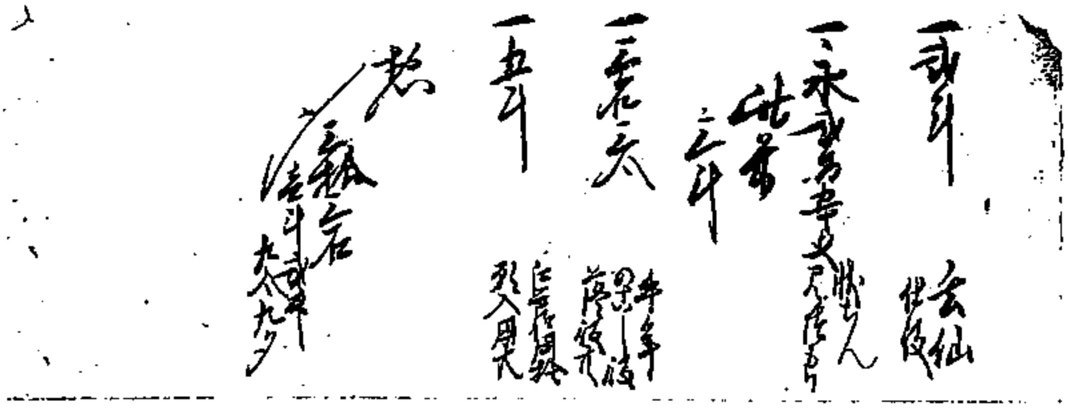
一、壱石六斗　定便給

一、五升　本行坊
　　　　　きとう

一、八升五合　水門
　　　　　　　番給

一、五百文　韮山
　　　　　　三しま
　　　　　　年玉
　此米
　　八升五合

一、弐升　前よし
　　　　　仕役



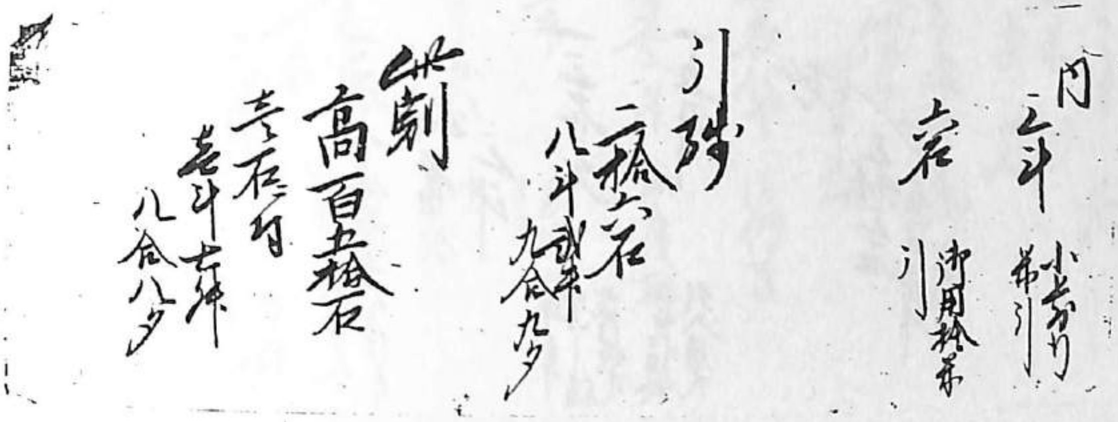
一、弐斗　玄仙仕役

一、永弐百五十文　状ちん見積もり
　此米
　　三斗

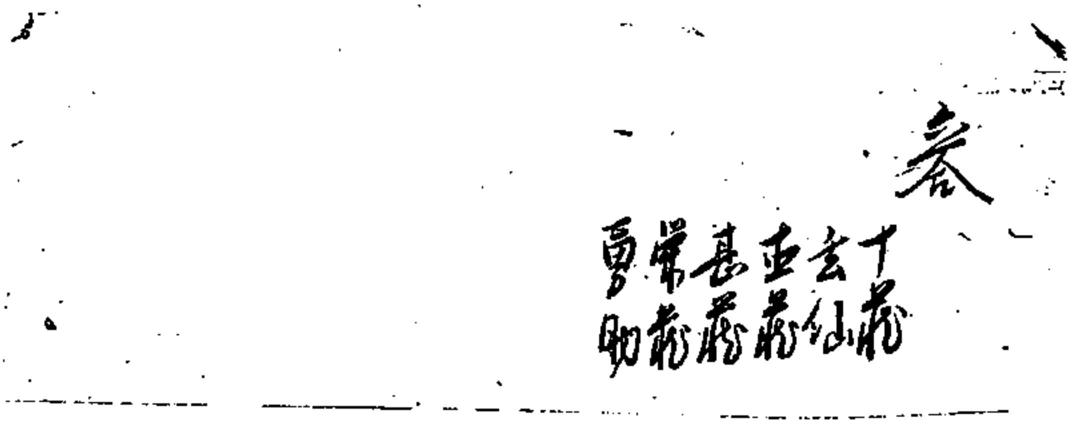
一、三石三合　午年のこし役落役共

一、五斗　江戸御用捨願入用共

惣
〆　三拾三石
　壱斗弐升
　九合九勺



内
三斗 小前行 米引
六石 御用捨米 引
引残
二拾六石
八斗弐升
九合九勺
此割
高百五拾石
壱石ニ付き
壱斗七升
八合八勺



立合い

十蔵

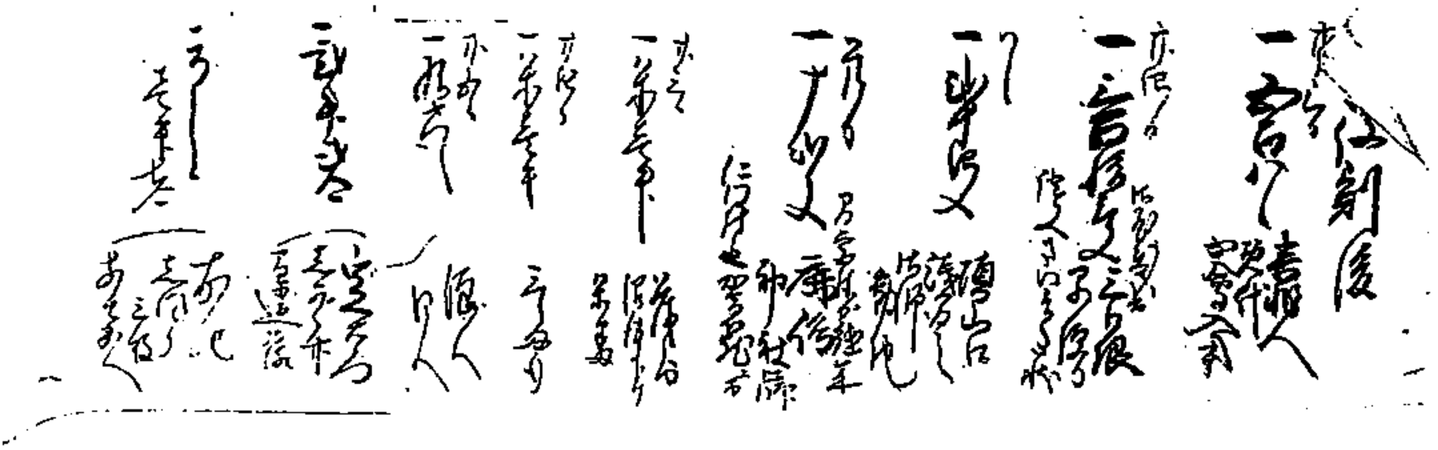
玄仙

直蔵

甚蔵

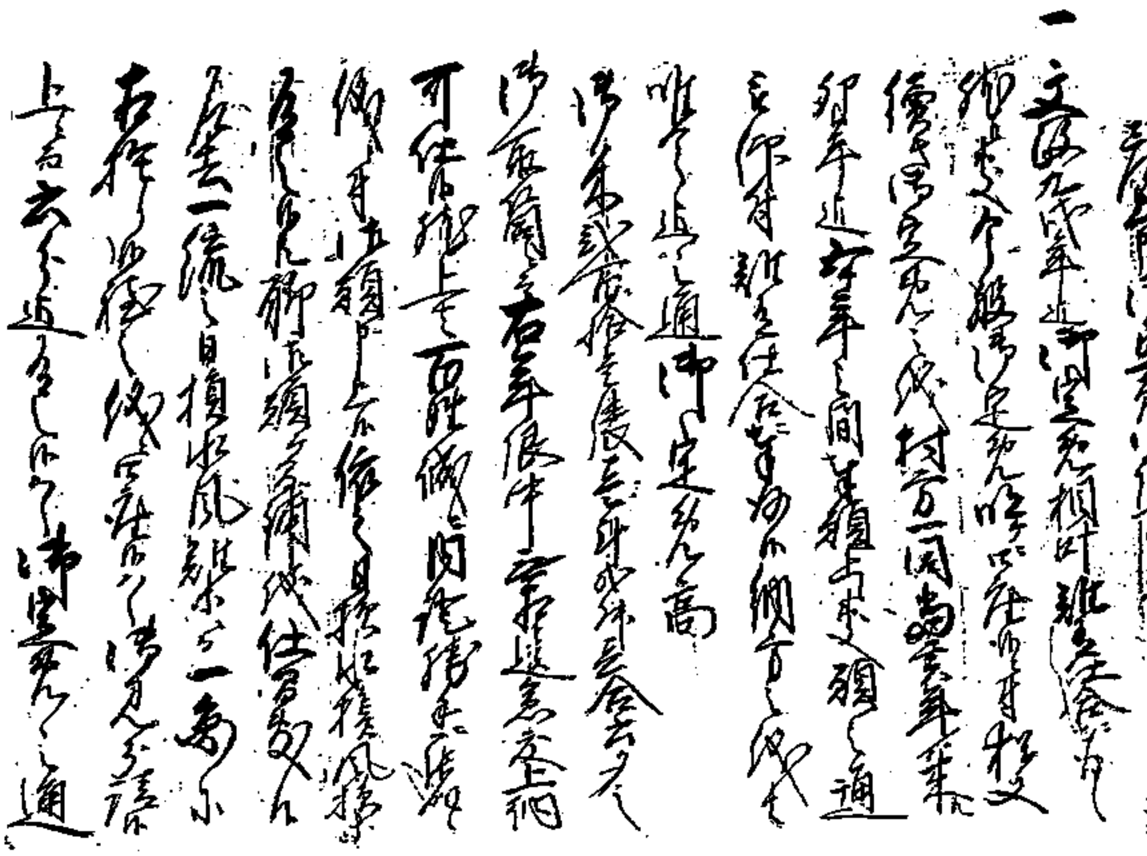
栄蔵

勇助



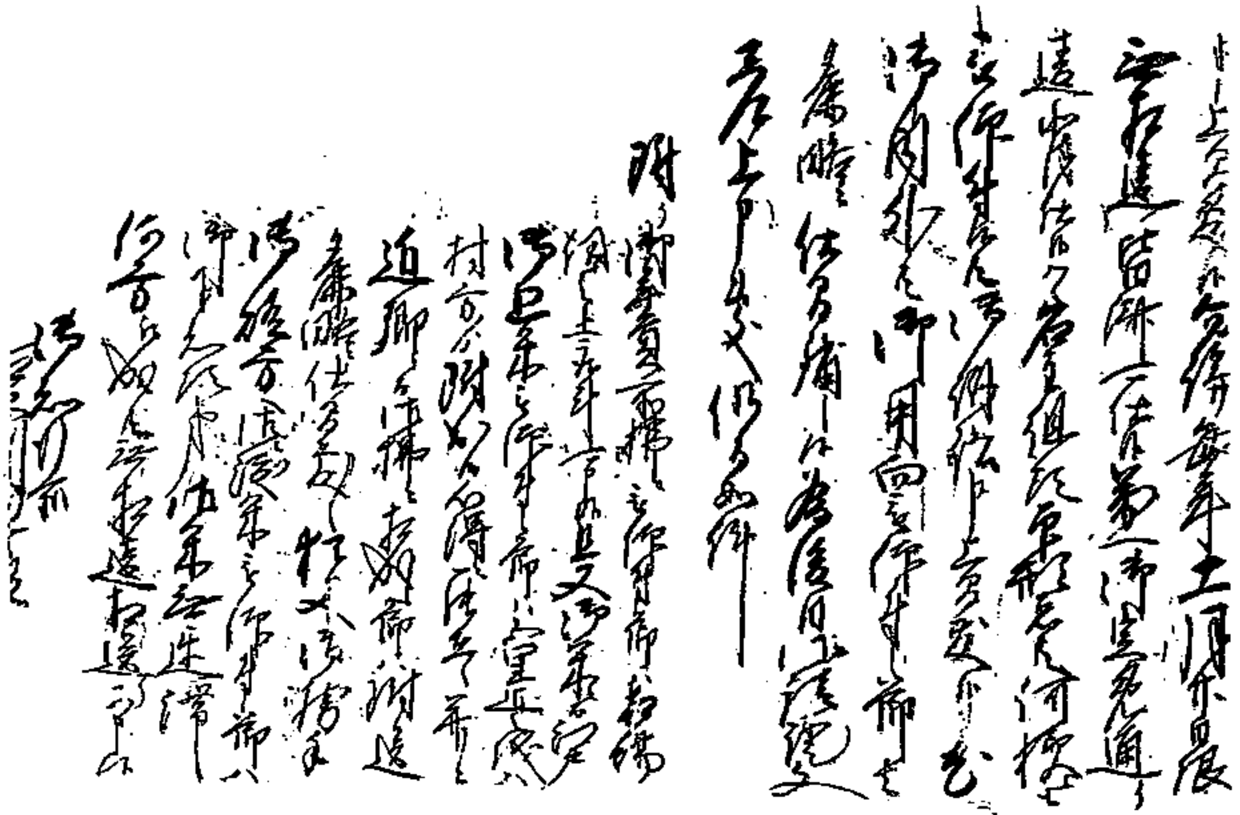
役　割　後

廿三日
一、五百八文　番非人
　　　　　　　惣　代
　　　　　　　出會入用
廿四日　御屋敷書
一、三百拾三文　三日限
　　　　　　　早便り
　　　　　證文さいそく御状
同日　　　須山口
一、弐十四文　浅間之
　　　　　　　御師
　　　　　　　　勧　化
廿日　間宮村ゟ継来る
一、十　弐　文　鹿　嶋
　　　　　　　神　社御師
　　　仁田村迠駕籠ニて
廿三日　　　　　茂右衛門
一、米　壱　升　沼津下げ
　　　　　　　　米　番
廿四日
一、米壱升　三しま行
廿五日　　　浪　人
一、拾　六　文　四　人
　　　　　　　定右衛門
一、弐升弐合　しがら竹
　　　　　　　間　違　落
一、百　文　友　七
　壱升七合　しぼり
　　　　　　　三枚
　　　　　　あてがへ

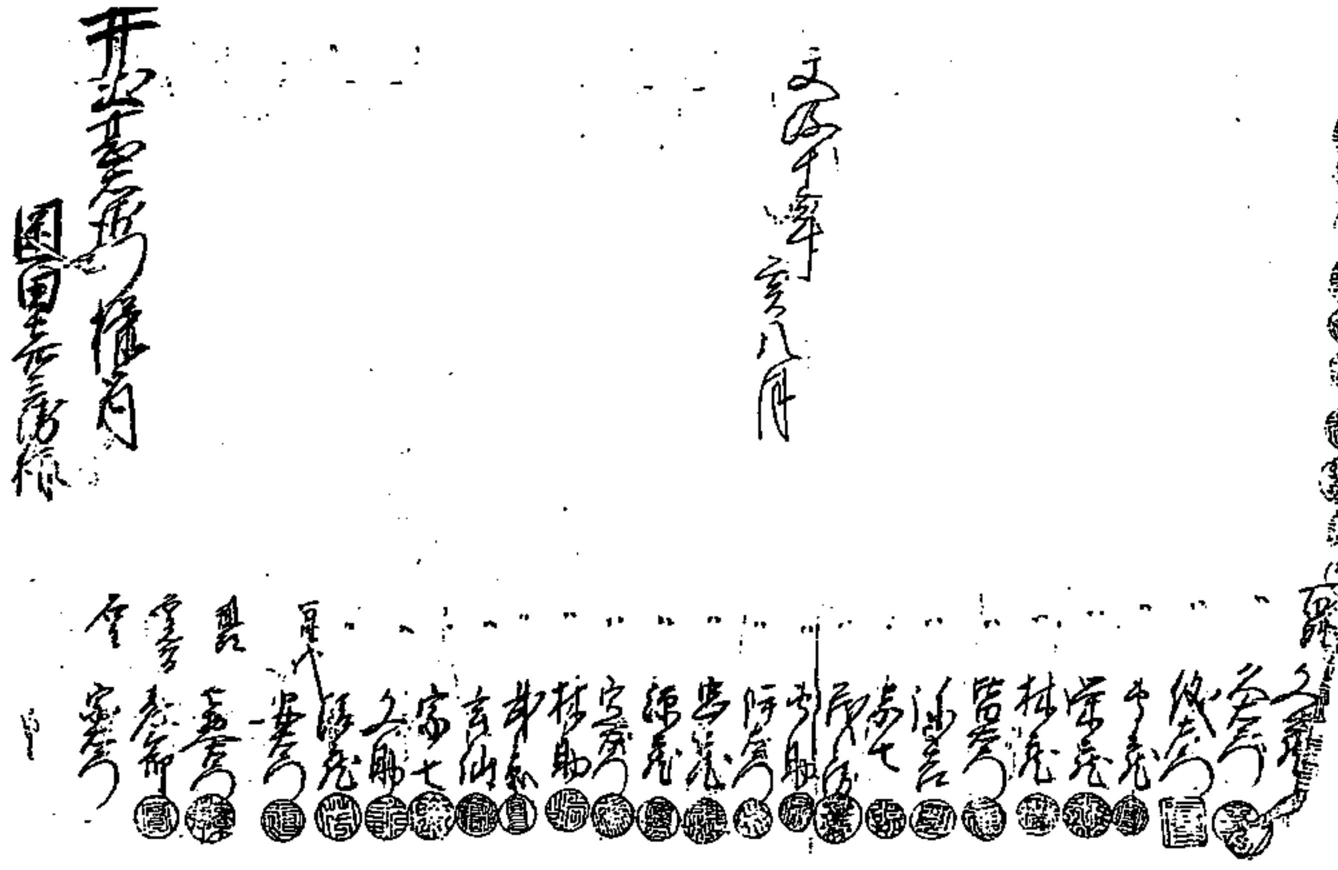


差上申御定免御請書之事

一、文政九戌年迄御定免相叶い有難き仕合せニ存じ奉り候
然ル処今般御定免明ケニ御座候ニ付き、猶又
続キ御定免之儀村方一同当亥年ゟ来ル
卯年迄五ヶ年之間願い上げ奉り候処願い之通り
仰付けられ有難き仕合せニ存じ奉り候、納め方之儀は、
唯今迄之通、御定免高
御米弐百拾壱俵壱斗弐升壱合六勺之
御取箇ニて右年限中相違無く急度上納
仕るべく候、然る上は百姓誠ニ内証勝手ニ罷り成り候
儀ニ付き御願い申上げ候、之れに依り日損水損風損等
之れ有り候共、聊御願いヶ間鋪き儀仕り間敷く候
去り乍ら一統之日損水風難等ニて一圓に
相捨たり候程之儀ニ御座候ハヽ御見分請け候
上ニて六分迄之れ有り候ハヽ御定免之通り



申上げ間敷く候、勿論毎年十一月廿日限り
相違無く皆済仕るべく候、萬一御定免通り
違背仕り候ハハ名主組頭印形者共何様ニも
仰付けられ候共御訴訟申上げ間敷く候、尤も
御内外共御用向き仰付けられ候節は、
麁略ニ仕り間鋪く候、後日の為御請證文
差上げ申す處、依而如件
附り御年貢所拂ニ被仰付候節ハ相場
伺之上取斗らい申すべく候且又御米ニて江戸
御廻米仰付けられ候節ハ五里迠之儀ハ
村方ゟ附け出し候心得ニ罷り在り候、并ニ
近郷ニて御拂ニ相成り候節ハ附け送り
麁略ニ仕り間敷く候、猶又御勝手
御賄方へ御渡米仰付けられ候節ハ
御下知次第御米遅滞無く
何方江成り共相違無く相送り申すべく候
御知行所
豆州田方郡大七肥村

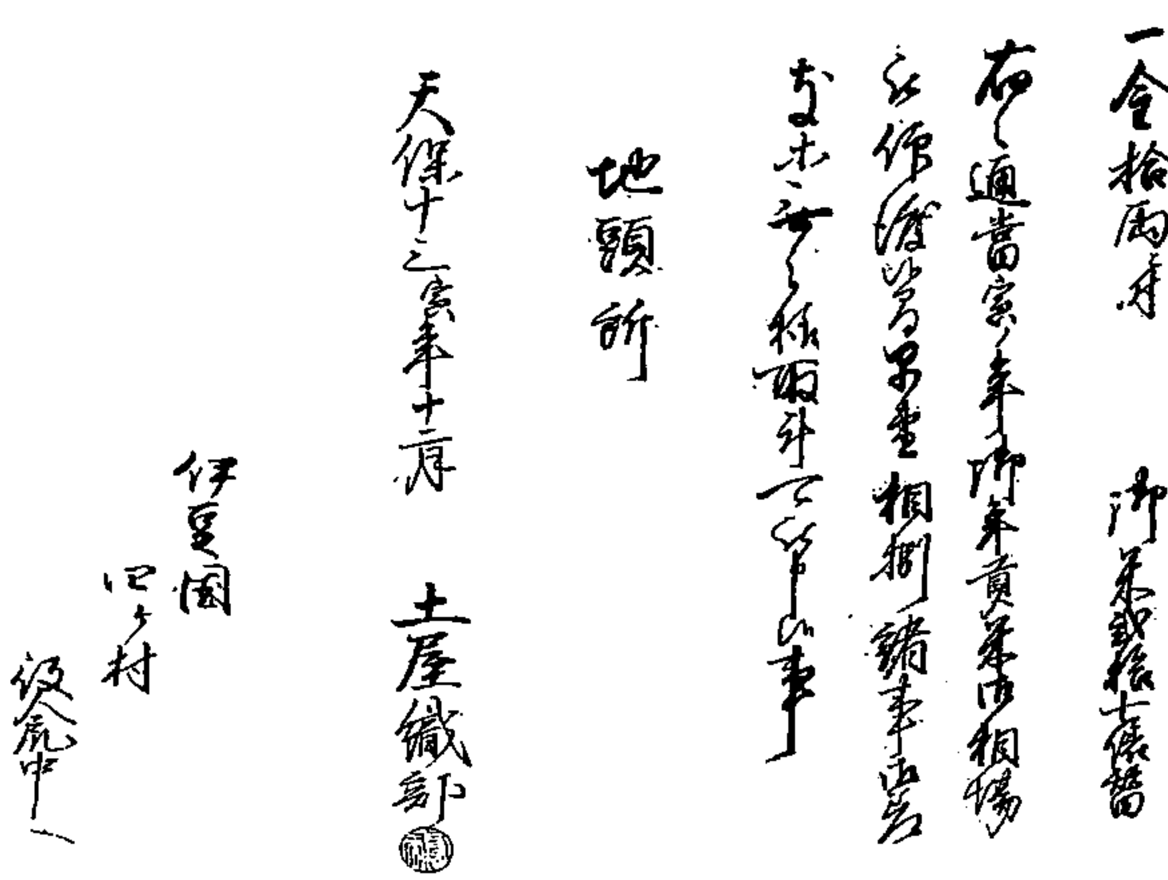


㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞㊞

文政十年
亥八月

井出甚右衛門様御内
岡田喜兵衛様

百姓 文蔵 ㊞
〃 久右衛門 ㊞
〃 儀左衛門 ㊞
〃 専蔵 ㊞
〃 栄蔵 ㊞
〃 林蔵 ㊞
〃 皆右衛門 ㊞
〃 弥吉 ㊞
〃 嘉七 ㊞
〃 茂兵衛 ㊞
〃 専助 ㊞
〃 伊右衛門 ㊞
〃 忠蔵 ㊞
〃 源蔵 ㊞
〃 定右衛門 ㊞
〃 林助 ㊞
〃 武兵衛 ㊞
〃 玄仙 ㊞
〃 宗七 ㊞
〃 文助 ㊞
〃 清蔵 ㊞
百姓代 安右衛門 ㊞
組頭 与惣右衛門 ㊞
名主見習 彦三郎 ㊞
名主 宗右衛門 ㊞



申渡之事
一金拾両ニ付　御米弐拾七俵替
右之通当寅ノ年御年貢米御相場
被仰渡候間早速相捌諸事御差
支等無之様取斗可申候事
地頭所
天保十三寅年十二月　土屋織部 印
伊豆国
四ヶ村
役人衆中

申渡之事

一金拾両ニ付き　御米弐拾七俵替

右之通當寅ノ年御年貢米御相場

仰せ渡され候間早速相捌き諸事御差し

支(つか)え等之れ無き様取斗(はか)らい申され可(べ)く候事

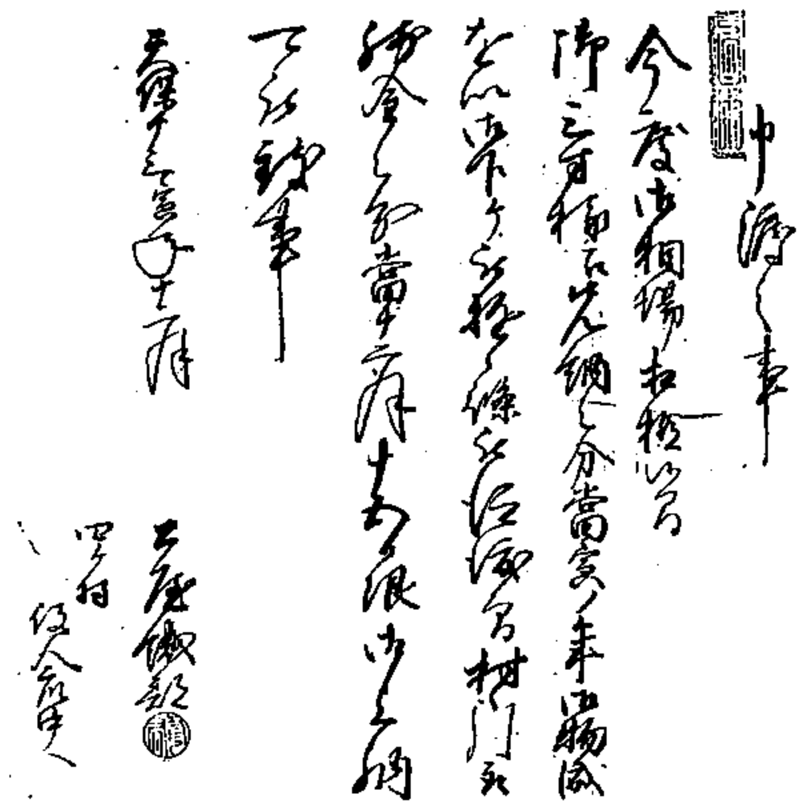
地頭所

天保十三寅年十二月　土屋織部 ㊞

伊豆国

四ヶ村

役人衆中へ



申渡之事

今度御相場相極候間

御三方様ェ先納之分當寅ノ年御物成

を以って御下ヶ遊ばされ候條仰せ渡され候間村々引取り

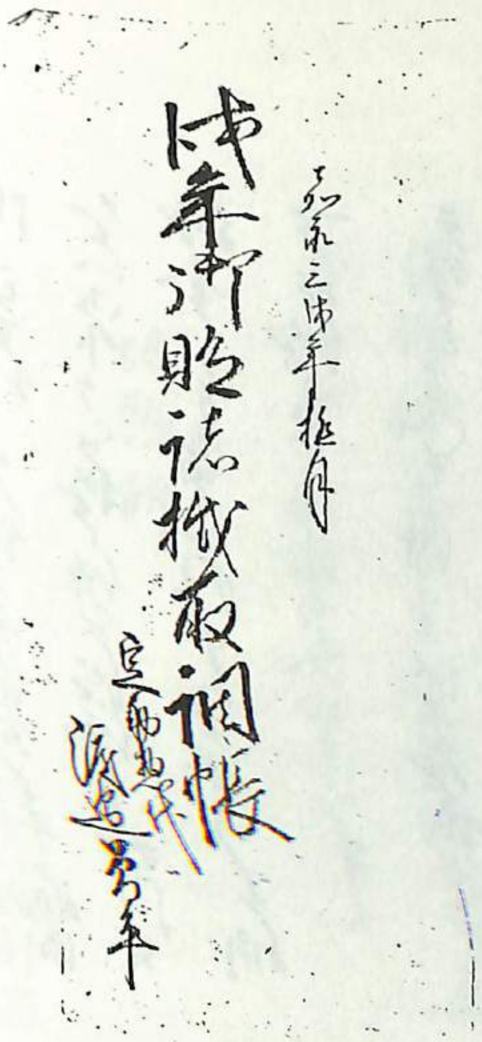
残金之分當十二月十五日限り御上納

致され可き事

天保十三寅年十二月　土屋織部㊞

四ヶ村

役人衆中へ



嘉永三戌年極月

戌年御賄諸掛取調帳

定助惣代

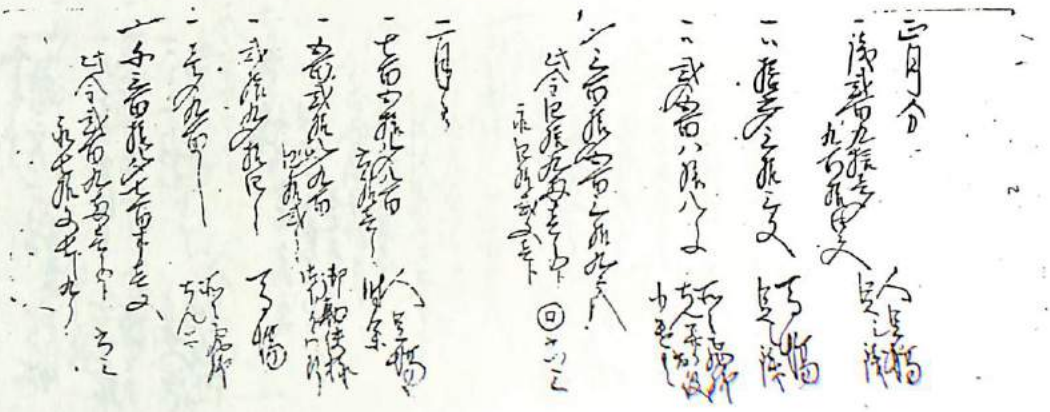
渡辺曽平

嘉永三戌年極月

戌年御賄諸掛取調帳

定助惣代

渡辺曽平



正月分

一、銭弐百九拾壱貫　　人足場
　　九百拾四文　　足シ銭

一、〃拾六貫三拾三文　馬場
　　　　　　　　　　　足シ銭

一、〃弐貫五百八拾八文　所々飛脚
　　　　　　　　　　　　ちん并に出役
　　　　　　　　　　　　小遣い共

〆三百拾貫百三拾九文
　此金四拾九両壱分ト　回六三
　　永四拾弐文壱分

二月分

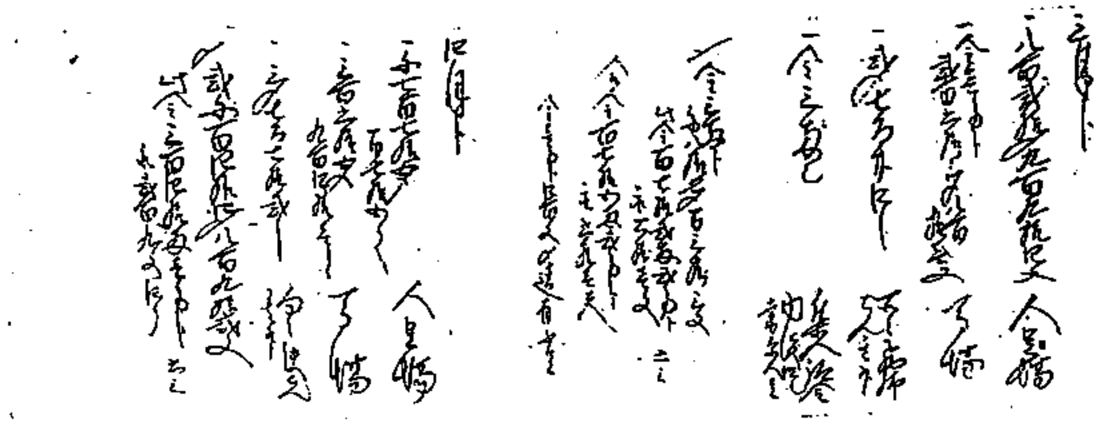
一、七百五拾八貫八百　人足場
　　六拾壱文　時余

一、五百弐拾八貫九百　御勅使様
　　四拾弐文　御下向同断

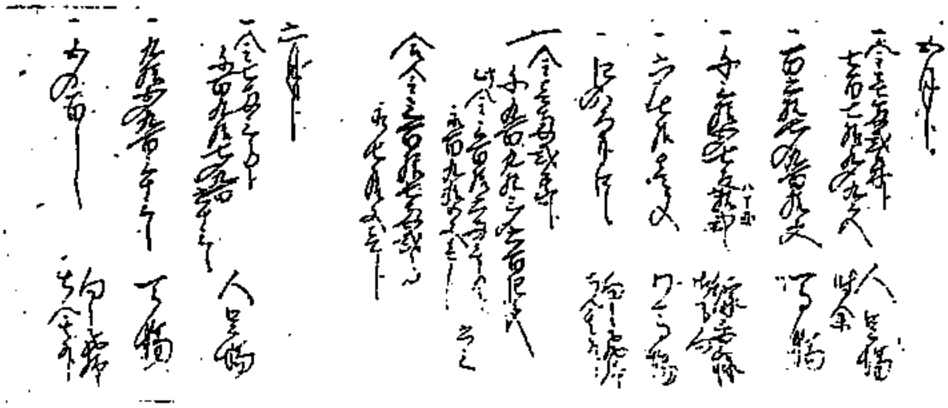
一、弐拾九貫拾四文　馬場

一、壱貫九百文　所々飛脚
　　　　　　　　ちん等

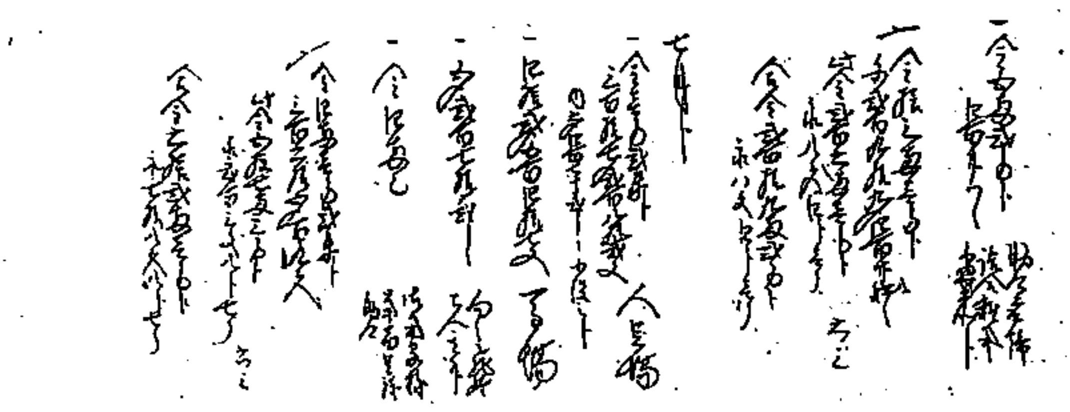
〆千三百拾八貫七百廿壱文
　此金弐百九両壱分ト　六三
　　永七拾文七分九厘



三月分
一、八百弐拾貫九百九拾四文　人足場
一、金壱分ト
弐百六拾三貫八百
拾壱文　馬　場
一、弐貫七百廿四文　所々飛脚
ちん其外
一、金三両也　集人給金
内渡但し
桑原人足
〆三両ト
千八拾七貫百三拾三文
此金百七拾弐両弐分ト　六三
永六拾壱文
合金百七拾五両弐分ト
永六拾壱文
金壱分ト四百文貫違い有不足
四月分
一、千七百七拾五貫　人足場
百七拾五文
一、三百六拾五貫　馬　場
九百四拾壱文
一、三貫七百七拾弐文　向々使ちん
其外
〆弐千百四拾四貫八百九拾弐文
此金三百四拾両壱分ト　六三
永弐百九文四厘

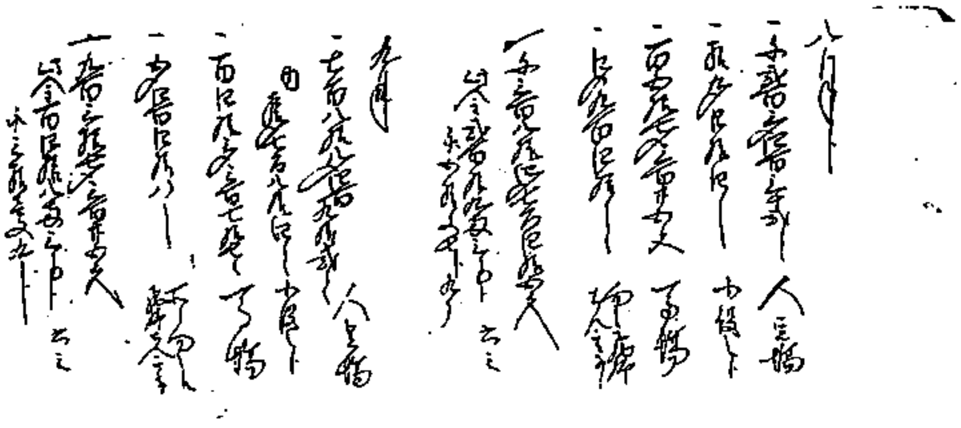


五月分
一、金壱両弐朱ト　人足場
七百七拾九貫九文　時余
一、百六拾七貫九百拾文　馬　場
八十弐
一、千三拾五貫七百八拾弐文　縁宮様
御下向
一、六貫七拾壱文　同馬場
一、四貫八百廿四文　向々飛脚
ちん其外
〆金壱両弐朱ト
千九百九拾三貫六百四文
此金三百拾六両壱分ト　六三
永百九拾五文壱分
合金三百拾七両弐分
永七拾文壱分
六月分
一、金七両三分ト　人足場
千百九拾七貫九百
六十三文
一、九拾五貫九百三十三文　馬　場
一、五　貫　百　文　向々飛脚
ちん其外



一、金五両弐分ト　助郷取締
　　四百廿八文　詰合雑用
　　　　　　　　盆前分
〆金拾三両壱分ト
千弐百九拾九貫四百廿八文
此金弐百六両壱分ト
　永八文四分壱厘　六三
合金弐百拾九両弐分ト
　永八文四分壱厘

七月分
一、金壱分弐朱ト　人足場
　三百拾七貫弐百八拾弐文
　　内六貫四百七十弐文小役之分
一、四拾弐貫五百四拾七文　馬　場
一、五貫弐百七拾弐文　向々飛脚
　　　　　　　　　　ちん其外
一、金四両也　御用家様
　　　　　　　御用宿足銭
　　　　　　　助郷
〆金四両壱分弐朱ト
　三百六拾五貫百九文
此金五拾七両三分ト
　永弐百三文八分七厘　六三
合金六拾弐両壱分ト
　永七拾八文八分七厘

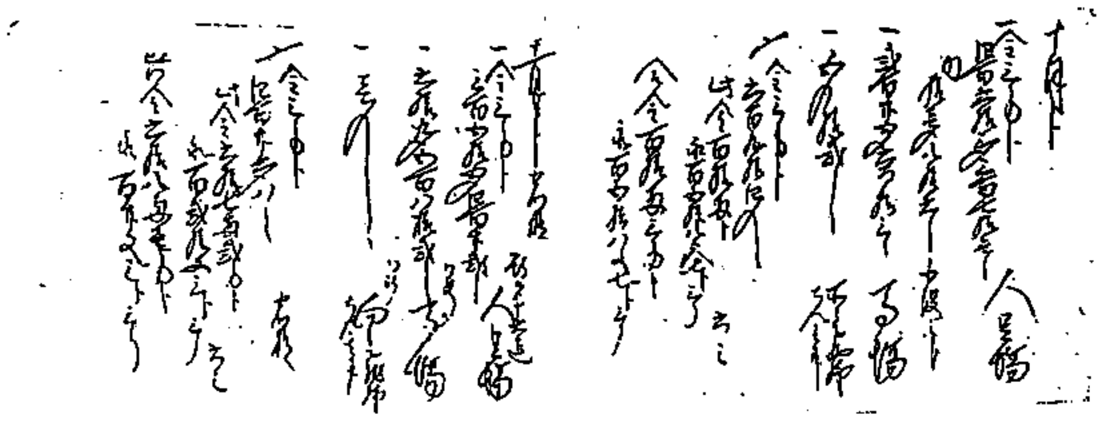


八月分

一、千弐百三貫四百三十弐文　人足場
一、拾九貫四百四文　小役之分
一、百五拾七貫三百廿五文　馬場
一、四貫九百四拾文　向々飛脚ちん其外
〆千三百八拾四貫七百四拾五文
此金弐百拾九両三分ト　六三
永五拾文七分九厘

九月

一、七百八拾八貫四百九拾弐文　人足場
内拾貫七百八拾四文　小役之分
一、百四拾三貫三百七拾七文　馬場
一、五貫四百四拾八文　所々向々江飛脚ちん其外
〆九百三拾七貫三百廿五文
此金百四拾八両三分ト　六三
永三拾壱文九分



十月分

一、金三分ト　人足場

四百六拾三貫三百七拾壱文

内拾壱貫八拾六文　小役之分

一、弐百廿五貫六百拾三文　馬場

一、五貫拾弐文　所々飛脚

ちん其外

〆金三分ト

六百九拾四貫文

此金百拾両ト　六三

永百五拾八文七分三厘

合金百拾両三分ト

永百五拾八文七分三厘

十一月分宿賄

一、金三分ト　朔日ゟ十六日迄　人足場

三百五拾五貫四百廿弐文

一、六拾九貫五百八拾弐文　同断　馬場

一、壱貫文　同断　向々飛脚

ちん其外

〆金三分ト　宿賄

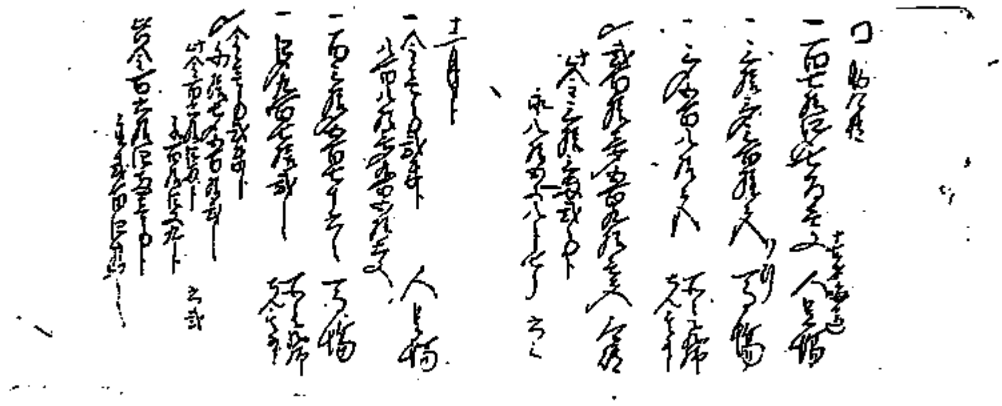
四百廿六貫八文

此金六拾七両弐分ト　六三

永百弐拾文三分三厘

皆金六拾八両壱分ト

永百廿文三分三厘



同　助郷賄

十七日ゟ晦日迄

一、百七拾四貫七百壱文　人足場

同断

一、三拾三貫三百拾文　馬場

一、三貫五百八拾文　所々飛脚ちん其外

〆弐百拾壱貫五百九拾壱文　郷賄

此金三拾三両弐分ト

永八拾五文八分七厘　六三

十二月分

一、金壱分弐朱ト　人足場

八百八拾壱貫九百五拾六文

一、百三拾貫五百七十六文　馬場

一、四貫九百七拾弐文　所々飛脚ちん其外

〆金壱分弐朱ト

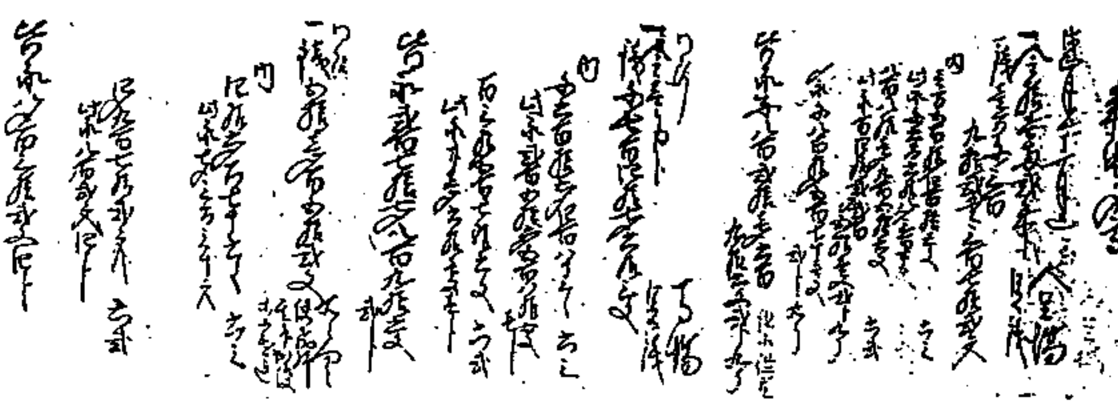
千拾七貫五百拾弐文

此金百六拾四両ト

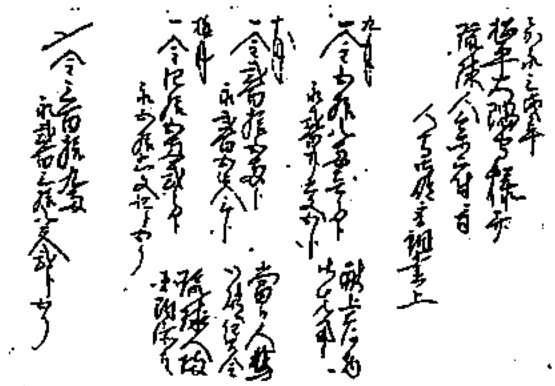
永百拾四文九分　六弐

皆金百六拾四両壱分ト

永弐百四拾文



年中〻高
戌正月〆十二〻辻　人足場
一、金拾壱両弐朱ト　足銭
一、銭壱万千三百
九拾弐貫三百七拾弐文
内
壱万五百拾貫四百拾六文
此永千六百六拾八貫三百廿五文　六三
八百八拾壱貫九百五拾六文
此永百四拾弐貫弐百　六弐
五拾壱文弐分九厘
〆永千八百拾貫五百七十壱文
弐分九厘
皆永千八百弐拾壱貫六百　但小役共
九拾六文弐分九厘
一同断　馬場
一、金壱分ト　足銭
内銭千七百四拾七貫六拾三文
千六百拾六貫四百八十三文　六三
此永弐百五拾六貫五百八拾五文
壱分
百三拾貫五百七拾六文　六弐
此永廿壱貫六拾壱文壱分
皆永弐百七拾七貫八百九拾六文
弐分
一同断　所々向々
一、銭五拾壱貫百五拾弐文　使飛脚
其外出役
等小遣追
内
四拾六貫百七十六文　六三
此永七貫三百三十文
四貫九百七拾弐文　六弐
此永八百弐文四分
皆永八貫百三拾弐文四分

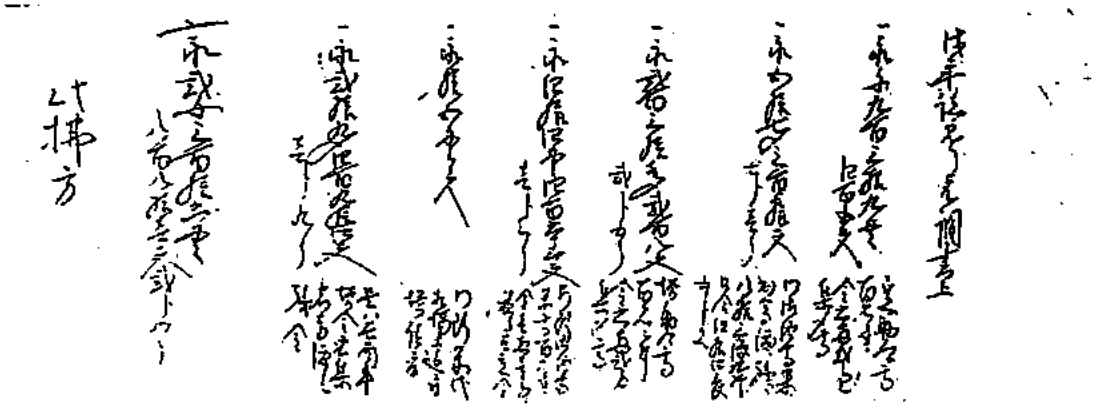


嘉永三戌年
松平大隅守様并
琉球人参府ニ付き
　人馬御賄取調書上

九月
一、金五拾八両壱分ト　献上荷物
　永弐百廿六文五分　御先用

十月
一　金弐百拾五両ト　當リ人馬
　永弐百五文三分　御賄賃金
　　　　　　　　　琉球人帰
極月
一、金四拾五両弐分ト　国附添共
　永五拾六文四分五厘

〆金三百拾九両
　永弐百三拾八文弐分五厘



戌年諸懸り取調書上

一、永千九百三拾九貫四百五文　定助郷高百石ニ付金六両弐分也集〆高

一、永五拾七貫三百拾文七分壱厘　同御伝馬米出馬渡し残り八拾三俵九升四合但拾四俵五分かへ

一、永弐百三拾壱貫弐百八文弐分五厘　増助郷高百石ニ付金六両弐分集〆高

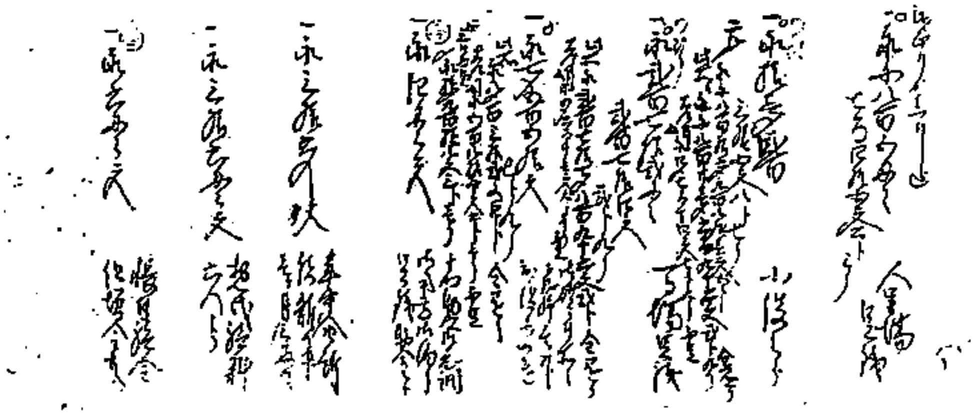
一、永四拾四貫四百六十三文壱分三厘　同断御伝場米高百石ニ付金壱両壱分積り取立金

一、永拾五貫文　同断米代相場等違ニ付増諸取

一、永弐拾九貫四百九拾四文壱分九厘　是ハ去酉年増金取集宿方渡し残金

〆永弐千三百拾六貫八百八拾壱文弐分八厘

此拂方



戌正月ゟ十二月迠

一、永千八百五貫　人足場
　　七百四拾五文六分三厘　足銭

同断
一、永拾壱貫弐百　小役之分
　　三拾五文八分七厘

二口〆永千八百拾六貫九百八拾壱文五分　全懸り
　此所江永千八百廿壱貫六百九拾六文弐分九厘
　　差引△永四貫七百十四文七分九厘不足

同断
一、永弐百七拾弐貫　馬場足銭
　　弐百七拾四文
　　　弐分九厘
　此所永弐百七拾七貫八百九十六文弐分　全懸り
　差引△永五貫六百廿壱文九分壱厘不足

一、永七貫五百五拾文　御賄ニ付所々飛脚其外出役等小遣
　　七分九厘
　此所永八貫百三拾弐文四分全懸り
　差引△永五百八拾壱文六分壱厘不足

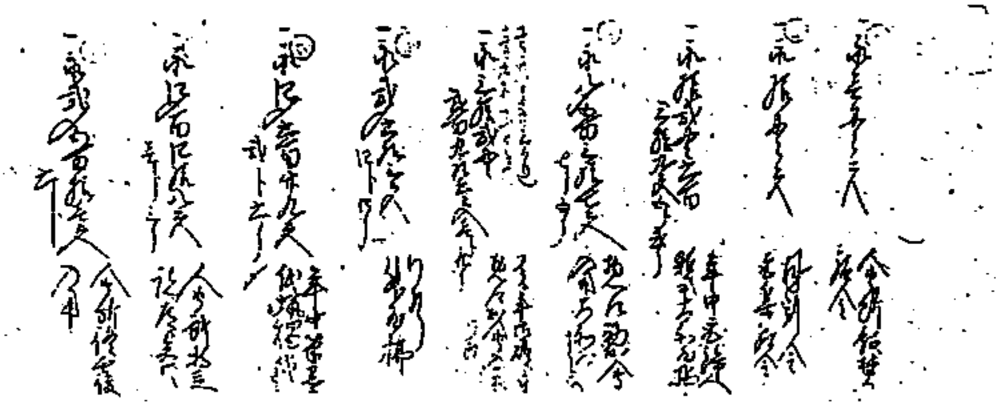
△三口不足
〆永拾貫九百拾八文三分壱厘

一、永四貫文　宿助郷御取調御用方御泊り足銭助合之分

一、永三拾六貫文　年中会所諸雑用

一、永三拾六貫文　壱ケ月三両ヅヽ惣代給料

一、永六貫文　六人分帳付給金但増金共



(合)一、永壱貫文　給金　會所飯焚

(合)一、永・拾貫文　月割金　取集給金

(合)一、永拾弐貫六百　年中取締人　雑用大和屋掛
三拾九文五分弐厘

(合)一、永八貫五百三拾七文　惣郷勤出會　入用大和屋
七分五厘　はらひ

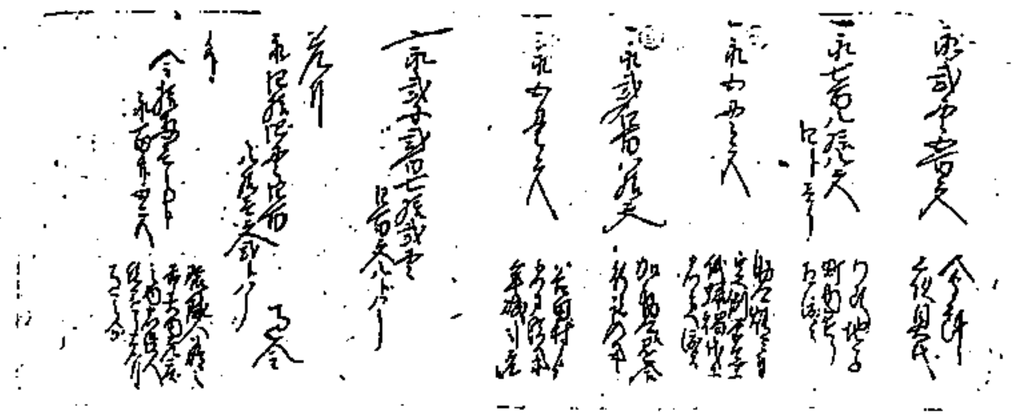
十一月廿一日ゟ廿三日迄　亥年御賄ニ付き
十二月九日ゟ十一日迄　惣合出會入用
一、永三拾弐貫　同断
弐百九拾六文壱分九厘

(合)一、永弐貫六拾三文　桝屋掛　同断
四文四厘

(合)一、永四貫六百廿九文　紙蝋燭代共　年中筆墨
弐分六厘　〃

(合)一、永四貫四拾八文　諸道具代　會所持立
壱分三厘

(合)一、永弐貫五百拾壱文　入用　會所修覆
六分



一、永弐貫五百文　会所夜具代

一、永七百八拾八文四分壱厘　同断地所町内懸り相渡ス

(合)一、永五貫文　助郷賄ニ付き定例筆墨紙蝋燭代共宿方へ渡ス

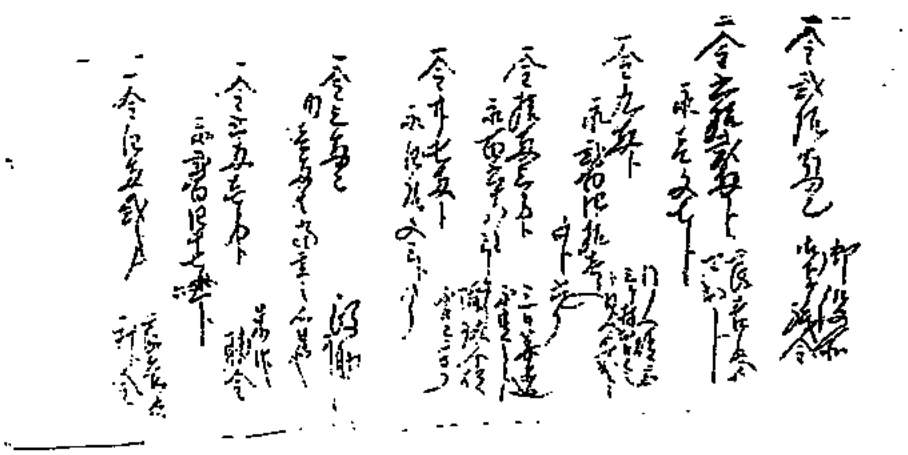
一、永弐貫四百八拾文　加助郷江懸合行諸入用

(合)一、永五貫文　谷田村ゟ宿方借用年賦引取候

〆永弐千弐百七拾弐貫四百文八分八厘

差引
永四拾四貫四百八拾壱文弐分八厘　過金

外ニ
金拾両壱分ト
永百廿五文　琉球人御賄之節天内差戻し之内宿役人諸懸り差引過之分



一、金弐拾両也　御役所 御下ケ残金

一、金六拾弐両ト　良吉殿ゟ出すべき分
　永壱文七分

一、金九両ト　同人賄度 三ケ村出足之分同人ゟ出すべき分
　永弐百四拾壱文五分六厘

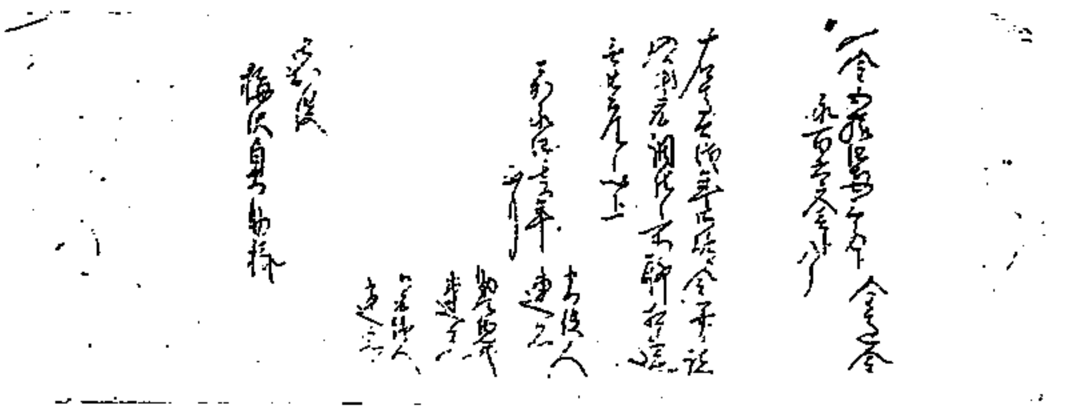
一、金拾両三分ト　三日算違不足之分
　永百六十八文三分壱厘　琉球人賄不足四百文

一、金廿七両ト
　永四拾文三分八厘

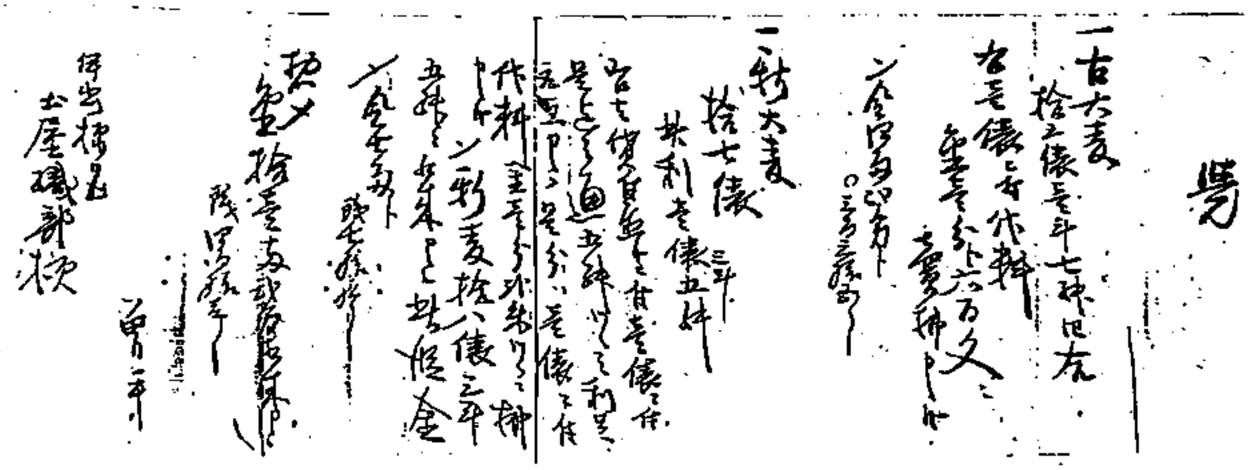
一、金三両也　政助 かし
　内壱両は當亥之心付也

一、金六両壱分ト　米代 助金
　永弐百四十七文六分

一、金四両弐分　良吉殿 利金



〆金五拾四両三分ト　全過金
永百六文壱分
八厘
右は、去戌年御賄金并ニ諸
入用取調べ仕り候所、聊相違
御座無く候、以上
嘉永四亥年　宿役人
正月　連名
助郷惣代
連名
同取締人
連名
御出役
梅沢貞助様



覚

一、古大麦

拾三俵壱斗七升四合

右壱俵ニ付き代料

金壱分ト六百文ニ

賣拂い申し候

〆金四両弐分ト

〇三百三拾五文

一、新大麦

拾七俵　三斗

此利壱俵五升

右は貸付置き候ニ付き壱俵ニ付き
是迄之通五升ツヽ之利足
取立て申し候、是分ハ壱俵ニ付き
代料金壱分弐朱ヅヽニ拂い
申し候、〆新麦拾八俵三斗
五升ニ相成り申し候此段金

〆金七両ト

銭七拾九文

惣〆

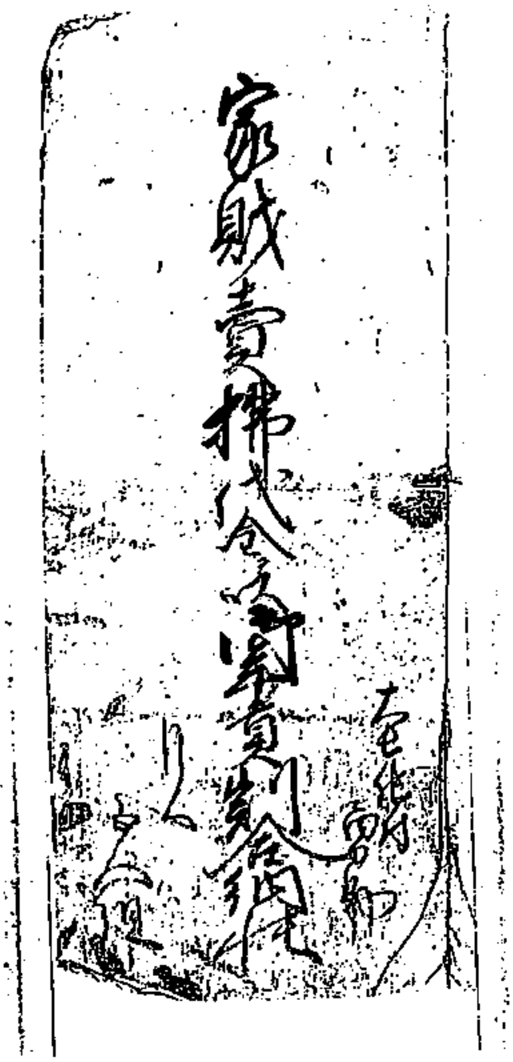
金拾壱両弐分ト相成り申し候

銭四百拾壱文

曽平

井出様御内

土屋織部様



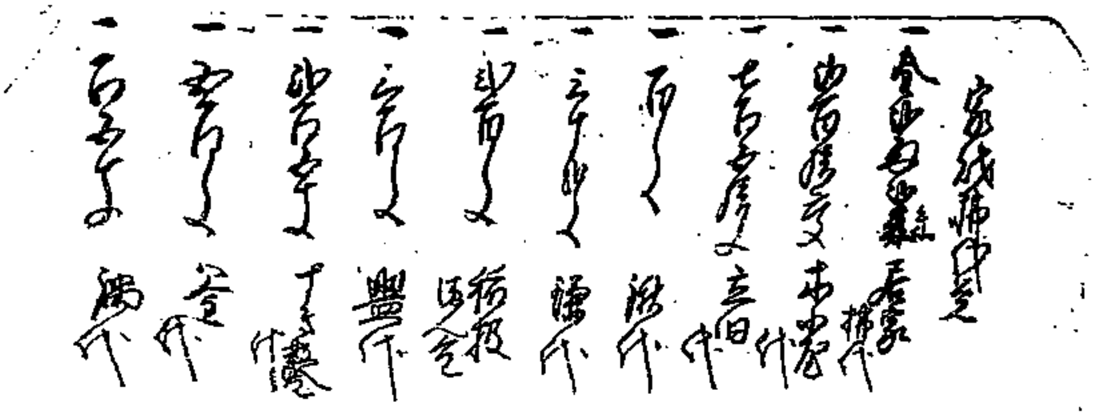
大土肥村

勇助

家財賣拂代金ヲ以御年貢割合納帳

同人

五人組



家財拂代覚

一、金弐両弐朱　居家拂代

一、弐百拾六文　木小屋代

一、七百五拾文　立臼代

一、百文　鍬代

一、三十弐文　鎌代

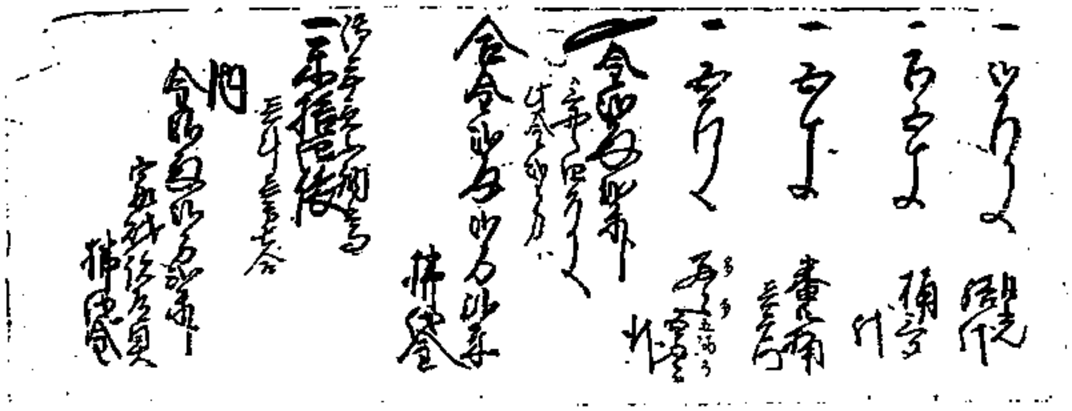
一、弐百文　稲扱　まんぐわ

一、三百文　盥代

一、弐百五十文　すき鑿代

一、五百文　釜代

一、百五十文　鍋代



一、弐百文　日光膳代

一、百五十文　桶三ケ代

一、五十文　糞桶壱荷

一、五百文　たたみ五帖代

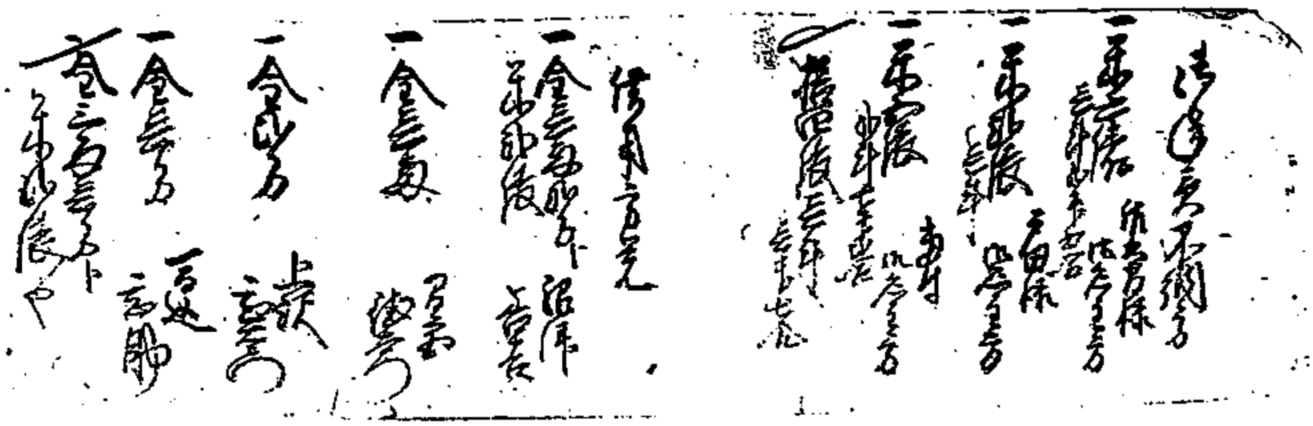
〆金弐両弐朱ト
　三貫四百文
　此金弐分

合金弐両弐分弐朱
　拂代金

御年貢不納高

一、米拾四俵
　壱斗壱升七合

内
金弐両弐分弐朱ト
　家財諸道具
　拂代金



御年貢不納方

一、米六俵　佐久間様
　　　　　　御名主方
　壱斗弐升五合

一、米弐俵　戸田様
　　　　　　御名主方
　壱斗　　　當村

一、米五俵　御名主方
　弐斗七升弐合

〆拾四俵壱斗
　壱升七合

借用方覚

一、金三両弐分ト　沼津
　米弐俵　　　　　善吉

一、金壱両　　間宮
　　　　　　　徳右衛門

一、金弐分　　上沢
　　　　　　　甚右衛門

一、金壱分　　馬込
　　　　　　　甚助

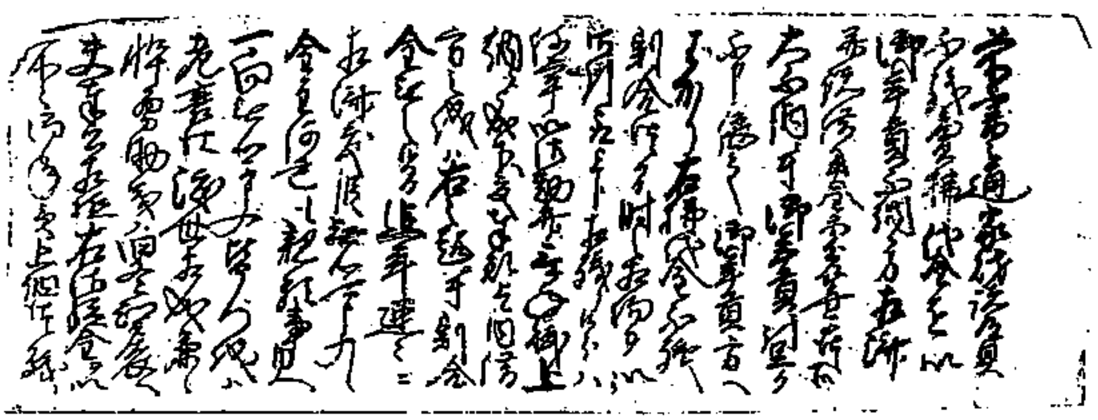
〆金三両壱分ト
　米弐俵也

此　割
米壱俵ニ付
永百八十三文四分六厘

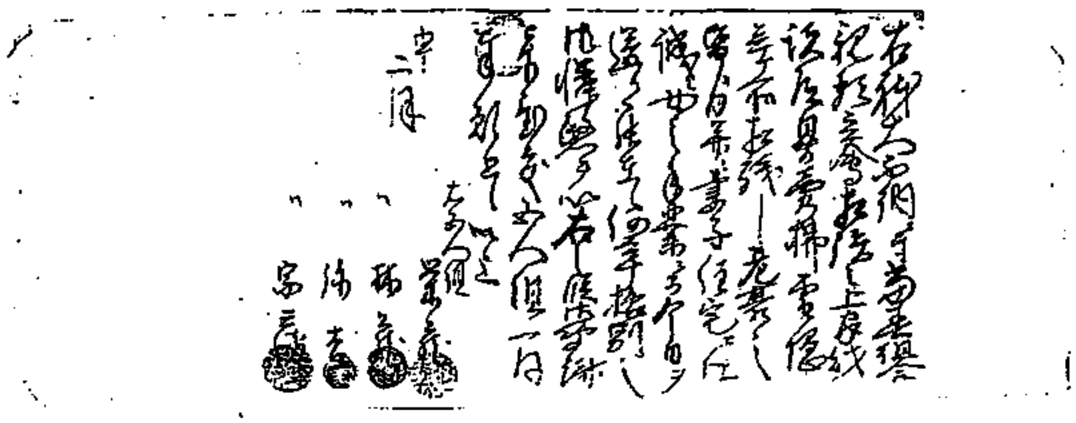
米　　御名主
一、六　俵　壱　斗　大　八　様
弐升五合
内金壱両弐朱ト
永三十六文壱分弐厘
此銭弐百四十四文　割　合　納

御名主
一、米　弐　俵　壱　斗　要　八　様
内
金壱分弐朱ト
永四十文壱分七厘
此銭弐百七十文　割　合　納

當　所
御名主方
一、五俵弐斗七升四合
内金壱両ト
永四十八文六分六厘
此銭三百三十文　割　合　納



前書之通り家財諸道具
残らず實拂い代金を以って
御年貢不納方相済まし
并ニ諸借用金等　分等仕るべき候所
大不納ニ付き御年貢ニ引き足リ
申さず、之れに依り御年貢方へ
ばかり右拂い代金残らず
割合仕り候間、時之相場ヲ以って
御引取り下され、相残り候分ハ
何卒御勘弁を以って、三ケ年賦上
納ニ成し下され度く願上げ奉り候、内借
方之儀ハ右之趣ニ付き、割合
金之れ無く候間、追年連々ニ
相済み度き段無心申し入れべく候
金主何（いず）れも親類事ゆへ
一向（ひたすら）無心申入れ可く　皆右衛門儀ハ
老衰仕り渡世相成り兼候
倅勇助儀ハ旧冬江戸表へ
夫奉公相極め右御給金ヲ以って
所々御年貢上納仕り候　残り

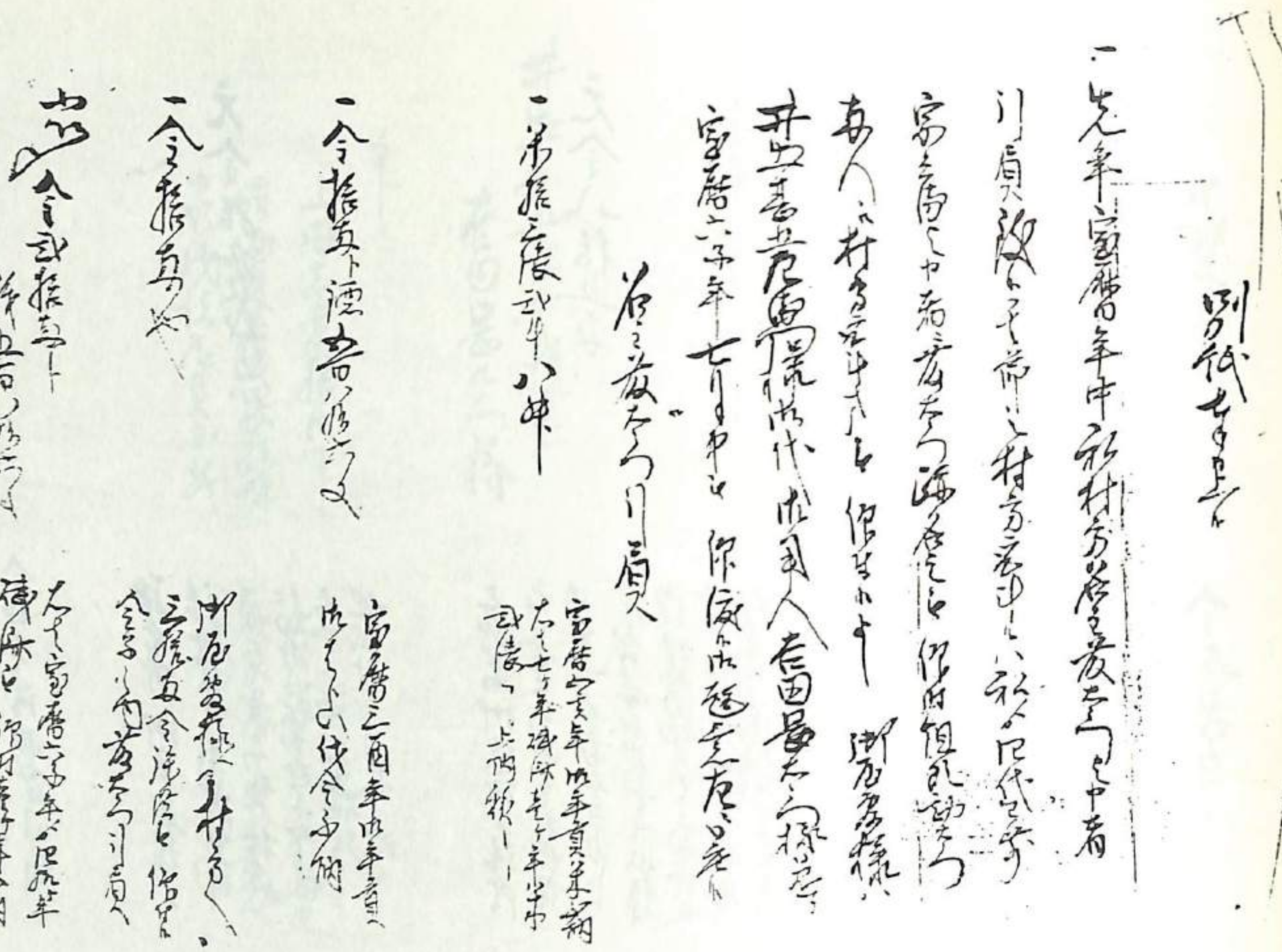


右躰大不納ニ付き當春組合
親類立會い相談之上家財
諸道具賣拂い　雪隠
壱ヶ所相残し老衰之
皆右衛門并ニ妻子住宅ニ仕り
誠ニ女之手業ニて今日ヲ
送ッ罷り在り候、何卒格別之
御憐愍ヲ以って右之段御聞き済み
下し置かれ度く、五人組一同
願上げ奉り候以上

右五人組
申　〃　栄蔵㊞
二月　〃　林蔵㊞
〃　弥吉㊞
〃　宗兵衛㊞

D 類

標題	差出人	請取人	年月日	
1、別紙奉申上候（名主藤右衛門引負）	大土肥		宝暦六年七月（一七五六）	125
2、差上申一札之事（倅出奔）	大土肥伝左衛門		宝暦十二年九月（一七六二）	129
3、乍恐以書付奉願上候（親要右衛門義病死）	麻布竜土六本木町 新三郎店惣右衛門	奈良屋御役所	寛政七年七月二日（一七九五）	131
4、入置申一札之事（元名主惣左衛門儀不届有之）			文化九年四月（一八一二）	132
5、定書（夥敷役負担ニ付取きめ）	越石　仁田村忠蔵㊞他		文化十年十月（一八一三）	133
6、乍恐以書付願上候（名主宗右衛門老ニ付退役願）	惣百姓 武右衛門他二十二名	井出甚右衛門御内 浦野喜兵衛	文政七年八月（一八二四）	137
7、差出申済口證文之叓（定右衛門倅長次郎水死致）	定右衛門他	村御役元　彦三郎	文政八年四月十一日（一八二五）	142
8、御咤申一札之事（武右衛門宅にて博奕せんさく中におきた打擲咤證文）	仁田村若者惣代半助 他六名	大土肥村 御名主彦三郎殿	文政八年八月（一八二五）	150
9、乍恐以書付御訴訟奉申上候（飯米代金滞）	大土肥		文政十二年三月（一八二九）	152
10、辰年村入用立替調帳	名主　彦三郎		天保三年壬十一月十五日改（一八三二）	159



別紙申上げ奉り候

一、先年宝暦年中私村方　名主藤右衛門与申す者
引き負い致し候、其節之村方取り計い候ハ私ゟ四代以前
宗兵衛与申す者ニ藤右衛門跡名主仰付けられ組頭勘右衛門
両人江村方取り計らい方仰付けられ候よし　お屋敷様ハ
井出甚五左衛門様御代　御用人吉田岡右衛門様御懸かり
宝暦六子七月中　仰せ渡され候御趣意左ニ御座候

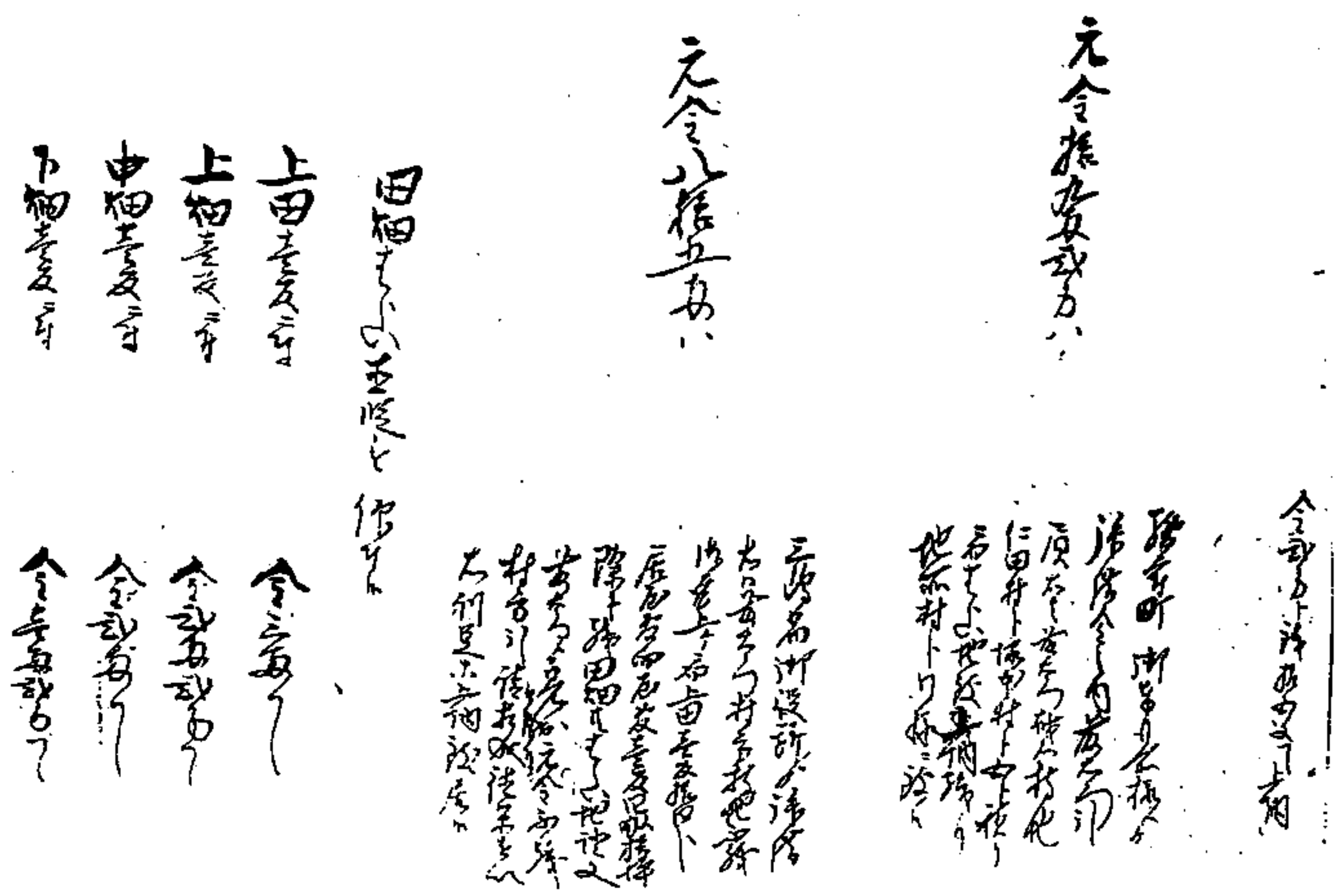
名主藤右衛門引き負い

一、米拾三俵弐斗八升　宝暦五亥年御年貢米不納
右ハ七ヶ年賦済み壱ヶ年米
弐俵ヅツ上納積り

一、金拾両ト鐚(びた)五百八拾六文　宝暦三酉年御年貢
御はらい代金不納

一、金拾両也　御屋敷様ゟ村方へ
三拾両金拝借仰付けられ候
金子之内　藤右衛門引き負

小以〆金弐拾両ト
銭五百八拾六文　右ハ宝暦六子年ゟ四拾ヶ年
賦済み仰付けられ壱ヶ年ニ付き

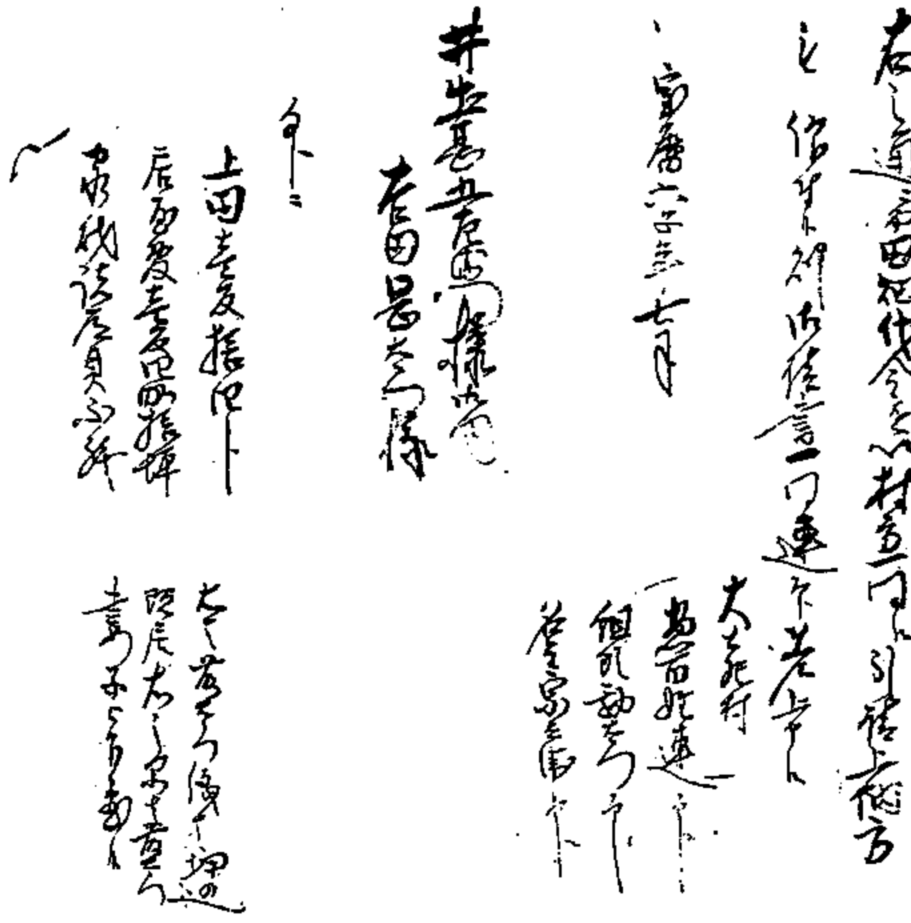


金弐分ト銭拾五文ヅヽ上納

駿府町御奉行所様ゟ 拝借金之内　藤右衛門引き 負　右ニ藤右衛門越石(こしこく)持地 仁田村分塚本村分五分積り ニてはらい地致し上納残り 他所村ト同様ニ致し候	元金拾九両弐分ハ
三嶋宿御役所ゟ拝借 右は藤右衛門村方持地残らず 御取上ケニて上田壱反拾四歩 居屋敷向屋敷壱反四畝拾坪 除き残り田畑共はらい地證文 藤右衛門ゟ差出し元金残らず 仰付けられと 村方引請け相成り徳米を以て 右利足等上納致し居り候	元金八拾五両ハ

田畑はらい値段仰付けられ候

上田壱反ニ付き	金三両ヅヽ
上畑壱反ニ付き	金弐両弐分ヅヽ
中畑壱反ニ付き	金弐両ヅヽ
下畑壱反ニ付き	金壱両弐分ヅヽ



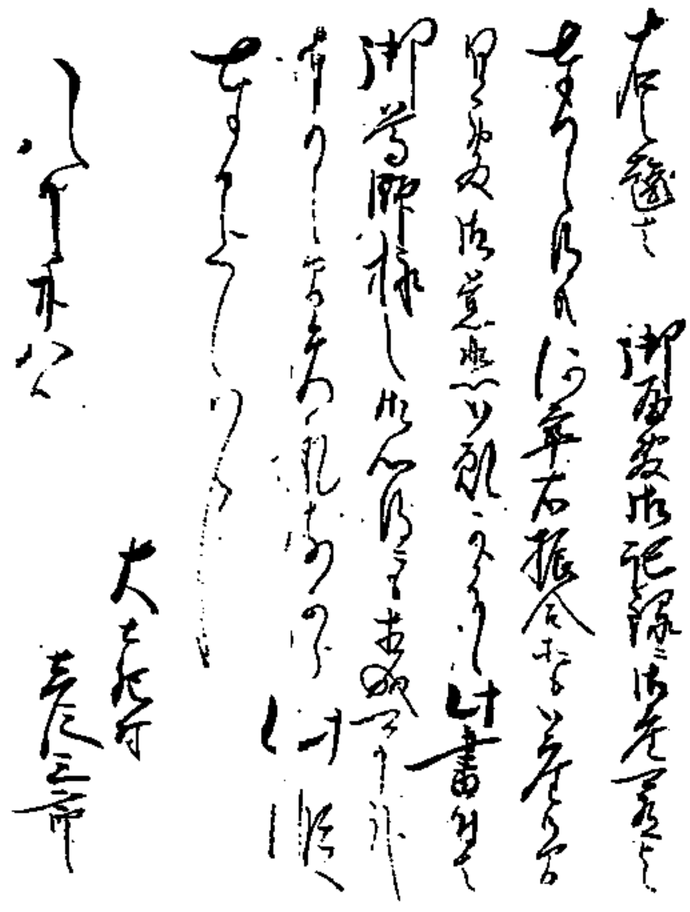
右之通ニて田畑代金を以って村方一同ェ引請け上納方
仰付けられ候　即ち御請書一同連印差上げ申し候

大土肥村
惣百姓連印
組頭勘右衛門印
名主宗兵衛印

宝暦六子年七月

井出甚五左衛門様御内
吉田岡右衛門様

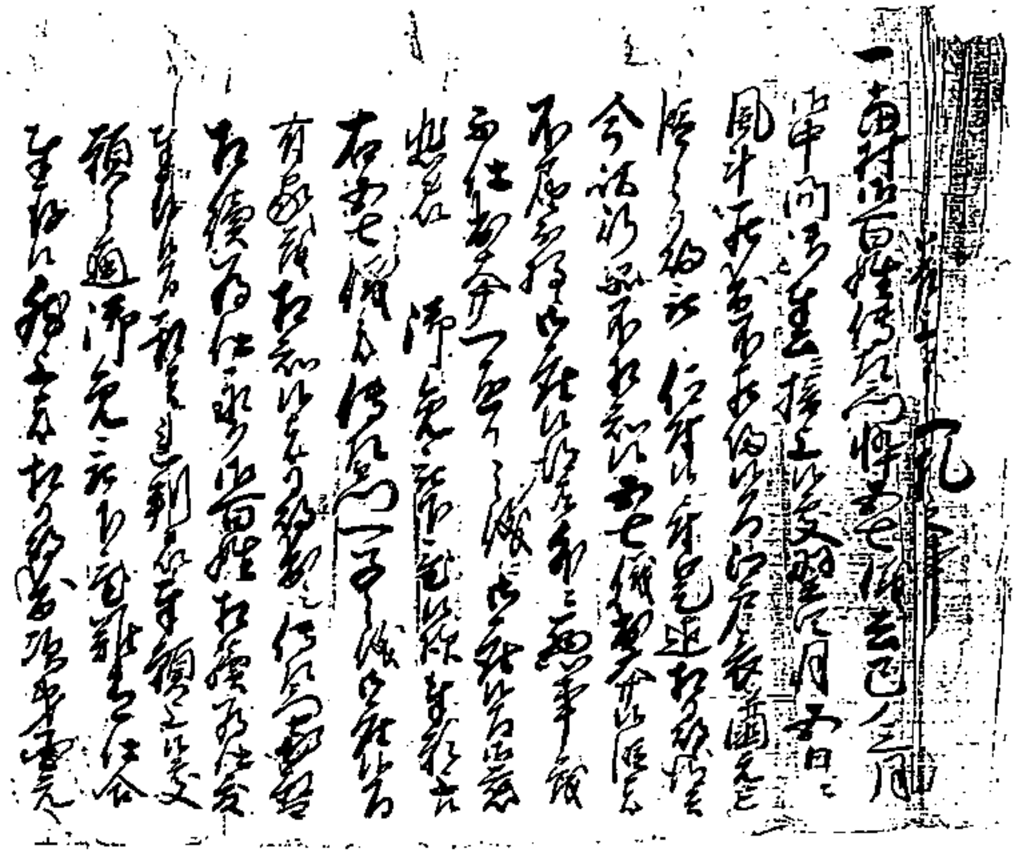
外ニ
上田壱反拾四歩　右之藤右衛門儀は押込め
居屋敷壱反四畝拾坪　隠居右之品は藤右衛門
家財諸道具残らず　妻子下し置かれ候



右之趣は、御屋敷御記録ニ御座有る可く与
存じ奉り候得共　何卒右振れ合い等も御座候間
宜敷く御慈悲御願い下さる可く候　此書付は
御尊師様之御心得ニも相成り申す可き哉
存じ奉り候間失礼ながら此段
申し上げ奉り候　以上

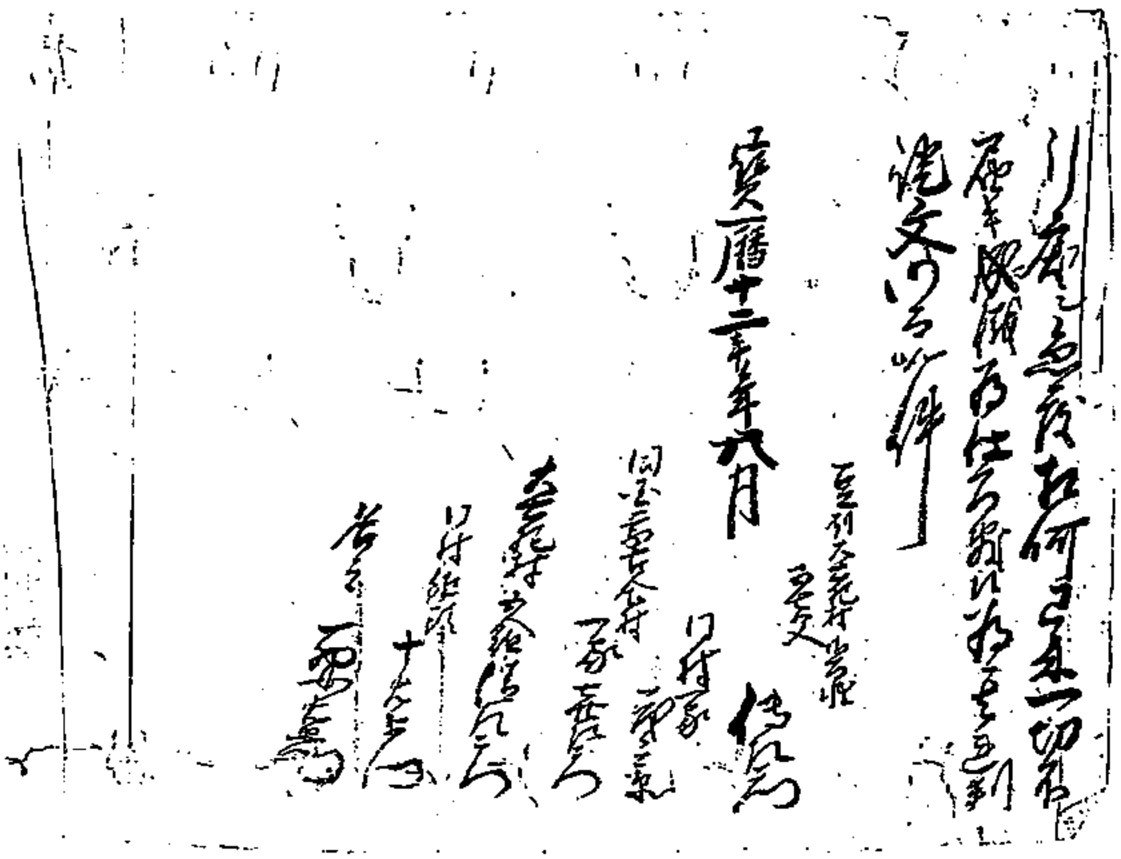
大土肥村

八月廿八日　彦三郎



差上申一札之事

一、當村御百姓傳左衛門伜五七儀去る巳ノ三月御中間御奉公ニ指し上げ候處翌四月五日ニ風斗(ふと)罷り出相帰らず候間江戸表并に國元迄段々御尋ね仰付けられ候ニ付き是迠相尋ね候得共今以って行衛相知れず候　五七儀出奔候段は、不届き不埒に御座候得共外に悪事も仕らず出奔一通り之儀ニ御座候間　御慈悲ヲ以って御免下し置かれ候様願上げ奉り候右五七儀は、傳左衛門一子之儀御座候間存家も相知れ候は、尋ね出シ可く傳左衛門家督相續為仕(つかまつらせ)永々御百姓相續為仕(つかまつらせ)度(た)く存じ奉り候間私共連判ヲ以って願上げ奉り候處願い之通り御免下し置かれ有難き仕合せに存じ奉り候　然る上は相尋ね出し次第国元へ



引戻シ急度相呵り已来一切不
届キ成る儀為仕間敷く候其為連判
證文仍而如件

豆州大土肥村御百姓
五七父　傳左衛門

宝暦十二午年八月

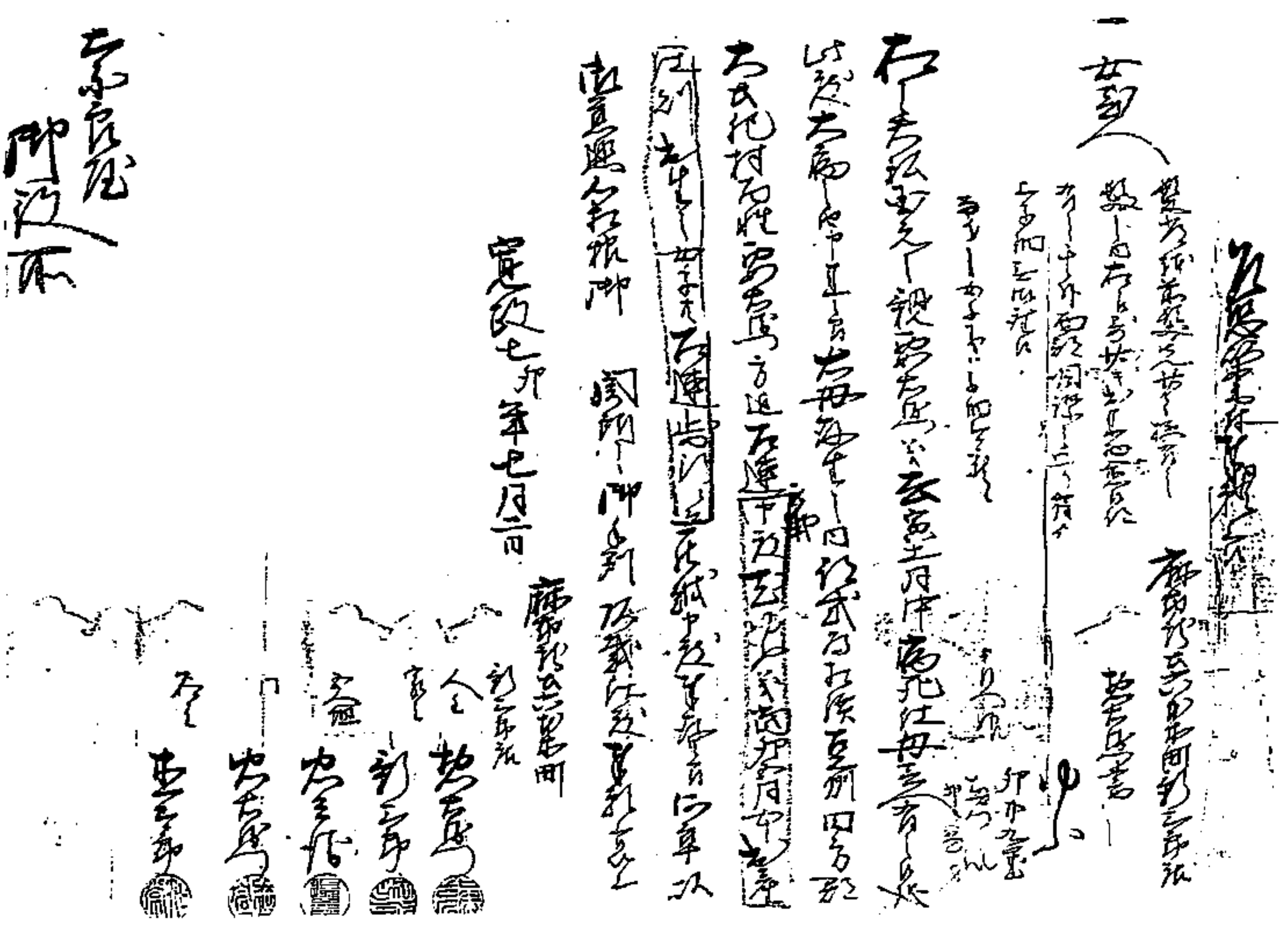
同村一家　茂兵衛

同国奈古谷村
一家　喜左衛門

大土肥村五人組　清左衛門

同村組頭　十右衛門

名主　要右衛門



乍恐以書付奉願上候

麻布龍土六本木町新三郎店

一、女壱人　髪常躰前髪先少く様之れ有り　惣右衛門妻

髪之内右ニ寄り少ゝ出来物癒え候跡　ゆふ

之れ有り其外面部咽襟之廻り眉ゟ　卯廿九歳

上子細御座無く候

同人娘

當才之女子義ハ子細御座無く候　まつい

卯當才

右之者私国元之親要右衛門義去る寅十一月中病死仕り母壱人之れ有り候処此度大病之由申し来たり候間右母存生之内跡式相續の為豆州田方郡大土肥村百姓要右衛門方迠召し連れ申し度く尤もゆふ義當卯五月中出産仕り則ち出生之女子共召連れ歩行ニて罷り掛け罷越し申度く存奉り候間何卒（以御慈悲を以って箱根御　関所之御手判頂戴仕り度く願い上げ奉り候以上

寛政七卯年七月二日新三郎店

麻布龍土六本木町

人主　惣右衛門　㊞

家主　新三郎　㊞

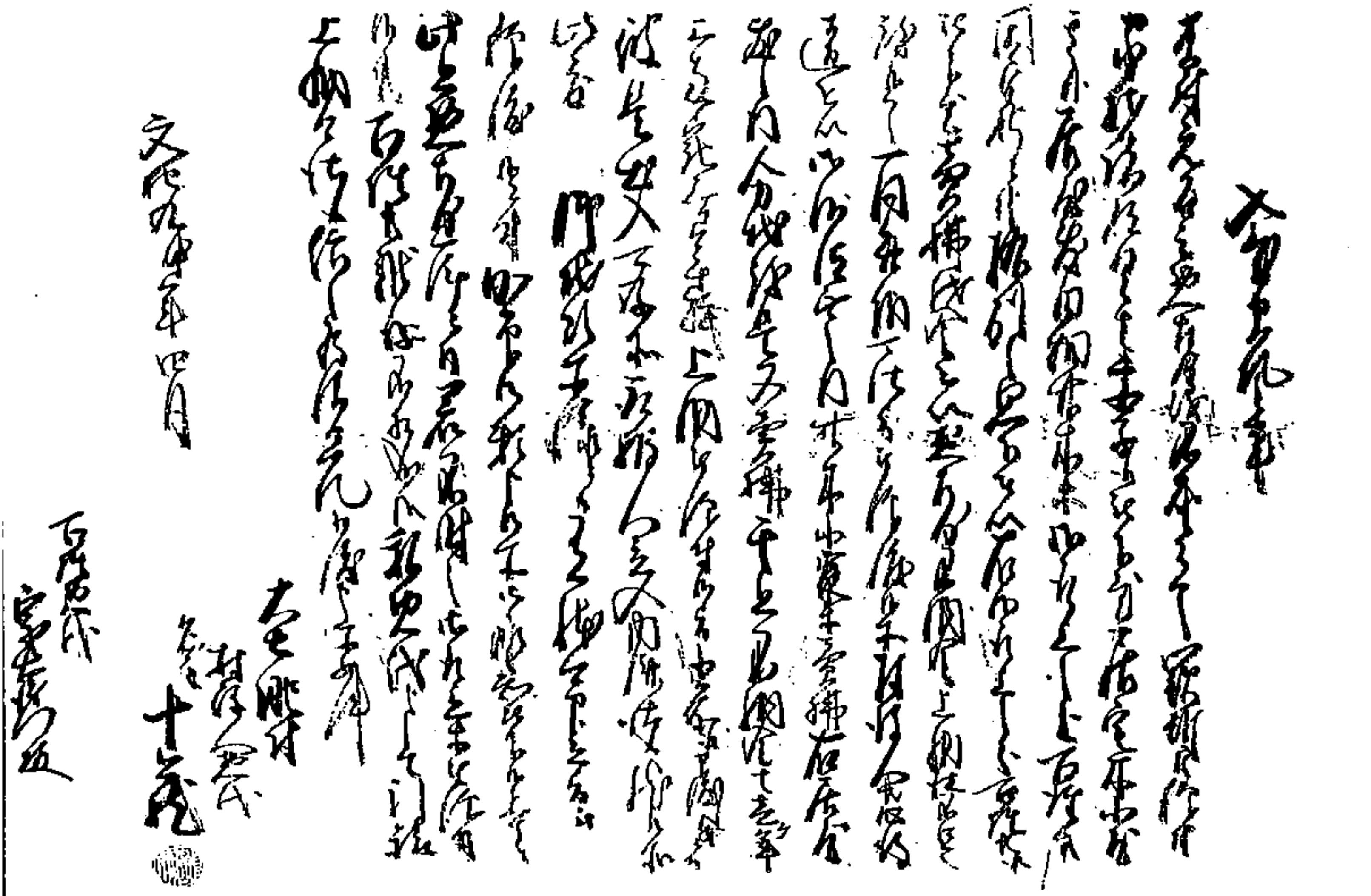
五人組　忠兵衛　㊞

同　忠右衛門　㊞

名主　直太郎　㊞

奈良屋

御役所



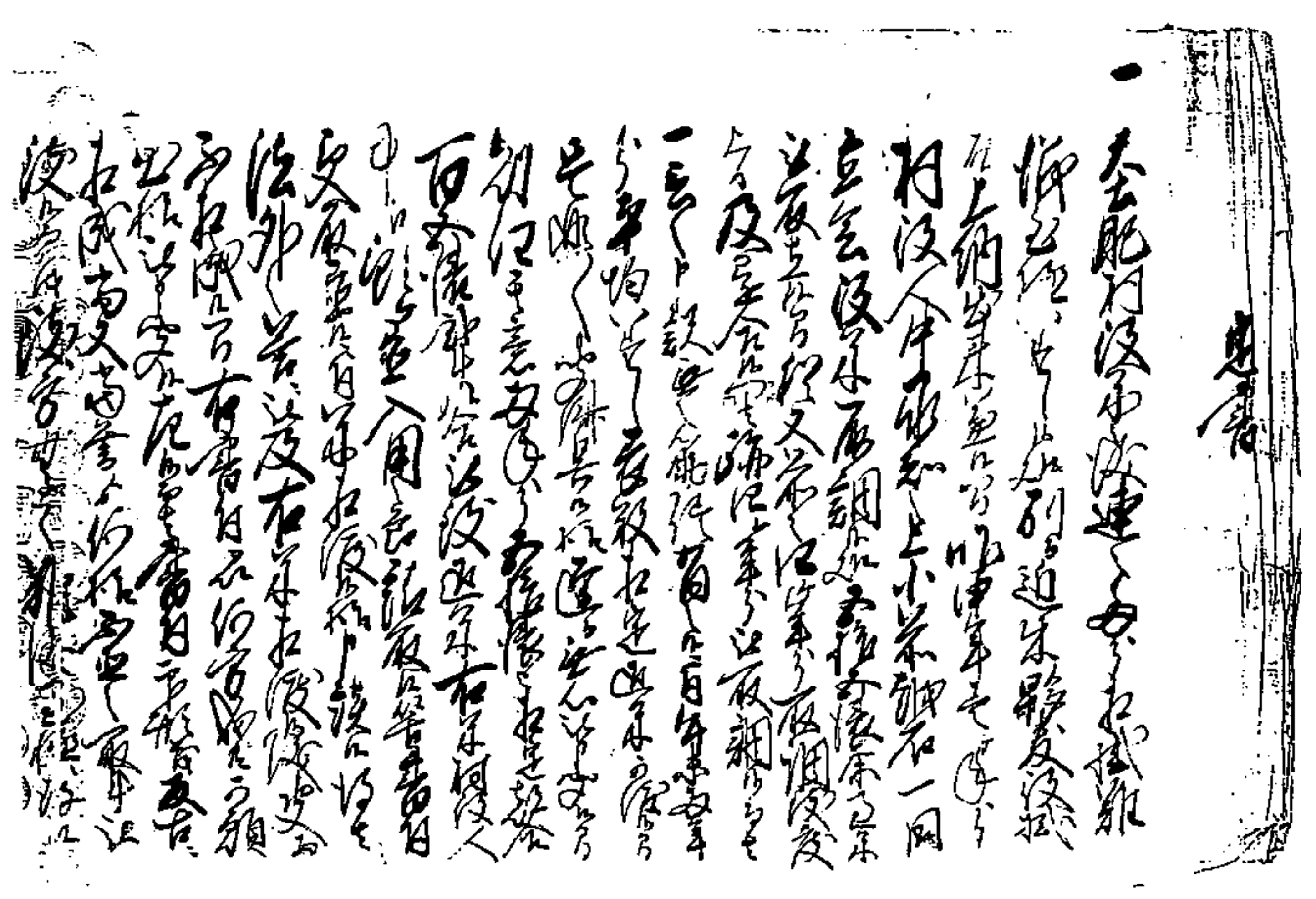
入儃申一札之事

本村元名主惣左衛門儀不届之れ有り　闕所仰せ付けられ家財諸道具は妻子ㇸ下し置かれ　居宅木小屋其外居屋敷田畑竹木等御取り上げ之上百姓共困窮ニ付き格別之思召しを以って　右御取り上げ之分百姓共ㇸ下し置かれ　賣拂い代金を以って惣左衛門不納金上納仕り不足致し候ハバ一同弁納仕る可き旨仰せ渡され候所　村役人共心得違いを以って御沙汰之れ無き内　竹木小屋等賣拂い右居屋敷之内分地致し是又賣拂い　其の上不納金は壱ヶ年三両宛三ヶ年賦上納仰付けられ候旨小前ㇸ申し渡し候義ニて彼是出入り及ぶ可き所取扱人立入り内濟仕り候　然ル所此の度　御地頭所様ニて有り躰申し上げ可き旨（被）仰せ渡され候ニ付き　加印御頼み申し候所御承知下され候上は此の上惣左衛門一件ニ付き若し不時之御取り上げ等仰付けられ候共　百姓共難儀相成らざる様私惣代ㇳして引き請け上納仕る可く候之れに依り後日の為一札相渡し申す所件（くだん）の如し

文化九申年四月

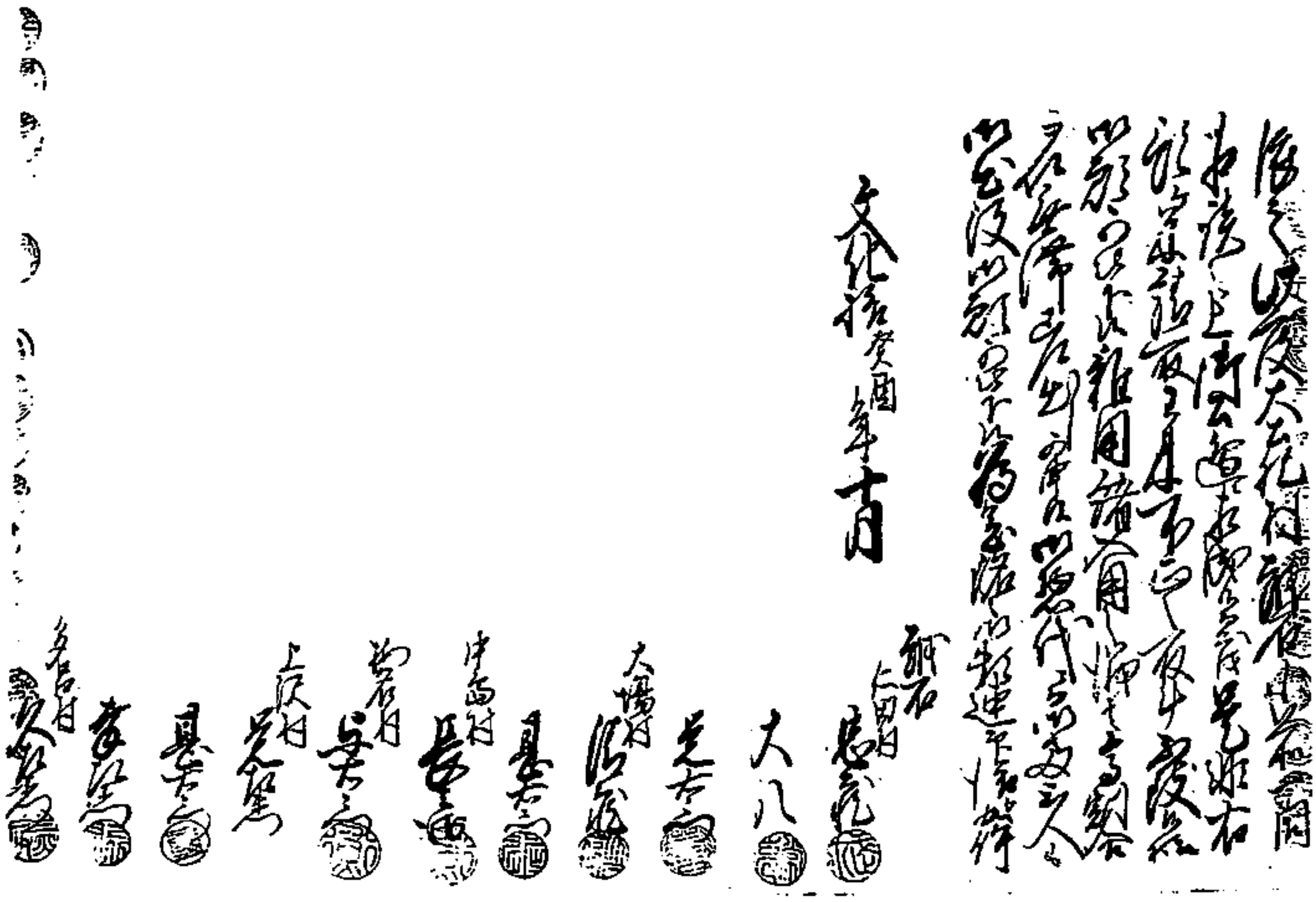
大土肥村
村役人惣代
名主　十蔵㊞

百姓惣代
宗右衛門殿



定書

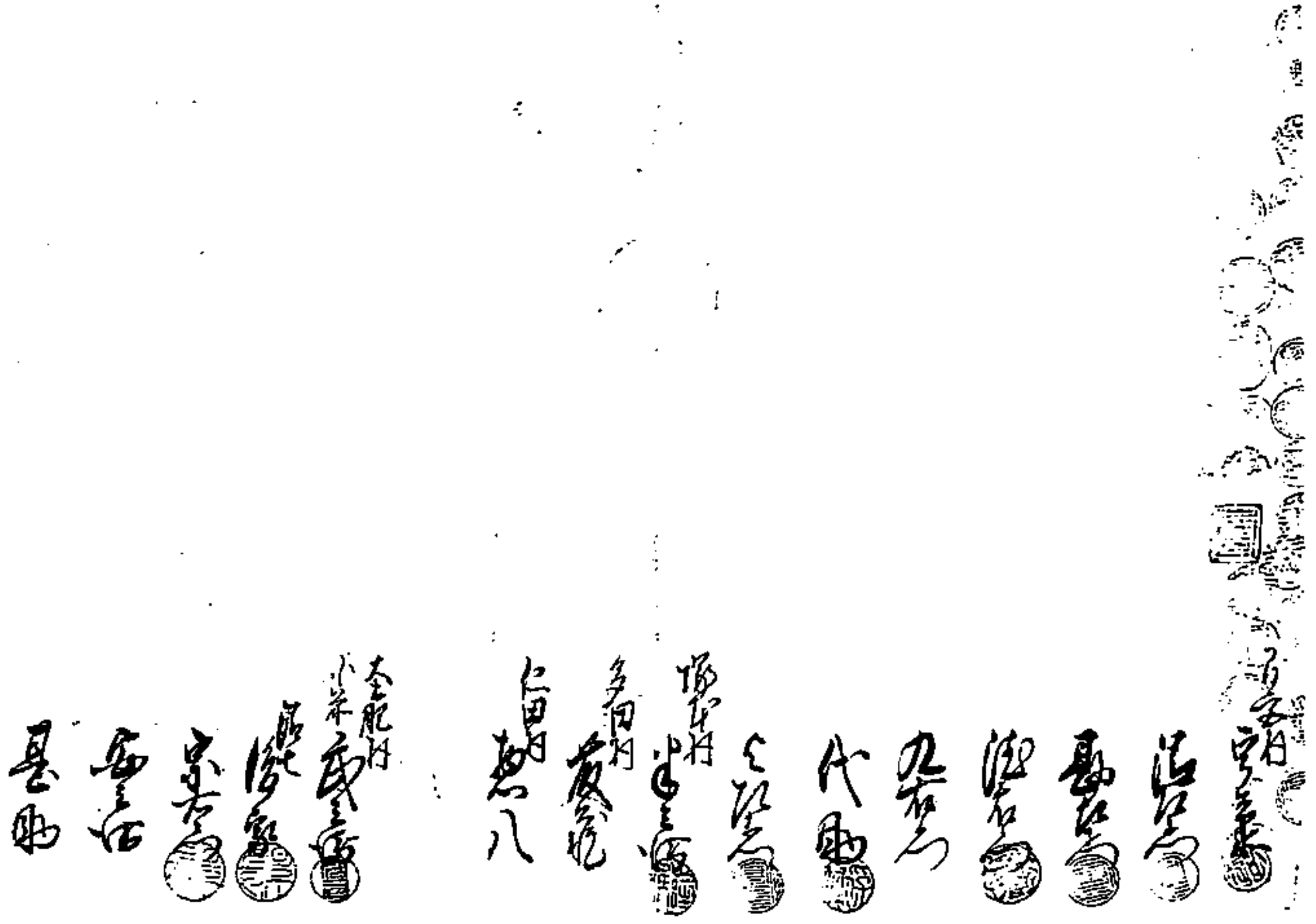
一、大土肥村役米之儀　連々多分相掛かり難儀
儀至極いたし候処　別而(べっして)近来夥(おびただ)敷き役掛かり
故上納出来兼ね候間　昨申年壱ヶ年分
村役人中承知之上　小前越石一同
立会い役米取り調べ候処　五拾五俵余り過米
取り立てられ候間　猶又前々四ヶ年分取調べ致し度き
旨懸合いに及び候門(かど)は　跡四ヶ年分取り調べられ候而(て)は
一言之申し訳之れ無き筋合之れ有り候ニ付き午未両年
分平均いたし俵数相定め返米渡す可く候間
是非々々聞き済み呉候様　達而(たって)無心申し聞かされ候間
則ち其意に任せ両年分五拾俵与相定め都合
百五俵弐斗八合返米致され　右米村役人
中ニ預ケ置き入用之節請け取候筈書付け
受け取り置き候ニ付き米相渡し候様申談候得者(そうらえば)
法外之答ニ及ばれ　右米相渡し候儀決而(けっして)
相成らず候間　右書付ヲ以って何方成り共（可）願い
出可き様申し聞かされ候　左候ては、書付印形も反古ニ
相成り　尚又當暮ゟ何様不直之取り計らい（被）
致され候ても致し方之れ無く難儀至極ニ存じ候



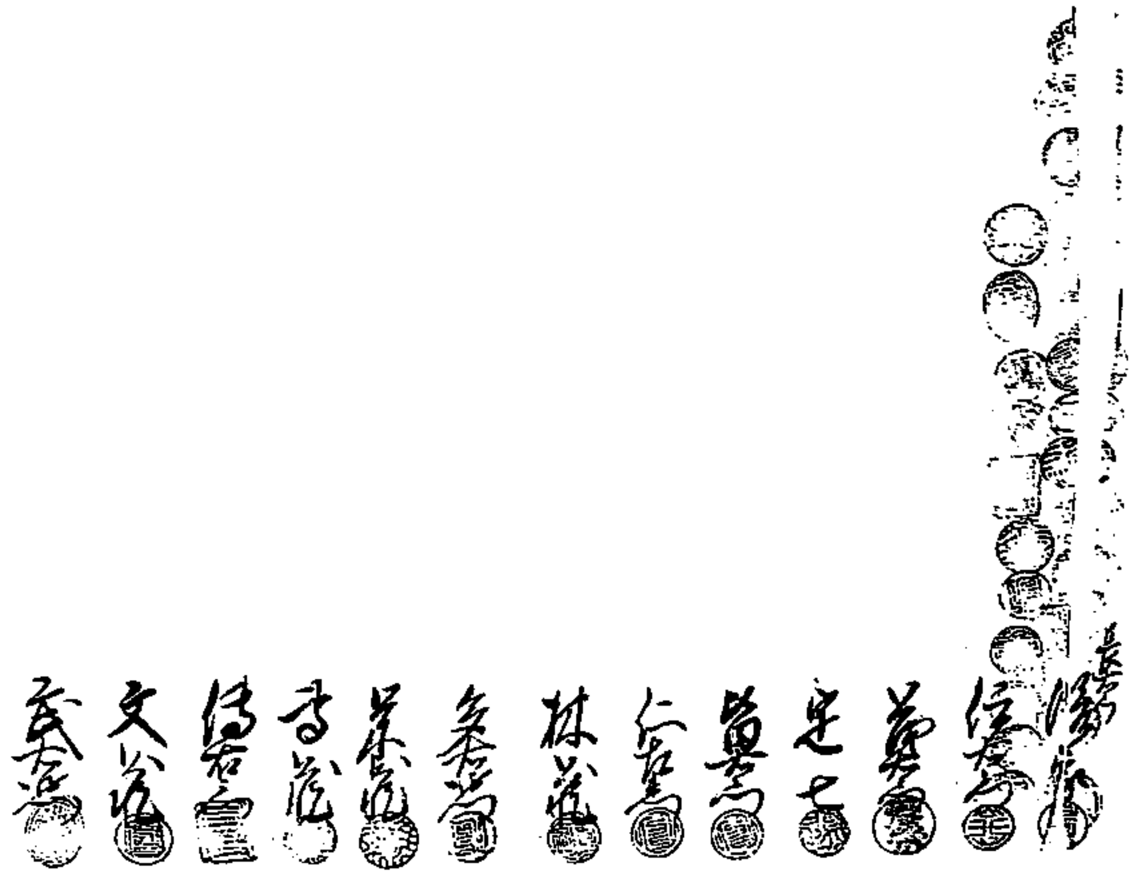
之に依り此度大土肥村越石小前一同
相談之上御公辺邊ニ相成り候而も是非右
預ケ米請け取り　已来不正之取計い致さざる候様
御願い下さる可く候　雑用諸入用之儀は高割合
ヲ以って滞り無く差出し申す可く候御惣代ニて御両三人も
御出役御願い下さる可く候念の為銘々御頼み連印依而如件

文化拾癸酉年十月

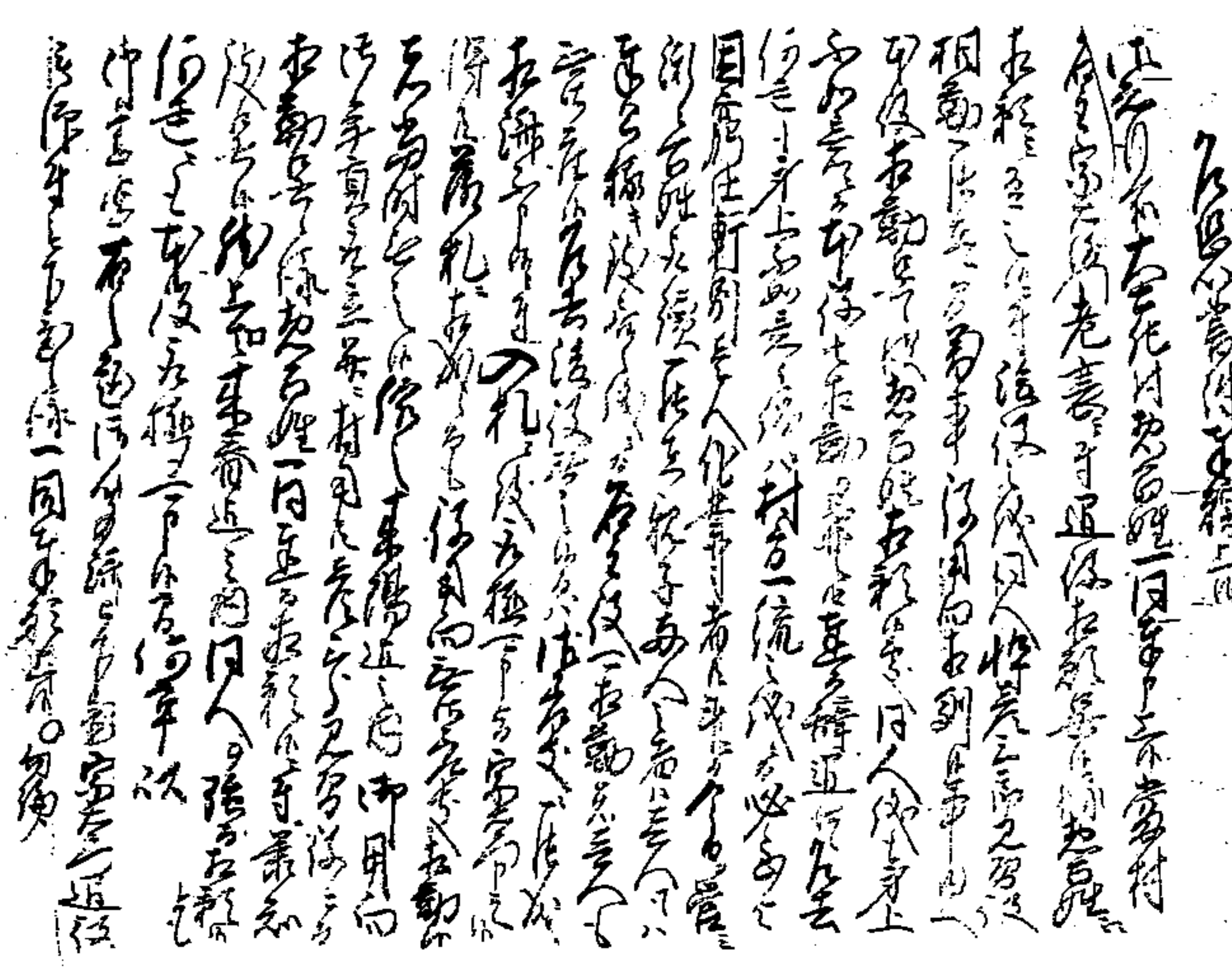
越石
仁田村　忠蔵　㊞
大八　㊞
大場村　覚右衛門　㊞
清蔵　㊞
甚右衛門　㊞
中島村　長兵衛　㊞
梅名村　与右衛門　㊞
上沢村　覚左衛門　㊞
甚右衛門　㊞
多呂村　幸左衛門　㊞
久左衛門　㊞



間宮村
宇兵衛 ㊞
清左衛門 ㊞
勘左衛門 ㊞
徳右衛門 ㊞
九右衛門
代助 ㊞
与左衛門 ㊞
塚本村
半兵衛 ㊞
多田村
藤蔵
仁田村
惣八
大土肥村
武兵衛 ㊞
小前
清七後家 ㊞
宗右衛門 ㊞
安兵衛
甚助

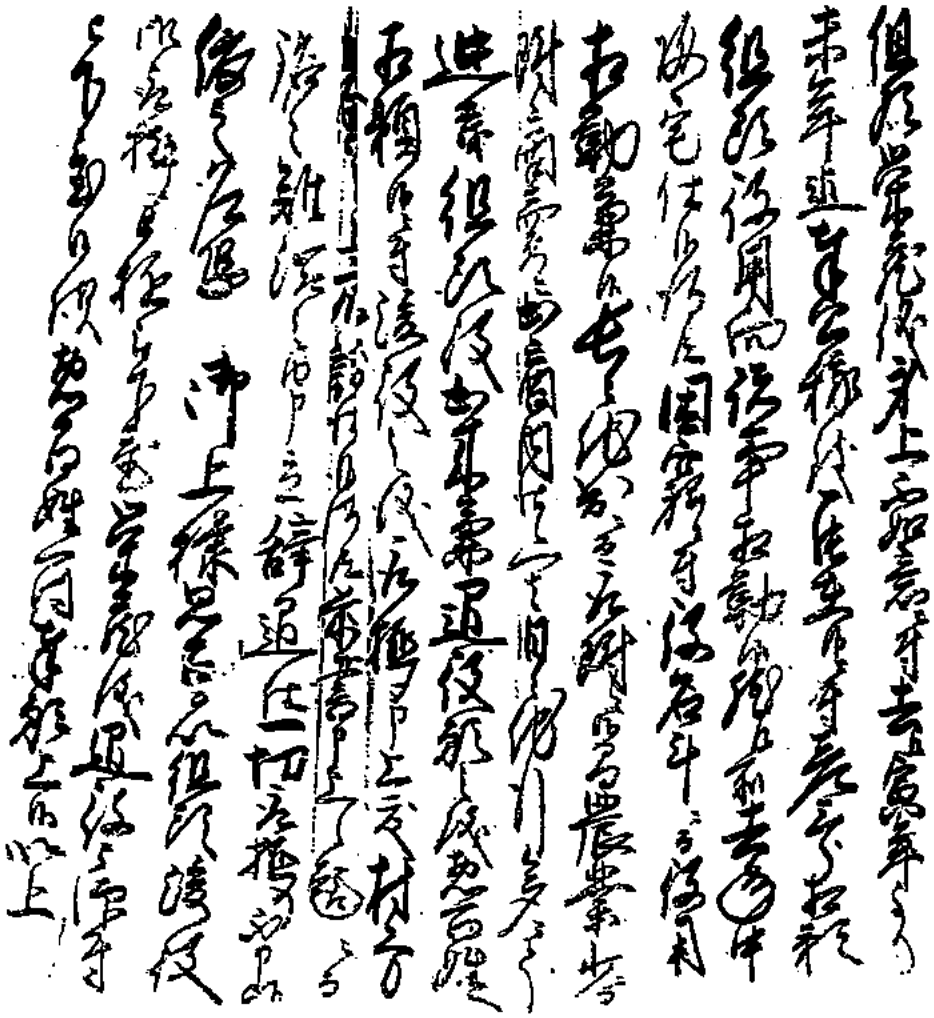


長右衛門
後家 ㊞
伊右衛門 ㊞
茂右衛門 ㊞
定七 ㊞
皆右衛門 ㊞
仁左衛門 ㊞
林蔵 ㊞
多右衛門 ㊞
栄蔵 ㊞
専蔵 ㊞
傳右衛門 ㊞
文蔵 ㊞
武右衛門 ㊞

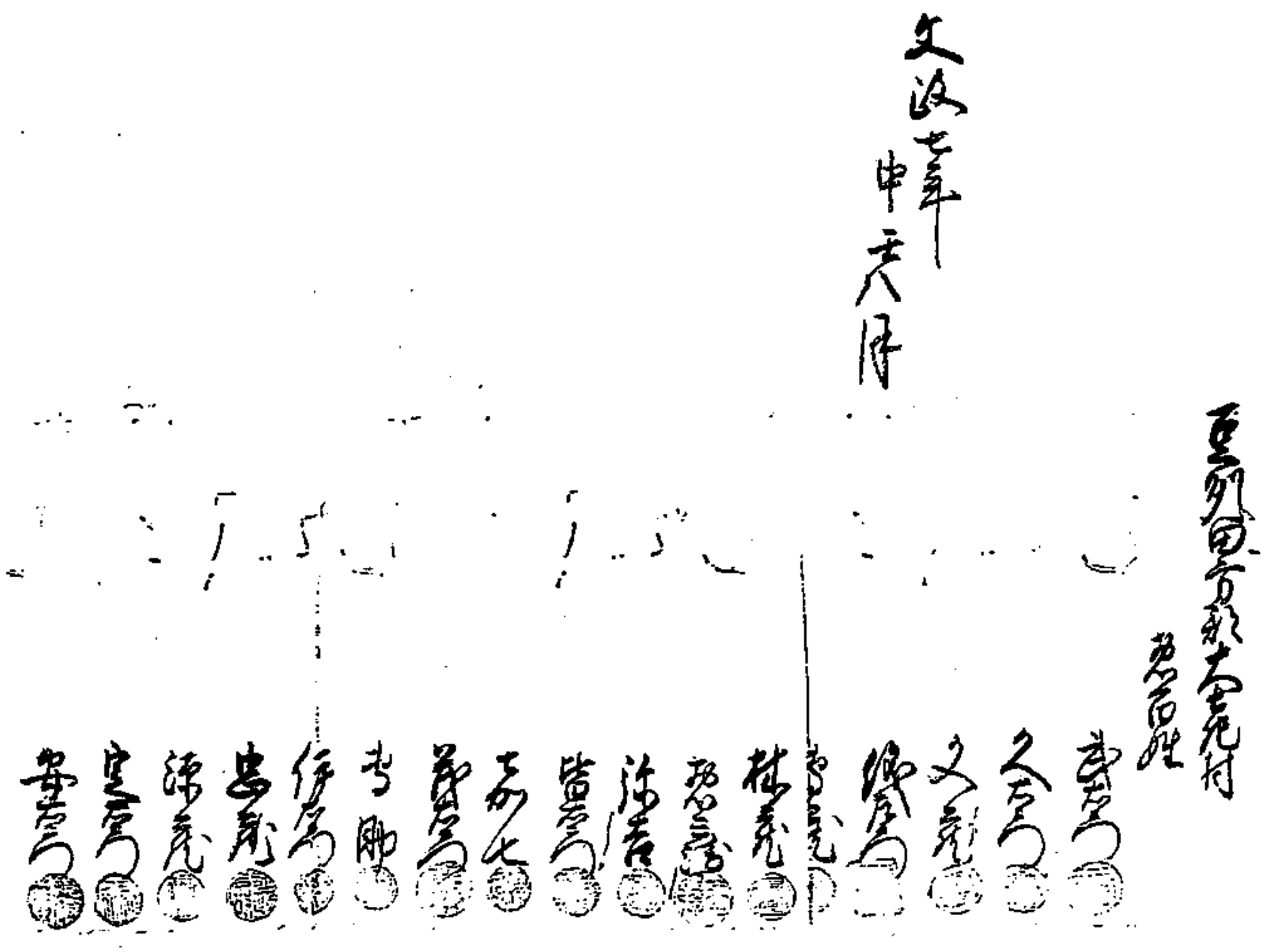


乍恐以書付奉願上候

御知行所大士肥村惣百姓一同申し上げ奉り候　當村
名主宗右衛門老衰ニ付き退役相願い呉様惣百姓江
相頼ミ之れ有り候ニ付き　後役之儀同人倅彦三郎見習役
相勤め罷在り候間萬事役用向き相馴れ候事ゆへ
本役相勤め呉様惣百姓相頼み候處同人儀も身上
不如意ニて本役は相勤め兼ね候由達而辞退仕り候去り乍ら
何れも身上不如意之儀ニて必至与
困窮仕り　軒別壱人作業之者共計りニて今日ヲ當ミ
漸々百姓取り續き罷り在り親子両人之者ハ壱人ヅツハ
奉公稼キ致し居候儀ニて　名主役相勤む可き者壱人も
御座無く候去乍ら後役之れ無く候てハ御差し支えニ罷り成り
相済み申さず候ニ付き入札ニ致し取極め申す可き旨宗右衛門之申し候
得共　落札ニ相成り候ても役用向き御差支え無く相勤め候
者當時之れ無く候之れに依り来陽迠之内御用向き
御年貢取り立て并ニ村用共彦三郎見習役ニて
相勤め呉候様　惣百姓一同達而相頼み候ニ付き承知
致し呉候　然上は来春迠之内同人ヲ強而相頼み候とも
何れニも本役取り極め申す可く候間何卒（以）
御慈悲を以って右之趣御聞き済み下し置かれ　宗右衛門退役
仰付けられ下し置かれ候様一同願い上げ奉り候　勿論



組頭栄蔵儀身上不如意ニ付き去ル寅年より
未年迄奉公稼ぎ致し罷り在り候ニ付き彦三郎相頼み
組頭役用向き諸事相勤め候　然ル所去年中
帰宅仕り候得共　困窮ニ付き役名計りニて役用
相勤め兼候　長々他出ニて取り附きニ候間農業少ニて
附き商賣ニ出商内仕り候へば日々他行多きニより
迚も組頭役出来兼　退役願い之儀惣百姓
相頼み候ニ付き後役之儀取り極メ申し上げ度く村方
寄り合い之上□□仕り候得共前書申し上げ候趣ニて
銘々難渋之由申し立て辞退仕り一切取り極メ申さず候
之れに依り恐れ乍ら　御上様思召しヲ以って組頭後役
御取り極メ遊ばされ下し置かれ栄蔵儀退役仰付けられ
下し置かれ候様惣百姓一同願い上げ奉り候以上

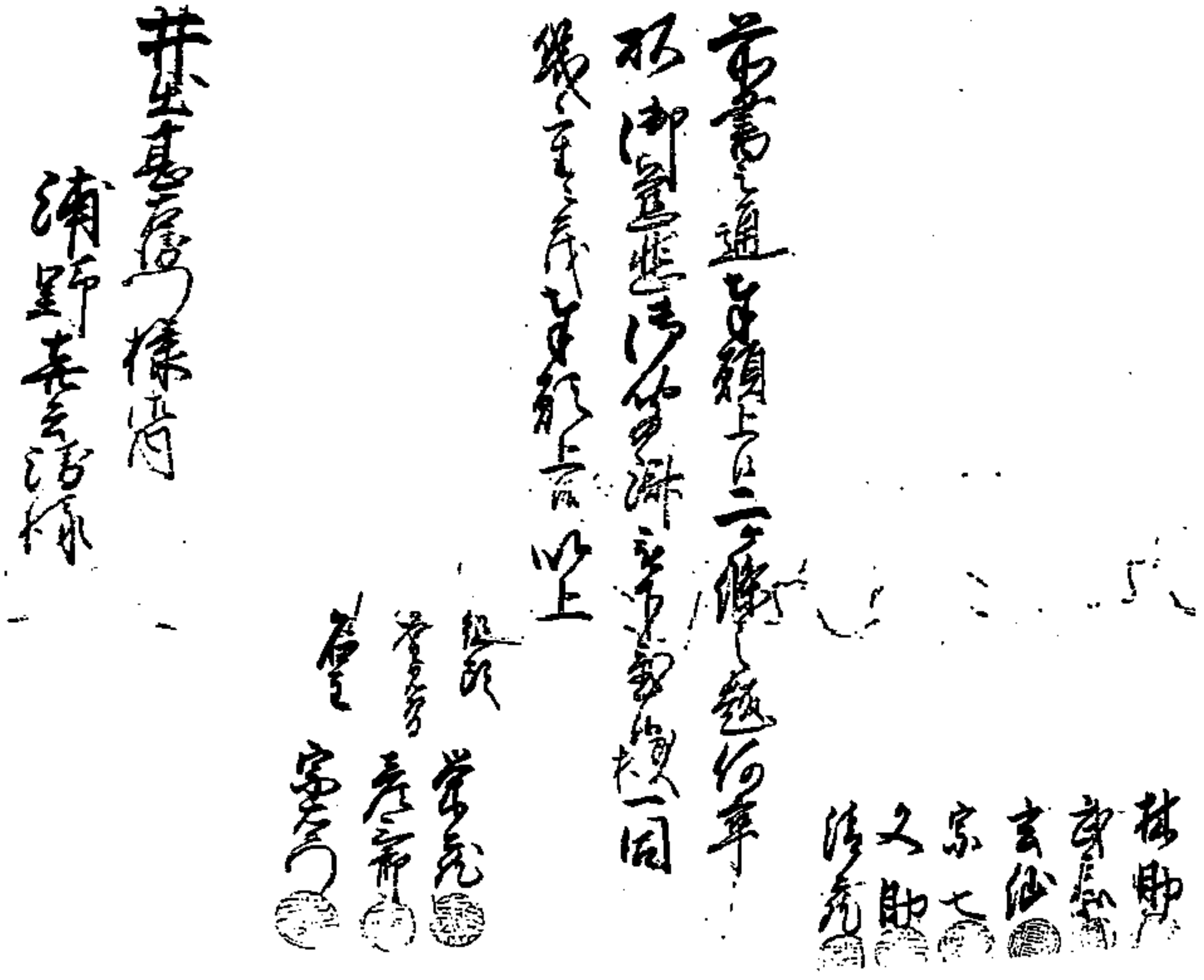


文政七年申壬八月

豆州田方郡大土肥村

惣百姓

武右衛門 ㊞
久右衛門 ㊞
文蔵 ㊞
儀左衛門 ㊞
傳蔵 ㊞
林蔵 ㊞
惣兵衛 ㊞
弥吉 ㊞
皆右衛門 ㊞
嘉七 ㊞
茂右衛門 ㊞
専助 ㊞
伊右衛門 ㊞
忠蔵 ㊞
源蔵 ㊞
定右衛門 ㊞
安右衛門 ㊞

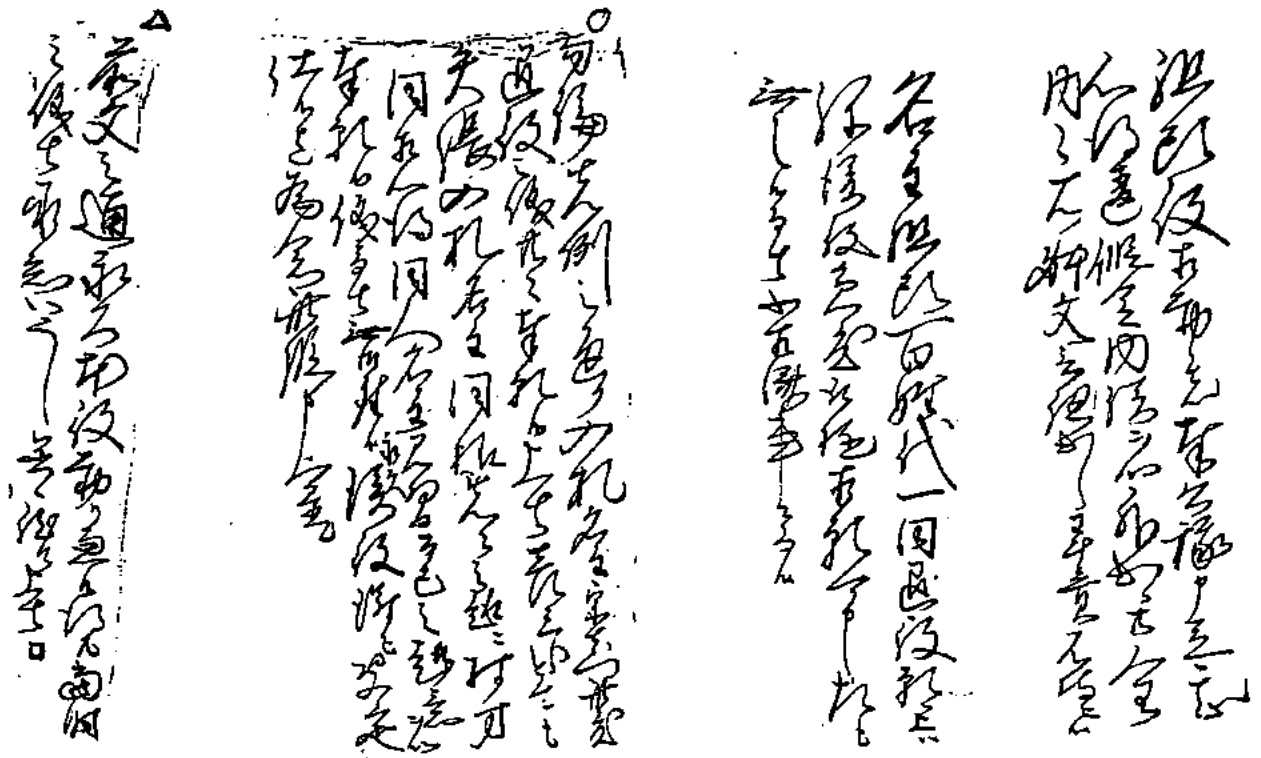


前書之通願い上げ奉り候　二ヶ條之趣何卒
御慈悲を以って御聞き済み下し置かれ候様一同
幾重こも願い上げ奉り候以上

林　助㊞
武兵衛㊞
玄　仙㊞
宗　七㊞
文　助㊞
清　蔵㊞

組頭　栄　蔵㊞
名主見習　彦三郎㊞
名主　宗右衛門㊞

井出甚右衛門様御内
浦野喜兵衛様



組頭役相勤め候者奉公稼ぎ申し立て　甚だ
心得違い　假令(たとい)内緒ヲ以って外出候共全く
内々右躰(てい)文言認め書畢竟(ひっきょう)不埒ニ候

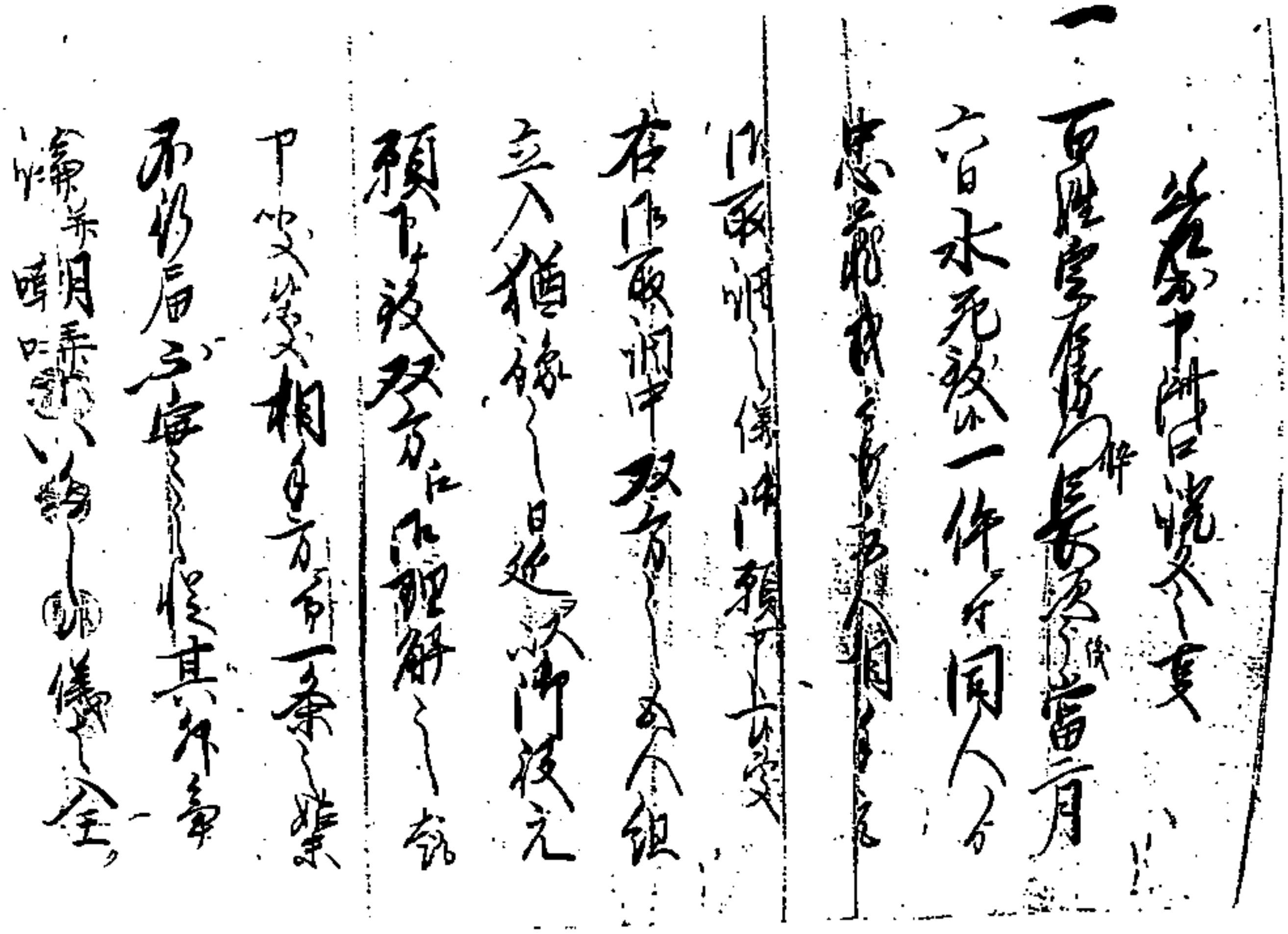
名主組頭百姓代一同退役願い候上ハ
弥(いよいよ)後役急度取り極め相願い申す可く　左も
之れ無く候ては相済まざる事ニて候

○

勿論先例之通リ入札名主宗右衛門此度
退役之儀共々願い奉り候上は彦三郎とても
矢張入札名主同様先々之趣ニ村方
一同相心得同人名主見習而巳(のみ)之趣意ヲ以って
永久
願い奉り候儀ニては御座無く候後役得ト決定
仕り候迠念の為此段申し上げ置き候

△

前文之通永久本役勤リ兼候得共當時
之儀は、承知いたし呉候　然ル上は　口



差出申済口證文之叓(こと)

一、百姓定右衛門悴長次郎儀當二月

六日水死致し候一件ニ付き同人ゟ

忠蔵武兵衛両人相手取り

御取り調べ之儀御願い申し上げ候處

右取り調べ中右方之五人組

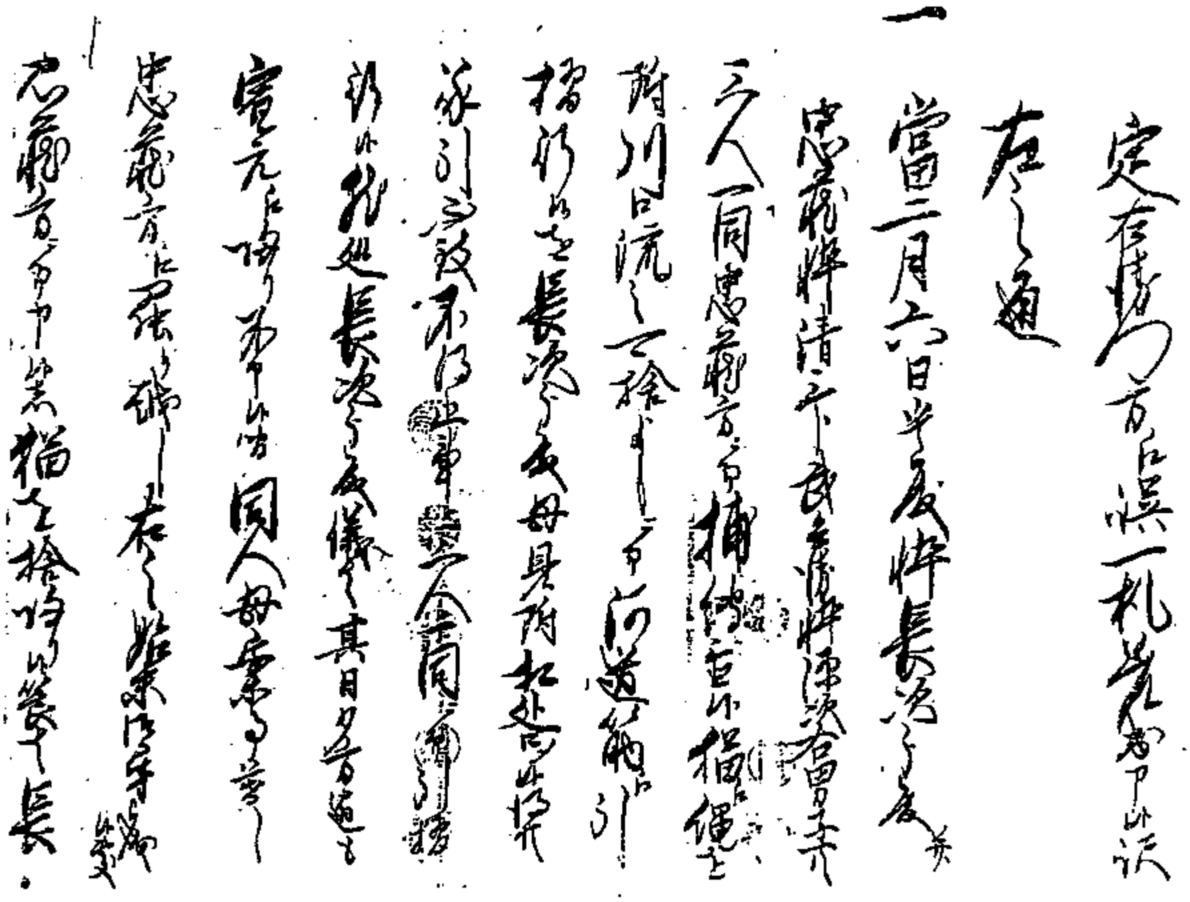
立ち入り猶予之日延べヲ以って御役元

願い下ヶ致し双方江御理解之趣

申聞け候處相手方ニて一条之始末

不行届き不實之程　其外争

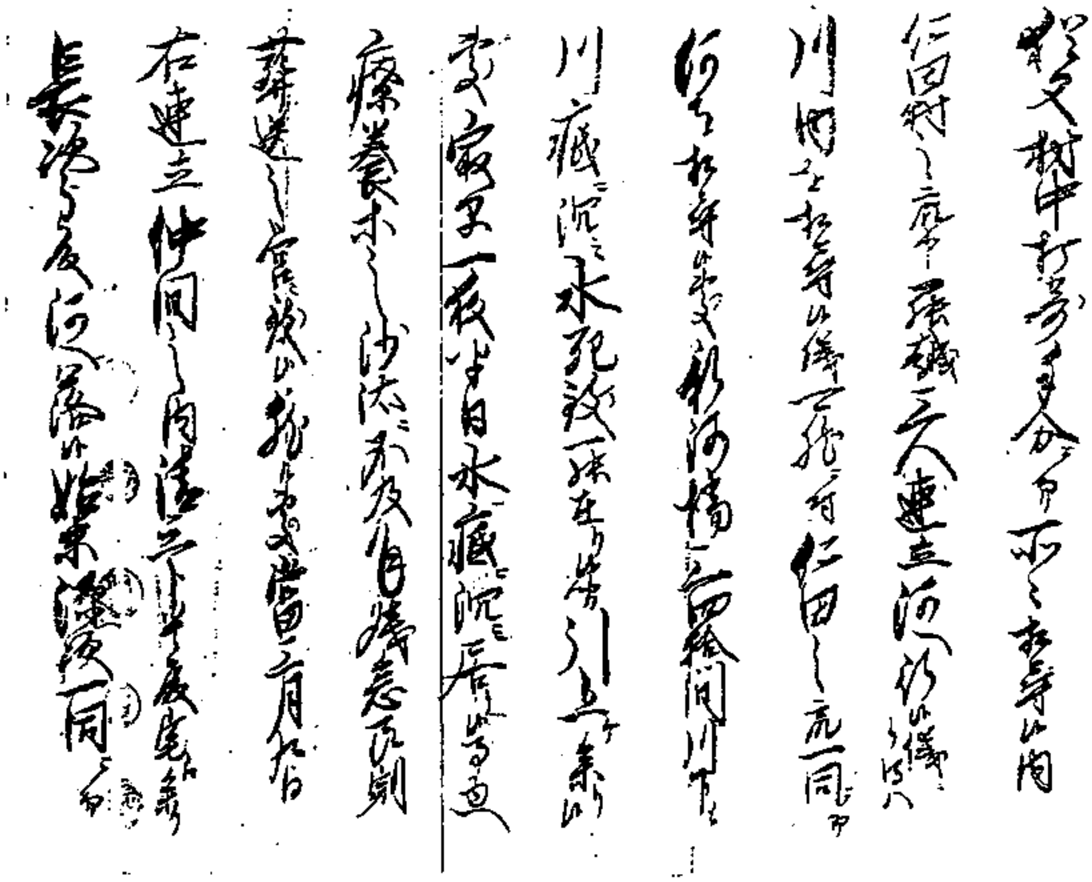
論并に嘲哢(ちょうろう)等いたし候儀は全く



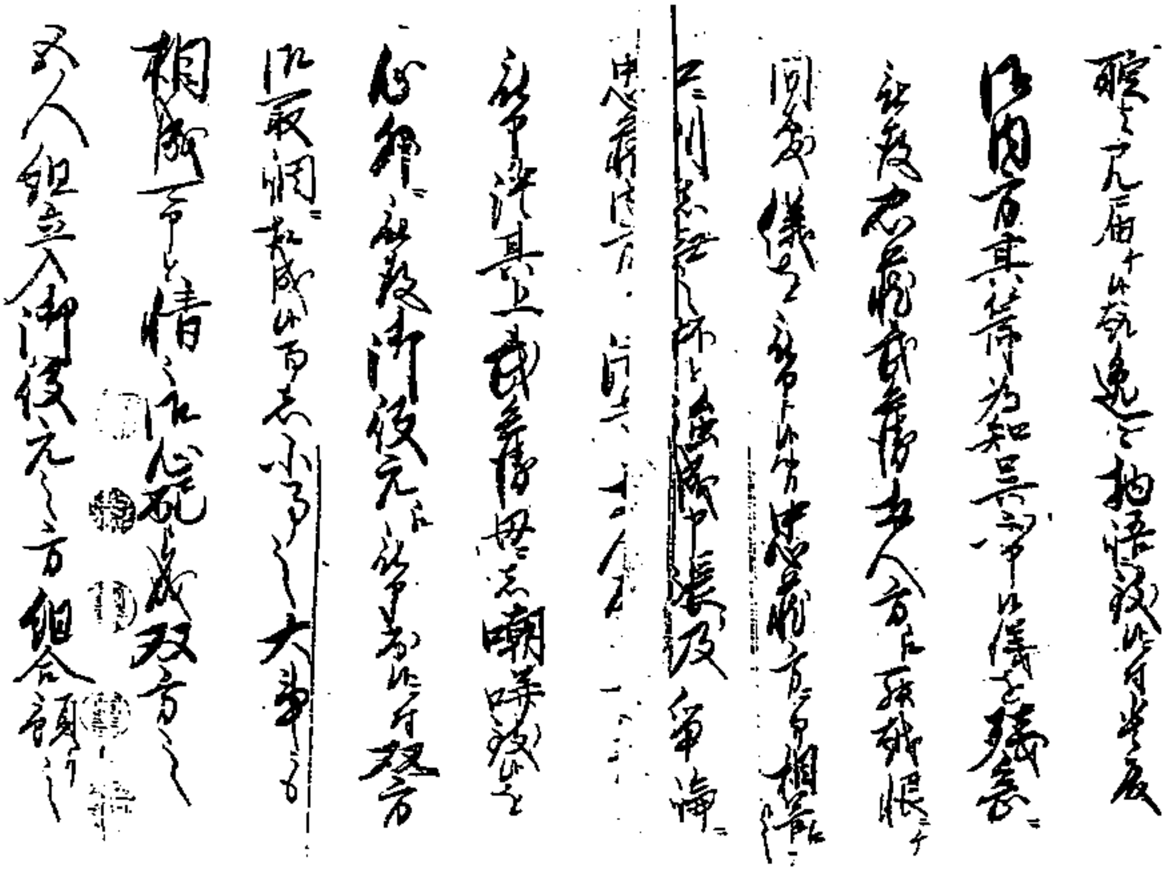
心得違いニ付き忠蔵武兵衛両人ゟ
定右衛門方江誤り一札差出し申し候訳
左之通り

一、當二月六日貴殿悴長次郎殿并に
忠蔵悴清三郎　武兵衛悴源次右男子共
三人一同忠蔵方ニて捕縛置き候猫江縄を
附け川江之れを流し捨て可きよしニて河道筋江引き
摺り行き候を長次郎殿母見附け　相咎〆候得共
承引致さず止むを得ざる事三人一同ニて引き摺り
行き候　然る処長次郎殿儀は　其の日夕方迠も
宿元江帰り申さず候間同人母案じ暮らし
忠蔵方江罷り越し右之始末御尋ね成され候處
忠蔵方ニて申し候は　猫を捨て帰り候節は長

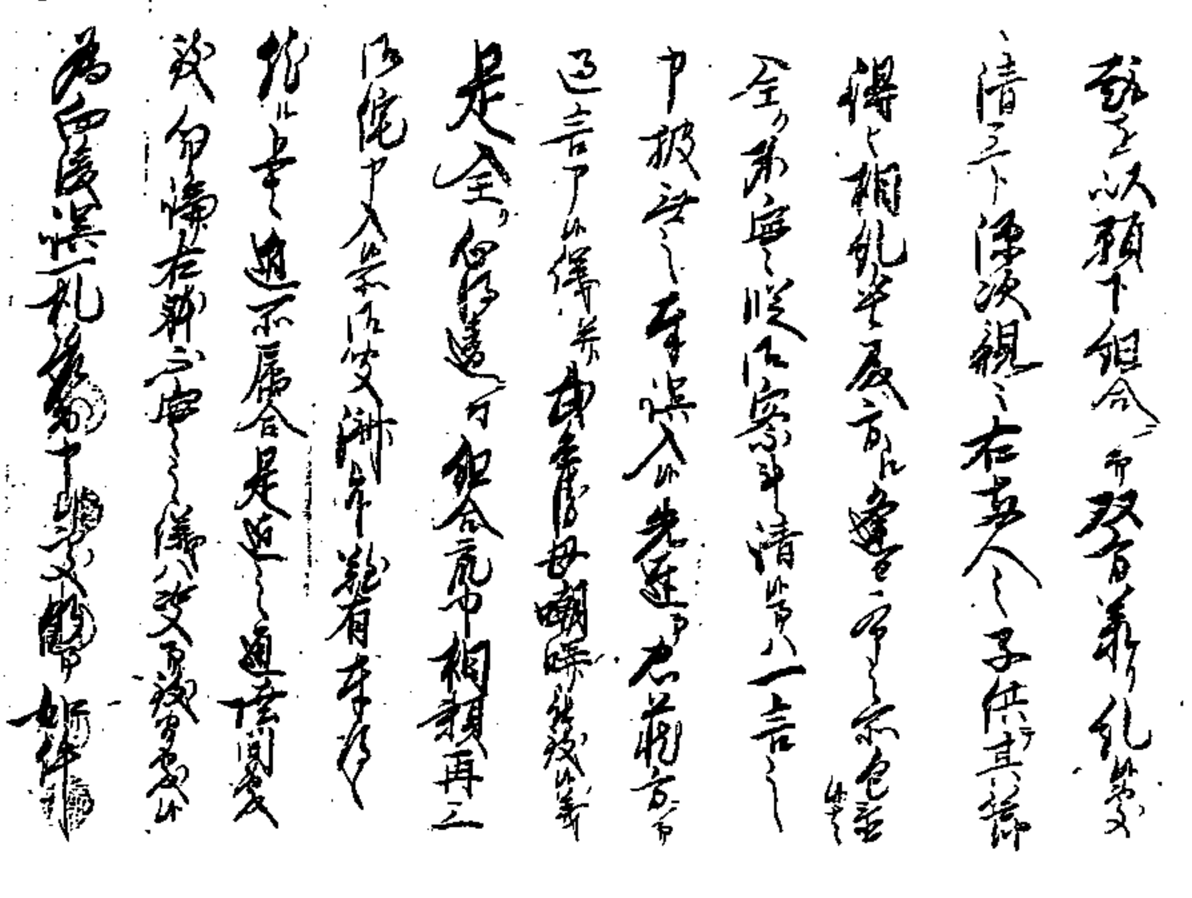
次郎殿を屋敷内栗之際迄送り
参り候よし之(これ)を申し候　武兵衛母は源次義ハ
猫捨ニは参り申さず抔(など)与(と)偽りを申し候ニ付き猶又
入念御尋ねニ付き屋敷内迄送り来り候儀
相違之れ無きよし申し遣わし候ニ付き　左候得ば狐
狸ニても為迷(まよわされ)候事与(と)驚き騒き近所ハ申すに及ばず
村中一同打ち寄り河中は差し置き近邊森
林籔并に隣村仁田村平井村神社佛閣
森林等相尋ね候事も相知レ申さず候間　翌七日



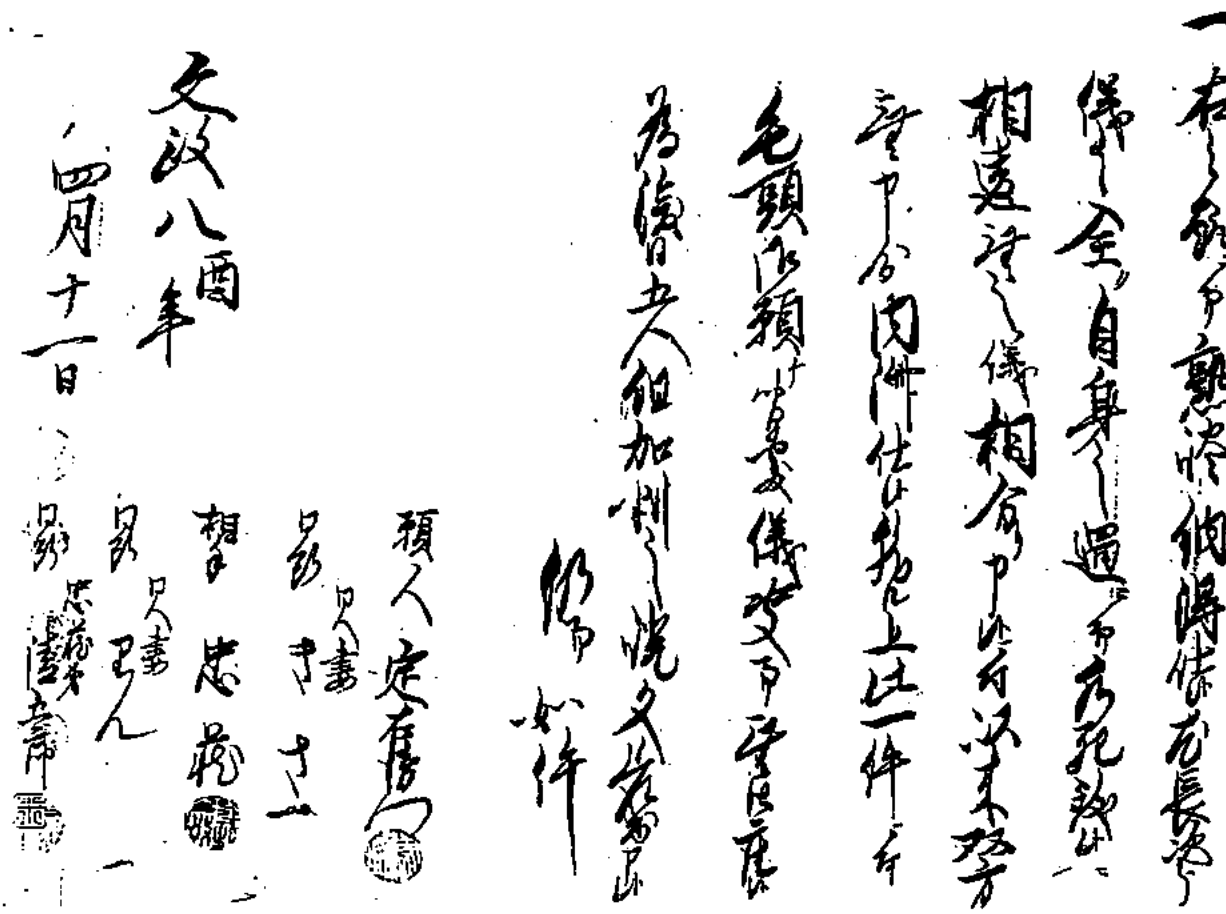
猪又村中打ち寄り手分けニて所々相尋ね候内
仁田村之衆中罷り越し三人連れ立ち河へ行き候儀ニ候得ハ
川内を相尋ね候儀然る可きニ付き　仁田之衆一同ニて
河を相尋ね候處　新河橋三四拾間川下も
川底ニ沈ミ水死致し罷り在リ候間　引き上ケ参リ候
處　最早一夜半日水底ニ沈ミ居リ候事ゆへ
療養等之沙汰ニ及ばず　残念乍(なが)ら即刻
葬送之営みニ致し候　然ル處當三月九日
右連れ立ち仲間之内清三郎　貴殿宅江参リ
長次郎殿河へ落ち候始末　源次一同ニて



聢与見届け候趣　逸々物語り致し候ニ付き貴殿
御内方其節知らせ呉申さず候儀を残念ニ
存じられ　忠蔵武兵衛両人江罷り越し恨ミケ
間敷き儀を申され候間　忠蔵方ニて相答江候は
□ニ□は之無く抔と強成申し張り争論ニ及び
忠蔵方□□□□□□□□□□□□□□□
申し潰され　其上武兵衛母ニは嘲呼致し候を
心外ニ存じられ御役元江申し出られ候ニ付き双方
御取り調べニ相成り候ては小事之大事ニも
相成り申す可しと　情々御心配成され双方之
五人組立ち入り御役元之方組合預り之



趣を以って願い下げ組合ニて双方承り糺し候處
清三郎　源次親ニ右両人之子供ヲ其節
得与相糺し　貴殿方江逢わセ申す可き之所包み置き候は
全ク不實之段御察し計り請け候事は一言之
申し披き之無く誤り入り奉り候　先達而忠蔵方ニて
過言申し候儀并に武兵衛母嘲哢致され候儀
是全ク心得違いニ付き組合衆中相頼み再三
御侘申入れ候所御聞き濟み下され有難く存じ奉り候
然ル上は近所属合い是迠之通り睦間敷く
致すは勿論右躰不實之儀ハ決而致す間敷候
向後の為誤り一札差し出し申し候處仍而件の如し



一、右之趣ニて熟談納得仕り候　尤も長次郎
儀は全ク自身之過ちニて水死致し候ニ
相違之れ無き儀相分かり申し候ニ付き以来双方
申し分無く内済仕り候然ル上は此一件ニ付き
毛頭御願いケ間敷き儀決而御座無く候
後日の為五人組加判之證文差し出し申し候
仍而件の如し

文政八酉年
四月十一日

願人　定右衛門㊞
同断　同人妻　きさ
相手　忠蔵㊞
同断　同人妻　りん
同断　忠蔵弟　清五郎㊞

同断　武兵衛㊞

同断 同人母 ぬい
定右衛門 両人組合
忠蔵
安右衛門㊞

扱人 嘉七㊞

同 専助㊞

同 伊右衛門㊞
武兵衛組合

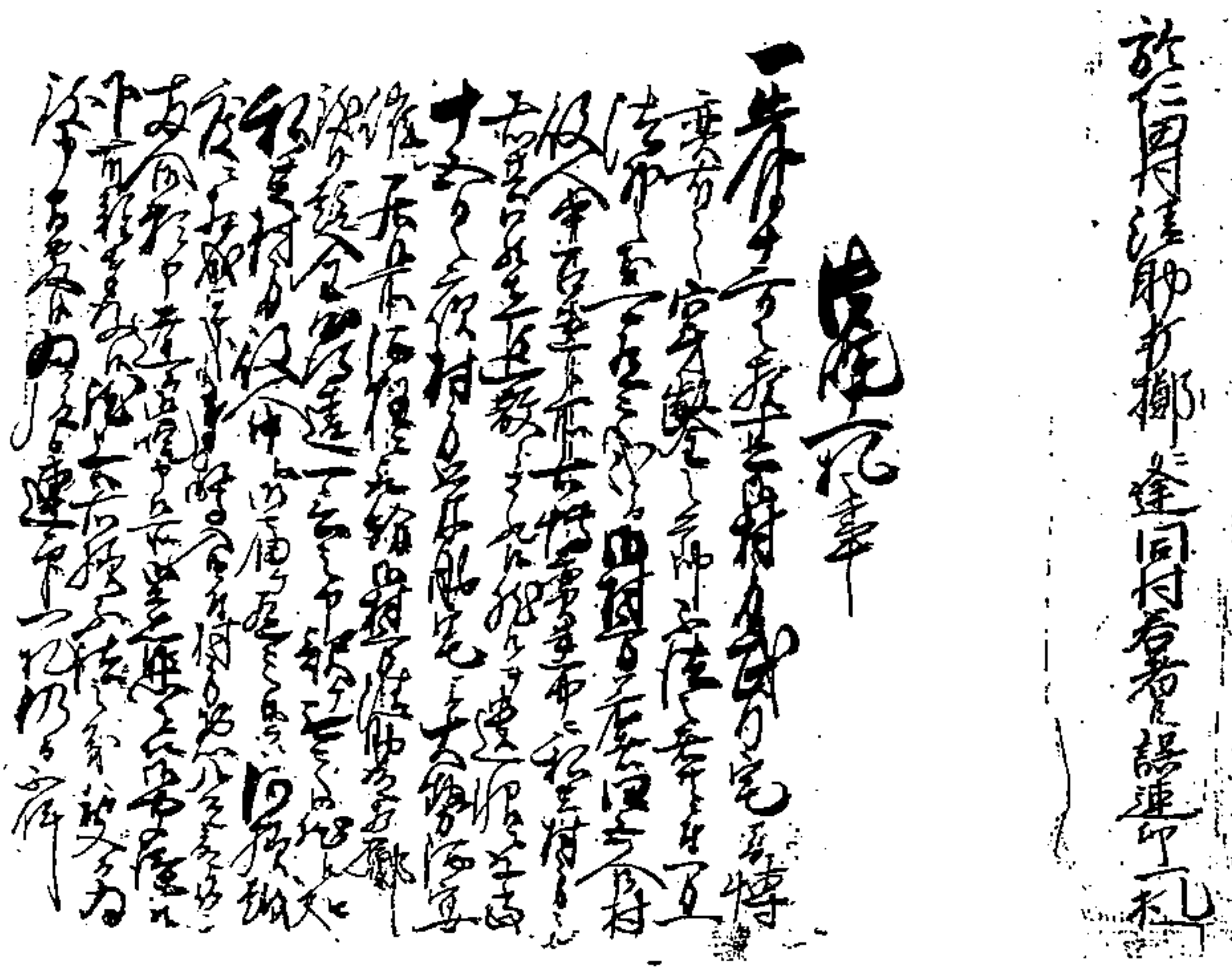
同 源蔵㊞

同 玄仙㊞

同 清助㊞

同 清蔵㊞

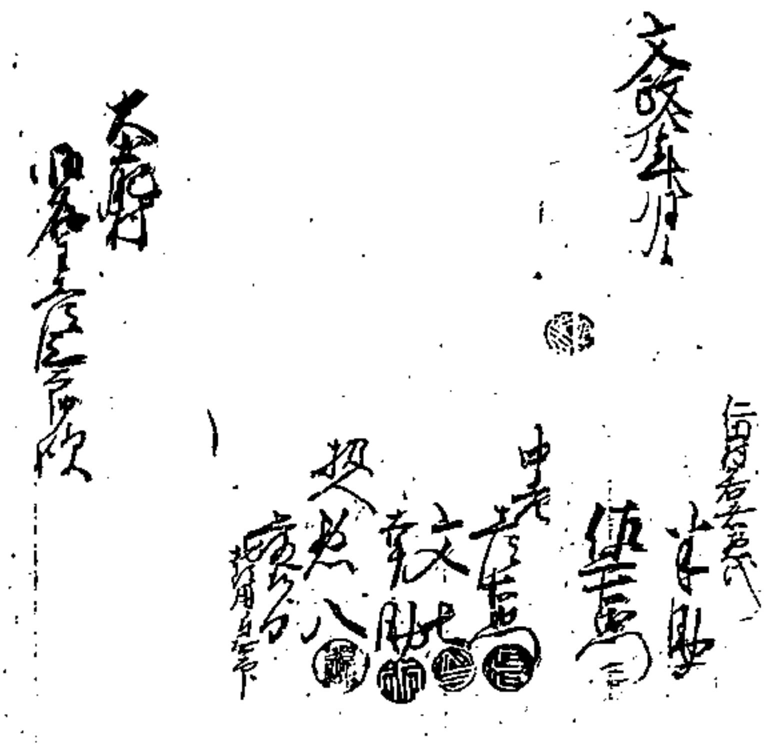
村
御役元
彦三郎殿
御年寄
茂兵衛殿



仁田村に於いて清助打擲ニ逢い同村若者共誤連印一札

御咤び申す一札之事

一、先月十二日之夜其御村方武右衛門宅ニて博奕之れ有り詮索之節不法之者共ニ付き万一法外之儀之れ有る可き哉ニて御村方若者四五人御村役人中召し連れ候所　右博奕連中ニ私共村方之者共罷り在り追い散らされ候　然ルヲ遺恨ニ存じ當十五日之夜村方栄助宅ニて大勢酒宴催シ居り候所　酒狂ニ取り紛れ御村方清助殿打擲致し候趣全く心得違い一言之申し訳之れ無く候然ル処私共村方役人中江御届ケ之れ有り候ヲ何様越度ニ相成る可き哉驚入り奉り候ニ付き村方惣八殿藤左衛門殿両人御頼み申し達而御咤び申し候所御慈悲を以って御聞済（被）下され有難く存じ奉り候　然る上は右様不法之儀は決而（為）致させ申す間敷く候後日の為連印一札仍而件の如し



文政八年八月　日

仁田村若者惣代
半　助
佐二右衛門
中老
彦右衛門 ㊞
文　七 ㊞
幸　助 ㊞
扱人惣　八 ㊞
藤左衛門
地頭用ニ付き無印

大土肥村
御名主彦三郎様

乍恐以書付御訴訟奉申上候

四谷忍町

家主五郎兵衛方同居

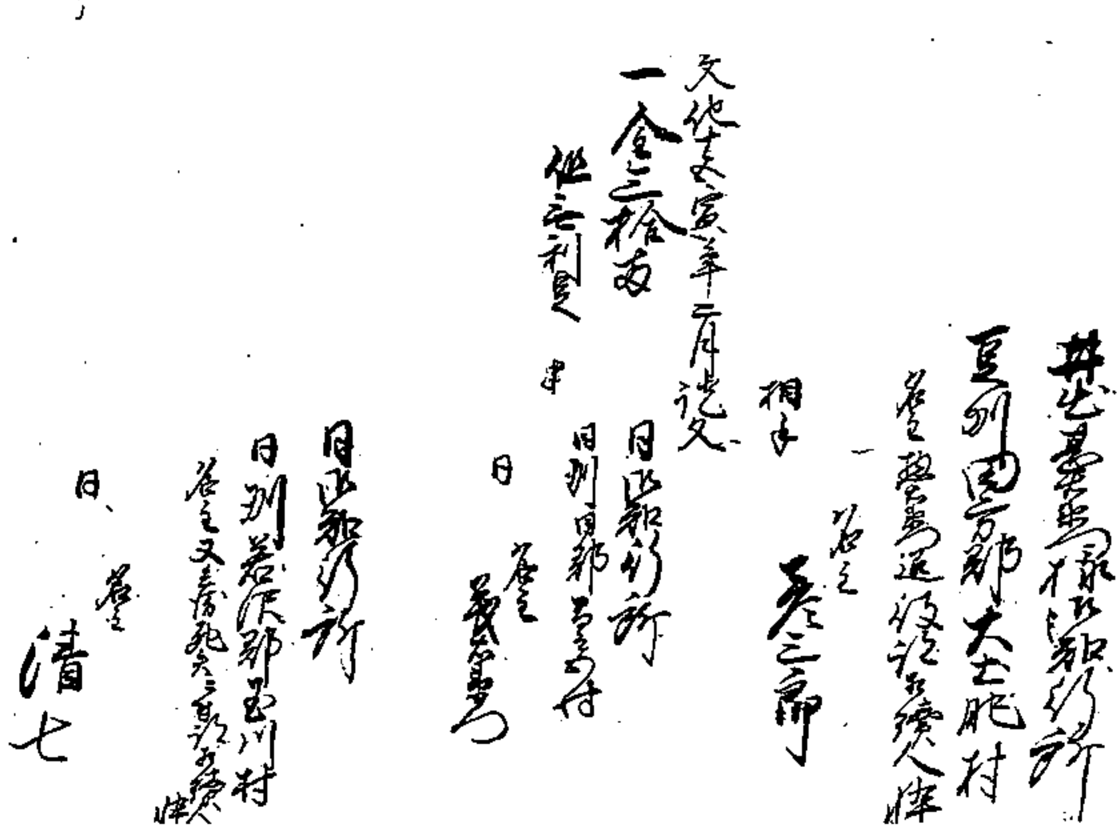
伊兵衛後家

登勢煩いニ付き代

右

訴訟人　五郎兵衛

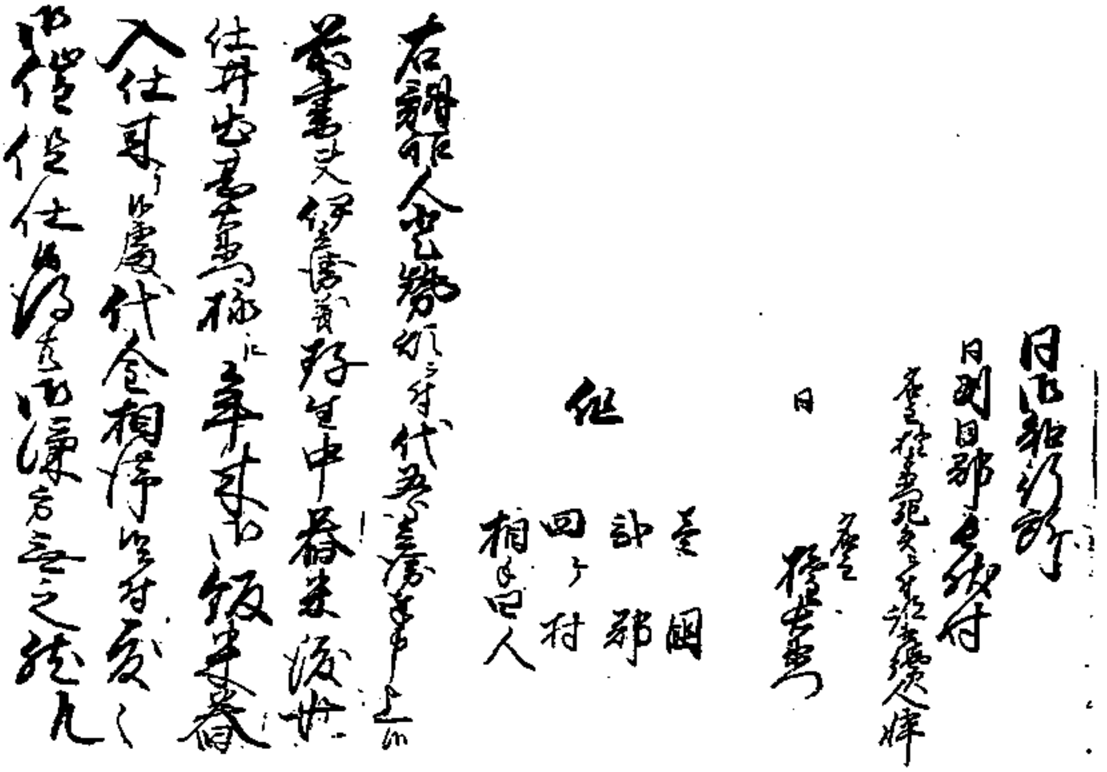
貸金滞り出入



井出甚右衛門様御知行所
豆州田方郡大土肥村
名主惣右衛門退役跡相續人倅
名主
相手　彦三郎

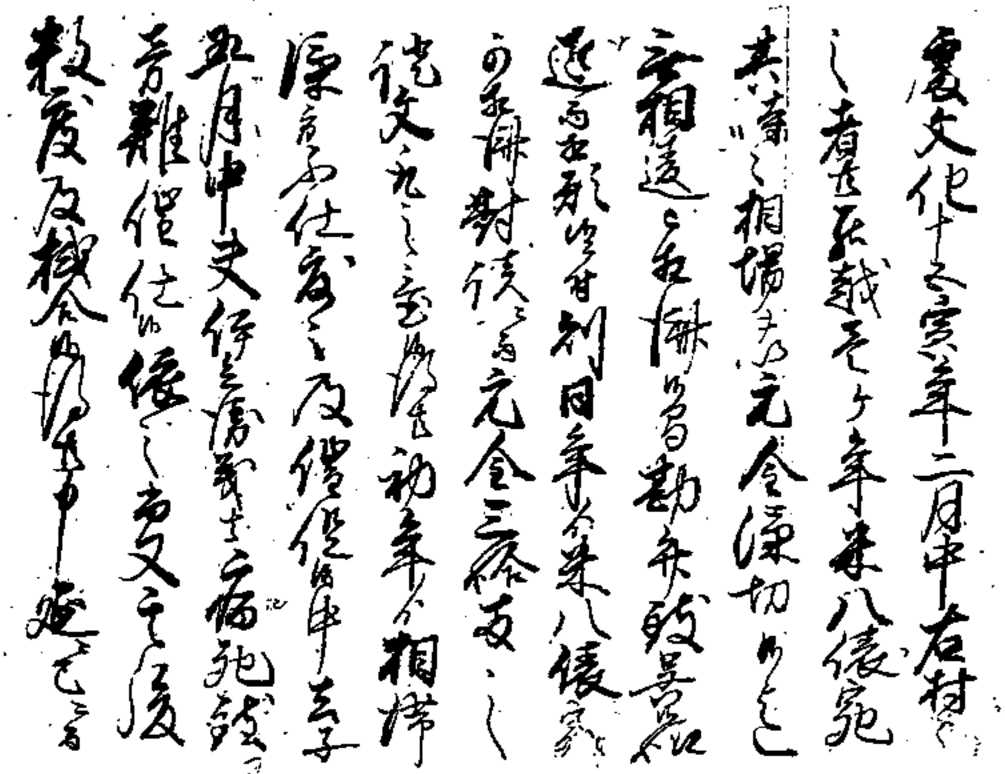
文化十五寅年二月證文
一、金三拾両　同御知行所
但し無利息
同州同郡間宮村
名主
同　茂右衛門

同御知行所
同州君沢郡玉川村
名主又兵衛死失ニ付跡相續人
倅
名主
同　清七

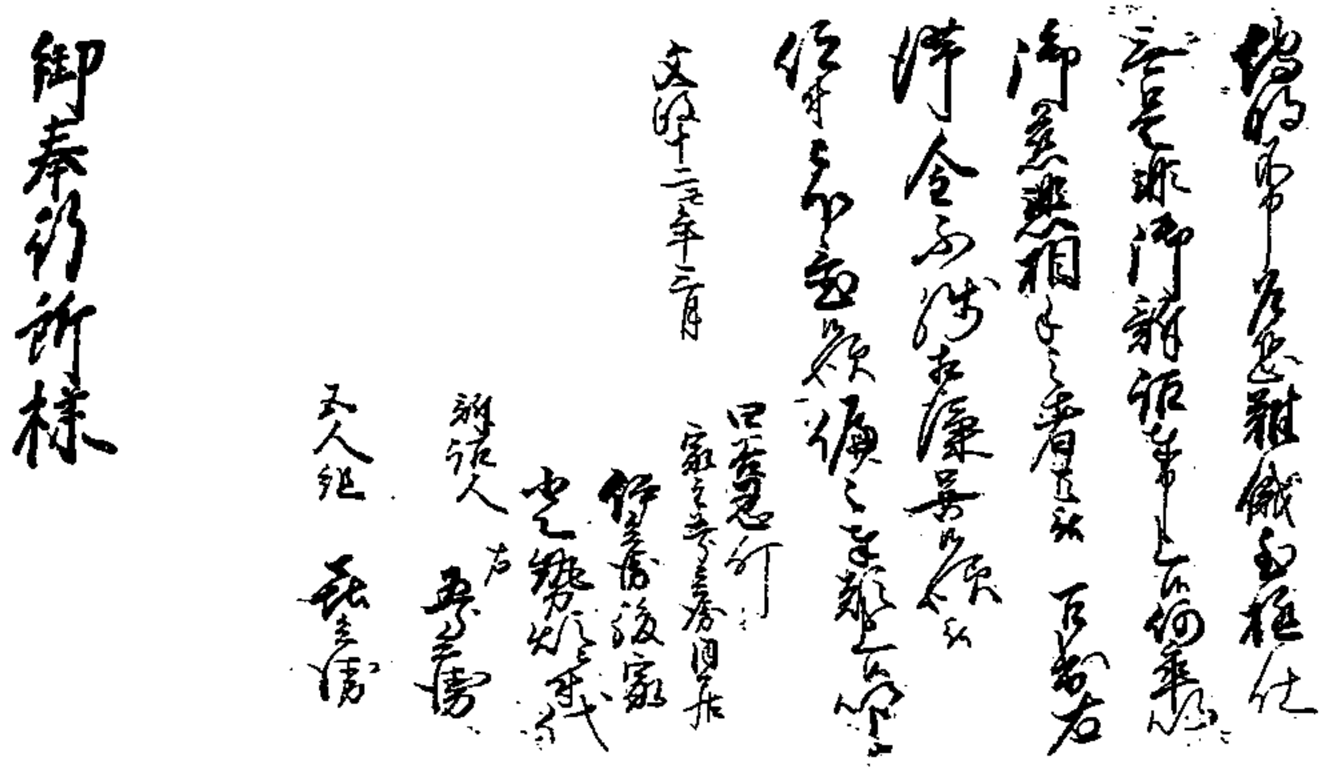


同御知行所
同州同郡長伏村
名主権右衛門死失ニ付跡相續人倅
同　名主　権右衛門
壱　國
但し　弐　郡
四ヶ村
相手四人

右訴訟人登勢煩いニ付き代五郎兵衛申上げ奉り候
前書夫伊兵衛も存生中舂米渡世
仕り井出甚右衛門様江年来御飯米舂き
入れ仕来たり候處　代金相滞り候ニ付き度々
御催促仕り候得共御済み方之れ無く　然ル



處文化十五寅年二月中右村々
之者共罷り越し壱ヶ年米八俵宛
其時々之相場ヲ以って元金済切り候迄
相違無く相濟まされ候間勘弁致し呉候様
達而(たって)相願い候ニ付き　則ち同年6米八俵宛
相濟ます可き対談ニて元金三拾両之
證文之れを取り置き候得共　初年6相滞り
済し方仕らず度々催促に及び候中去る子
五月中夫伊兵衛儀は病死致し
旁(かたがた)　難渋仕り候　之れに依り尚又其の後
数度掛け合いに及び候得共申し延べ而已(のみ)ニて

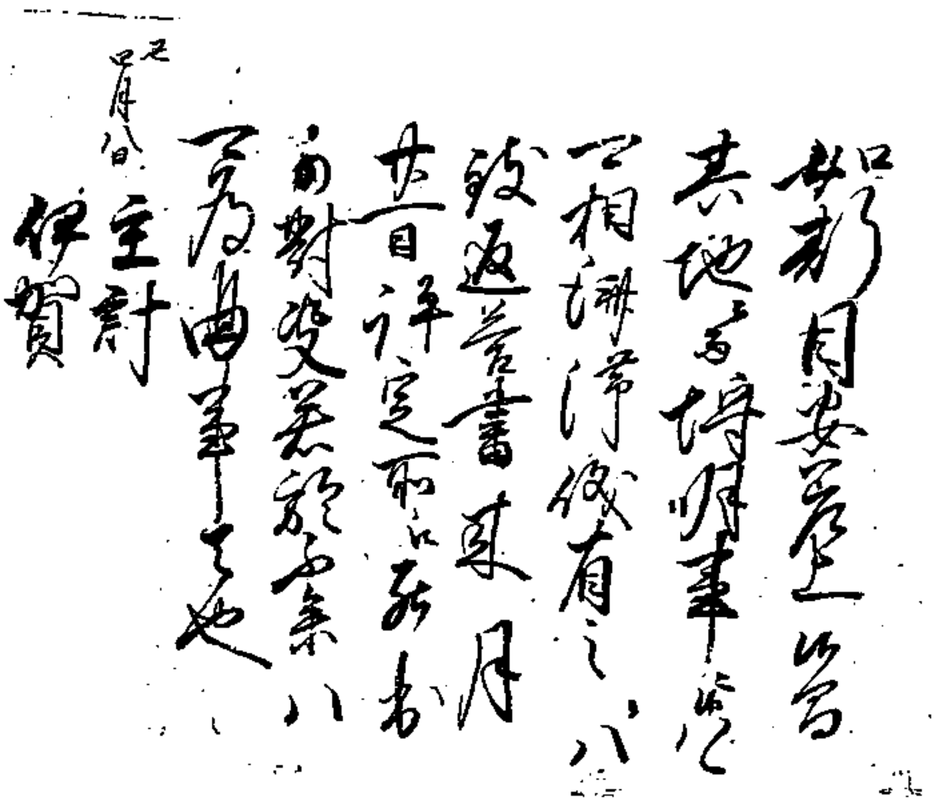


埒明き申さず恐れ乍ら難儀至極仕り
是非無く御訴訟申し上げ奉り候何卒（以）
御慈悲を以って相手之者共召し出され右
滞り金残らず相済み呉候様（被）
仰付けられ被下置（くだしおかされ）候様偏（ひとえ）ニ願上げ奉り候以上

文化十二丑年三月

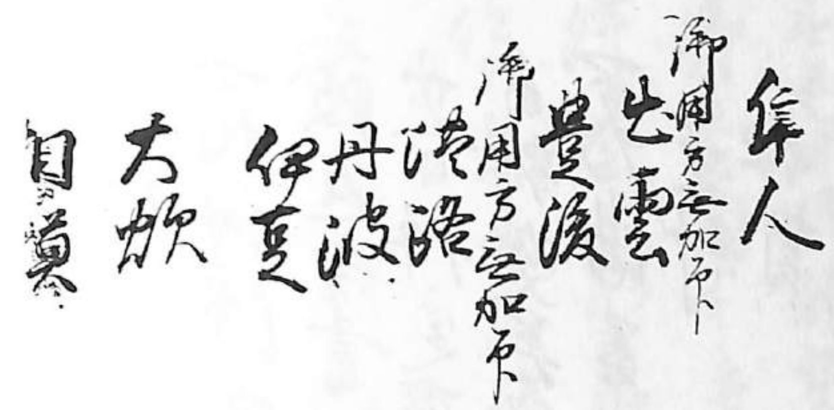
四谷忍町
家主彦兵衛同居
伊兵衛後家
登勢煩いニ付き代
右
訴訟人　五郎兵衛
五人組　喜兵衛

御奉行所様



斯くの如く目安差し上げ候間
其の地ニて埒明き事ニ候ハバ
滞り相済む可き儀之れ有らバ
返答書致し来月
廿一日評定所得罷り出で
對決す可し　若し不参に於いてハ
曲事たる可き者也

丑
四月八日　主計
伊賀

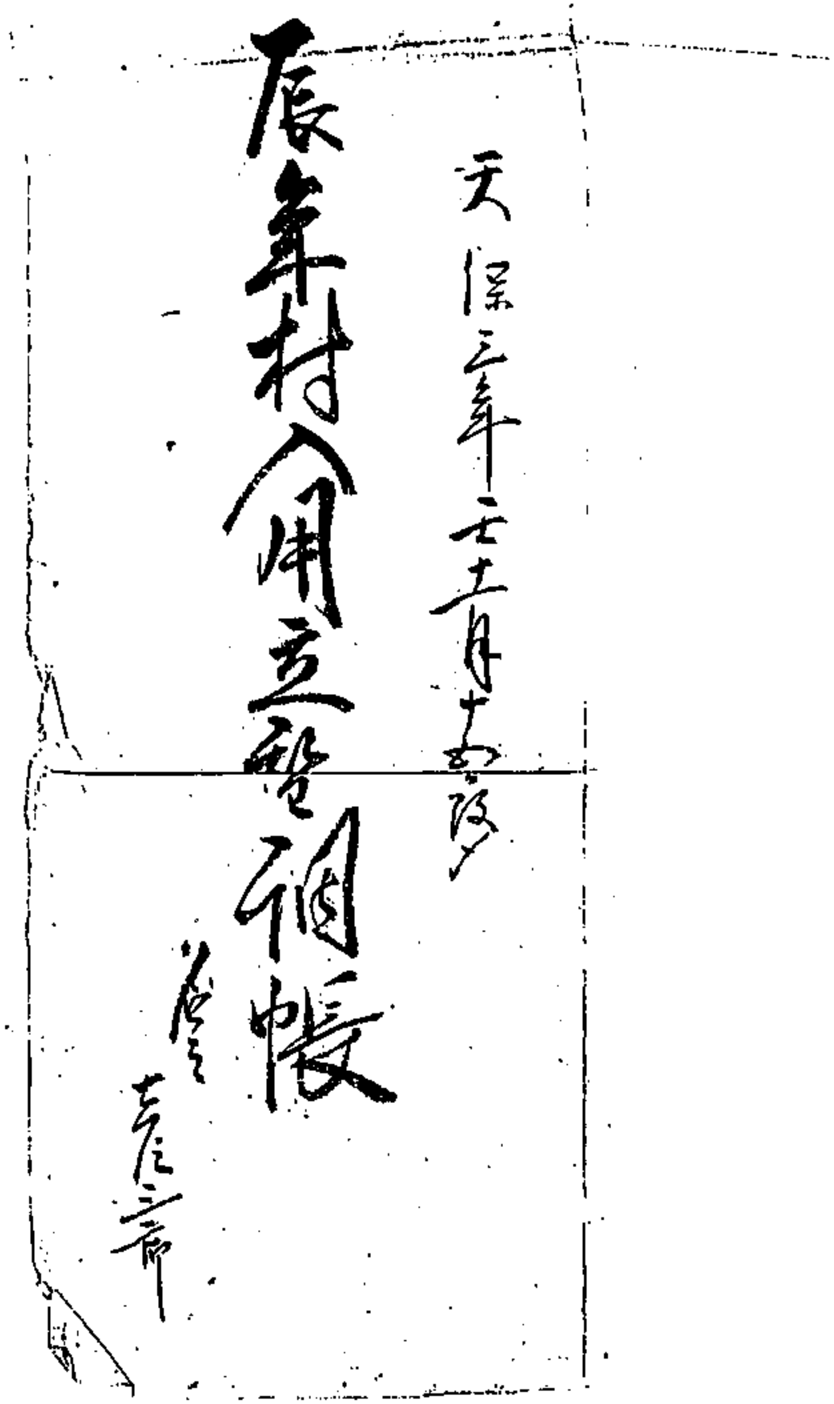

隼人
御用方無加印
出雲
豊後
御用方無加印
淡路
丹波
伊豆
大炊
相模

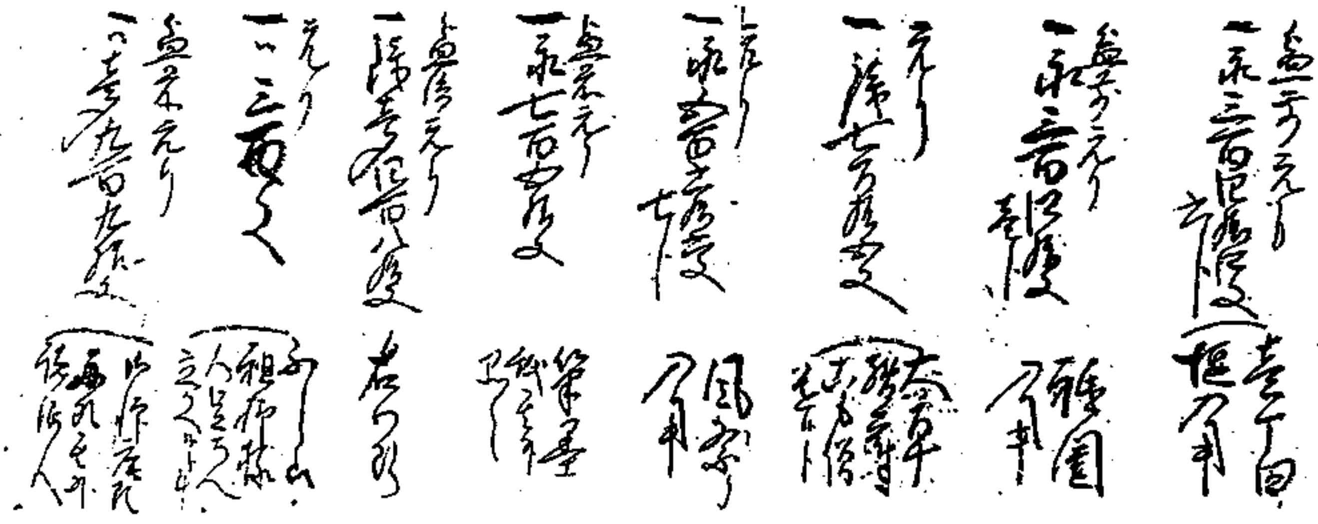
隼人
御用方無加印
出雲
豊後
御用方無加印
淡路
丹波
伊豆
大炊
相模

天保三年壬十二月十五日改メ

辰年村入用立替調帳

名主
彦三郎





盆前元り
一、永三百四拾四文六分　壱丁田堰入用

盆前元り
一、永三百四拾文壱分　祇園入用

元り
一、銭七百拾五文　大平駿府こも借遣い候分

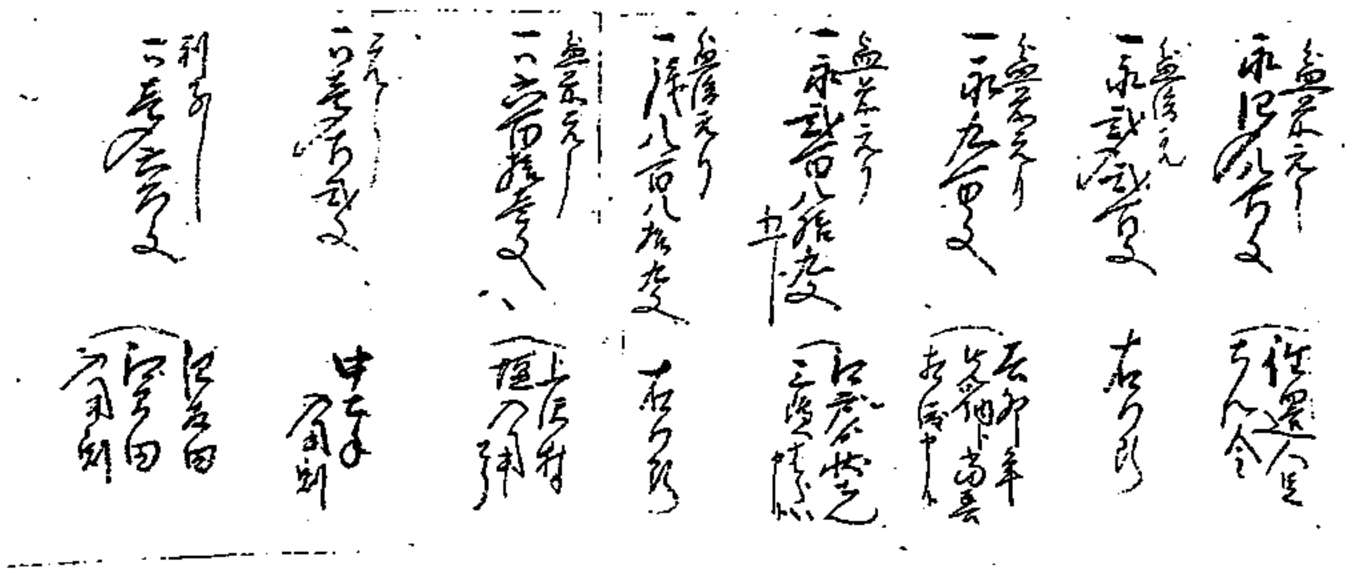
元り
一、永五百六拾六文七分　風祭ゥ入用

盆前元り
一、永七百五拾文　筆墨紙其外品々

盆後元り
一、銭壱貫四百八拾文　右同断

元り
一、〃三百文　ふじ山祖師様人足ちん立替候分計り

盆前元り
一、〃壱貫九百九拾文　御師座頭船頭其外諸浪人



盆前元り
一、永四貫八百文　往還人足ちん金

盆後元
一、永弐貫弐百文　右同断

盆前元り
一、永　九　百　文　去る卯年先納分當春相渡し申し候

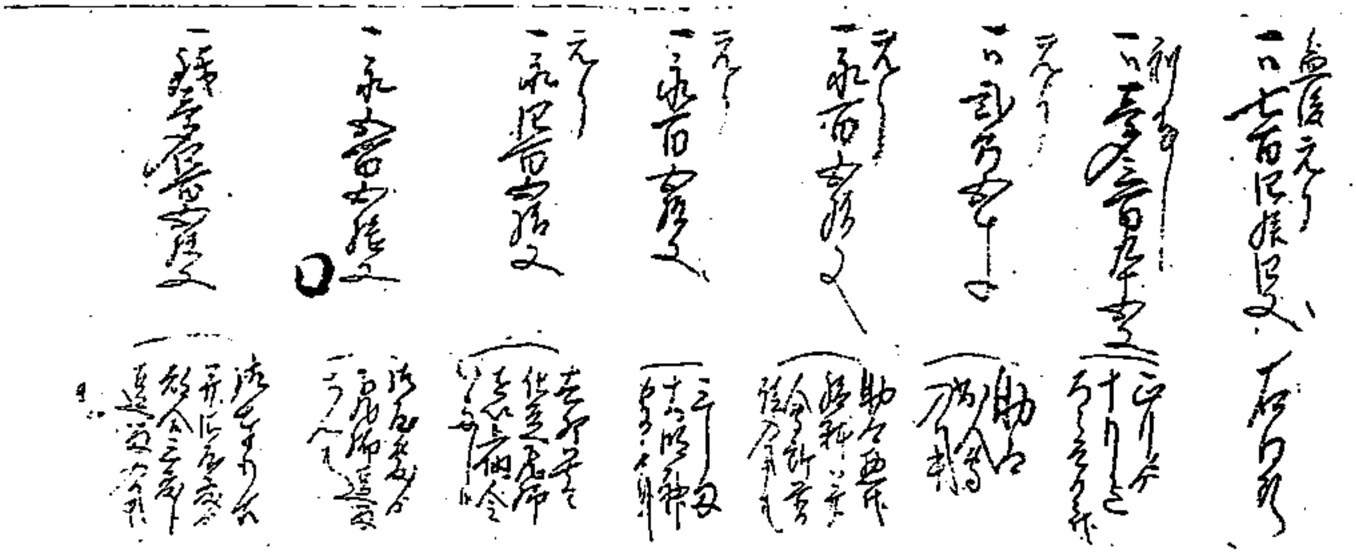
盆前元り
一、永弐百八拾九文五分　江戸ゟ状ちん三嶋へはらい申し候

盆後元り
一、銭八百八拾九文　右同断

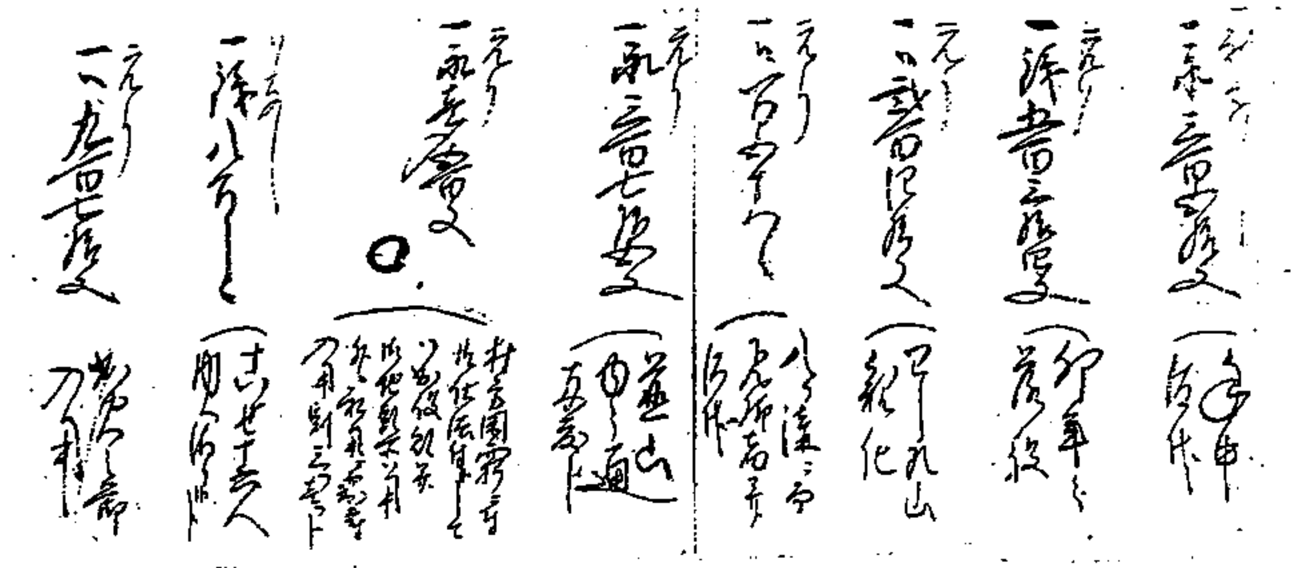
盆前元り
一、〃六百拾壱文　上沢村堰入用わり

元り
一、〃壱貫百弐文　中土手入用割り

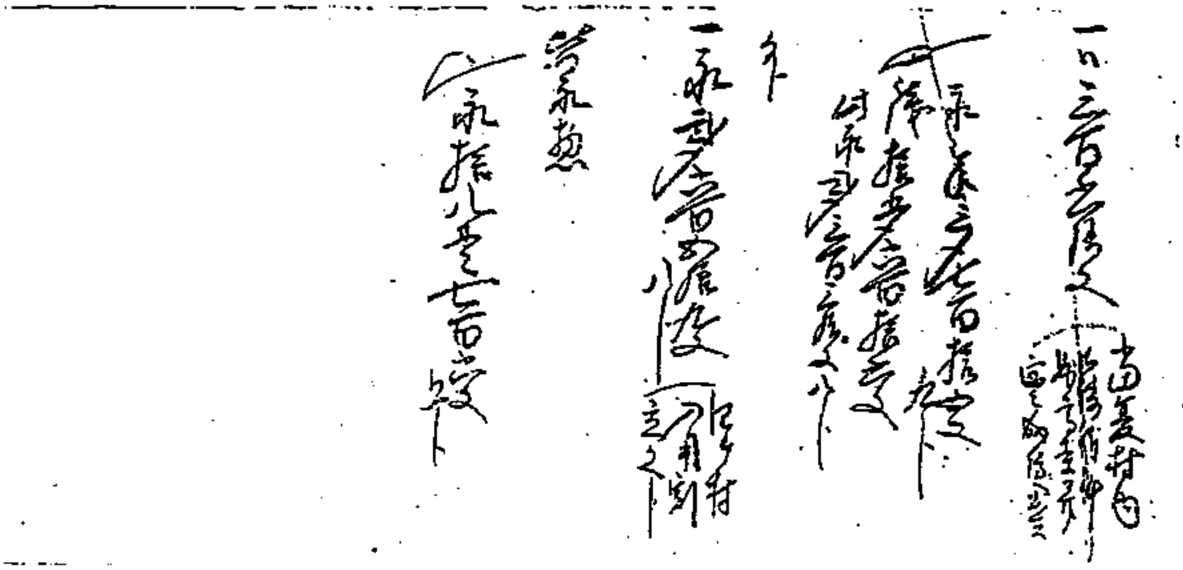
利なし
一、〃壱貫六百文　四反田江間田入用割り



盆後元り
一、〃七百四拾四文　右同断
利なし　正月ゟ
一、〃壱貫三百九十五文　十月迄
ろうそく代
元り　助郷
一、〃弐百五十文　出會い
入用
元り　助郷惣代
一、永百五拾文　給料并に
會所普
請入用共
元り　三しま
一、永百五拾文　大明神
宿□割り
元り　去る卯暮れ
一、永四百五拾文　仕立飛脚
を以て上納金
いたし候
御屋敷ゟ
一、永五百五拾文　○　飛脚逗留
ちん共
御奉行所
一、銭壱貫四百五拾文　并に御屋敷ゟ
都合三度分
逗留入用



利なし　年中
一、永三百五拾文　飯代
元り　卯年分
一、銭五百三拾四文　落役
元り　わし頭山
一、〃弐百四拾文　勧化
元り　八ッ溝ニて
一、〃百五十八文　飛脚者并に
酒代
元り　韮山
一、永三百七拾五文　ゆう通
両度分
村方困窮ニ付き
元り　御仕法付として
一、永壱貫五百文　御出役願并に
○御地頭所御用
外に私用ニて出府
入用割り三ッ壱ッ分
りなし　ごぜ十六人
一、銭八百文　内へ泊り候分
元り　出火之節
一、〃九百七拾文　入用



一、〃三百六拾文　當夏村内御祈祷料妙高寺并に實成坊へ遣わス

〆永拾三貫七百拾五文九分

銭拾五貫六百拾六文

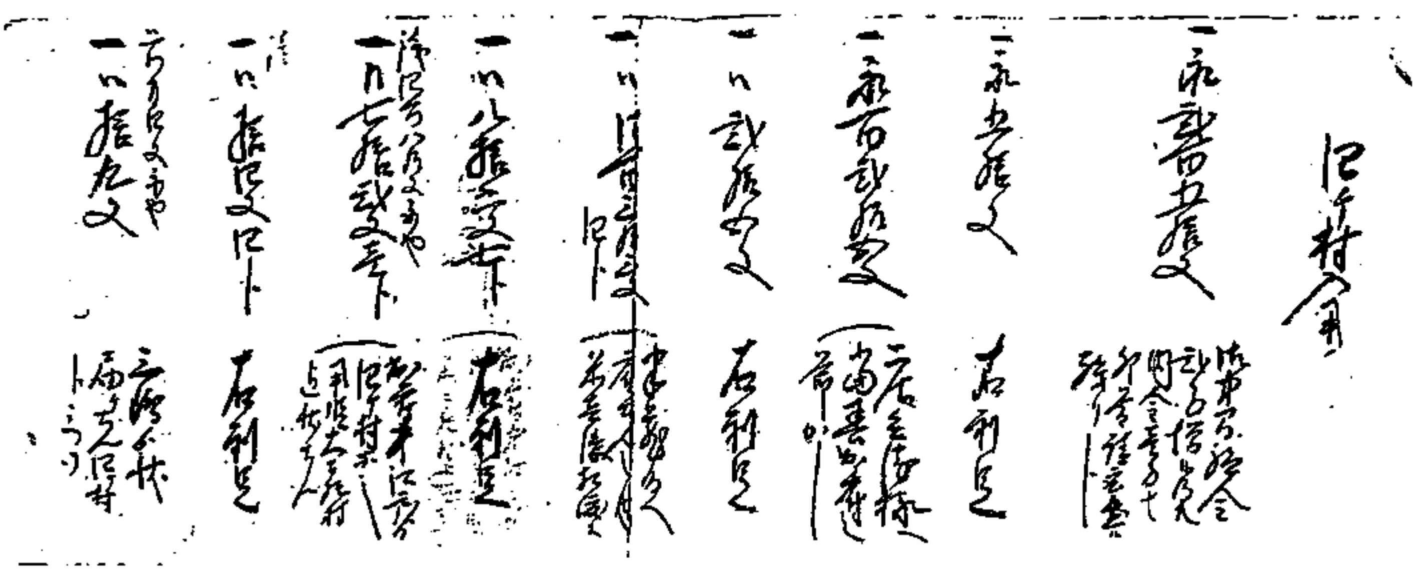
此永弐貫三百三拾文八分

外

一、永弐貫六百五拾九文八分　四ヶ村入用割り立かへ分

皆永惣

〆永拾八貫七百六文六分



四ヶ村入用

一、永弐百五拾文　御中間給金
弐分増し候得共
内金壱分は
夘暮れ請け取り置き候
残り分

一、永五拾文　右利足

一、永百弐拾五文　庄兵衛様へ
當春出府之
節かし

一、〃弐拾五文　右利足

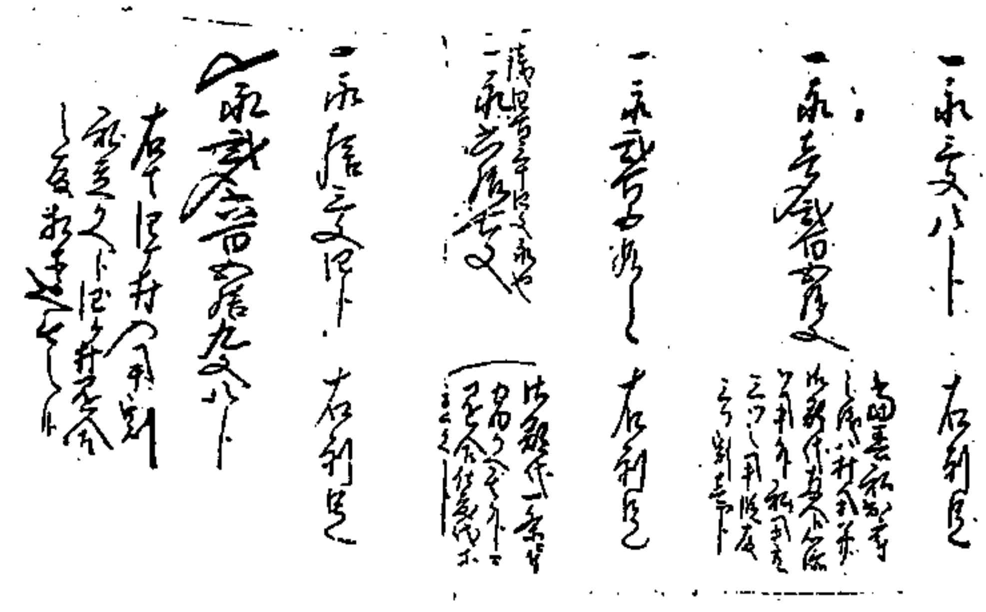
一、〃四百三拾三文
四分　半蔵殿へ
雇ちん之内
米壱俵相渡ス

一、〃八拾六文七分　右利足

銭四百八拾文永也
一、〃七拾弐文壱分　出府方江戸ゟ
四ヶ村等之
用談大土肥村
追状ちん

一、〃拾四文四分　右利足

〃百廿四文永也
一、〃拾九文　三嶋ゟ状
届ケちん四ヶ村
分三ッ



一、永三文八分　右利足

一、永壱貫弐百五拾文　當春私出府之儀ハ村用并に御郡代両人ェ心添御用外私用共三ッ之用談故三ッ割り壱ッ分

一、永弐百五拾文　右利足

銭四百三十四文永也
一、永六拾七文　御郡代一条ニ付き宿かへ其外ニ懸け合い支度代等立かへ分

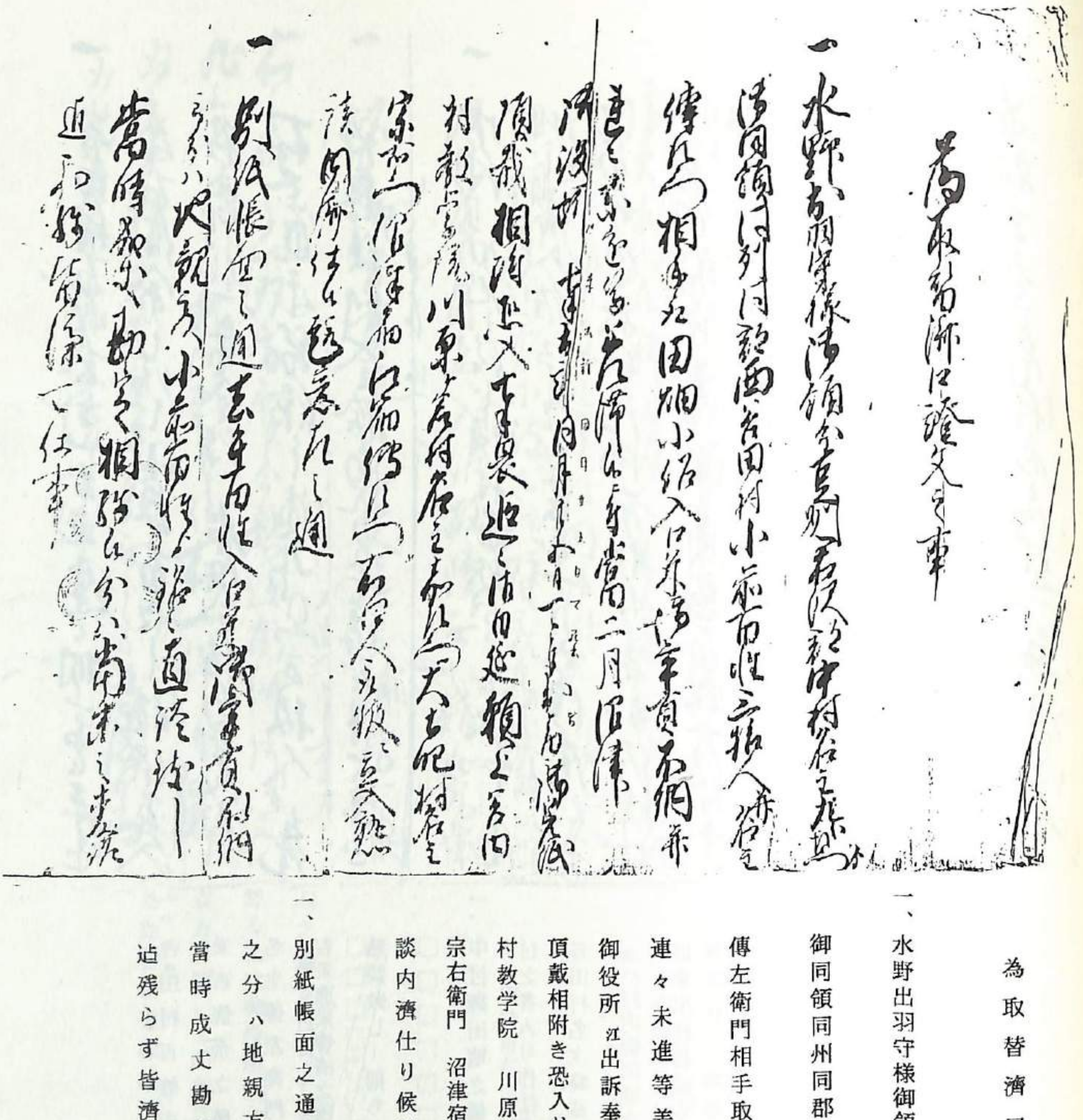
一、永拾三文四分　右利足

〆永弐貫六百五拾九文八分

右は四ヶ村入用割り
私立かへ分四ヶ村懸け合い
之故相違之れ無く候

E 類

標　題	差出人	請取人	年月日	
1、為取替済口證文之事（小作入口米御年貢不納等ニ付）	中村谷田村		文政六年三月（一八二三）	167
2、議定書（入会山の炭焼について）	大竹村名主幸左衛門他二十名		文政十年十一月（一八二七）	171
3、石工勘定諸入用扣　内勘定			文政十一子年九月吉日改（一八二八）	176
4、侘一札之事（小間物渡世不筋あるにつきわび）	川原ケ谷村　大土肥 住居平兵衛㊞	大土肥村 彦三郎	天保五年二月二十六日（一八三四）	182
5、差上申一札之事（上リ地ニ成再小作）	大土肥村組頭 惣右衛門他一名	地頭所内 土屋織部	天保十三年二月（一八四二）	184
6、乍恐書付を以奉願上候（箱根山附秣場入会、炭焼出し之儀）	桑原村 名主政五郎他	韮山役所	文久三年十二月（一八六三）	185
7、乍恐書付を以奉願上候（箱根山附秣場入会、岸焼出し之儀）	桑原村 名主政五郎他	韮山役所	文久三年十二月（一八六三）	187
9、乍恐書付ヲ以御受奉申上候（箱根山秣場入会炭焼出し受領方）	繁右衛門他三名	韮山役所	文久四年二月（一八六四）	188
10、差上申一札之事（箱根山秣場生立木之事）	庫治郎	名主圓助	元治元年七月（一八六四）	189
11、差上申御受書之事（箱根炭焼）	塚本村他三村	江川手付	元治元年九月（一八六四）	191
12、奉差上御受書之事（箱根山炭焼、用水争論）	大土肥、間宮	御地頭？役人	元治二年三月（一八六五	192
13、為取替申規定書之事（炭千百拾三俵焼出）				
14、石運送人足銘々割渡勘定（畑毛持出人足分）				
15、（箱根山御囲御林内大炮鋳立御用炭）				
16、多田家外（吹直金銀引替御用）			未七月	



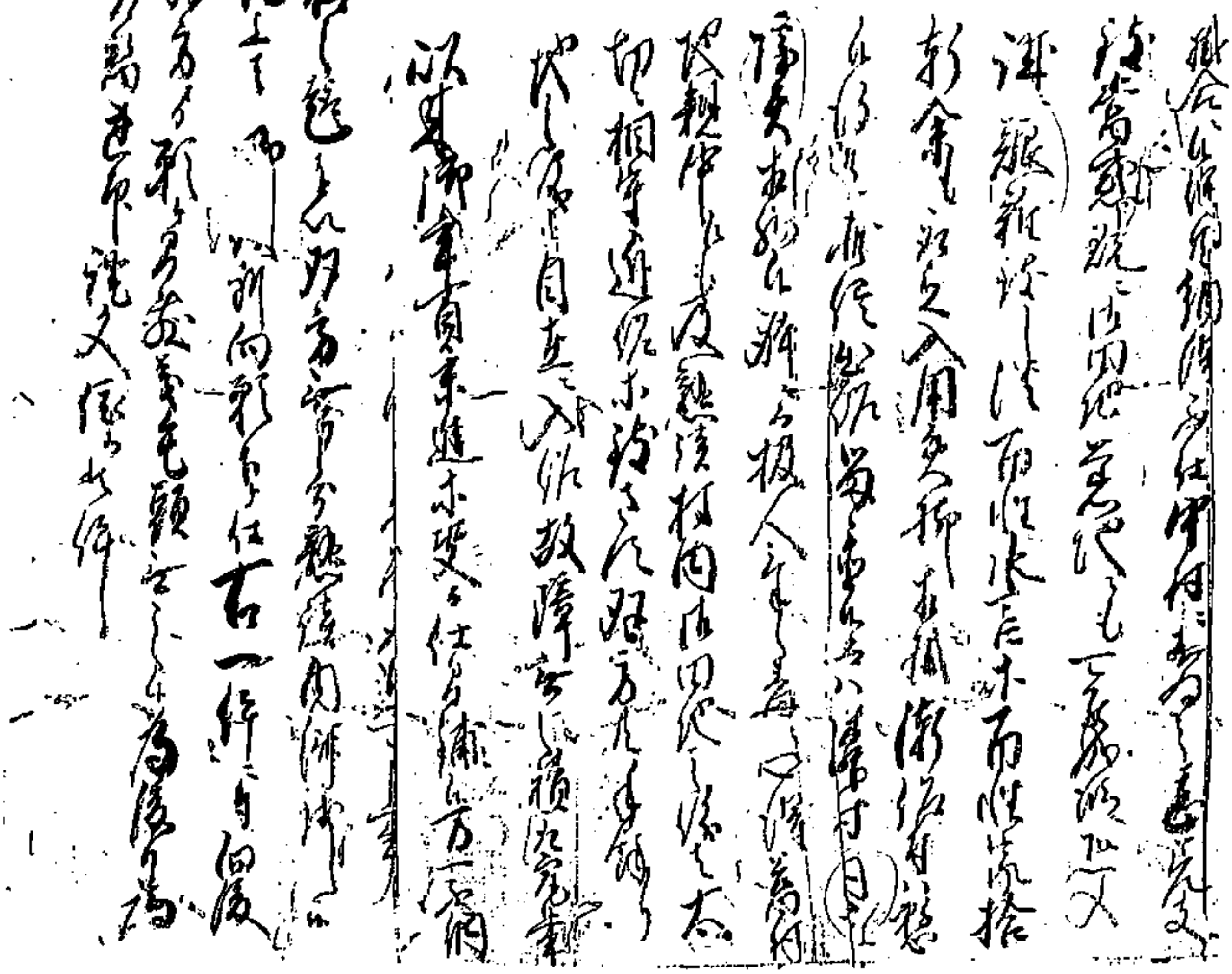
為取替濟口證文之事

一、水野出羽守様御領分豆州君沢郡中村名主九郎左衛門ゟ
御同領同州同郡西谷田村小前百姓三拾人并に名主
傳左衛門相手取り田畑小作入口米御年貢不納并に
連々未進等差し滞り候ニ付き當二月沼津
御役所ヱ出訴奉り同月廿五日罷り出可き旨御差紙
頂戴相附き恐入り畏み奉り追々御日延べ願い上げ谷田
村教学院　川原ヶ谷村名主嘉左衛門　大土肥村名主
宗右衛門　沼津宿郷宿傳左衛門右四人取扱いニ立入り熟
談内濟仕り候趣意左之通り

一、別紙帳面之通り去る午百姓入口米御年貢不納
之分ハ地親方へ小前百姓ゟ銘々直談致し
當時成丈勘定相残り候分ハ當未之麦作
迠残らず皆濟仕る可き事

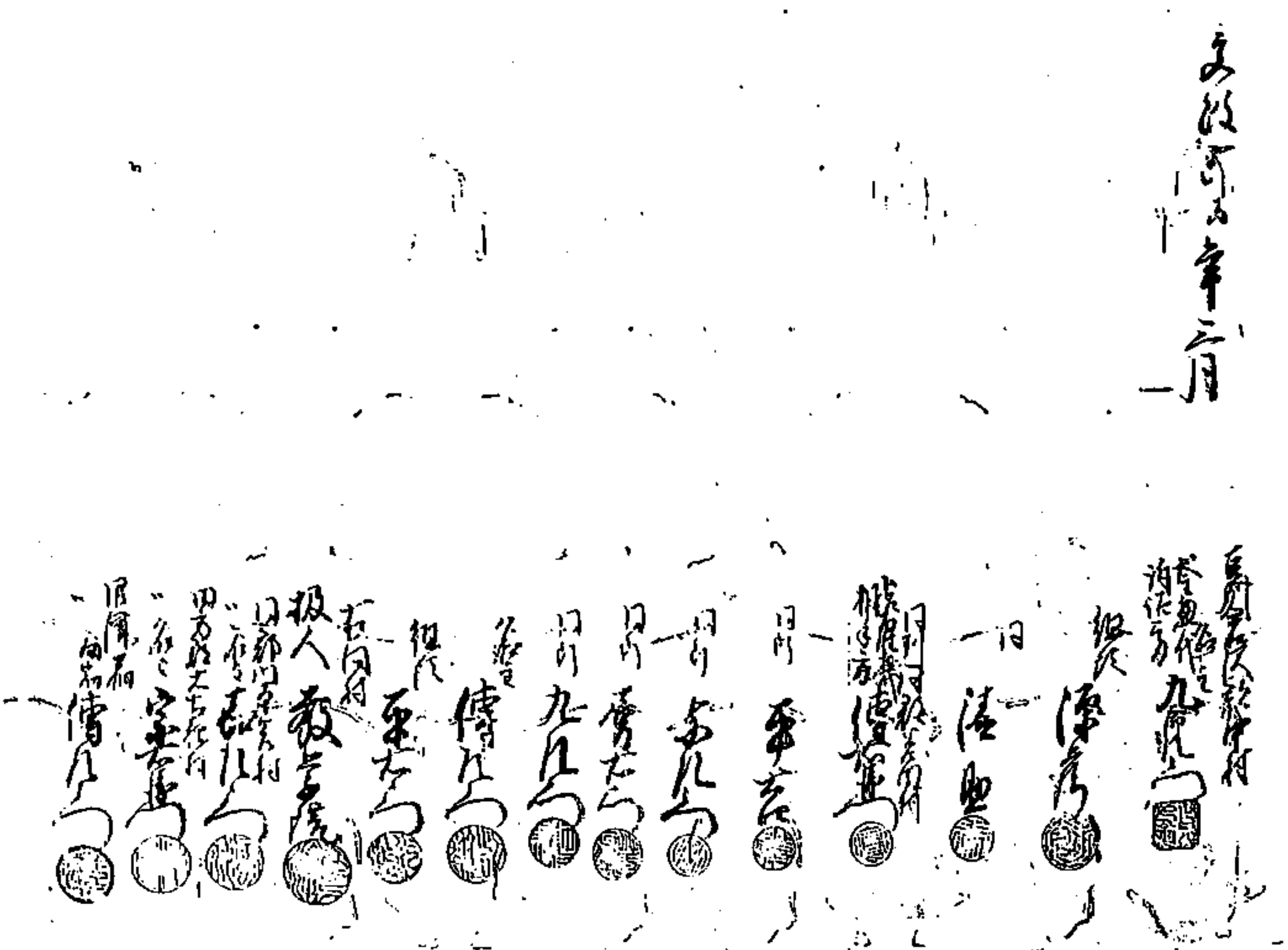
一、谷田村百姓去々巳年迄連々相嵩(かさ)み候未進米百俵余之儀は小前百姓之難渋察し入れ名主傳左衛門弁金致し　當金拾両差し出し右未進米皆済之積もり　九郎左衛門方へ扱い人ゟ相詫び熟談致し　則ち金拾両九郎左衛門請け取り連々未進□□□□□□□□

一、中村御田地之儀は同村家数少ニ付き前々従(よ)り谷田村之者入り作仕来り候処去る午十月五日御蔵付き之節谷田村名主郷蔵場に於いて百姓召しよせ出作致し候而(て)ハ村内御田地之為ニ相成らざる趣百姓一統江申し聞け以来出作相成らざる旨名主傳左衛門ゟ厳敷く取り□連印之れを取り急度申し聞け候ニ付き出作之分俄かニ地親方ゟ差戻し　中村作付け方差支え難儀に及び谷田村教学院　川原ヶ谷村名主嘉左衛門両人相頼み去る冬谷田村名主傳左衛門江熟談之儀及び



掛合いニ候得共納得仕らず中村ニをゐて甚だ差支え
當惑致し既ニ御田地荒れ地ニも罷り成る可き段恐れ入り
誠ニ艱難致し潰れ百姓水呑等百姓家拾
軒余も取立て入用失脚相掛かり　漸く作付けハ整い
候得共　此侭出作留め置き候而ハ隣村同□
壊失相成り候躰ニて　扱い人気之毒ニ心得谷田村
地親中江も熟談に及び村内御田地之儀は大
切ニ相守り近作等致さず双方共に手餘り
地之儀は自在ニ入り作故障之れ無き積もり取り究め候事

一、以来御年貢未進等決而仕る間敷候　万一不納
□□□□□□□□□□□□□□
右之趣を以って双方申し分無く熟談内済致し候
然る上は御役所向き願い下ケ仕り　右一件ニ付き向後
双方ゟ願いヶ間敷き義毛頭之れ無く候　後日の為（為）
為取替せ連印證文依而件の如し

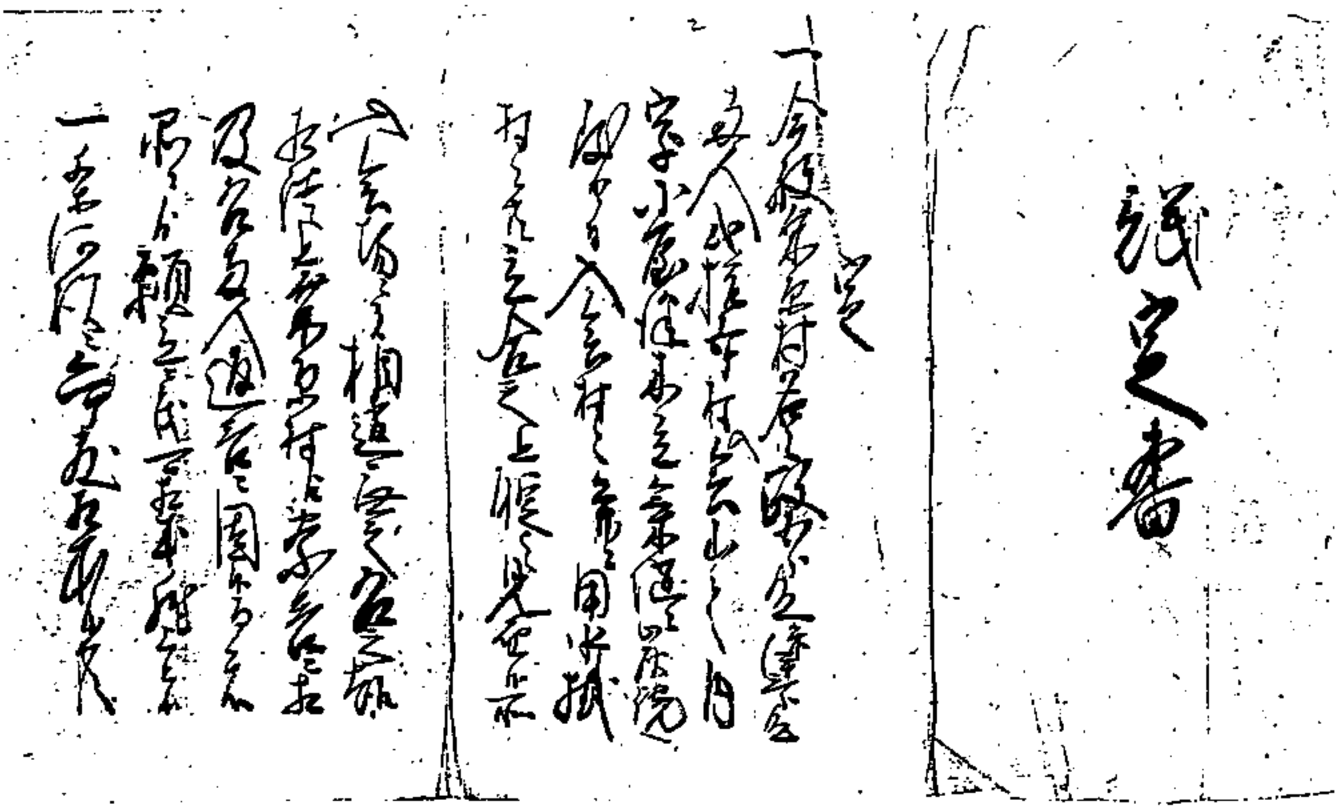


文政□酉年三月

豆州君沢郡中村
名主
地主惣代
訴訟方　九郎左衛門 印
組頭　源蔵 印
同　清助 印

同州々群谷田村
拾百姓惣代
相手方　傳右衛門 印
同断　平吉 印
同断　与左衛門 印
同断　勇右衛門 印
同断　九左衛門 印
名主　傳左衛門 印
組頭　平右衛門 印

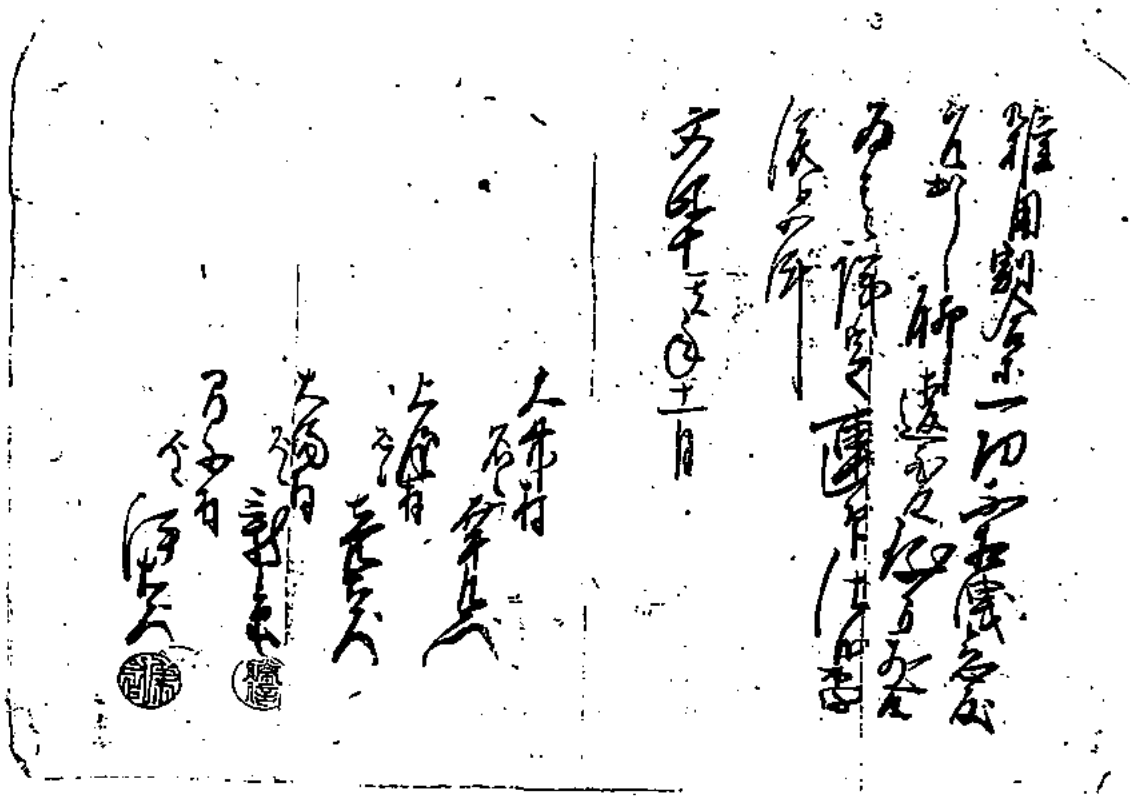
右同村
扱人　教学院 印
同郡川原ヶ谷村
〃名主　嘉左衛門 印
同郡大土肥村
〃名主　宗右衛門 印
沼津宿
〃郷宿　傳左衛門 印



議定書

定

一、今般桑原村名主政五郎殿并に伊三郎殿
両人弐拾五ヶ村入会山之内
字小屋澤木立へ参り慥ニ炭焼き
致し候ニ付き　入会村々并に用水掛かり
村々共立合い之上聢与見届け候所
入会場ニは相違之れ無く右之趣
相談之上桑原村江察答ニ相
及び　右両人返答ニ困り候ては
品々ゟ願い立てニも相成る可く然る上は
一条何様ニ六ヶ敷く相成り候共



雑用割合等一切相洩れず急度

差出し聊違変致し間敷く候

其為御議定連印仕り候處

依而件の如し

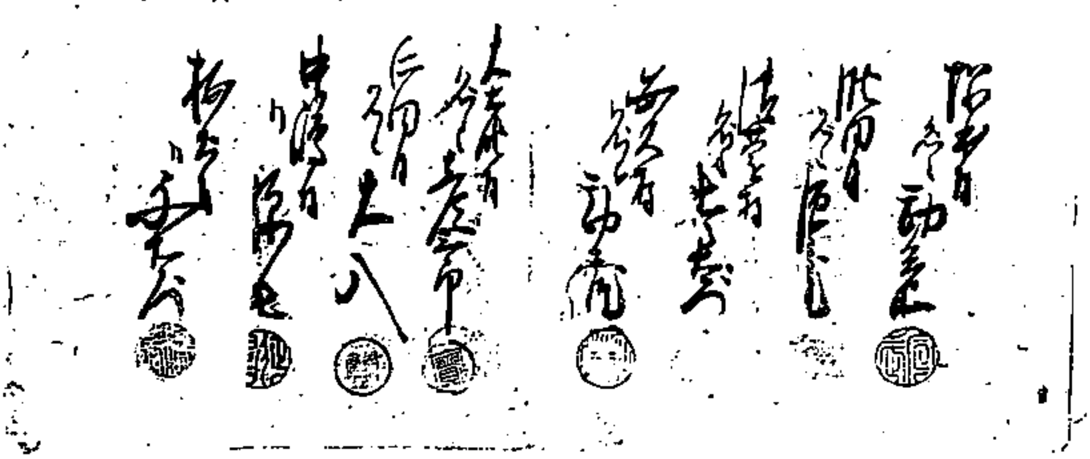
文政十亥年十一月

大竹村
名主　幸右衛門

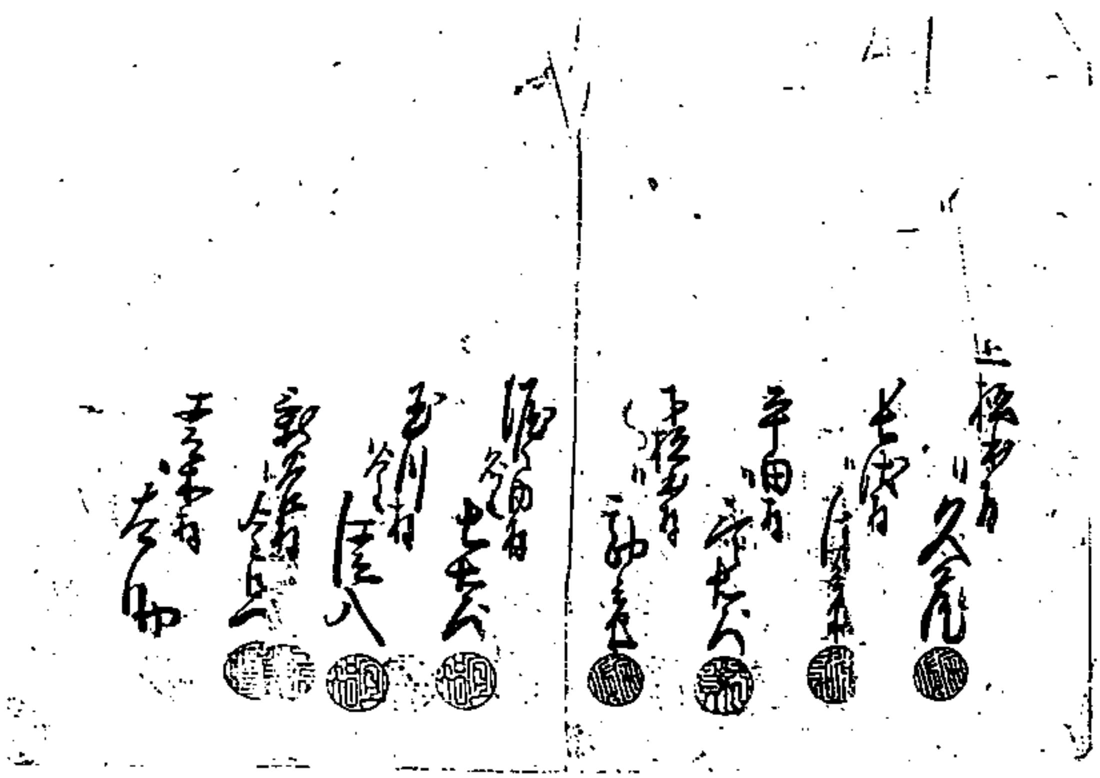
上沢村
名主　喜右衛門

大場村
名主　新兵衛　㊞

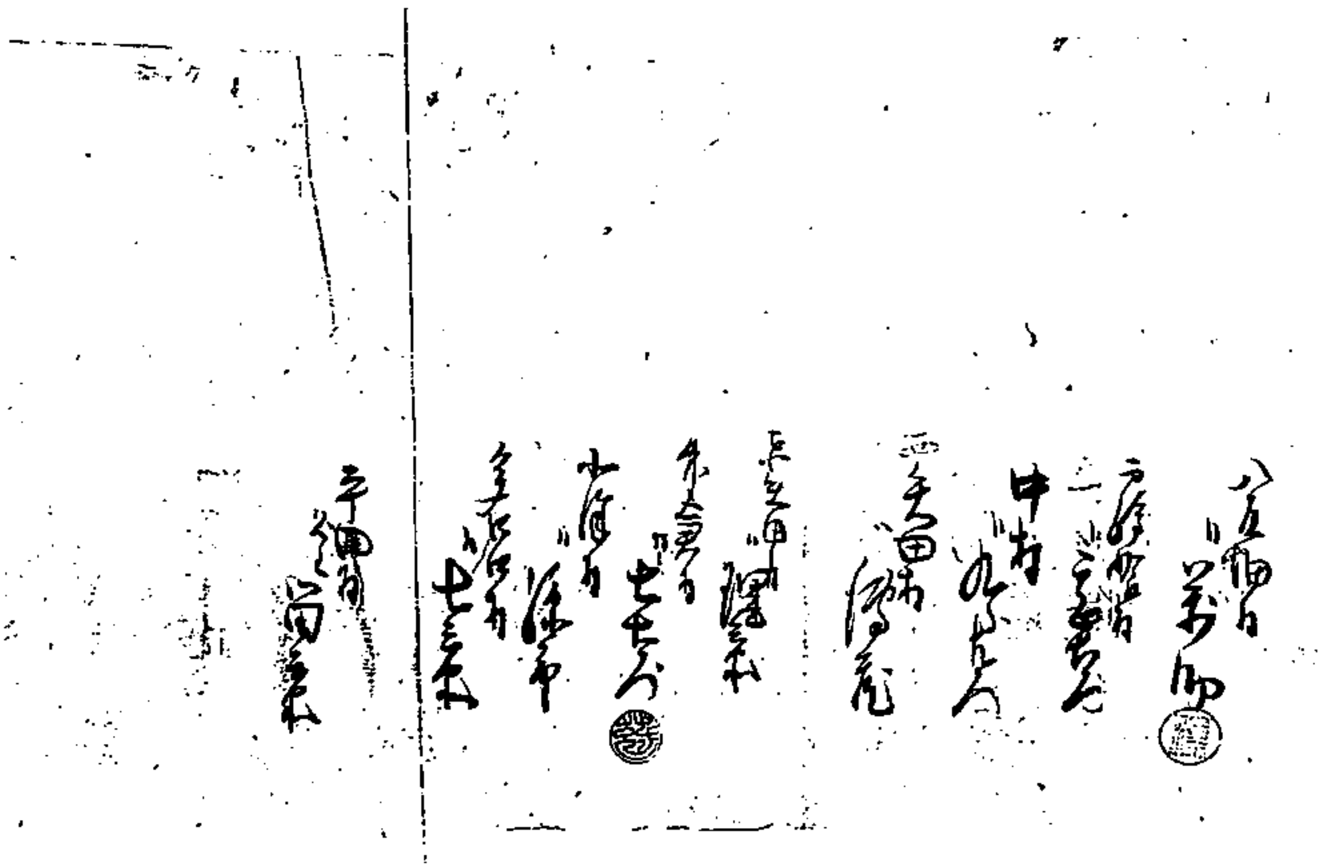
間宮村
名主　伊右衛門　㊞



塚本村
名主 勘兵衛 ㊞
肥田村
名主 源蔵 ㊞
御園村
名主 七郎左衛門 ㊞
安久村
名主 勘蔵 ㊞
大土肥村
名主 彦三郎 ㊞
仁田村
名主 大八 ㊞
中嶋村
〃 源七 ㊞
梅名村
〃 与右衛門 ㊞



上松本村 〃 久　蔵㊞
長伏村 〃 茂兵衛㊞
平田村 〃 三郎右衛門㊞
下松本村 〃 勘兵衛㊞
堀之内村 名主 七右衛門㊞
玉川村 名主 清　八㊞
新谷村 〃 金左衛門㊞
青木村 〃 太　助㊞



八反畑村
〃 栄助 ㊞

鶴喰村
〃 甚右衛門

中村
〃 九郎左衛門

西矢田村
〃 傳蔵

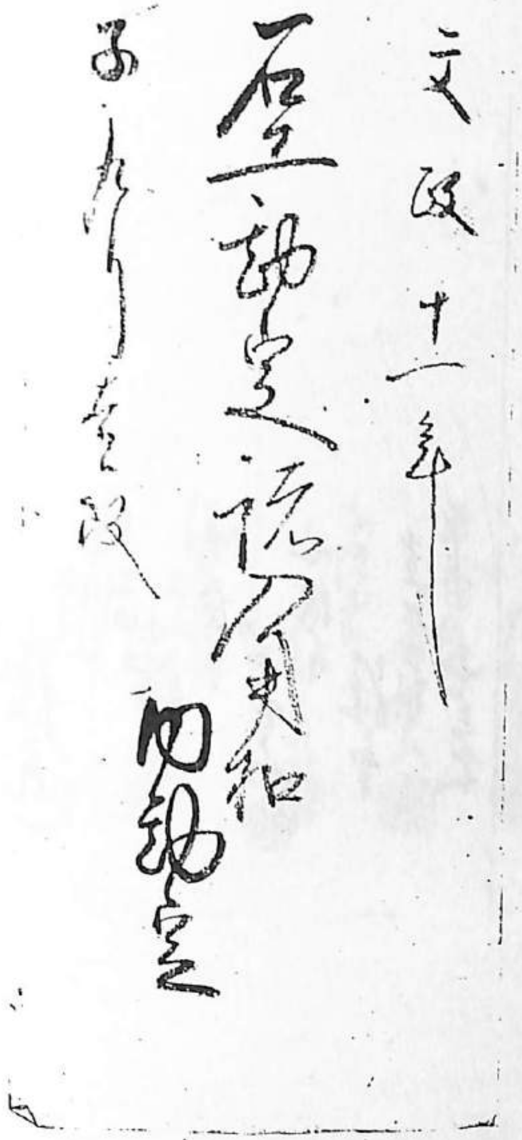
東矢田村
名主 理兵衛

竹倉村
名主 七右衛門 ㊞

北澤村
〃 孫市

多呂村
〃 七兵衛

平田村
名主 留兵衛

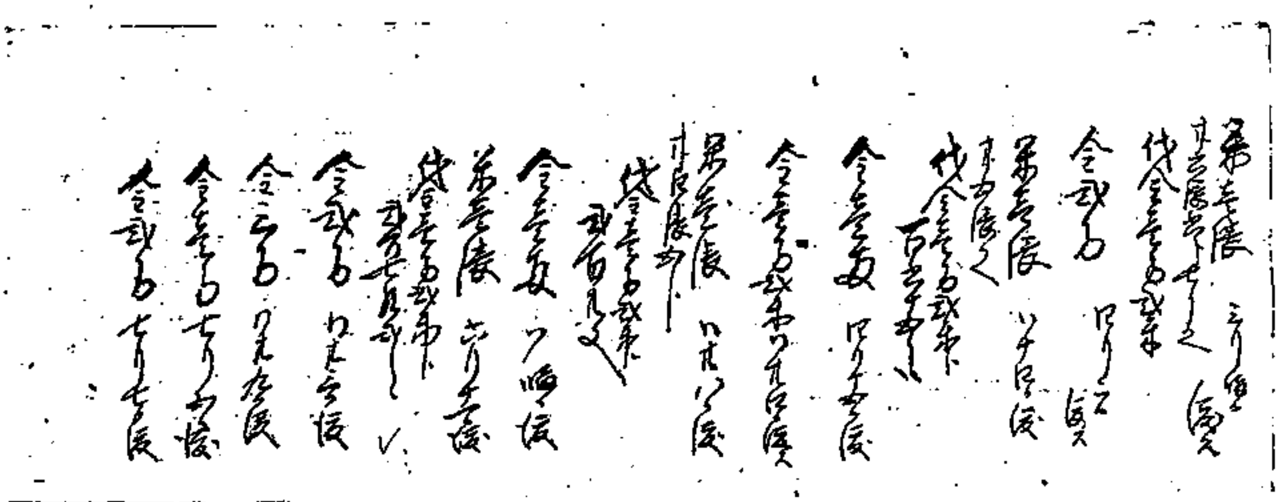


文政十一年

石工勘定諸入用扣(ひかえ)

内勘定

子九月吉日改



米　壱　俵　三月晦日渡ス
廿六俵六分七厘かへ
代金壱分弐朱
金　弐　分　四月二日渡ス
米　壱　俵　〃十四日渡
廿五俵かへ
代金壱分弐朱ト
百六十五文
金　壱　両　四月十五日渡
金壱分弐朱　〃廿四日渡ス
米　壱　俵　〃廿八日渡
廿四俵五分
代金壱分弐朱
弐百廿文
金　壱　両　〃晦日渡
米　壱　俵　六月十一日渡
代金壱分弐朱ト
弐百七拾弐文
金　弐　分　同廿三日渡
金　三　分　同廿九日渡
金　壱　分　七月五日渡
金　弐　分　七月七日渡

一、金五両壱分　石垣築立
七坪仕上げ共

一、金壱両弐分　橋石四本
但し七尺五寸
仕上げ共

一、金三両　橋懸けかへ
仕上げ手傳い人足共

一、金弐分　志ろゝもん
踊石尤も是ハ
外ニ御座候

一、銀三匁　切り出候石置所
あしき二付き取直し
ちん銭

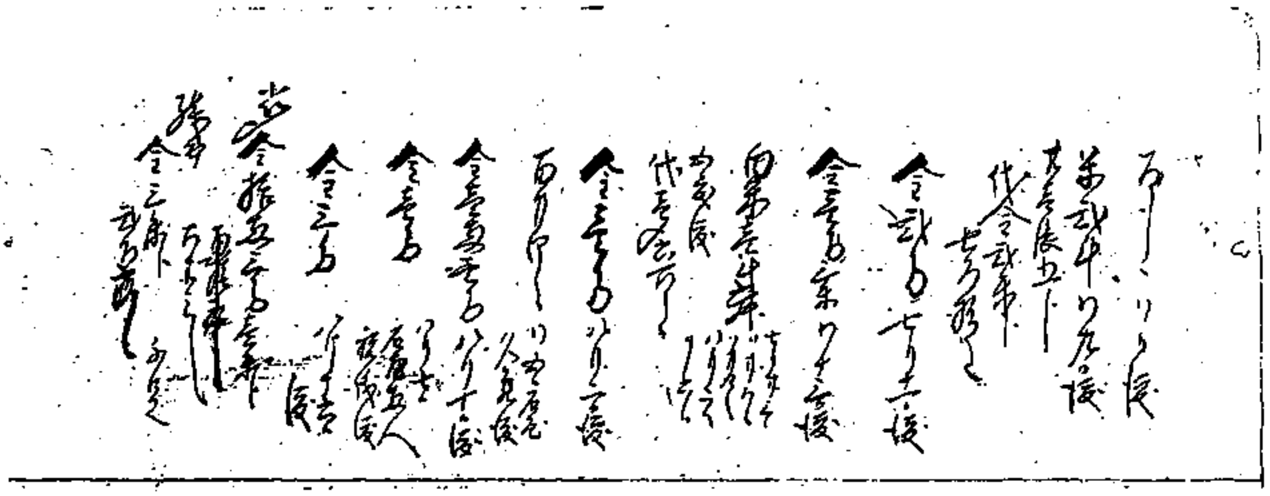
〆金拾両壱分　三匁

外
金弐分　石屋棟梁に
遣わス

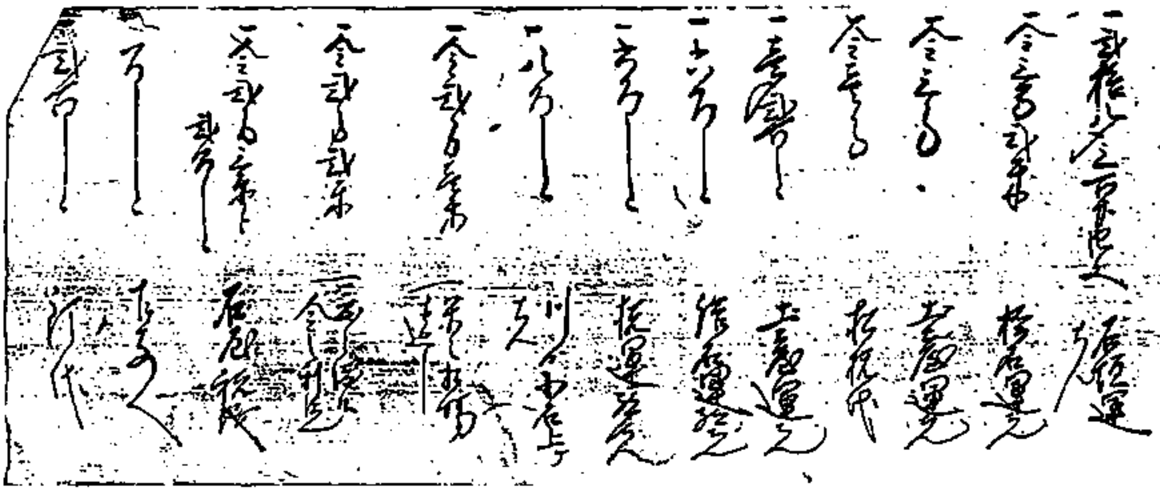
金壱分　石屋若ニ
両人遣わス

惣〆金拾壱両ト　三匁

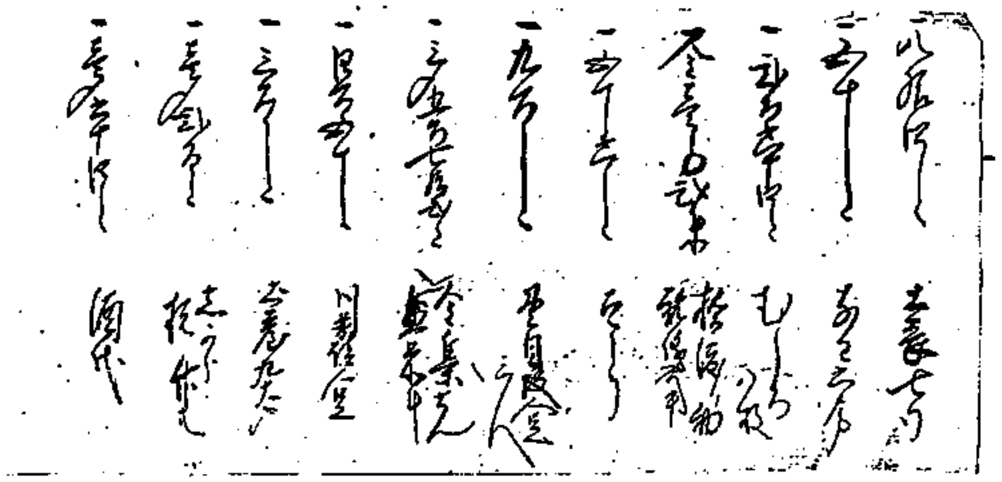
内
三月十日
給所米壱俵　石屋渡
廿六俵六分七厘かへ
代金壱分弐朱
白米三升　同　断
代金弐百廿四文



百文　〃日渡
米弐斗　同九日渡
廿壱俵五分
代金弐朱ト
七百拾文
金弐分　七月十一日渡
金壱分三朱　同十三日渡
七月廿日
白米壱斗六升　〃廿八日
〃廿九日
八月二日
〃六日
五度渡
代壱貫六百文
金壱分　八月二日渡
百廿四文　同五日石屋
久蔵渡
金壱両壱分　八月十日渡
八月七日
金壱分　石屋両人
祝儀渡
八月十六日
金三分
小以〆金拾両三分壱朱ト渡
百廿三文
残両
金三朱ト　不足
弐百六文



一、弐拾八貫三百廿四文　石垣運ちん
一、金三分弐朱　橋石運ちん
一、金三分　土臺運ちん
一、金壱分　松杭代
一、壱貫弐百文　土臺運ちん
一、六百文　詰石運び駄ちん
一、六百文　杭運び駄ちん
一、八百文　川ゟ小石上ヶちん
一、金弐分壱朱　米之相場違い分
一、金弐分弐朱　度々渡し候金之利足
一、金弐分三朱ト弐百文　石屋祝儀
一、百文　右両人
一、弐百文　釘代



一、八拾四文　土俵七ツ

一、五　十　文　なわ六房

一、弐百六十四文　むしろ八枚

一、金壱分弐朱　橋渡り初め祝儀入用

一、五十六文　ぞうり

一、九　百　文　貫目改め人足三人

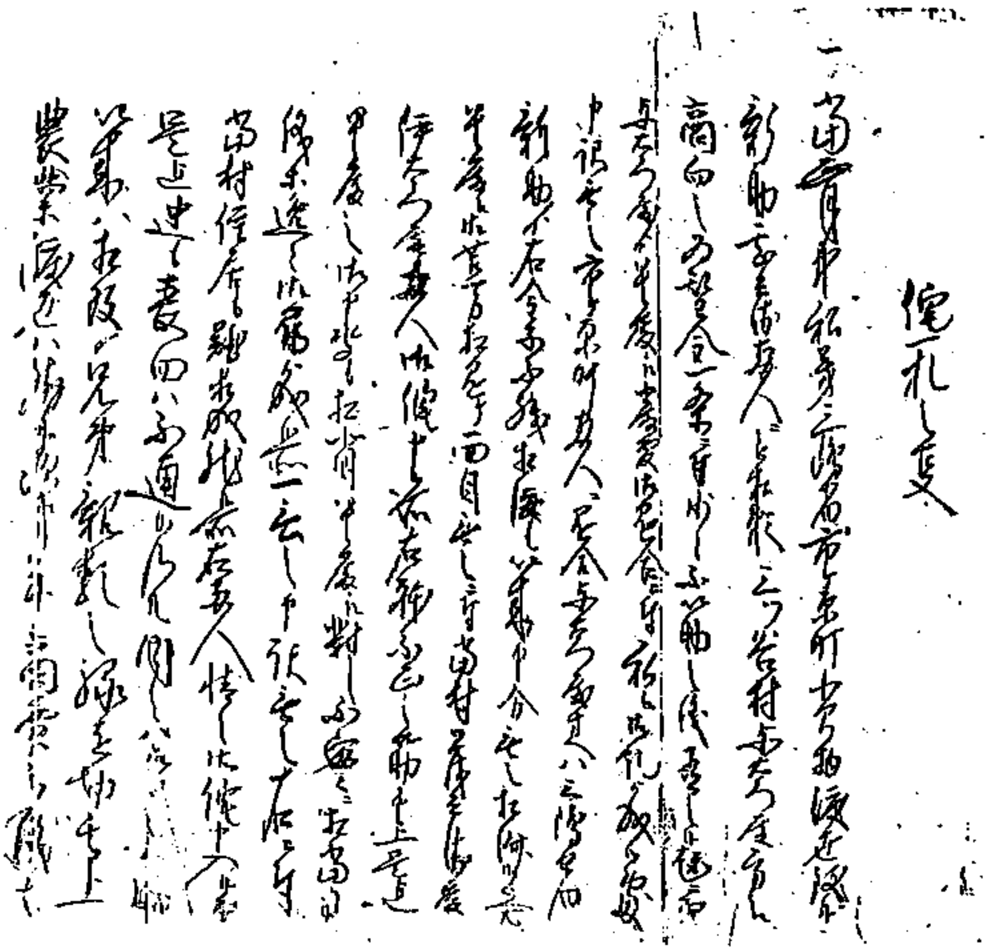
一、三貫五百七拾弐文　金集めちん盆前計り

一、四百五十文　川普請人足

一、三　百　文　土臺丸太しがら

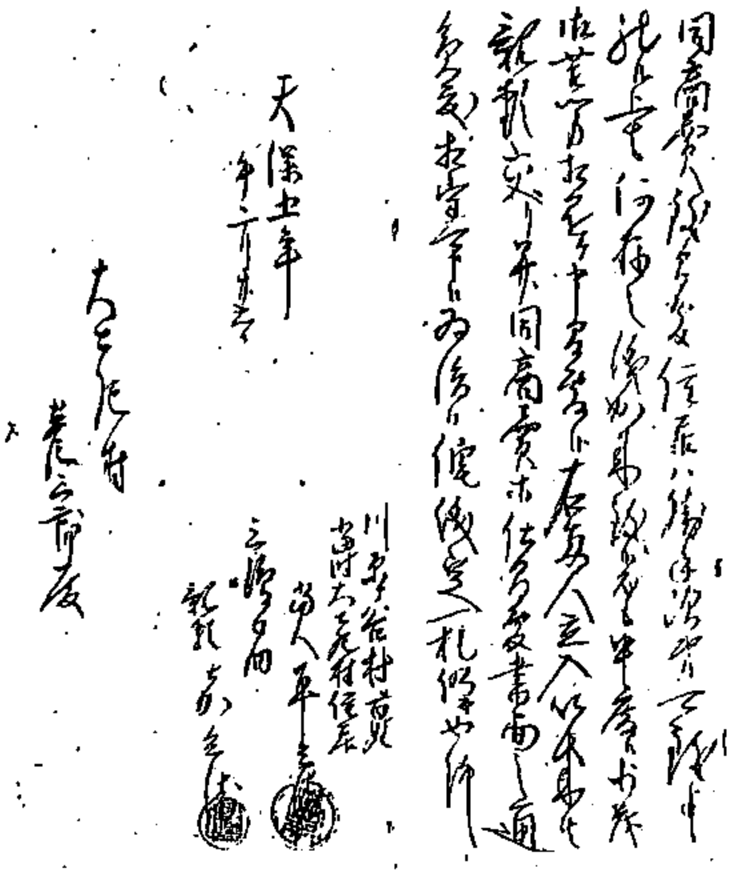
一、壱貫弐百文　杭竹共

一、壱貫六十四文　酒　代



侘一札之叓

一、當正月中私儀三嶋宿市ヶ原町小間物渡世致し候
新助　甚兵衛両人ニ相頼まれ三ッ谷村与右衛門殿方江
商い向き之為替金一条ニ付き少々不筋之儀之れ有り候趣ニて
与右衛門殿ゟ貴殿江厳敷く御懸合いニ付き私江御糺し成され候處
申し訳之れ無く市ヶ原町両人ニ懸合い与右衛門殿方へハ三嶋宿
新助ゟ右金子残らず相渡し　以来申し分之れ無く相済み候らへ共
貴殿江御苦労相懸け面目之れ無きニ付き　當村茂兵衛殿
伊右衛門殿両人御侘び申し候所　右躰不正之筋其上是迄
貴殿之御申し聞けも相背き貴殿江對し不實ニ相當リ候
儀等逸々御尋ね成され候所一言之申し訳之れ無く右ニ付き
當村住居も相成り難く　然ル所右両人情々御侘び申し入れ候て
是迄迚も表向きは不通に候得共内々□□□
以来は相改メ兄弟親類之縁を切り　其上
農業渡世ハ勝手次第外商売之儀は



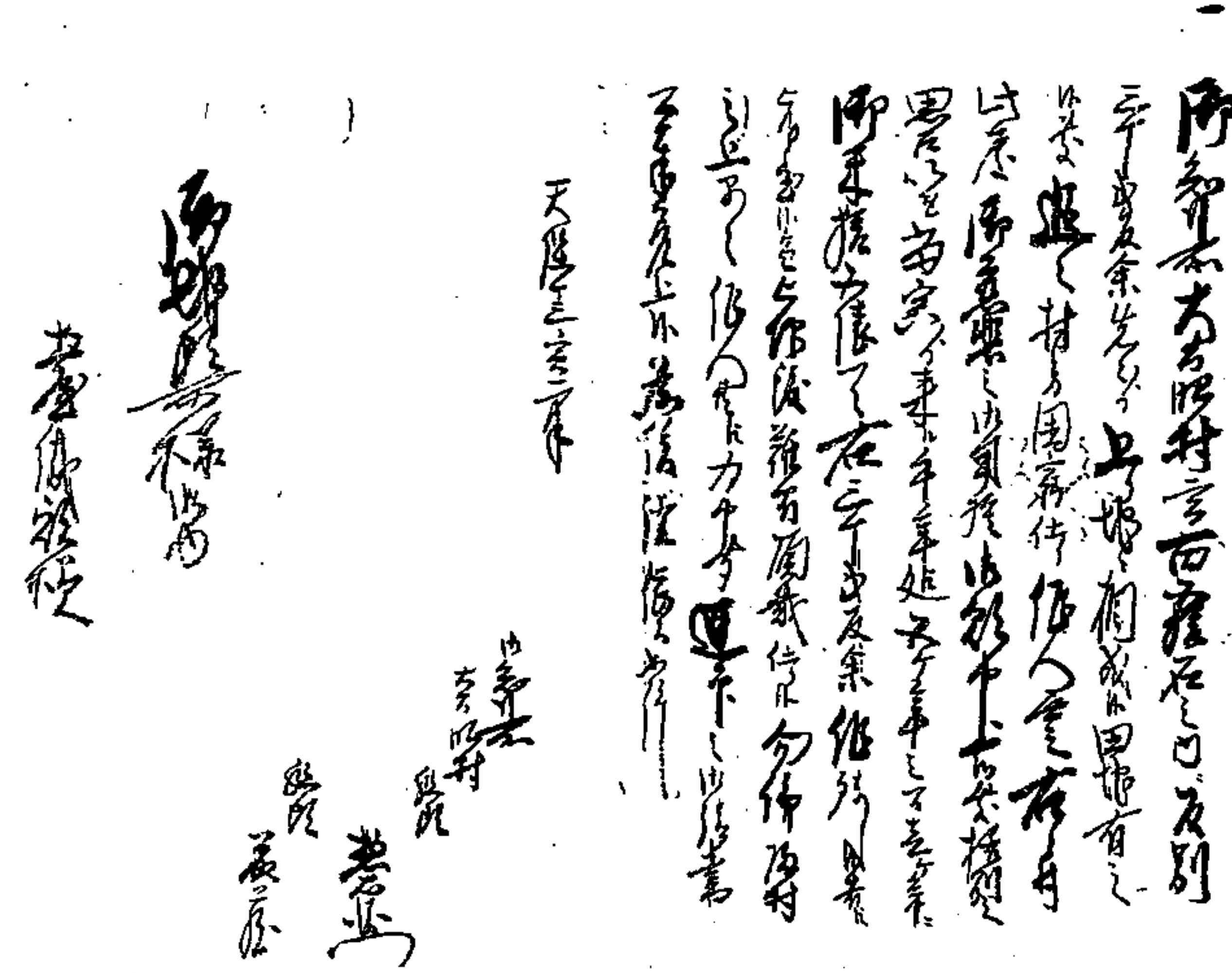
同商賣致す間敷く住居ハ勝手次第致す可きよし
然ル上は何様之儀出来致し候ても貴殿江少しも
御苦労相懸け申す間敷く候　右両人立ち入り以来は
親類交わり并に同商賣等仕り間敷く　書面之通り
急度相守り申す可く候　後日の為侘儀定一札仍(よ)っ而件(てくだん)の如し

川原ヶ谷村百姓
當時大土肥村住居
當人　平兵衛　㊞

天保五年
午二月廿六日

三嶋宿
親類　嘉兵衛　㊞

大土肥村
彦三郎殿



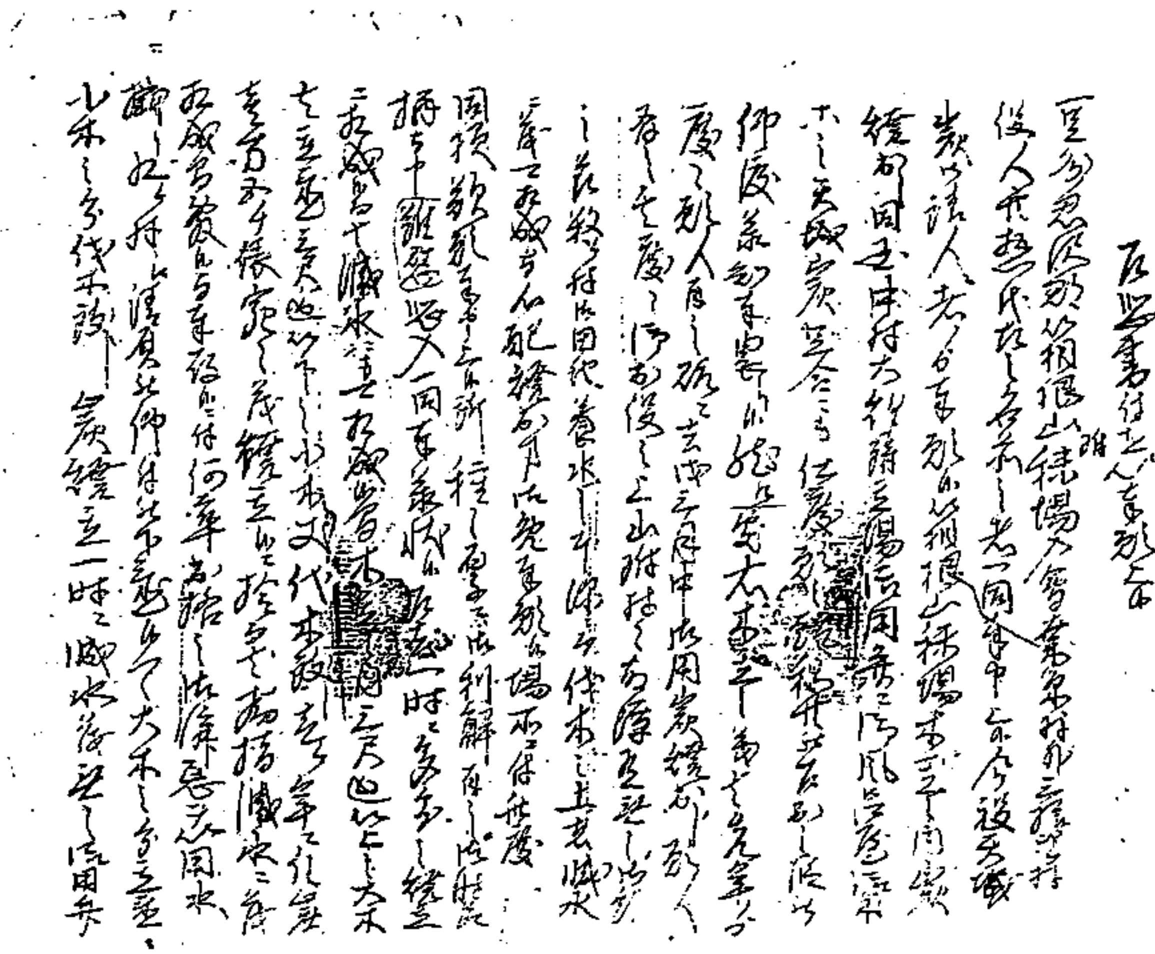
差上申一札之事

一、御知行所大土肥村高百五拾石之内ニ反別
三丁弐反余先々ゟ上がり地ニ相成り候田地之れ有り
候處　追々村方困窮仕り作人之れ無く　右ニ付き
此度御慈悲之御用捨御願い申し上げ候處格別之
思召しを以って當寅ゟ来午年迄五ヶ年之間壱ヶ年ニ
御米拾五俵ヅ右三丁弐反余作致し候者江
下し置かれ候旨仰せ渡され有難く頂戴仕り候勿論帰村
之上早々作人共江申し聞かせ連印之御請書
差し上げ奉る可く候　後證の為依って件の如し

天保十三寅二月

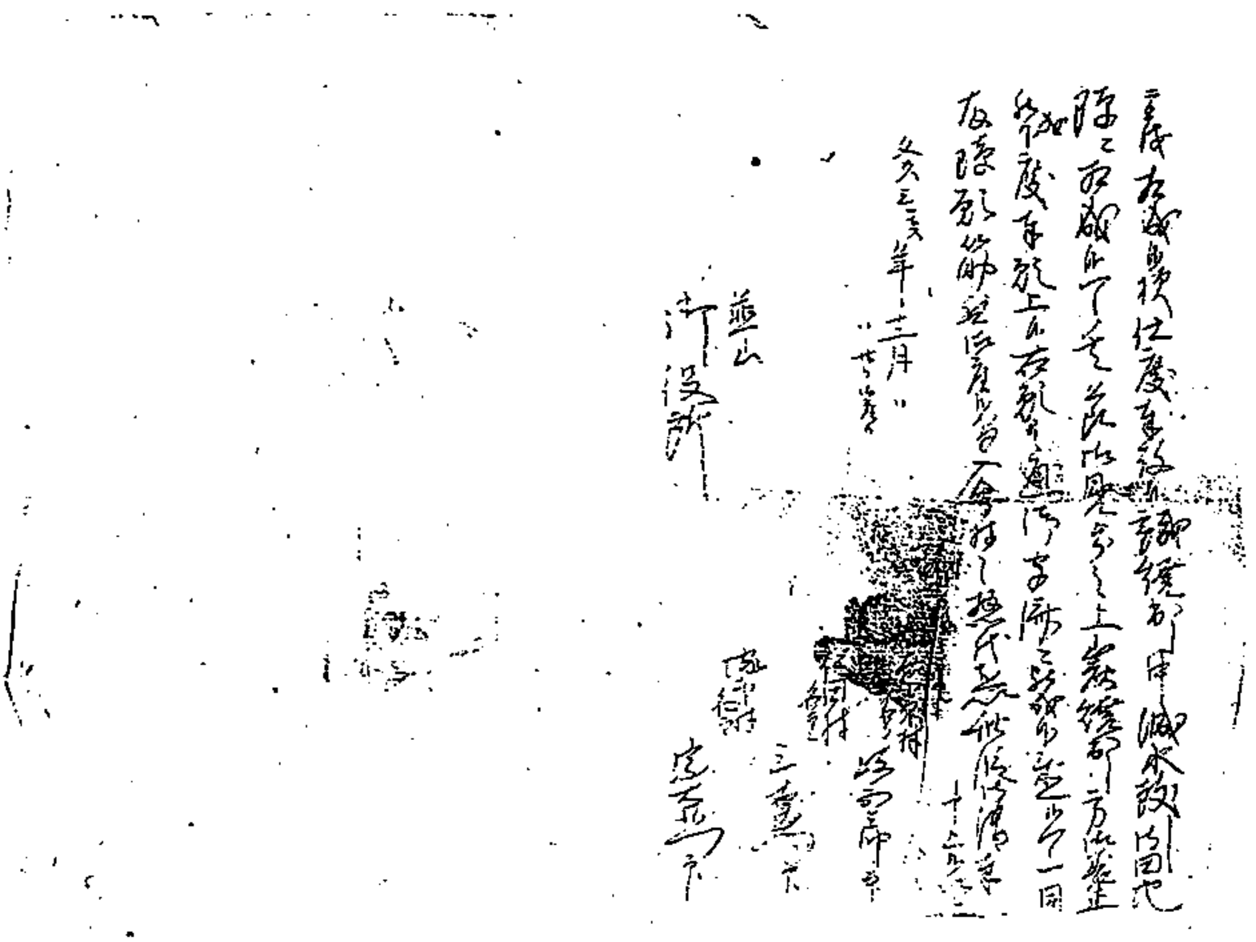
御知行所
大土肥村
組頭
惣右衛門
組頭
藤蔵

御地頭所様御内
土屋織部様



乍恐書付を以奉願上候

豆州君沢郡箱根山附秣場入り會い桑原村外三拾弐ヶ村
役人共惣代左之名前之者一同申し上げ奉り候　今般天城
炭御請人者ゟ願い奉り候箱根山秣場木立之内炭
焼出し同国中村大炮鋳立場御用并ニ御風呂屋御用
等之天城炭足し合いニも仕り度き願い之趣私共召し出され之段（被）
仰せ渡され承知畏み奉り候　然ル處右木立之儀は先年ゟ
度々願人之れ有り既ニ去る戊三月中御用炭焼出し願人
之れ有り其の度々御出役之上山附き村々故障有無之御糺し
之節数ヶ村御田地養水之本源ニて伐木之上は減水
ニも相成る可しと心配　焼出し方御免願い奉り候場所ニ付き此度
同様嘆願申し上げ奉り候所　種々厚き御利解之れ有り御時節
柄ト申し難態恐入り一同承伏奉り候　去り乍ら一時ニ多分之焼立て
ニ相成り候ては減水ニも相成る可く候間木立之内三尺廻り以上之大木
は立て置き三尺廻り以下之小木丈伐木致し壱ヶ年ニ凡そ炭
壱万五千俵宛々も焼立て候ニ於いては　指したる減水ニも
相成る間敷く候ト存じ奉り候ニ付き何卒出格之御憐愍ヲ以って用水
掛かリ九ヶ村ヱ請負仰付けられ下し置かれ候ハヽ大木之分立て置き
小木之分伐木致し炭焼立て一時ニ減水も之れ無く御用弁



こも相成り候様仕り度く存じ奉り候誠焼出し中減水致し御田地
障りニ相成り候ハヾ其の節御見分之上炭焼出し方御差止め
成下され度く願上げ奉り候右願之通御聞済みニ成下し置かれ候ハヾ一同
故障願い筋御座無く候間入會村々之惣代を以って此の段御請け（奉）
申し上げ奉り候以上

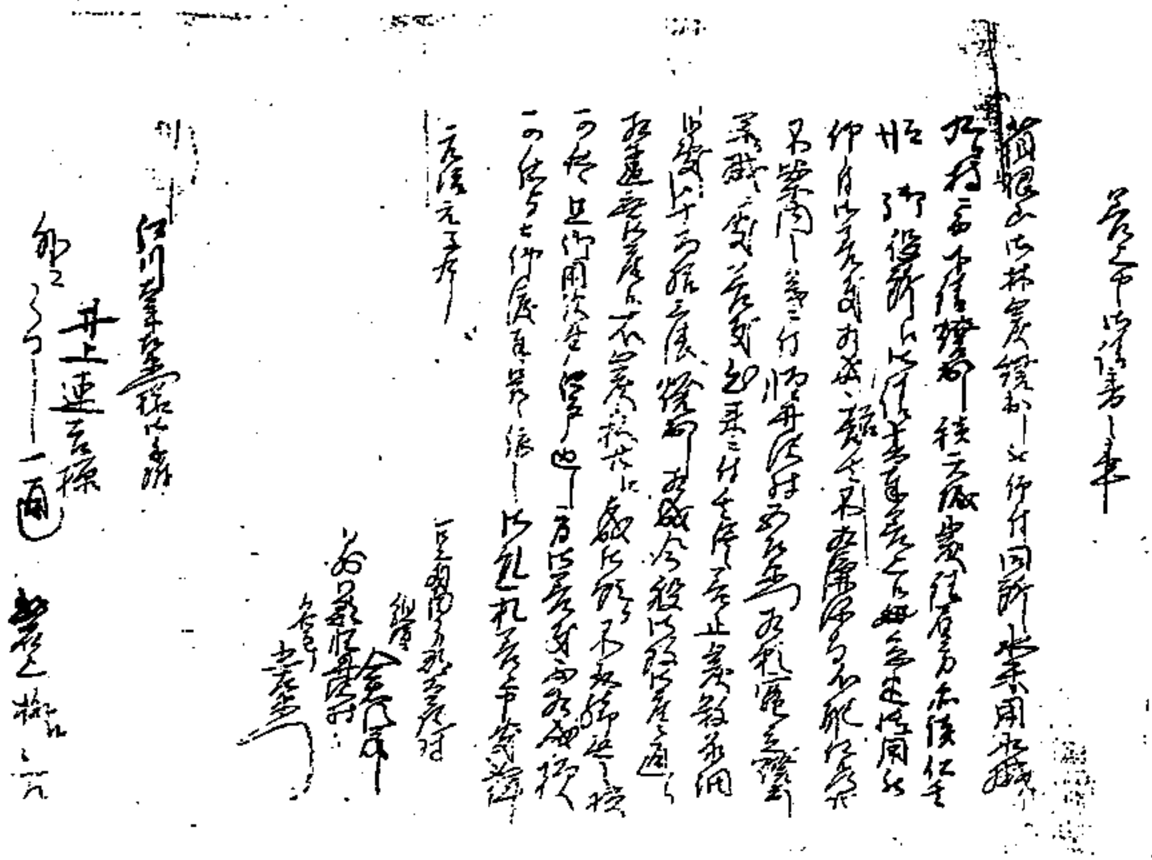
文久三亥年十二月〃
〃廿日御座候

桑原村
名主 政五郎 印

仁田村
名主 三右衛門 印

塚本村
名主 宗右衛門 印

韮山
御役所



差上申御請書之事

箱根山御林炭焼き出し仰せ付けられ同所水末用水掛かり九ヶ村ニて下請け焼き出し積もり　天城炭請負方示談仕り其の段　御役所江御請書差し上げ奉り候処　急速御用（被）仰付けられ御差し支え相成り候節は相済まざる儀与心配仕り候得共不案内之儀ニ付き軽井沢村五左衛門相頼み窯立て焼き出し承り掛かり候処差し支え出来ニ付き其の侭差止め炭数承り調べ候処千百拾三俵焼出し相成り今般御改め御座候通り相違御座無く候右炭私共江御預ヶ成され不取締り之れ無き様仕る可く候且御用次第江戸廻し方御差し支え相成らざる様仕る可し与仰渡され畏み奉り候之れに依り御請け一札差上申す処件如し

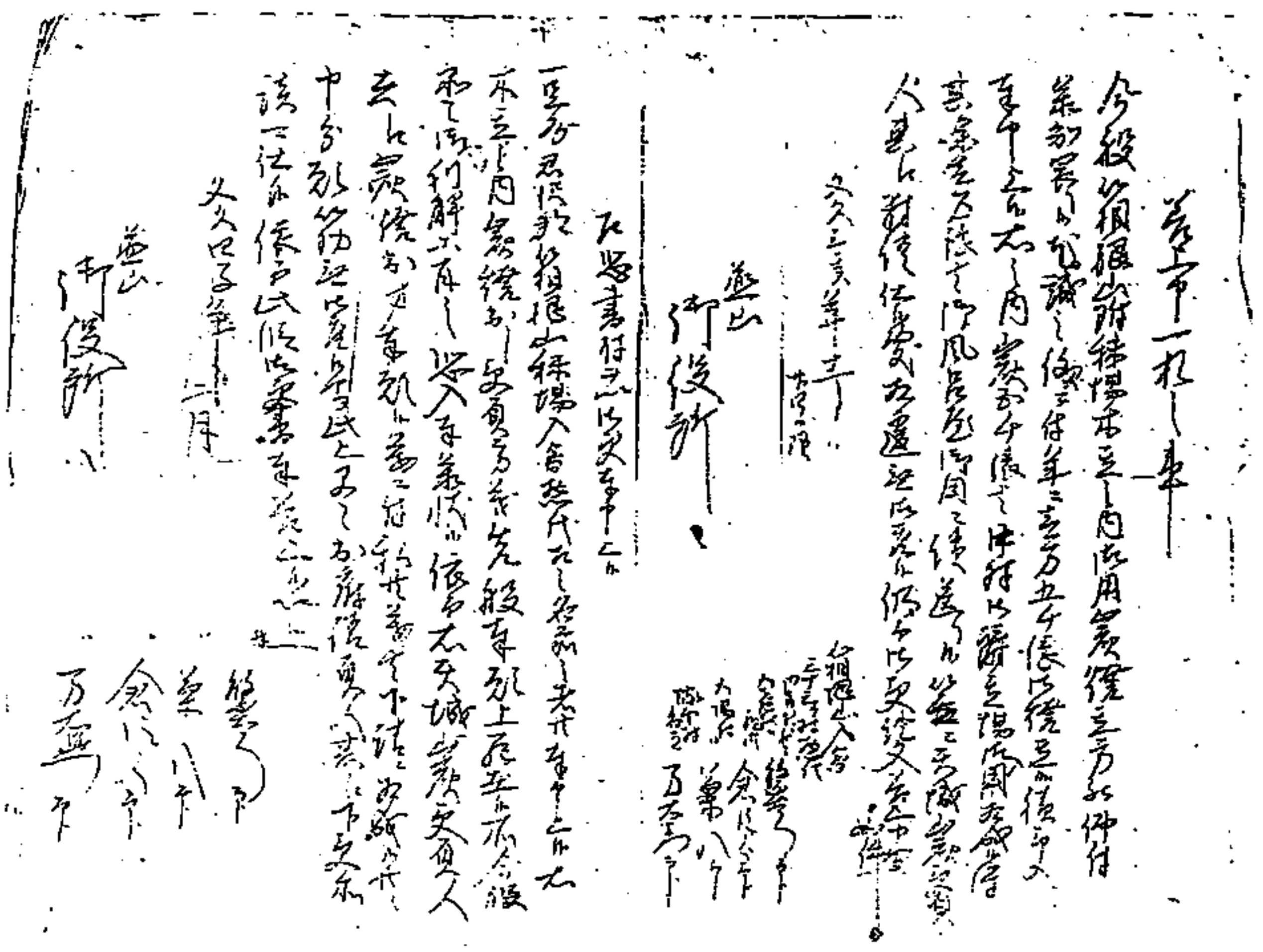
元治元子九月

豆州田方郡大土肥村
組頭　倉　次　郎

同州同郡軽井沢村
名主　五　左　衛　門

江川太郎左衛門御手附
井　上　連　吉　様

外ニうつし一通　岩上様江上げル



差上申一札之事

今般箱根山附秣場木立之内御用炭焼き立て方仰せ付けられ承知畏まり候尤も誠之儀ニ付き年ニ壱万五千俵御焼き立て候積もり受申し上げ奉り候右之内炭五千俵は中村御鋳立場御入用相成り候ニ付き其の余壱万俵は御風呂屋御用ニ積送り候筈ニ天城炭受負人共江対談仕り候処相違御座無く候仍而御受け證文差上げ申し聞き件の如し

文久三亥年十二月 〃

廿四日□

箱根山入會
三十三ケ村惣代
間宮村名主 繁右衛門 印
大土肥村
組頭 倉次郎 印
大場村〃 菊 八 印
塚本村
名主 万右衛門 印

韮山
御役所

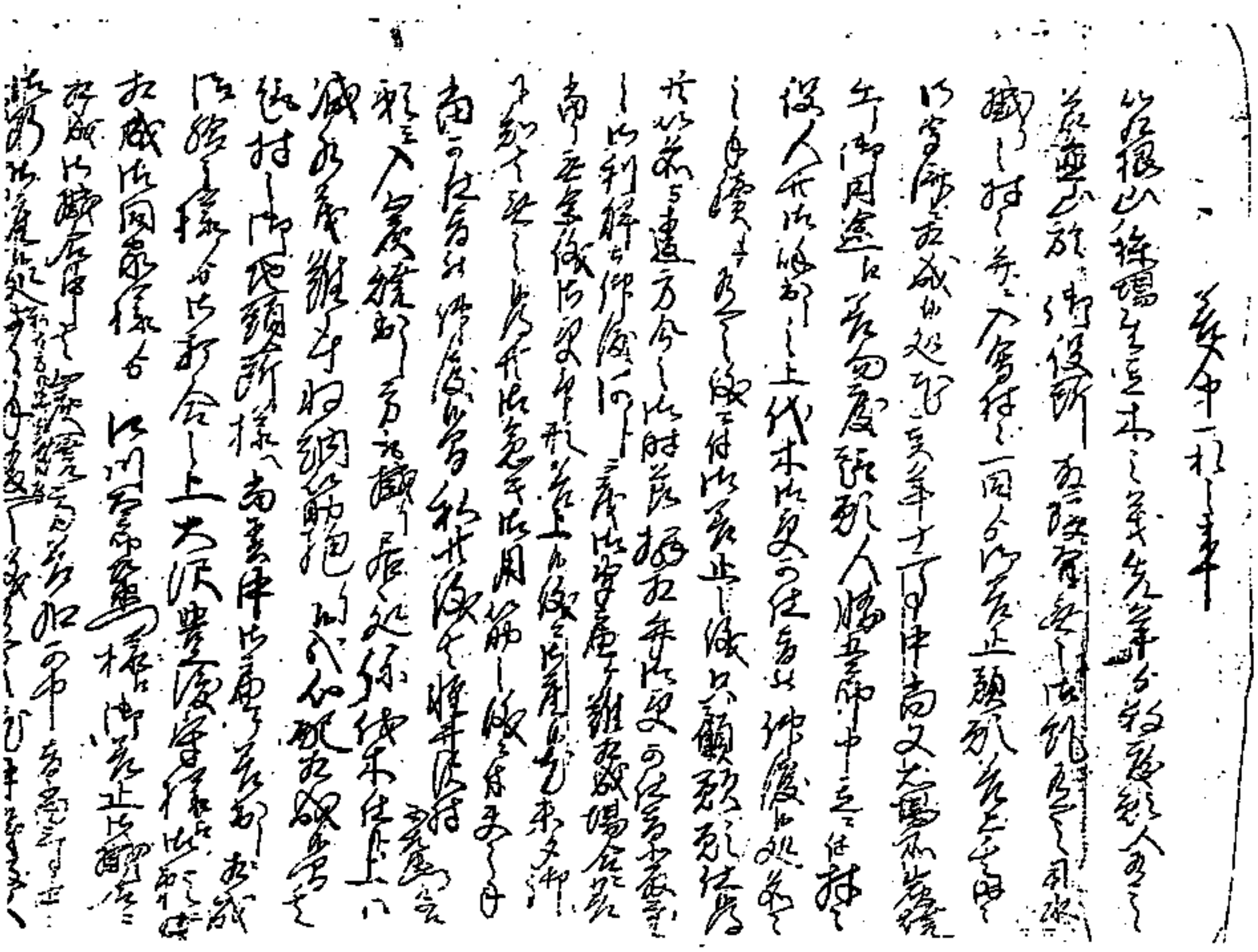
乍恐書付ヲ以御受奉申上候

豆州君沢郡箱根山秣場入會惣代左之名前之者共申し上げ奉り候右木立之内炭焼き出し受負方義先般願い上げ罷り在り候所今般品々御利解之れ有り恐れ入り承伏奉り候 依って右天城炭受負人者江炭焼出し方願い奉り候義ニ付き私共義は下請けニ相成り候共申分願い筋御座無く候間 此上早々出府請負人共江下受け示談仕る可く候依って此段御受書差し上げ奉り候以上

文久四子年
二月

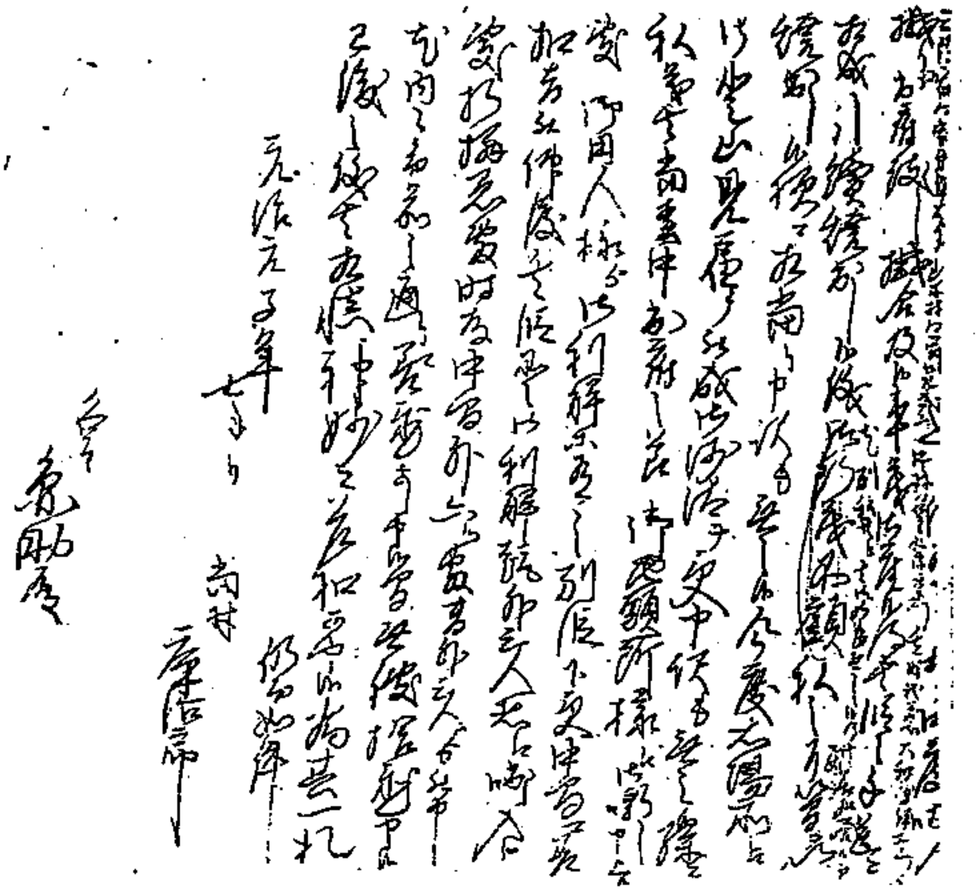
村 繁右衛門 印
〃 菊 八 印
〃 倉次郎 印
〃 万右衛門 印

韮山
御役所



差入申一札之事

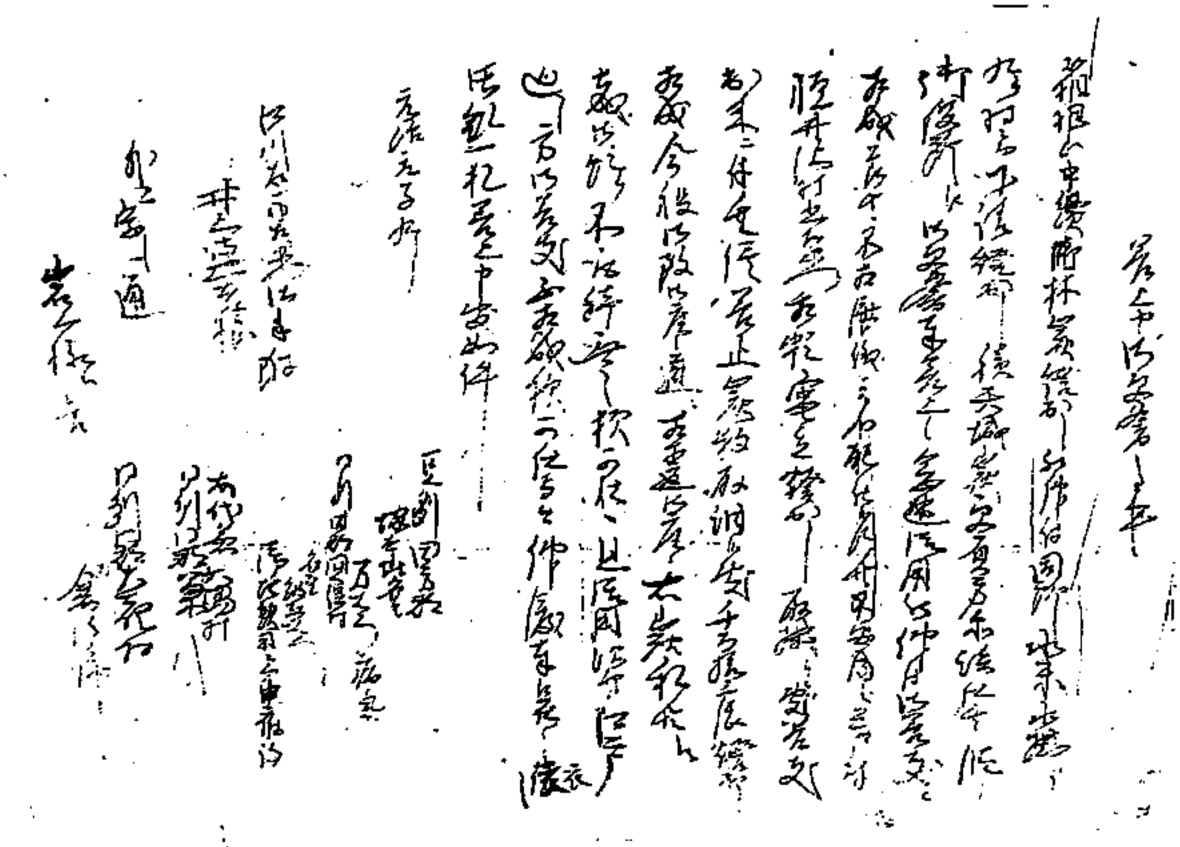
箱根山秣場生立木之義先年ゟ数度願人之れ有る
節韮山御役所に於いて故障有無之御糺し之れ有り用水
掛かり之村々并に入り會い村々一同ゟ御差止め嘆願差上げ其時々
御聞き済み相成り候処尤も亥年十二月中尚又右場所炭焼
出し御用途江差向け度く趣願人勝五郎申し立てニ付き村々
役人共御呼び出し之上伐木仕る可き旨仰せ渡され候処前々
之手續きも之れ有る儀ニ付き御差止め之儀只願嘆願仕り候得
共以前与違い　方今之御時節柄相弁え御受け仕る可き旨厳重
之御利解仰せ渡され　何分ニも御聞届け相成り難き場合ニ差し
當たり余儀無く御受け印形差上げ候儀ニ御座候　尤も未ダ御
下知は之れ無く候得共御急ぎ御用筋之儀ニ付き夫々手
當仕る可き旨仰せ渡され候間　私共儀は軽井沢村五左衛門殿江
頼ミ入り炭焼出し方取り掛かり居り候処　弥伐木仕り候上ハ
減水も計り難く収納筋拘り候哉心配相成り候間　其の
趣村々御地頭所様へ當春中御届ヶ差出しニ相成り
御給々様ゟ御打合せ之上大沢豊後守様江御願いニ
相成り御同家様ゟ江川太郎左衛門様江御差止め御掛合いニ
相成り御掛合い中は炭焼き方差し扣申す可き旨當三月中
○私共方江御咄御座候□
御断り御座候処○　□よく手違ニ及び候儀之れ有り尤も中にも扱入



○三嶋宿郷弟伊右衛門　山木村郷宿範右衛門　中村名主九郎左衛門　其内
代兼大和屋伊右衛門△
掛かり○　△出府致し掛合い及び候事も御座候得ば段々手送りニ
◎尤も別に私共ぇは御断りも御座無く候得共差扣罷り居り候て□
相成り引續き焼出し候儀◎（御断りも顧みず）□私之了簡ヲ以って
焼出し候様ニ相當り申し訳も之れ無く候今度右場所ぇ
御登山見届ヶ成され御沙汰ヲ受け申し訳も之れ無く候　殊ニ
私儀は當春中出府之節御地頭所様ぇ御噺し申し上げ候
處御用人様ゟ御利解等之れ有り別段下受け中間差し（可）
扣え可き旨仰せ渡され其の段品々御利解の趣外三人者ぇ咄し入れ候
處折柄悪敷き時故　中間の六ヶ敷き旨外三人ゟ申され
尤も内々ニて前之通り差置くよし申し候間據（よんどころ）無く捨て置き申し候
已後之儀は相慎み神妙ニ差扣え申す可く候　其の為一札
仍而如件（よってくだんのごとし）

元治元子年
七月　日
當村
庫治郎

名主
圓助殿



差上申御受書之事

箱根山中続き御林炭焼き出し仰付けられ同所水末水掛かり九ヶ村ニて下請け焼出し積もり天城炭受負い方示談仕り其の段御役所江御受書差上げ奉り候　急速御用仰付けられ御差し支えニ相成り候節は相済まざる儀与心配仕り候得共不案内之義ニ付き軽井沢村五左衛門相頼み竈立て焼出し取り掛かり候處差支え出来ニ付き其の侭差止め　炭数取調べ候處千百拾三俵焼出し相成り今般御改め御座候通りニ相違御座候　右炭私共江御預ケ成され不取締り之れ無き様仕る可く候且つ御用次第江戸廻し方御差支え相成らざる様仕る可き旨仰渡され畏み奉り候之れに依り御預り一札差上げ申す處　件の如し

元治元子九月

豆州田方郡
塚本村名主
万右衛門病気

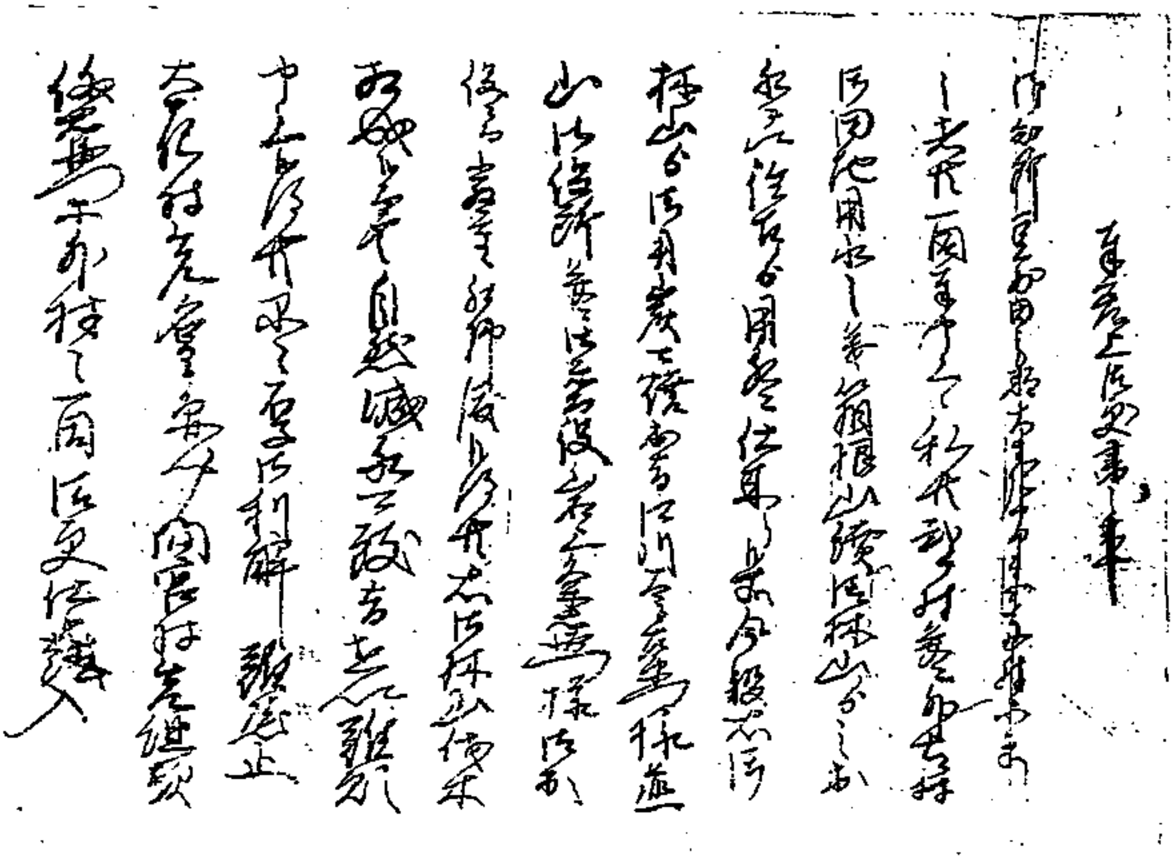
同州同郡間宮村
名主
繁右衛門
御地頭用ニて甲府行

右代兼大場村
同州同郡　菊八

同州同郡大土肥村
倉次郎

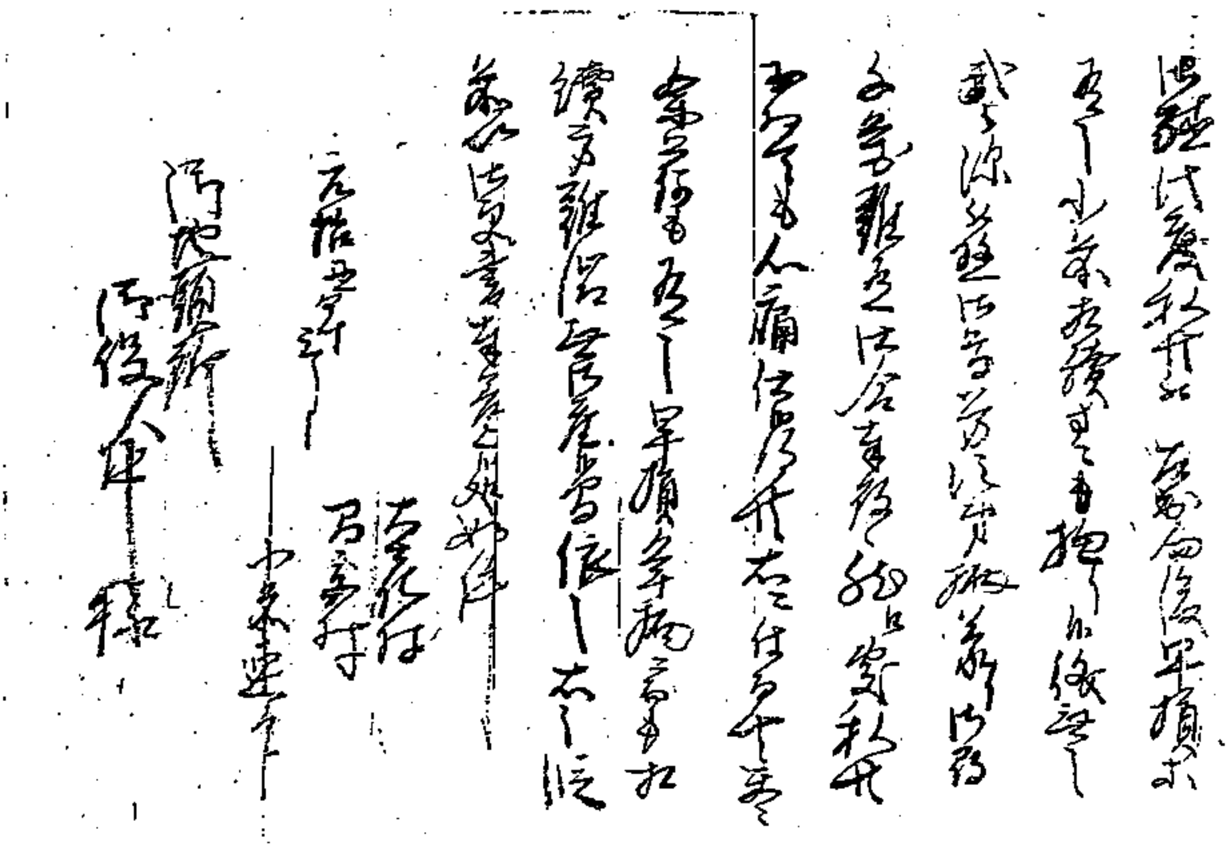
江川太郎左衛門御手附
井上連吉様

外に写し一通
岩上様江上げル



奉差上申御受書之事

御知行所豆州田方郡大土肥　間宮　両村小前
之者共一同申し上げ奉り候　私共弐ヶ村并に外七ヶ村
御田地用水之義　箱根山続き御林山ゟ之出
水ヲ以って往古ゟ用水ニ仕来リ候所　今般右御
林山ゟ御用炭焼出す可き旨江川太郎左衛門様韮
山御役所并ニ御普役岩上粂右衛門様御出
役ニて厳重仰せ渡され候得共　右御林山伐木
相成り候ては　自然減水致す可き旨を以って嘆願
申し上げ候得共　品々厚き御利解黙止難く
大土肥村先名主圓助　間宮村先組頭
儀右衛門等　外村々一同御受け仕り候趣入れ



御聴　此度私共召し出され向後旱損等
之れ有り小前相續方にも拘ㇼ候儀之れ無き
哉ト深く御苦労遊ばされ次第柄承ㇼ御尋ね
千萬有難き仕合せに存じ奉り候　然る處私共に
おゐても心痛仕り候得共右ニ付いては夫々
余荷も之れ有り旱損年柄ニても相
續方難渋御座無く候間之れに依り右之段
前以って御受書差上げ奉り候処件の如し

元治丑年三月

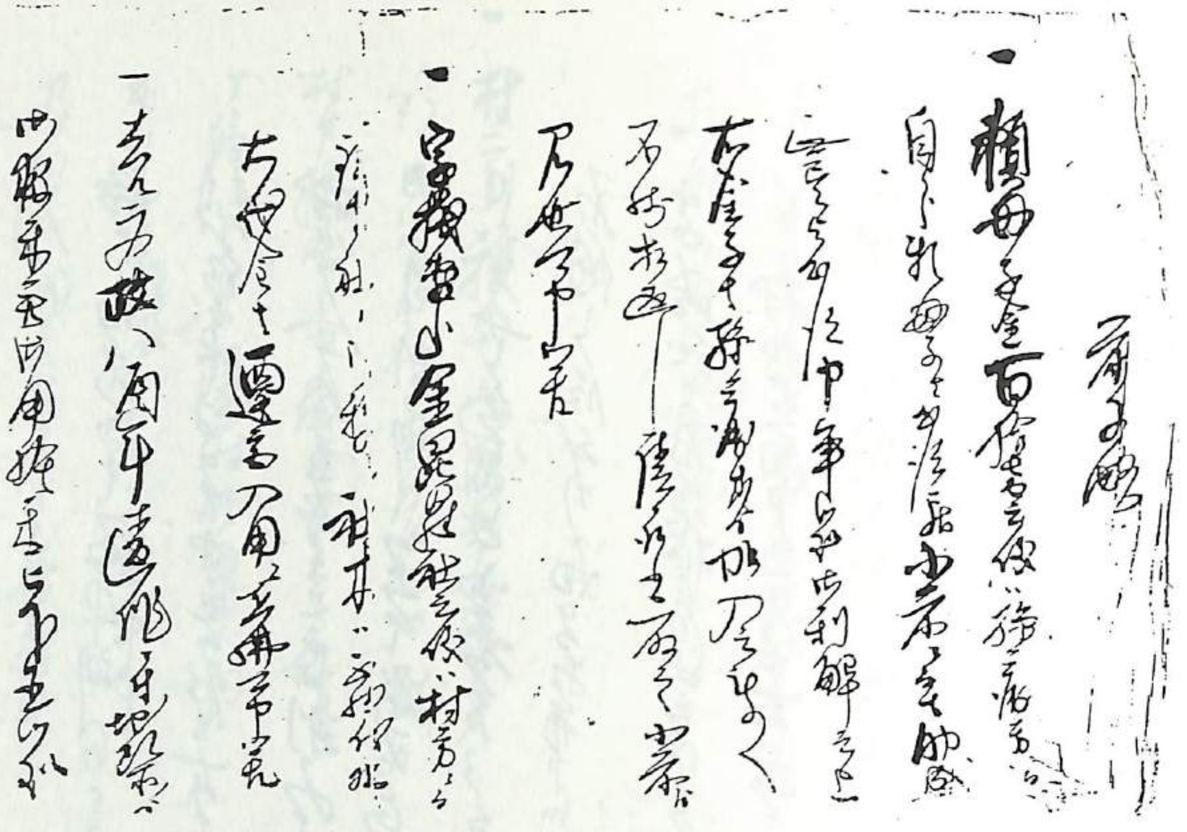
大土肥村
間宮村
小前連印

御地頭所

御役人中様

F 類

標題	差出人	請取人	年月日
1、(頼母子講一件)	小前惣代		卯三月

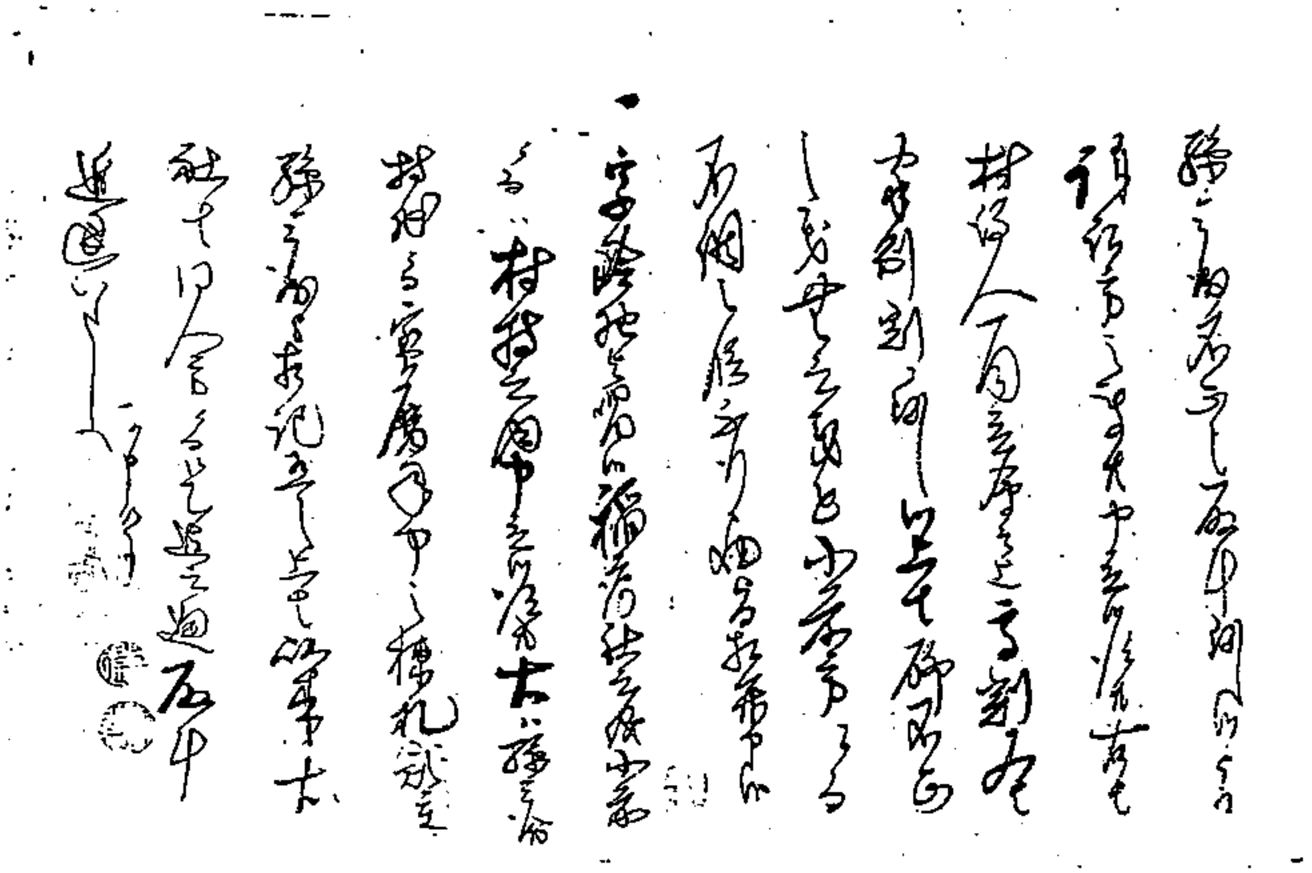


前　文　畧

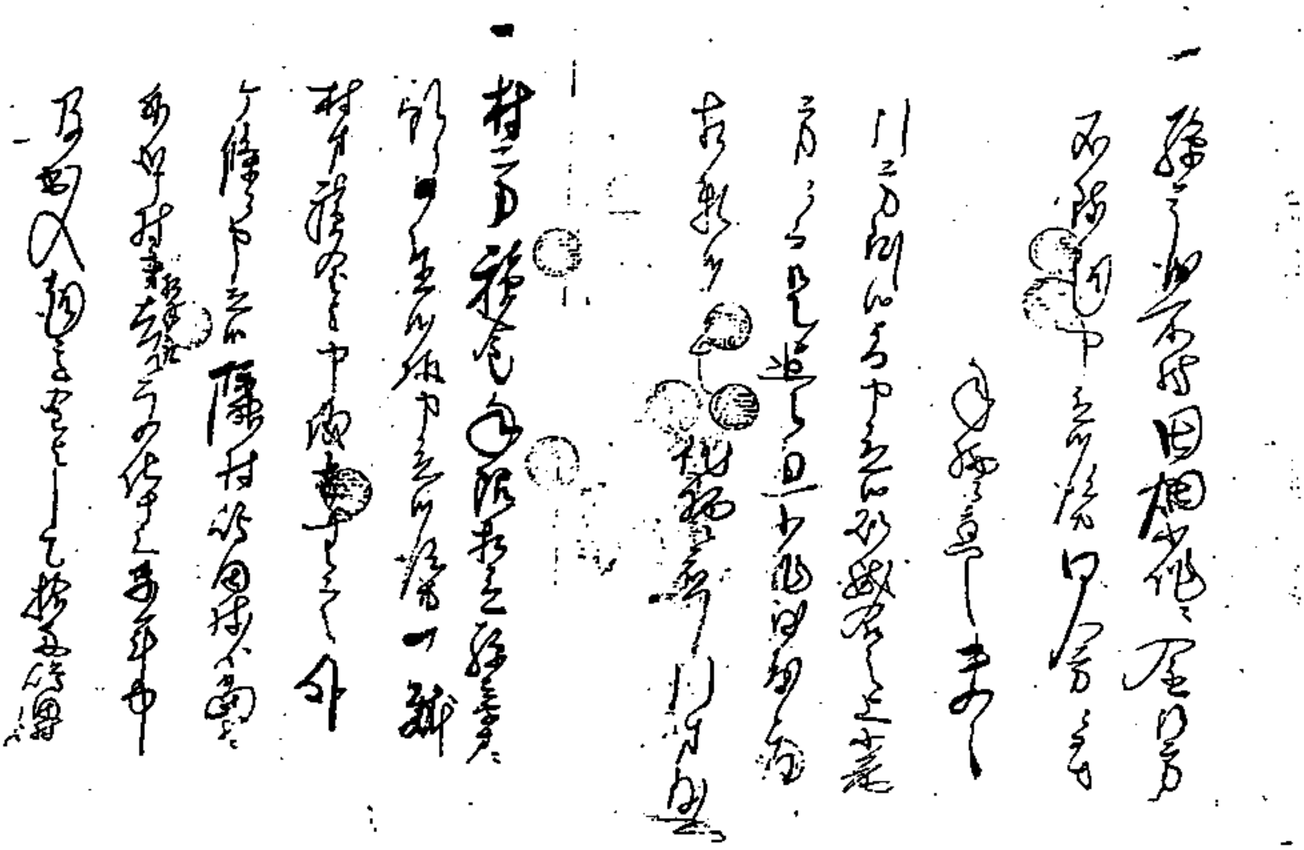
一、頼母子金百拾両之儀は孫兵衛方ニて
自分頼母子与心得居り　小前ニては助成
無尽与心得申し争い候処御利解之上
金子は孫兵衛方ゟ加入之ものへ
残らず相返し請取書之れを取り小前江
見せ申す可き筈

一、字機敷山金比羅社之儀ハ村方ニて
鎮守社□□□□□社木ハ残らず切り拂い
右代金は遷宮入用ニ遣い拂い申す可き筈

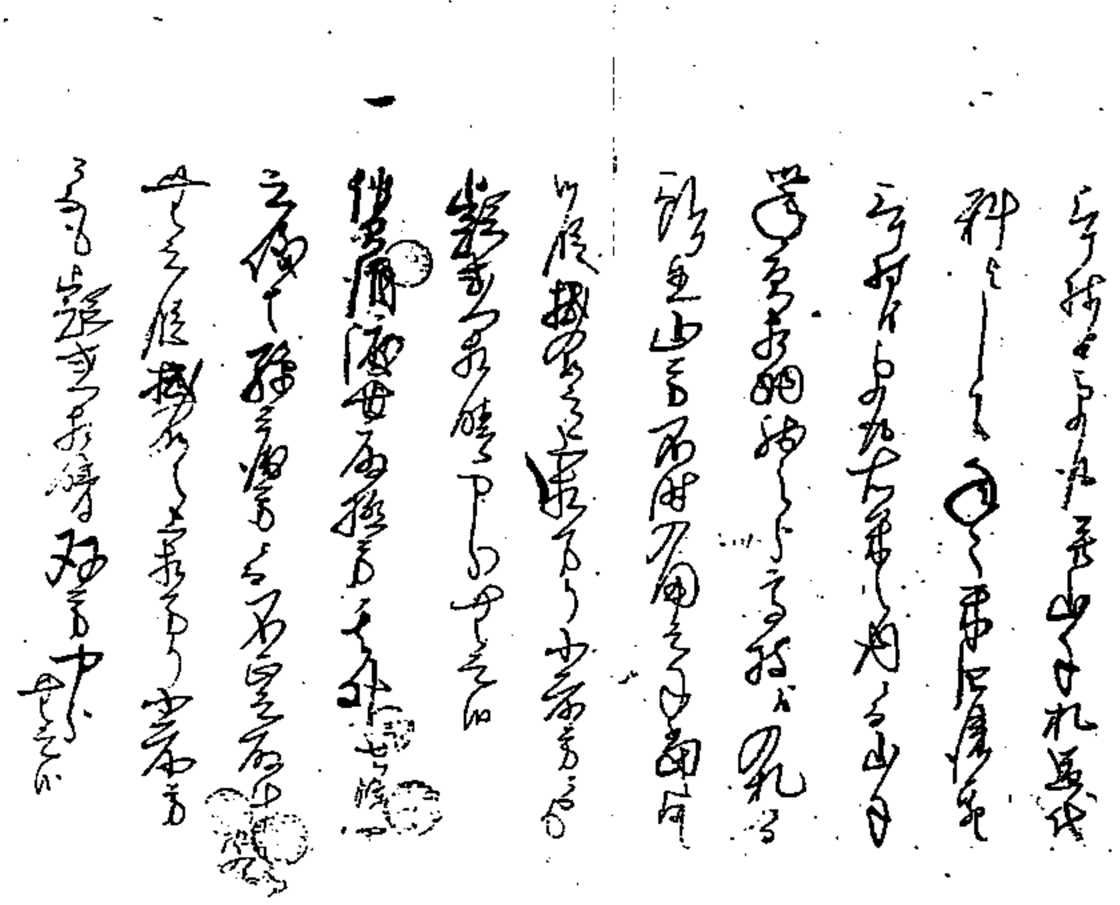
一、去ル文政八酉年違作ニ付き地頭所ゟ
御救い米并に御用捨米下し置かれ候処



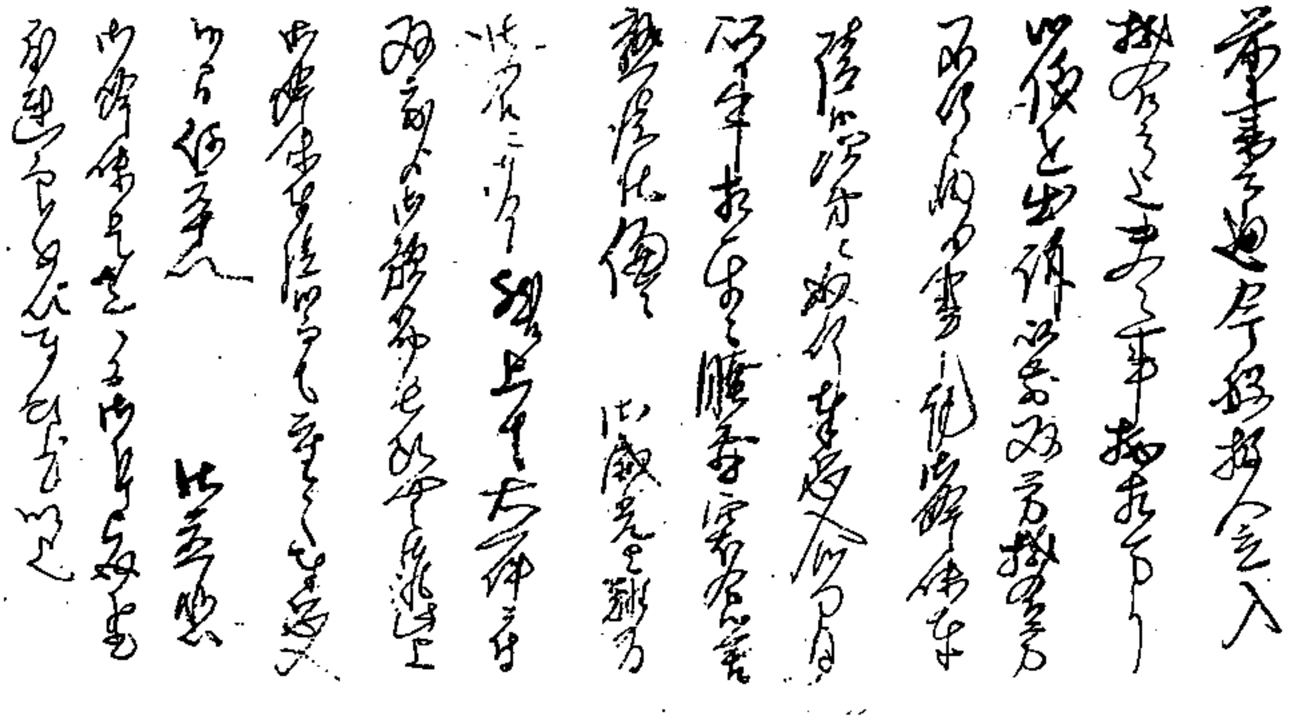
孫兵衛不正之取計い致し候旨
訴訟方之もの共申立て候得共　右者
村役人一同立会い之上　高割り又は
家別割りに致し候上は聊不正
之義之れ無き義を小前方ニて
不調之段不行届きの旨相弁え申し候
一、字鈴地ト唱え候稲荷社之儀　小前
ニてハ村持ち内之申立て候得共右は孫兵衛
持地ニて宝暦年中之棟名ニ願主
孫兵衛ト相記し之れ有る上は　以来右
社は同人方ニて是迄之通り取り計らい
進退いたし申す可く候事　㊞　㊞



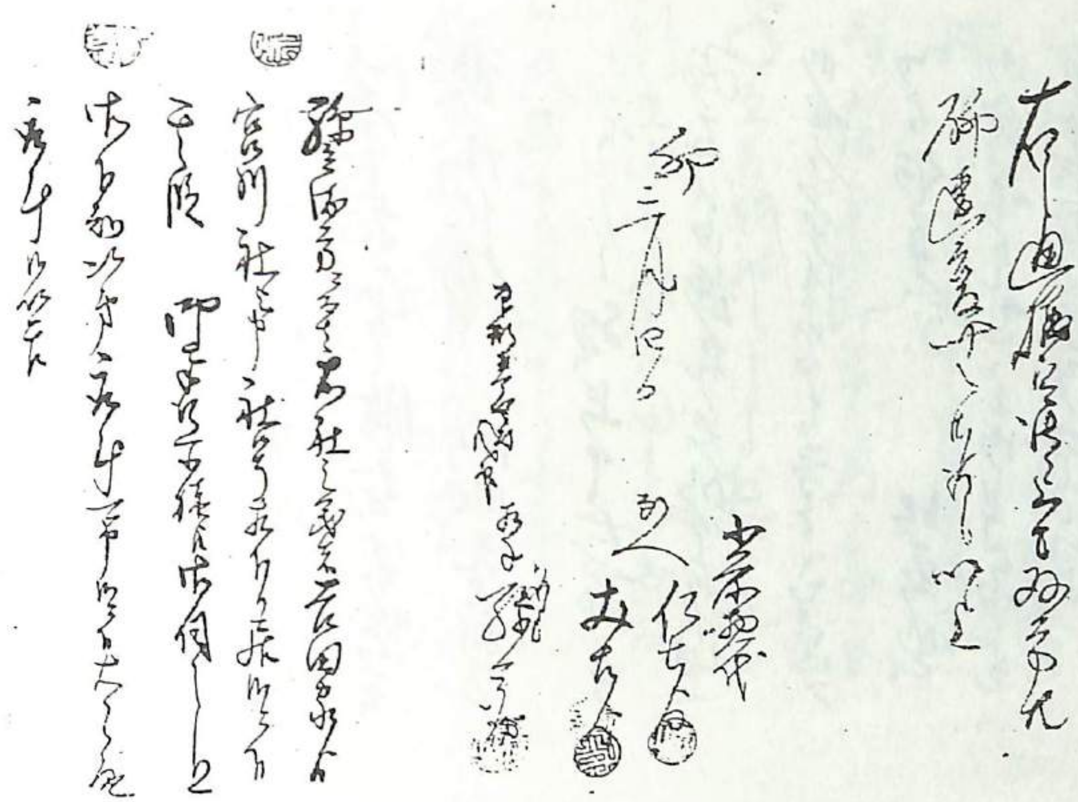
一、孫兵衛所持田畑小作ニ入れ置き引き方
致さざる趣申立て候得共　同人方ニては
年柄ニ應じ夫々
引き方致し候旨申立て候処掛合い之上小前
方ニて是迄之通り小作致し度き旨
相頼み候得ば　作柄ニ應じ引き方致し候
一、村方積み金年限相立ち孫兵衛方ニ
預かり置き候様申立て候得共　一躰
村方積み金ト申す儀は之れ無く　外
ケ条ニ申立て候　隣村嶋田村ゟ當村
外弐ヶ村相手取り去ル文化十三子年中
出入りに及び趣意金トして拾両嶋田村ゟ



三ヶ村江受け取り并に山手札道代
料として年々米四俵宛
三ヶ村ゟ受け取り　右米之内ニて山手
御年貢相納め残り之分高持ち江入札ニて
預け置き山方不時之入用之手當ニ致し
候段掛け合い之上相分かり小前方ニても
疑惑相晴れ申し分之れ無く候
一、質酒渡世取り極め方　其の外七ヶ條
之儀は孫兵衛方ニて不正之取計らい決而（けっして）
之れ無き段掛合い之上相分かり小前方
ニても疑惑相晴れ双方申し分之れ無く候



前書之通り今般　扱人立ち入り
掛合い之上夫々事柄相分かり
候儀を出訴以前双方掛合い方
不行届きゟ事起こり　御吟味（奉）
請け奉り候次第ニ成行き恐入り奉り候間
以来相互いニ睦敷く突合い候筈
熟談仕り候　偏ニ　御威光与有難き
仕合せに存じ奉り候然ル上は右一件ニ付き
双方ゟ御願い筋毛頭御座無く候　此の上
御吟味請け奉り候ては重々恐入り奉り
候間何卒（以）　御慈悲を以って
御吟味是迄ニて御下ヶ成し下し置かれ
度く連印を以って願い上げ奉り候以上



右之通り議定仕り候上は双方共
聊違変御座無く候　以上

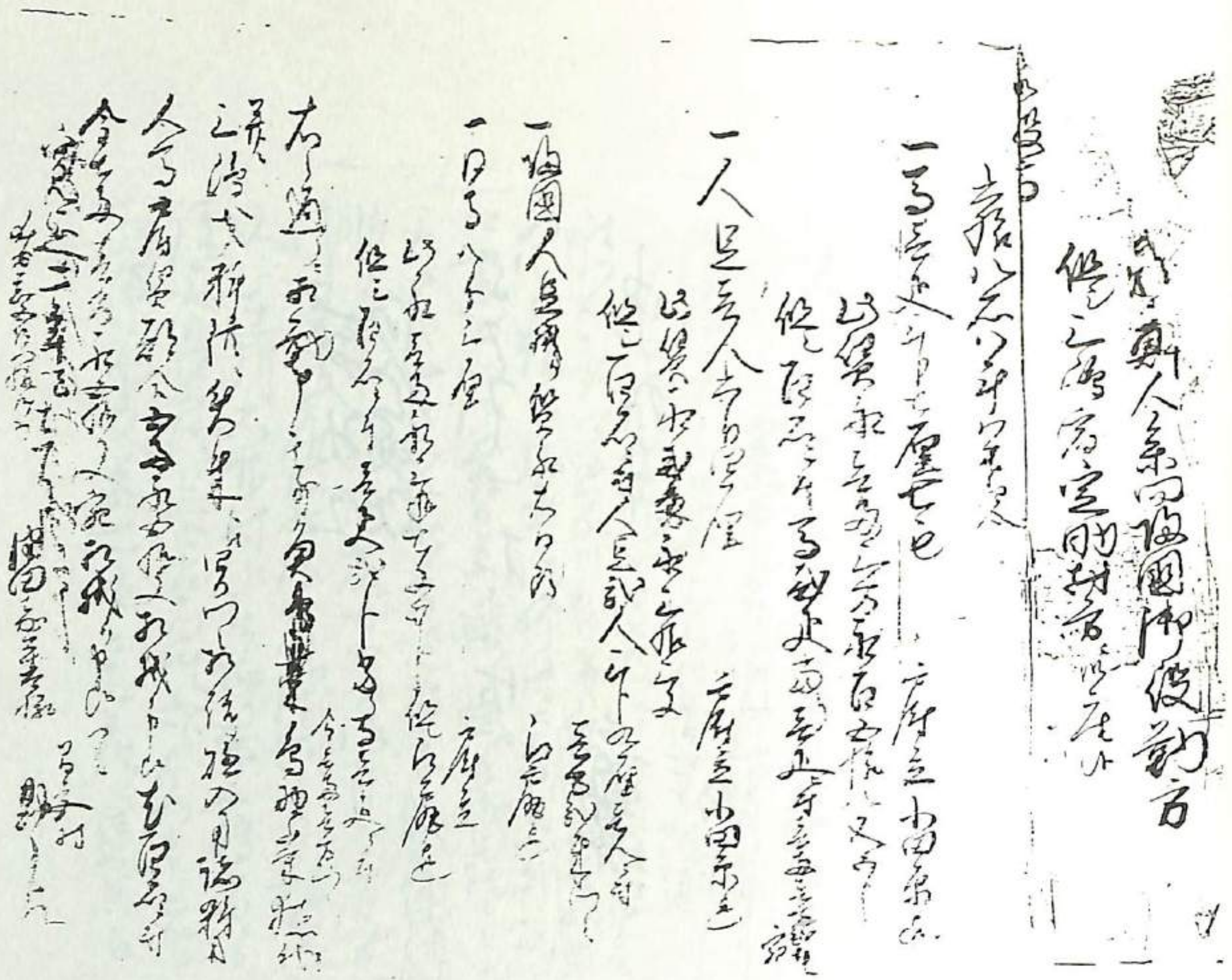
卯
三月四日　　小前惣代
願人　仁右衛門 ㊞
丈左衛門 ㊞

名主
相手孫兵衛 ㊞
印形□□ニ付き
代印

孫兵衛方ニては右社之義は吉田家ゟ
宮川社与申す社号相下がり居り候ニ付き
其の段御奉行所様江御伺之上
御下知次第取計らい申す可く候ニ付き右之通り
取計らい候筈

G 類

	標題	差出人	請取人	年月日	
1、	朝鮮人参回帰国御役勤方	間宮村　勘右衛門	井出甚五右衛門様 御内　津田嘉平太様	寛延二年十二月（一七四九）	201
2、	差上申一札之事写（人馬勤方不調法詫）	豆州田方郡大井村 百姓幸右衛門	御普請役荻野大八、 児島左平太	寛政十二申年九月（一八〇〇）	202
4、	差上申済口証文之事（三島宿問屋六太夫と徳倉村名主孫七他十五人の人馬継立の済口議定）	三島宿問屋 六太夫他七名		文化六巳年四月二十九日（一八〇九）	208
4、	定書（五割増しの宿と助郷配分の件）	仁田村名主 大八㊞他	出役惣代衆中	文政元年十二月四日（一八一八）	213
5、	為取替證文之事（定助郷賄之儀ニ付）	三島宿問屋朝日 与右衛門他五名	定助郷御惣代	文政十三年二月（一八三〇）	224
6、	乍恐以書付奉願候（三島宿百人役助郷加助郷勤めについて）	柏谷村役人代兼 仁田村名主惣次郎	御地頭所様 御役人中	天保九戌年二月（一八三八）	227
7、	差上申済口證文之事（定助と宿方相論）	定助惣代三島宿 仁田村大八	道中奉行	天保九年三月二十九日（一八三八）	234
8、	借用申金子證文之事（五〇両人馬賄金として）	定助郷詰合 茂兵衛㊞他	山木村範左衛門殿	嘉永四年四月（一八五一）	239
20、	東海道三島宿定助郷 御地頭所御姓名並御屋敷控				241
10、	覚（飛脚賃請取）	江戸せともの町 定飛脚問屋嶋尾佐右衛門	渡部曽平	酉年八月九日	255



朝鮮人参向帰国御役勤め方

但シ三嶋宿定助村方ニ御座候

御役高

六拾八石八斗八升四合

一、馬一疋三分七厘七毛　雇立て小田原迄

此賃永壱両三分永百五拾八文五分

但シ百石ニ付き馬弐疋當リ壱疋ニ付き壱両壱分弐朱宛

一、人足壱人六分四厘　雇立て小田原迄

此賃永弐分永三拾三文

但シ百石ニ付き人足弐人三分九厘壱人ニ付き壱分弐朱ヅツ

一、帰国人足掛リ賃永右同断　江尻迄

一、同馬八分三厘　雇立て

此永壱両永三拾七文五分　但し江尻迄

但シ百石ニ付き壱疋弐分當リ馬壱疋迄ニ付き

金壱両壱分ヅツ

右之通りニ相勤め申し其の外魚鳥野菜猪代

并ニ

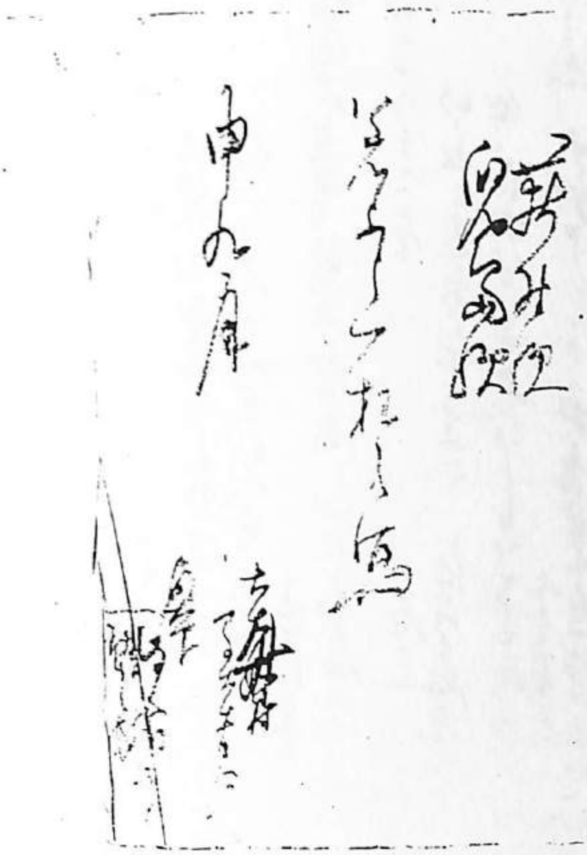
三嶋へ才料供ニ升米江四日ヅツ相詰メ賄い入用諸雑用

人馬雇賃都合五両永五拾文相掛リ申し候尤も百石ニ付き

金七両壱分永五拾文宛相掛リ申し候以上

寛延二年巳十二月　間宮村

井出甚五右衛門御内　津田嘉平太様　勘右衛門



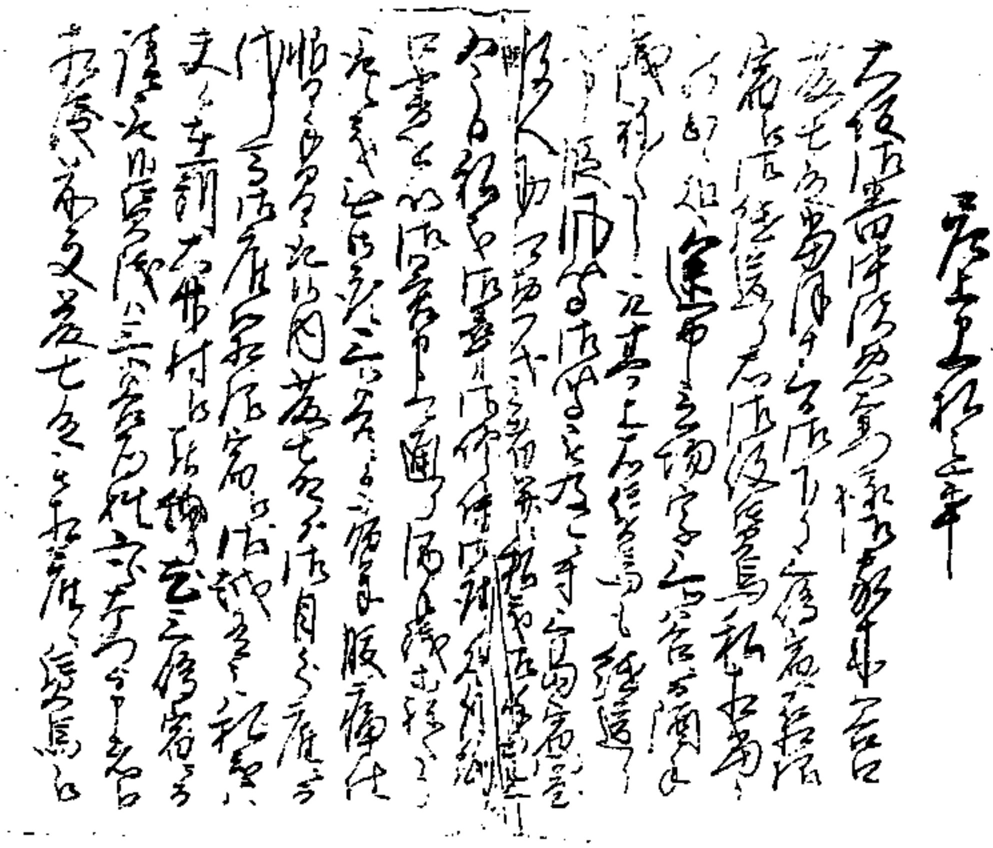
萩野様
児島様

差上申一札之寫

申九月

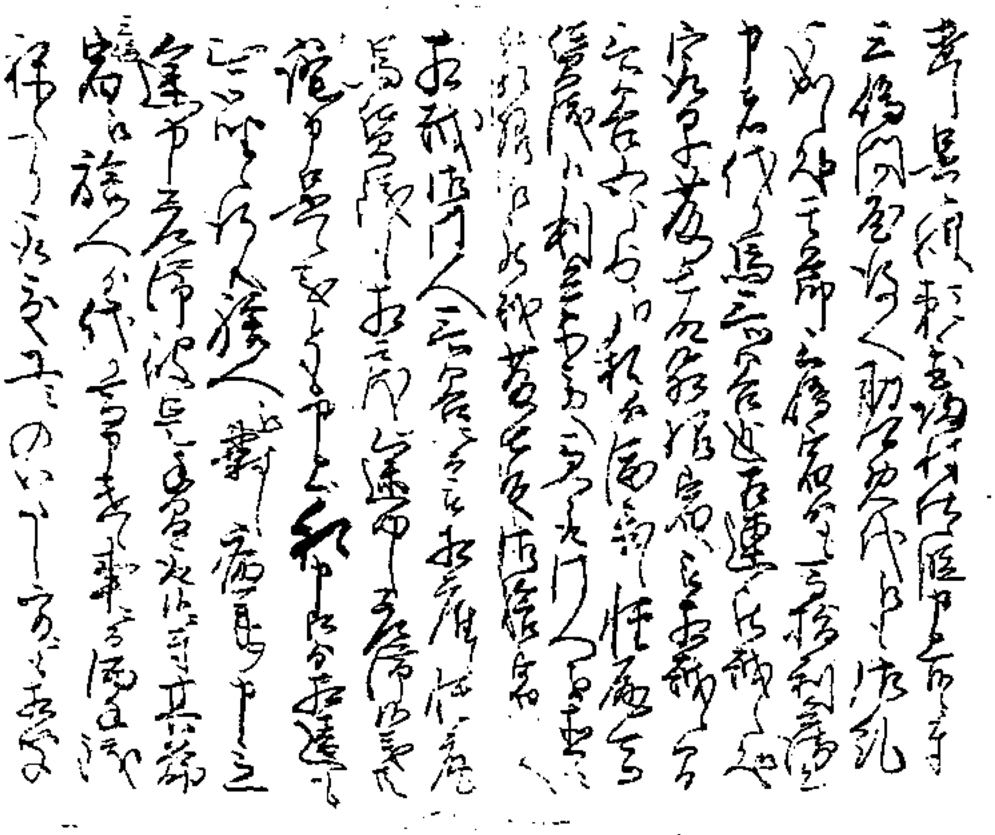
大竹村
馬主幸右衛門

奥印
政右衛門印
総右衛門

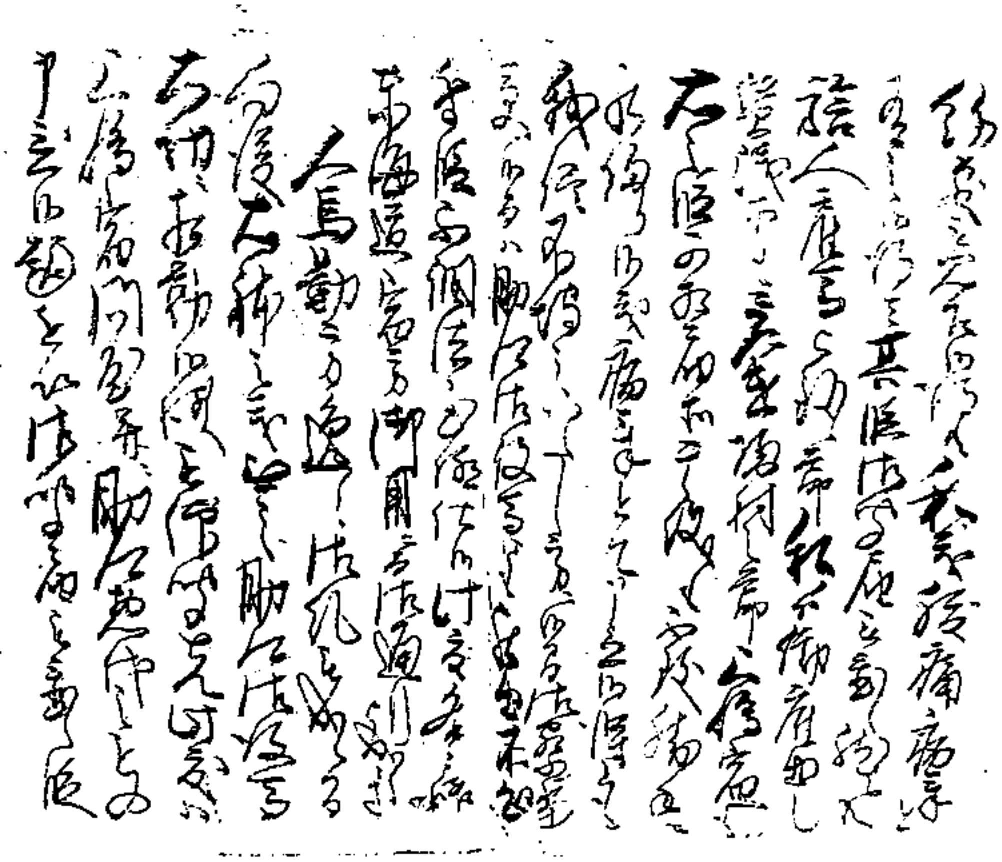


差上申一札之事

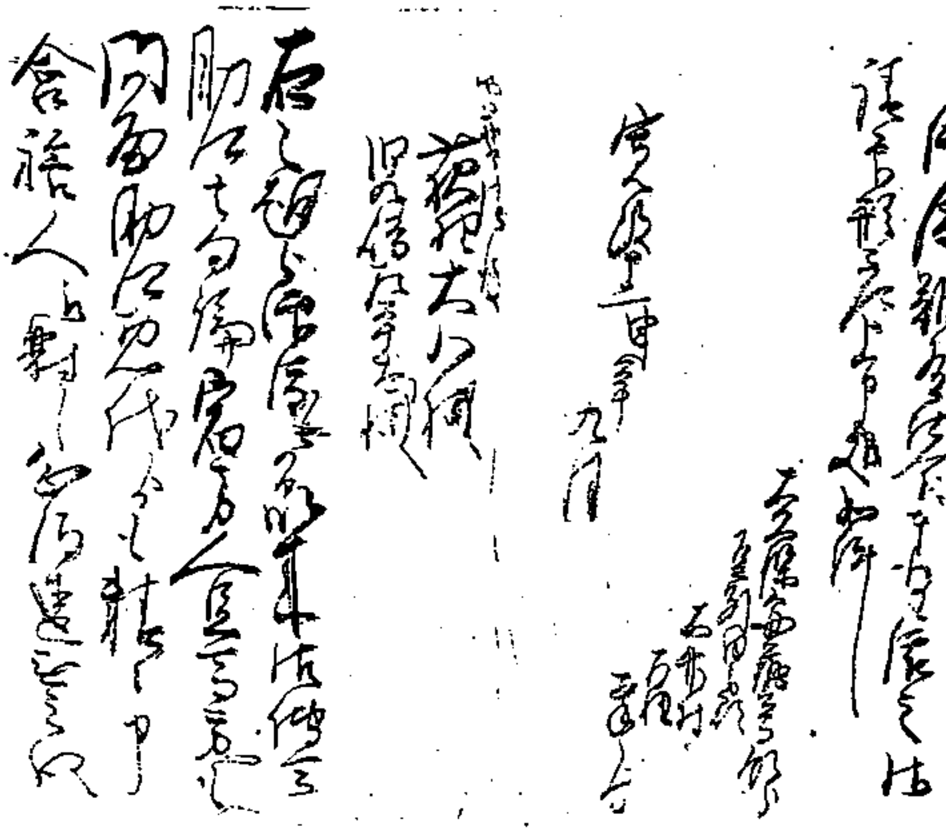
大坂御番中沢総右衛門様御家来谷口藤七殿當月十三日御下リ三嶋宿ゟ箱根宿江御継ぎ送り　右御役賃馬私相當リ罷り出候処　途中立場字三ッ谷ニて酒手銭ねだり取り其の上右賃馬も継ぎ送リ申さざる段風聞御聞き及ばれ候ニ付き三嶋宿問屋役人助郷惣代之者并ニ私義御呼び出し之上今日私義御尋ね御吟味御座候処　別紙口書を以って御答申し上げ候通り酒手銭等ねだり取り候義御座無く三ッ谷ニて病気腹痛仕り暫手間取り候内　藤七殿ゟ御自分雇いニて代リ馬御雇い箱根宿江御越し之れ有り私義ハ夫れゟ在所大竹村江罷り帰り　尤も三嶋宿ニて諸取り候賃銭ハ三ッ谷百姓五郎左衛門与申す者江相渡し前文藤七殿相雇われ候賃馬江



遣わし呉候様頼み置き帰村仕り候段申上げ候ニ付き
三嶋問屋役人　助郷惣代江も御糺し
成され候処、其の節三嶋宿ゟも馬指し利兵衛と
申す者代リ馬三ッ谷迄相連れ罷り越し候処
最早藤七殿箱根宿へ相越され候間
三ッ谷五郎右衛門江私ゟ渡し置き候軽尻馬
賃銭ハ利兵衛方江受取　同人義直ちニ
箱根江罷り越し藤七殿御旅宿へ
相越し御同人三ッ谷ニて相雇われ候軽尻
馬賃銭も相戻し途中差し滞り候義共
詫び申し呉候義とも申し上げ私申し口与相違も
御座無く候得共旅人江對し病気を申立て
途中差し滞り彼是手間取り候ニ付き　其の節
三嶋宿江旅人ゟ代リ馬申し遣わし候事ニて酒手銭
ねだリ取り度き工ミのいたし方ニも相聞こえ



紛敷（まぎらわし）く思召され候得共　私義腹痛病気と
之れ有り候得ば其の段御聞き届き置かれ候　然レ共
旅人雇馬致され候節私ゟ働き御雇出し
賃銭等も差し遣わし帰村之節三嶋宿へも
右之段相届け可き処　其の儀も致さず勝手ニ
罷り帰り候義　病気とえいゝ立て候得ども
我侭不埓之いたし方ニ候間御察當
受け候ては助郷御役馬ニも罷り出ず乍ら
其の段不調法至極仕り候　此の度各々様
東海道宿方御用ニて御通行成され候ニ付き
　人馬勤め方逸々御乱し成され候間
向後右躰之義之れ無く助郷御役馬
大切ニ相勤め候様仰せ聞かされ　先ず此の度ハ
三嶋宿問屋并に助郷惣代之もの
申立て候趣を以って御聞き届け置かれ候段

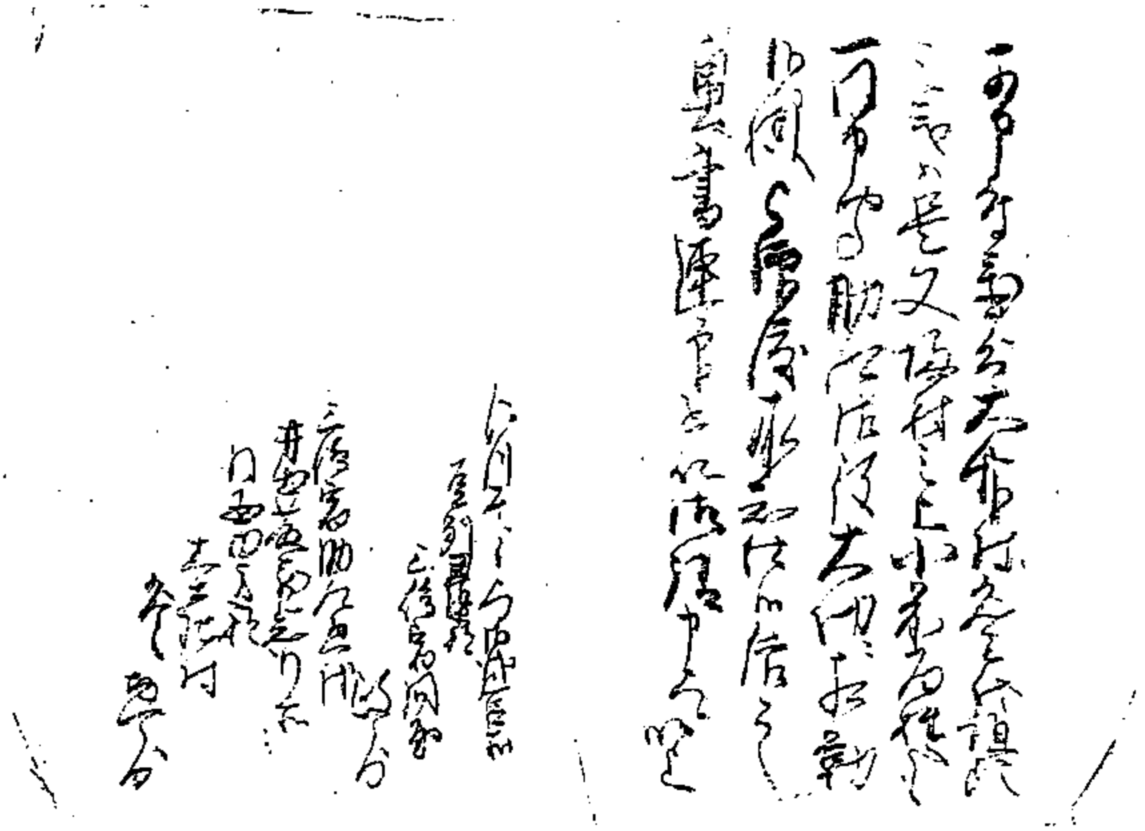


仰渡され有難き仕合せに存じ奉り候之れに依り御
請け印形差し上げ申す処件（くだん）の如し
大久保安芸守領分
豆州田方郡
大竹村
百姓
幸右衛門

寛政十二申年
九月

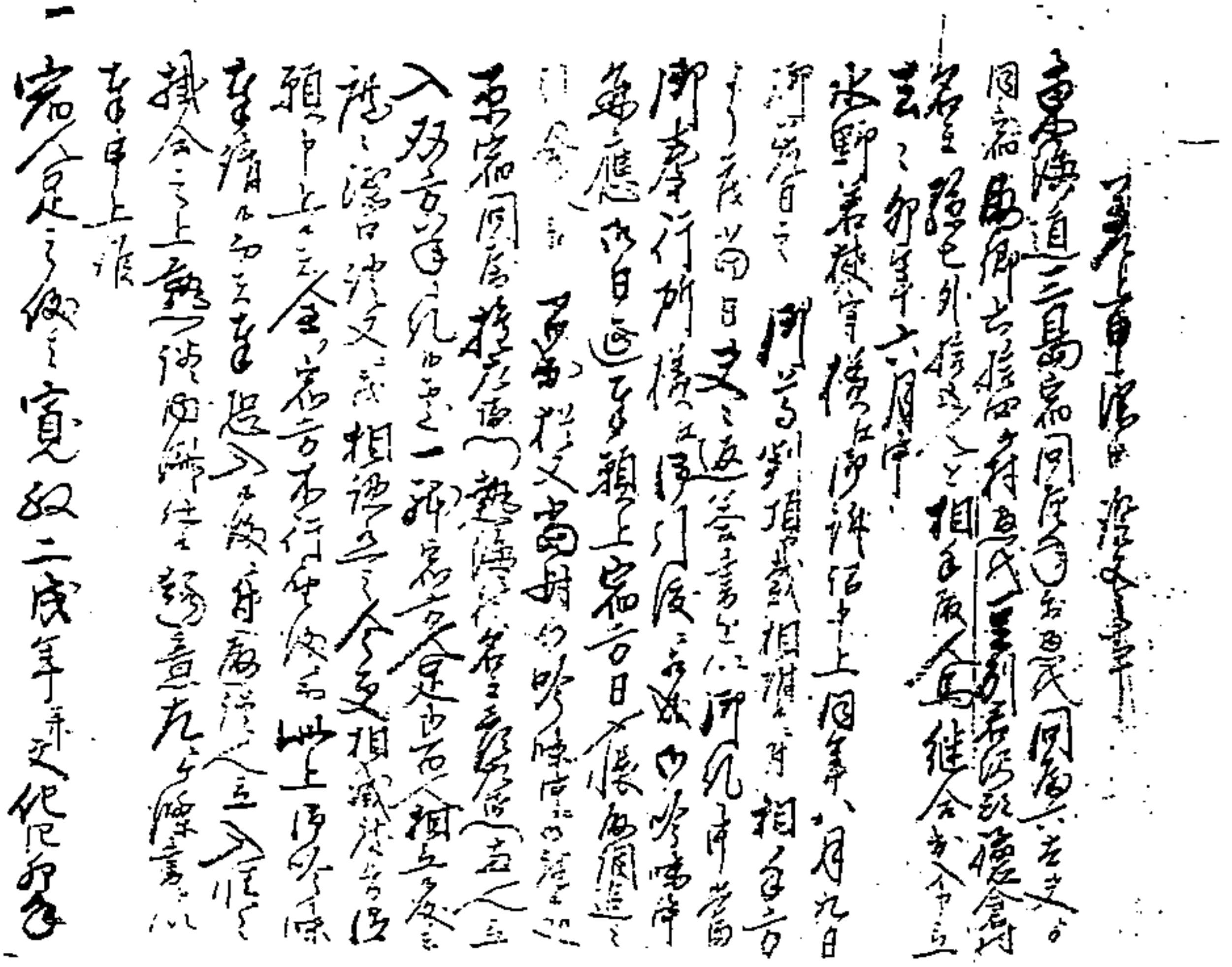
御韮山御役
荻野大八様
児嶋佐平太様

右之趣仰せ渡され候間以来御傳馬
助郷は勿論宿方人足馬方へも
問屋助郷惣代ゟも精々申し
含め旅人江對し心得違い之れ無き様



申し付け置く可き旨大竹村名主代組頭
之義ハ是又帰村之上小前百姓へも
一同申し聞き助郷御役大切ニ相勤め
候様仰せ渡され承知仕り候　之れに依り
奥書連印を以って御請け申し上げ候
以　上

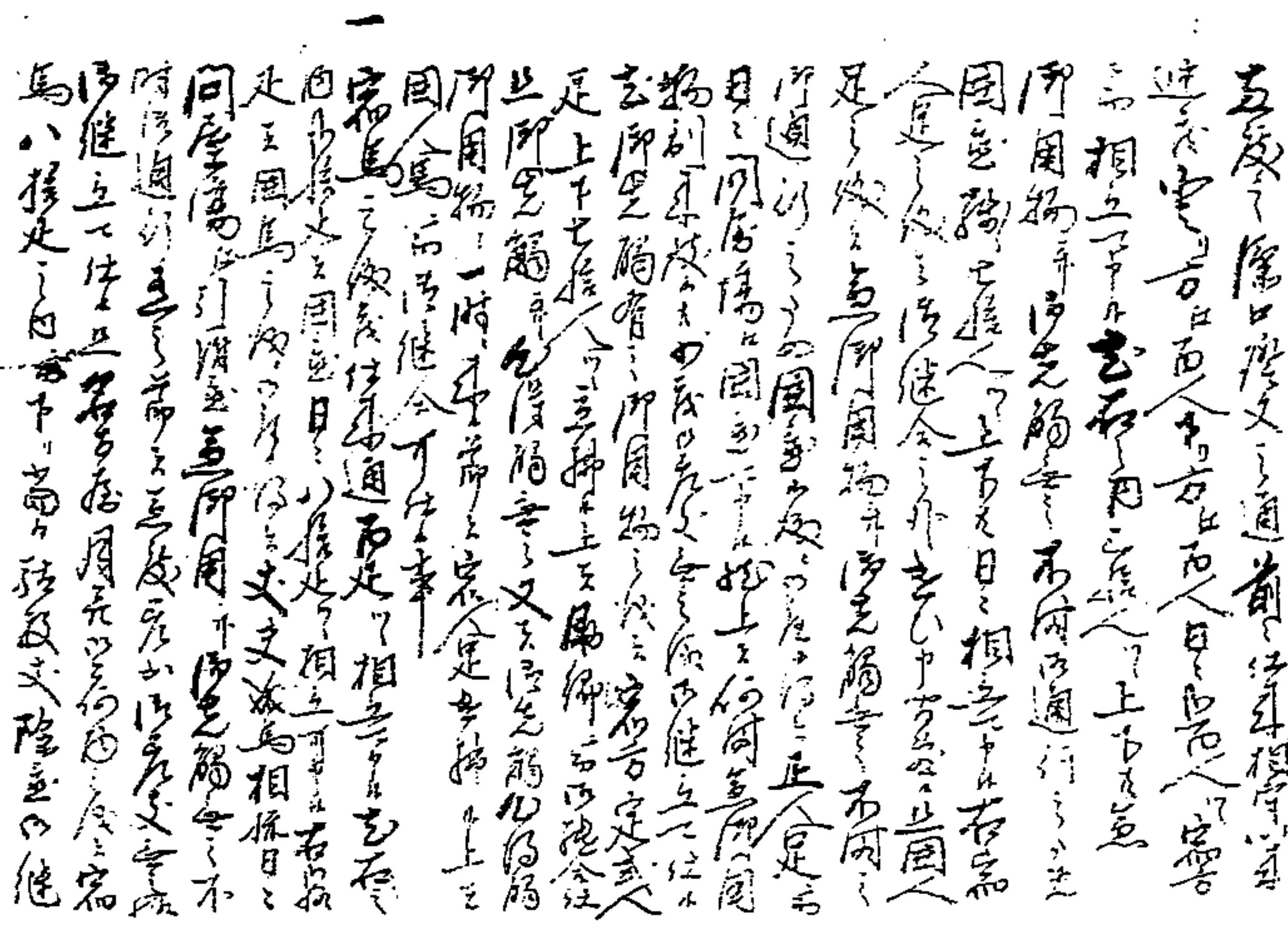
江川太郎左衛門御代官所
豆州君沢郡
三嶋宿問屋
政右衛門
三嶋宿助郷惣代
井出藤蔵知行所
同国田方郡
大土肥村
名主　惣右衛門



差上申済口證文之事

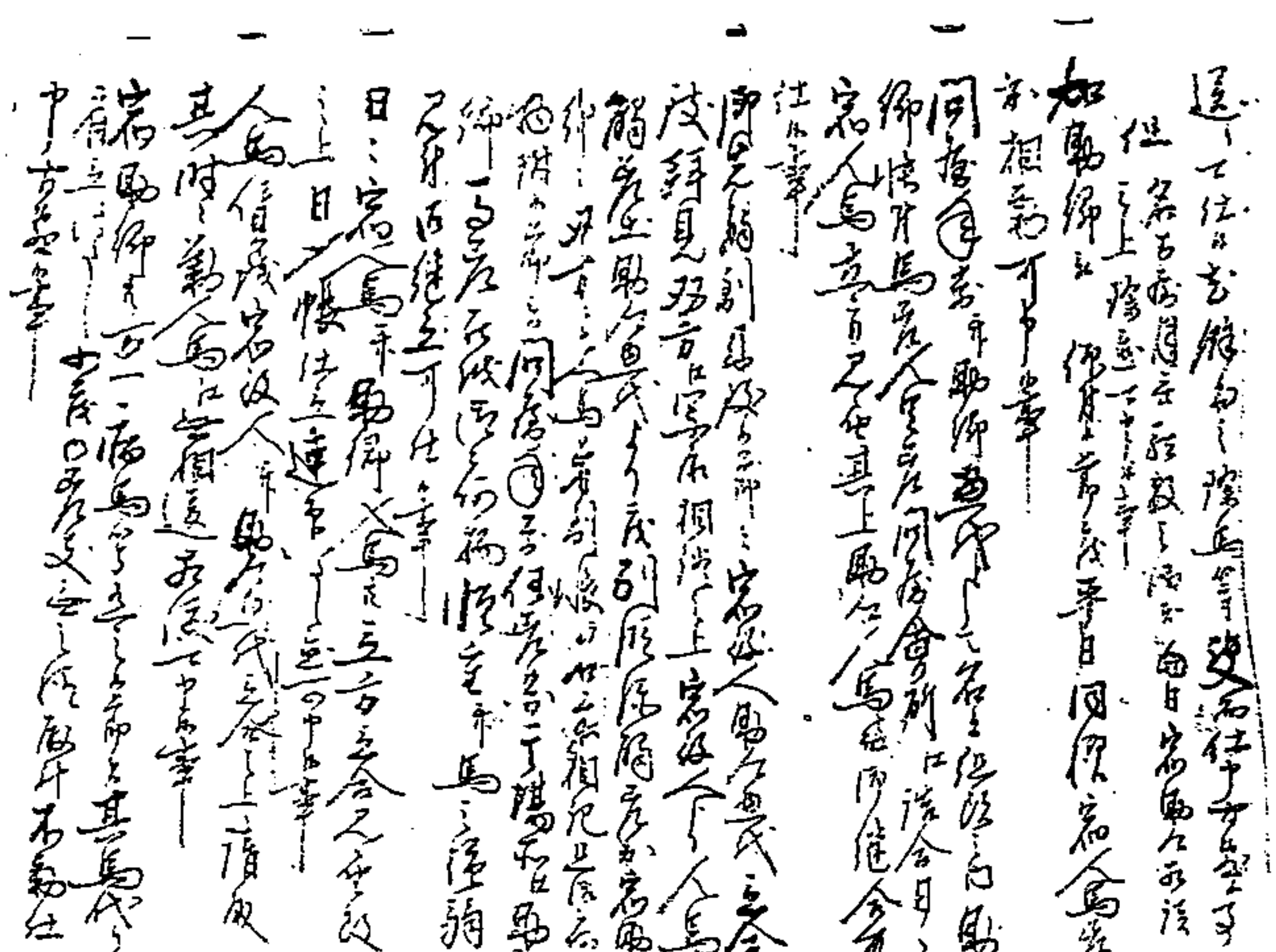
東海道三島宿問屋年寄り惣代、問屋六太夫ゟ
同宿助郷六拾四ヶ村惣代豆州君沢郡鋳倉村
名主孫七外拾五人を相手取り、人馬継合い出入り申立て
去々卯年六月中
水野若狭守様江、御訴訟申上げ、同年八月九日
御差日之御尊判頂戴相附き候ニ付き、相手方
よりも當日夫同返答書を以って御糺し中、當
御奉行所様江御引渡しニ相成り、御吟味中
再應御日延べ願い上げ奉り、宿方日〆帳取り調べ、追々
引合い人召し出され、猶又當時御吟味中ニ御座候処
原宿問屋権左衛門、熱海村名主彦左衛門両人立ち
入り、双方承り糺し候處、一躰宿方人足弐百人相立て候儀は、
度々済口證文ニも相認め之れ有り今更相減らし度き旨御
願い申上げ候は、全ヶ宿方不行届き儀ニて此上御五吟味
請け奉り候而は、恐れ入り候儀ニ付き、取證人立ち入り情々
掛け合い之上、熟談内濟仕り候趣意、左ニケ條書ヲ以って
申上げ奉り候

一、宿人足之儀は、寛政二戌年并に文化四卯年



両度之済口證文之通り、前々仕来り相守り、以来迚も、登り方江百人下り方江百人、日々弐百人ヅヽ宿方ニて相立て申す可く候、尤も右之内三拾人ヅヽ上下共急御用物并に御先触れ之れ無き不時御通行之ため囲み置き、残り七拾人ヅヽ上下共日々相立て申す可く候、右宿人足之儀は、御継ぎ合いの外遣い申す間敷く候、且つ囲み人足之儀は、急御用物并に御先触れ之れ無き不時之御通行之ため囲み置き候儀ニ御座候得ば、正人足ニて日々問屋場江囲み置き申す可く候、然ル上は、何時急御用物到来致し候共、少しも御差支え之れ無き様御継立て仕る可く候尤も御先触れ之れ有る御用物之儀は、宿方定式人足上下七拾人ヅヽ立ち拂い候上は、助郷ニて御継ぎ合い仕り且つ御先触れ并に心得触れ之れ無く、又は、御先触れ、心得触れ御用物与一時ニ来ル節は、宿人足遣い拂い候上は、囲み人馬ニて御継ぎ合い仕ル可く候事

一、宿馬之儀も仕来り通り、百疋ヅヽ相立て申す可く候、尤も右之内弐拾疋は、囲み置き、日々八拾疋ヅヽ相立て申す可く候、右弐拾疋は、囲み馬之儀ニ御座候得ば、丈夫成る馬相揃え日々問屋場江引附け置き、急御用并に御先触れ之れ無き不時御通行之れ有る節は、急度差出し御差し支え之れ無き様御継ぎ立て仕る可く候、且つ名古屋月並御荷物之儀は、宿馬八拾疋之内ニて下リ當日駄数文除き置き　御継ぎ



送り仕る可く候、尤も餘分之除馬等決而仕り申す間敷候事

但　名古屋月並駄数之儀は、當日宿助郷相談
之上除き置き申す可き候事

一、加助郷仰付けられ候節も、平日同様宿人馬差し出し相勤め申す可き候事

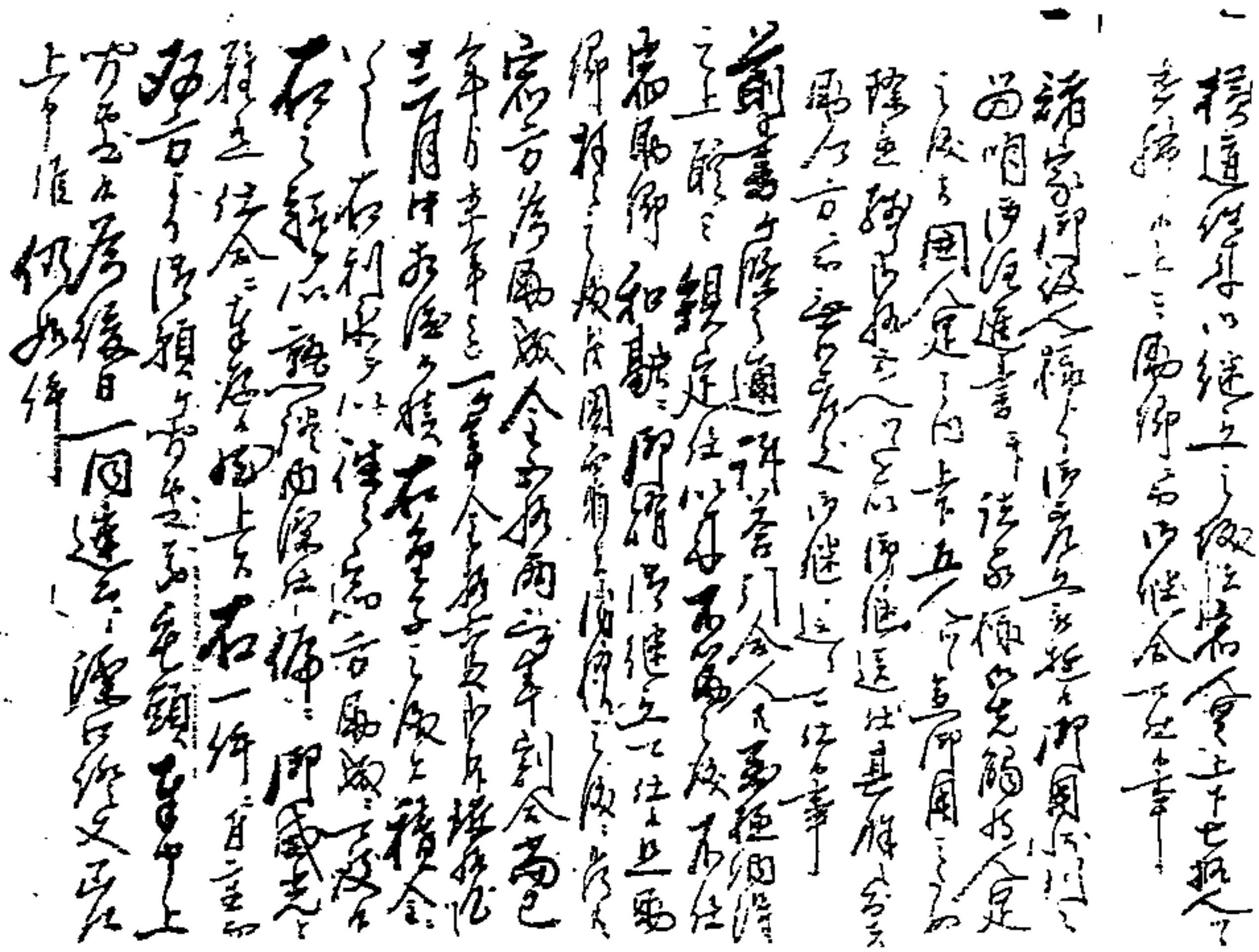
一、問屋年寄并に助郷惣代として名主組頭之内助郷帳付け馬差し人足差し、問屋會所ぇ詰め合わせ日々宿人馬立て方見届け、其上助郷人馬ニて御継ぎ合い（可）仕る可く候事

一、御先触れ到来致し候節は、宿役人助郷惣代立合い拝見致し、双方ぇ写し取り相談之上宿役人より人馬触れ差出し、助郷惣代よりも別段添え触れ差出し宿助郷方双方ニて、人馬着到帳ニ名前相記し、且つ御荷物附け候節は、問屋年寄り差し圖に任かせ其場所ぇ助郷馬差し罷り越し、御荷物軽重并に馬之強弱見計らい御継ぎ立て仕る可く候事

一、日々宿人馬并に助郷人馬共立て方立合い見届け改め之上日〆帳仕立て、連印いたし置き申す可く候事

一、人馬賃銭宿役人并に助郷惣代立合い之上請け取り其時々勤め人馬ぇ相違無く相渡し申す可く候事

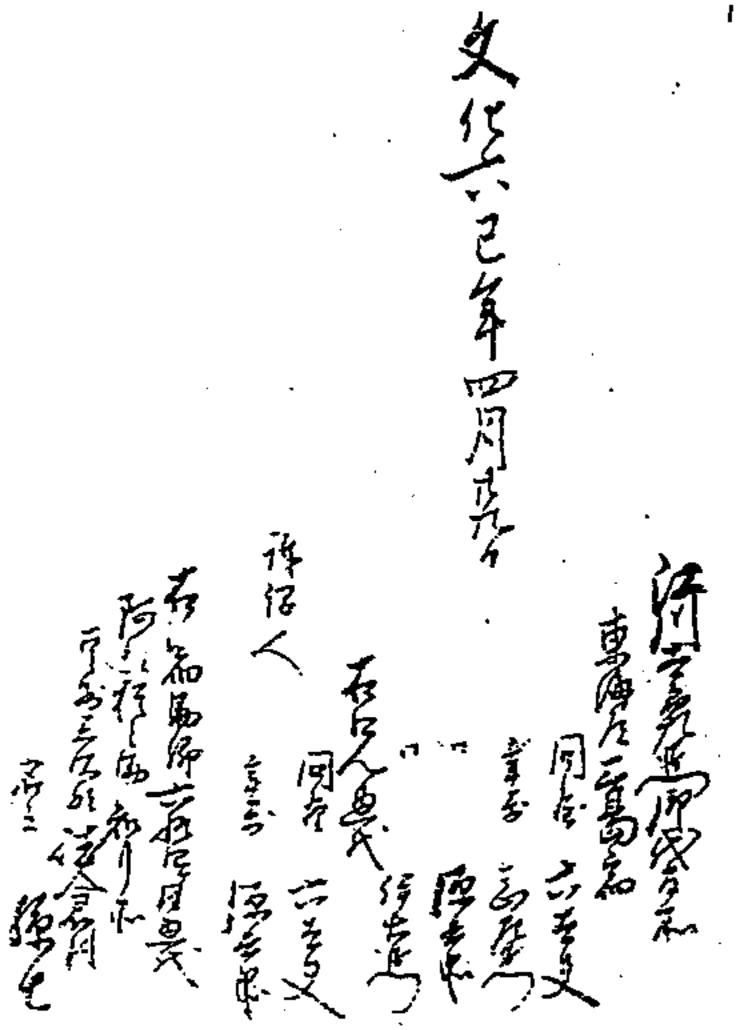
一、宿助郷共、万一病馬等之れ有り候節は、其馬代わり雇立てニいたし、少しも御差支え之れ無き様取計らい不勤仕り申す間敷候事



一、横道往来御継ぎ立て之儀は、宿人足上下七拾人ﾂﾞﾂ遣い挊い候上は、助郷ニて御継ぎ合い仕り可く候事

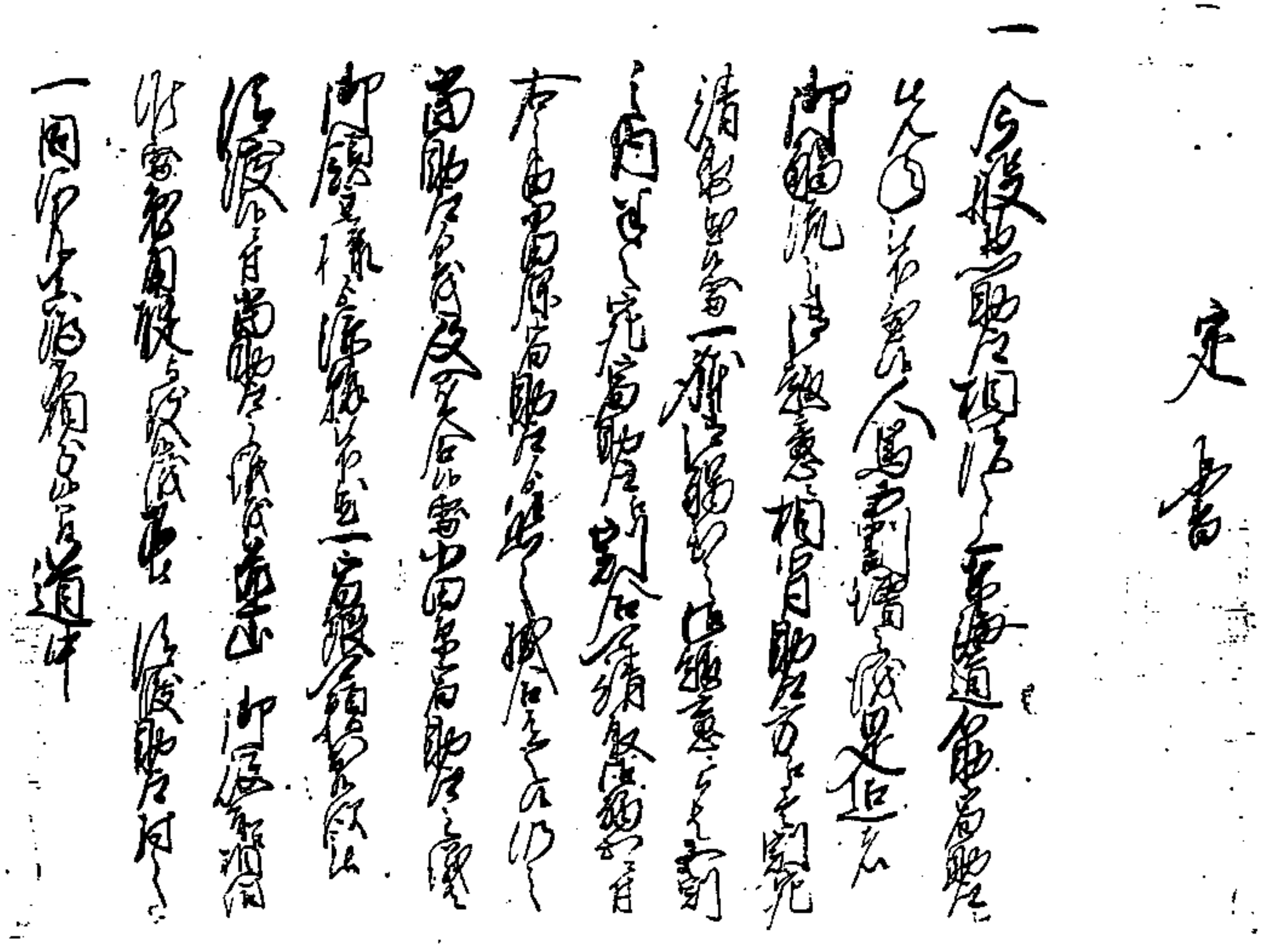
一、諸家御役人様ゟ御差し立て遊ばされ候御用状、川々留め明け御注進書、并に諸家様御先触れ持ち人足之儀は、囲み人足之内上下五人ﾂﾞﾂ急御用之ため除き置き残り弐拾五人ﾂﾞﾂを以って御継ぎ送り仕り、其の餘之分は助郷方ニて御差し支え無く御継ぎ送りﾘ仕る可く候事

前書ヶ條之通り訴答引合人共至極納得之上聢ﾄ規定仕り、以来不筋之儀仕らず宿助郷和融ニ御賄い御継ぎ立て仕る可く候、且つ助郷村々之儀も、困窮は、同様之儀ニ候得共宿方助成の為金五拾両三ヶ年割合當巳年ゟ未年迄、一ヶ年金拾六両弐分ト銀拾匁ﾂﾞﾂ十二月中相渡し候積り、右金子之儀は積金ニいたし、右利永ヲ以って、往々宿方助成ニ致す可く候右之趣ヲ以って熟談内済仕り、偏に御威光と有難き仕合せニ存じ奉り候、然る上は、右一件ニ付き重而双方より御願いヶ間敷き義、毛頭申し上げ奉り間敷く候、後日の為一同連印済口證文差し上げ申し候、仍って件の如し、



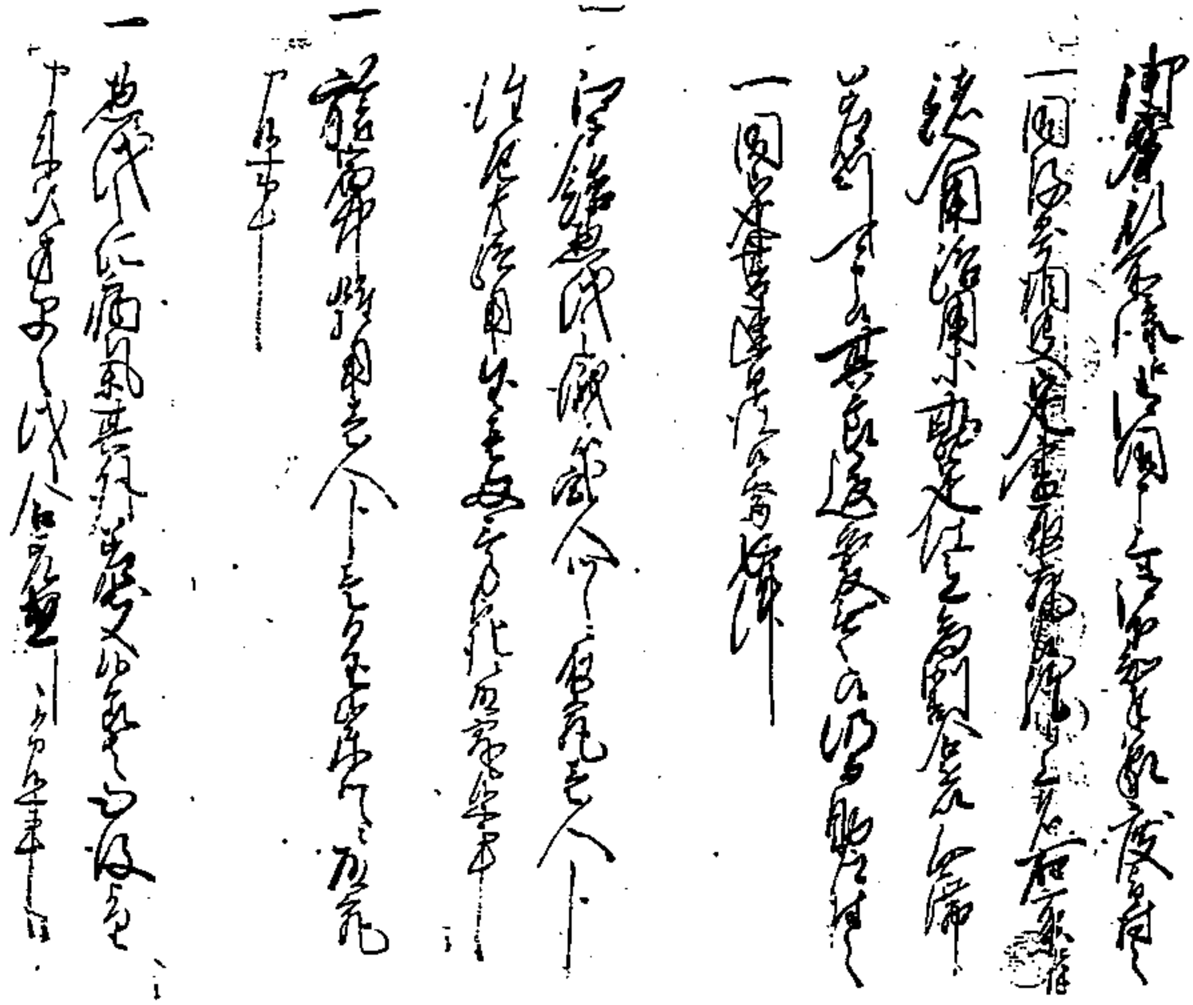
文化六巳年四月廿九日

江川太郎左衛門御代官所
東海道三島宿
問屋六太夫
年寄甚左衛門
〃　源兵衛
〃　伊右衛門
右四人惣代
訴訟人
問屋六太夫
年寄源兵衛
右宿助郷六拾四ケ村惣代
阿部猪之助知行所
豆州君沢郡徳倉村
名主孫七



定書

一、今般惣助郷相談之上東海道筋宿助郷江
先年下し置かれ候人馬五割増し之儀是迄は
御触れ流れ之御趣意ニ相背き助郷方江壱割宛
請取り置き候處一躰御触れ出し之御趣意ニては五割
之内半々宛宿助郷江割合請取る可き御触れ出しニ付き
右之由小田原宿助郷ゟ態々掛合之れ有り候之れに仍り
當助郷ゟも懸合いに及び候處小田原宿助郷之儀は
御領主様ゟ添輪下し置かれ一宿限り頼み出可く候様（被）
仰せ渡され候ニ付き當助郷之儀も韮山　御役所江相伺い
候處　兎角璉ゟ致し候儀仰せ渡されず助郷村々
一同何共真偽相分からず候間　道中

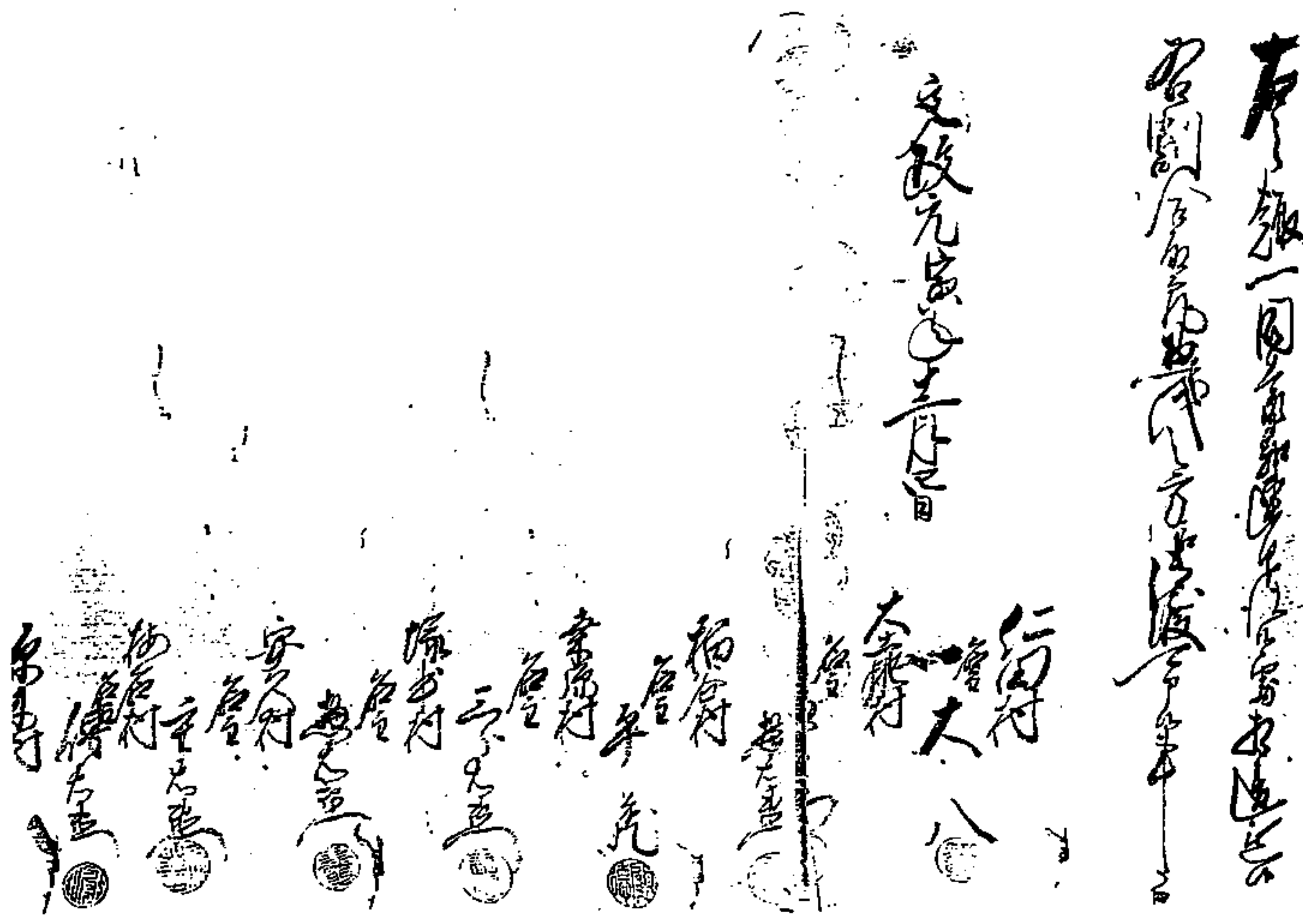


御奉行所様江御伺い申上げ御下知御願い奉り度き旨村々
一同存じ寄り相決定書取り究め候然ル上は右一条ニ付き
諸入用路用等勘定仕立て割合わせを以って滞り無く
差出し申す可く候　其節違変之れ無く候　仍而助郷村々
一同定書連印仕り候處件の如し

一、江戸詰め惣代之儀は弐人ヅヽニ取り究め壱人分
往き返り共路用金壱両三分当てニ取り究め候事

一、旅宿中雑用壱人分壱日金弐朱ヅヽニ取り究め
申し候事

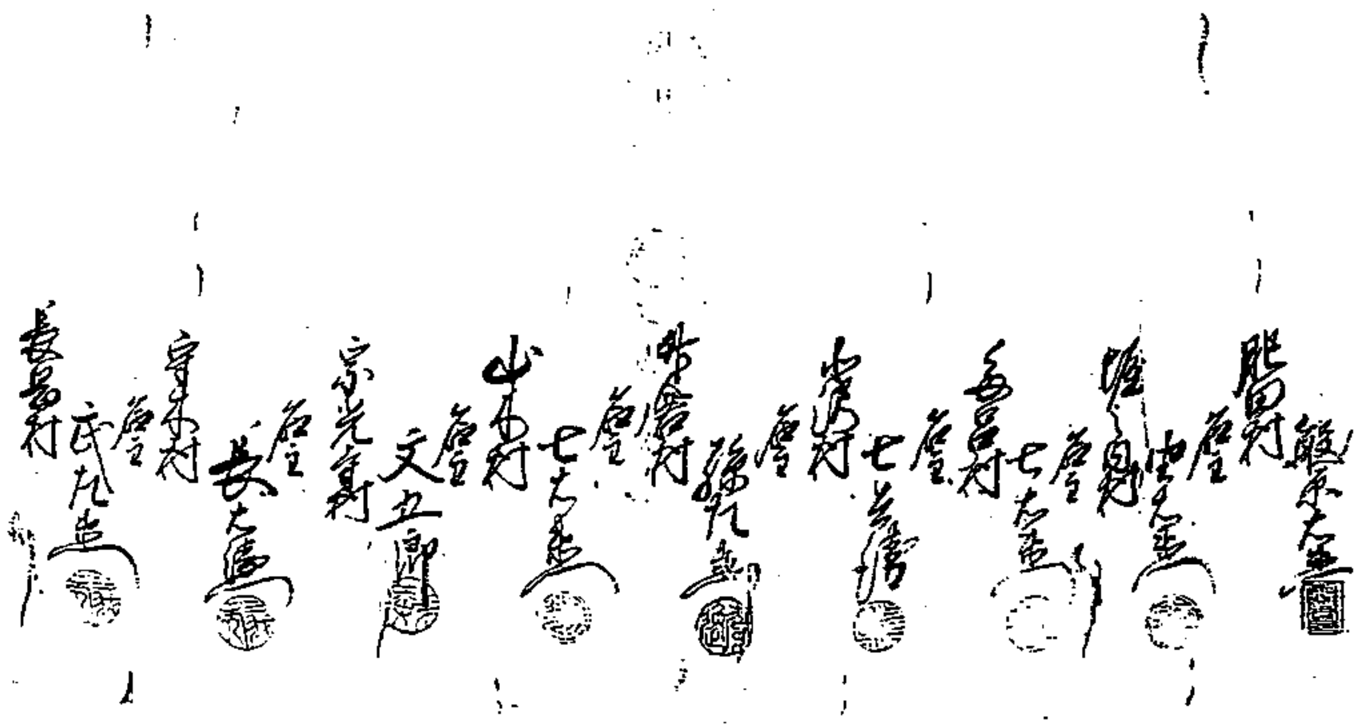
一、惣代之仁病気其外差支え候節は出役より
申し来り次第早々代わり合い差し遣わし申す可く候事



右之趣一同承知連印仕り候處相違之れ無く候
各割合取り究め惣代之方江御渡し申す可く候事以上

文政元寅年十二月四日

仁田村
名主　大　八 ㊞
大土肥村
名主　惣右衛門 ㊞
柏谷村
名主　平　蔵 ㊞
桑原村
名主　三郎右衛門 ㊞
塚本村
名主　惣右衛門 ㊞
安久村
名主　重右衛門 ㊞
梅名村
名主　傳左衛門 ㊞
原木村



肥田村
名主
繁右衛門 ㊞

堀之内村
名主
由右衛門 ㊞

多呂村
名主
七右衛門 ㊞

北沢村
名主
七兵衛 ㊞

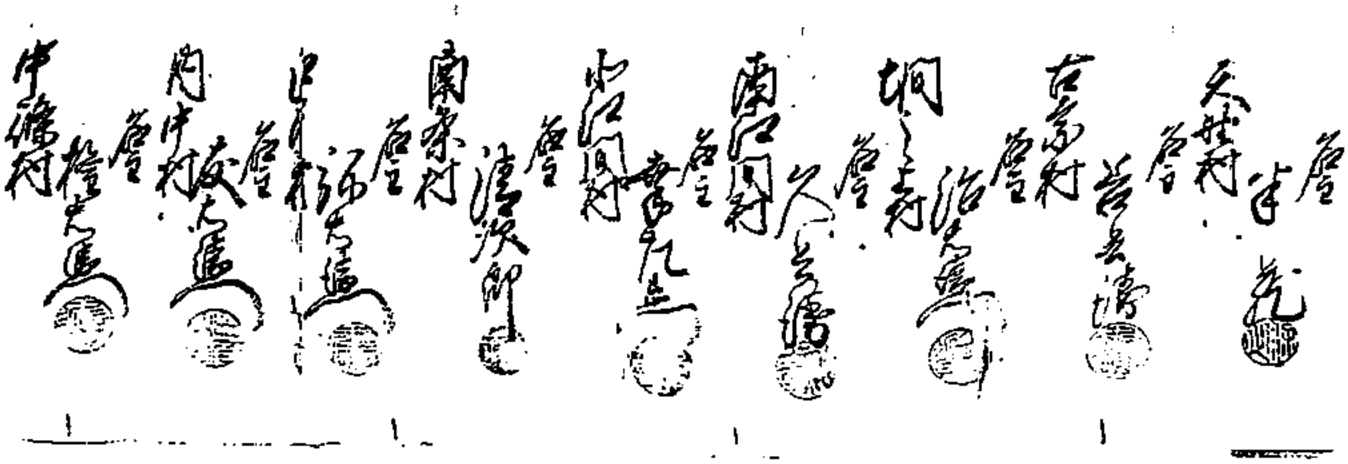
竹倉村
名主
孫左衛門 ㊞

山木村
名主
七右衛門 ㊞

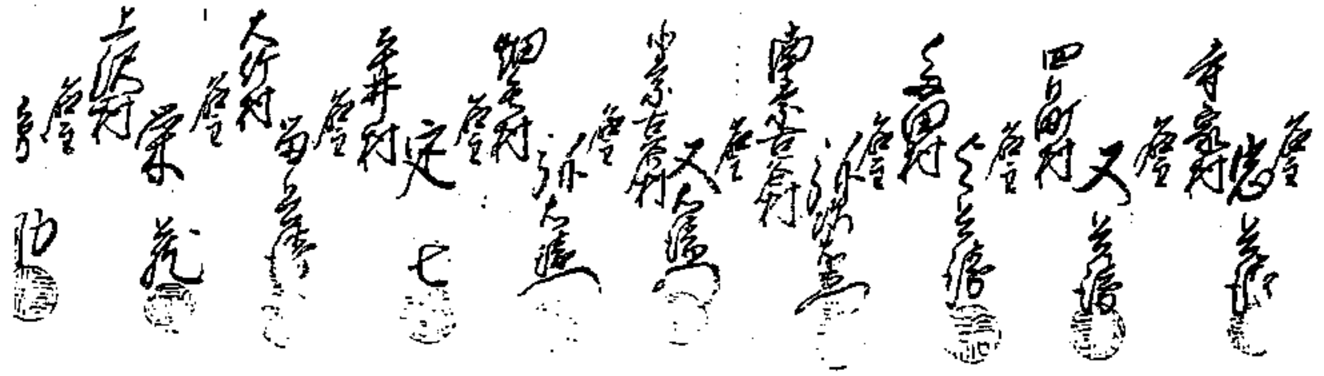
宗光寺村
名主
文五郎 ㊞

守木村
名主
長右衛門 ㊞

長岡村
武左衛門 ㊞



名主
半蔵 ㊞
天野村
名主
善兵衛 ㊞
古奈村
名主
治右衛門 ㊞
畑之上村
名主
久兵衛 ㊞
南江間村
名主
幸左衛門 ㊞
北江間村
名主
清次郎 ㊞
南条村
名主
弥右衛門 ㊞
□□村
名主
友右衛門 ㊞
内中村
名主
権右衛門 ㊞
中條村



名主
忠兵衛㊞
寺家村
名主
又兵衛㊞
四日町村
名主
与兵衛㊞
多田村
名主
弥次右衛門㊞
南奈古谷村
名主
又右衛門㊞
北奈古谷村
名主
弥右衛門㊞
畑毛村
名主
定七㊞
平井村
名主
留兵衛㊞
大竹村
名主
栄蔵㊞
上沢村
名主
圓助㊞

(間宮村)
名主　甚兵衛 ㊞

大場村
名主　清蔵 ㊞

中嶋村
名主　栄助 ㊞

御園村
名主　七郎右衛門 ㊞

長伏村
名主　伊右衛門 ㊞

下松本村
名主　文右衛門 ㊞

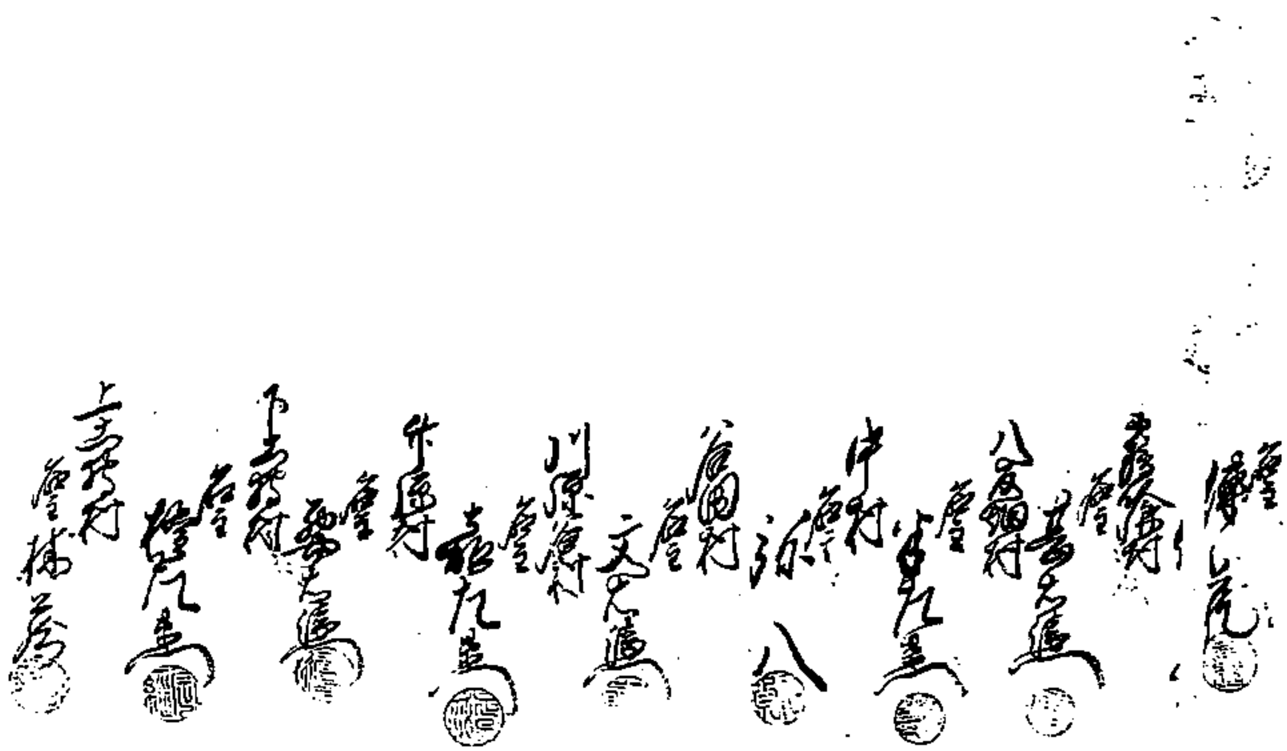
上松本村
名主　同人 ㊞

平田村
名主代　伊八 ㊞

玉川村
名主代　清八 ㊞

新谷村
名主　甚右衛門 ㊞

青木村



名主　傳　蔵㊞

鶴喰村
名主　甚右衛門㊞

八反畑村
名主　半左衛門㊞

中　村
名主　弥　八㊞

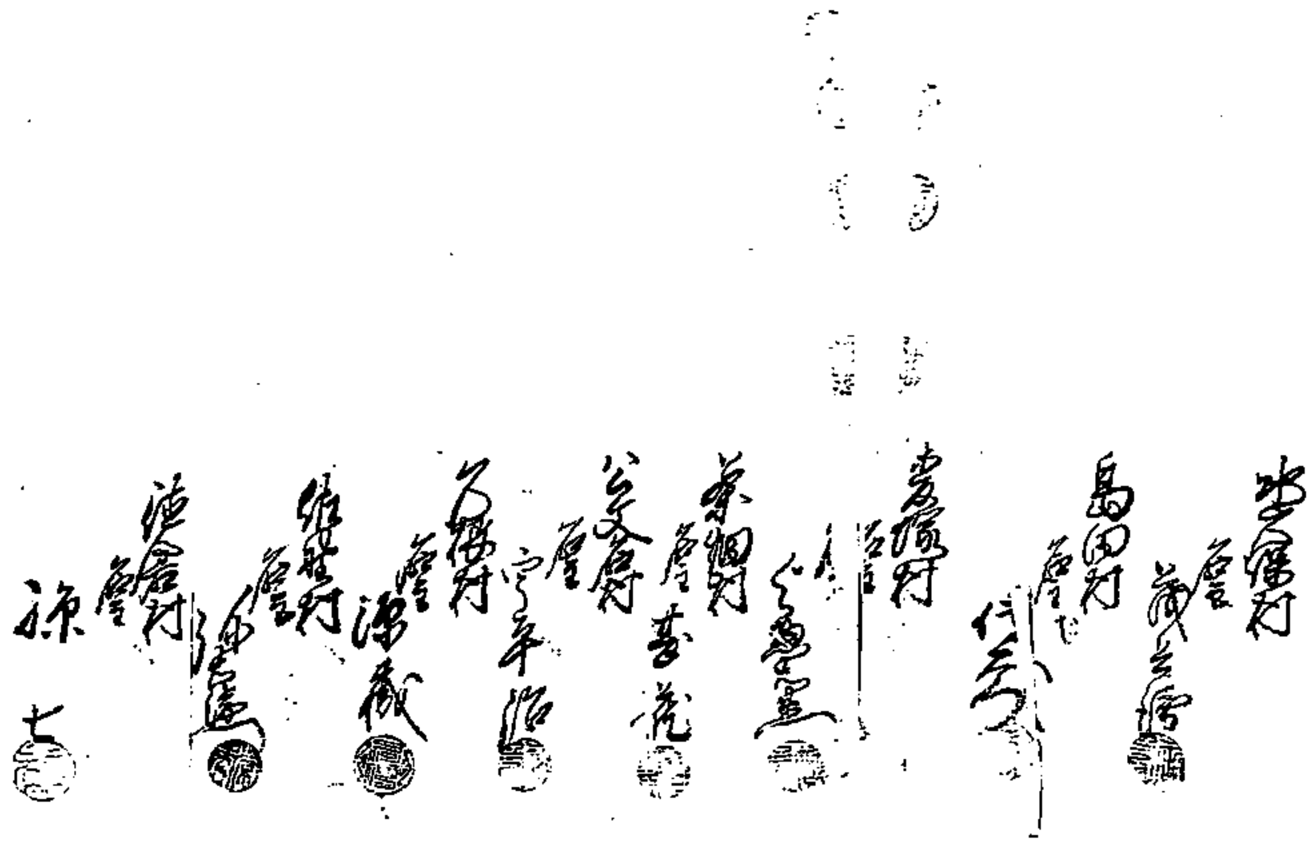
谷田村
名主　文右衛門㊞

川原ヶ谷村
名主　嘉左衛門㊞

竹原村
名主　要右衛門㊞

下土狩村
名主　権左衛門㊞

上土狩村
名主　林　蔵㊞



水久保村
名主　茂兵衛㊞

島田村
名主　傳左衛門㊞

麦塚村
名主　与惣右衛門㊞

茶畑村
名主　甚蔵㊞

公文名村
名主　宇平治㊞

久根村
名主　源蔵㊞

佐野村
名主　弥右衛門㊞

徳倉村
名主　孫七㊞

幸原村

名主　四郎右衛門 ㊞

谷田村

名主　傳左衛門 ㊞

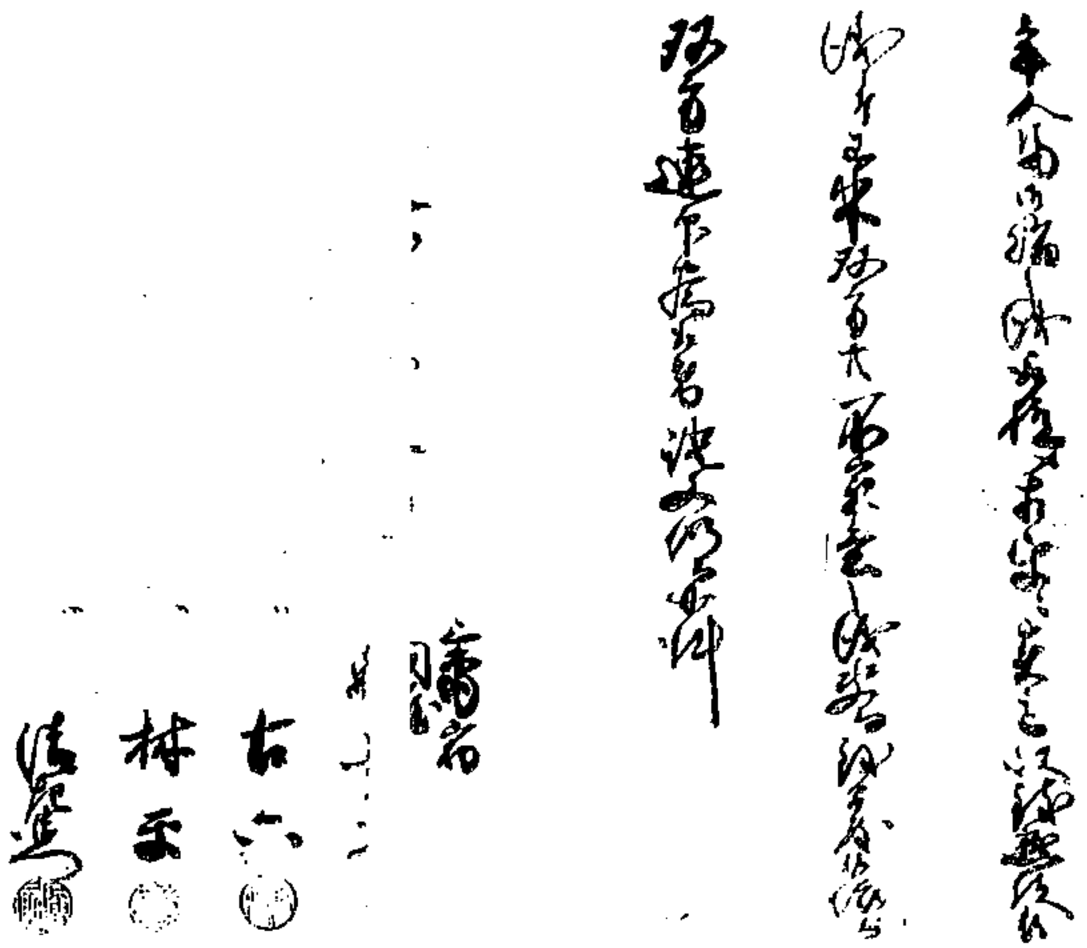
出役

惣代衆中

為取替證文之事

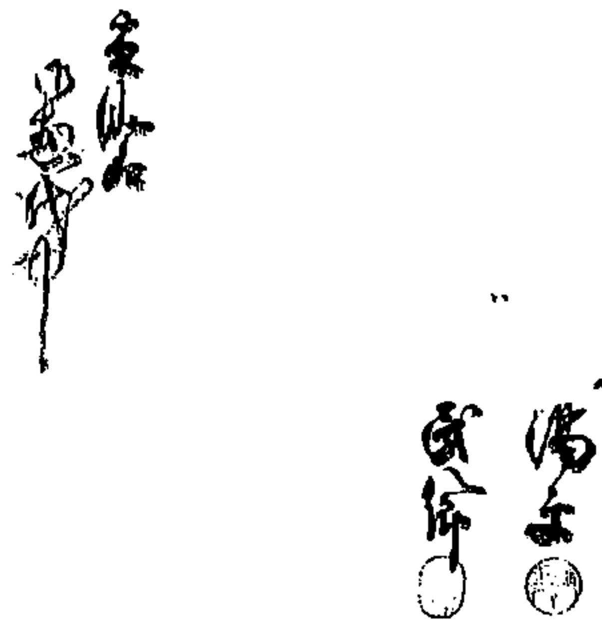
三島宿定助郷人馬御賄之儀年来宿方江熟談仕り
相頼み馬は高百石ニ付き米三俵宛　人足は高百石ニ付き
金何程宛と年々取極メ宿方江相頼み御賄い仕来り候処
聊之儀より縺（もつれ）合い破談ニ相成り去々子年去る丑年両年
手賄いニ成され候処　宿方は餘計之賃銭相掛かり難渋致し
助郷ニても惣代并に帳付け馬差し人足差し其外下働き等大勢
相掛かり諸雑費等多分ニ相掛かり却（かえって）而高割金相増し

難渋ニ相成り双方不為之儀ニ付き猶又熟談致し前々之通り
高百石ニ付き馬は米三俵宛ニ取り極め且つ自立村々之分は
年中ニ上リ方ェ弐度下リ方ェ拾三度都合拾五度
相勤め候積リ人足之儀は高百石ニ付き金四両宛ニ取り極メ
若し損毛相立ち候節は金壱分ヅヽ相増し候積リ成る丈ケ
金四両ニて相賄い候様尤も格別臨時御賄之れ有り候ハヾ其節ニ
至リ談合御賄い致す可く候　勿論宿人足立て方幷に日々宿
助郷人馬遣い方之儀は　去ル亥年迄熟談に及び候時節之
振合いを以って御賄い致し候積り双方至極納得致し當寅



年人馬御賄い之儀取極メ相互いニ実意を以って熟談致し候
儀ニ付き已来(いらい)双方共不実意之儀決而(けっして)致す間敷候　依而(よって)
双方連印取り為替(かわせ)証文仍而件(よってくだん)の如し

三島宿
問屋
□□□
〃古　六㊞
〃林　平㊞
〃清左衛門㊞



年寄

満平㊞

〃

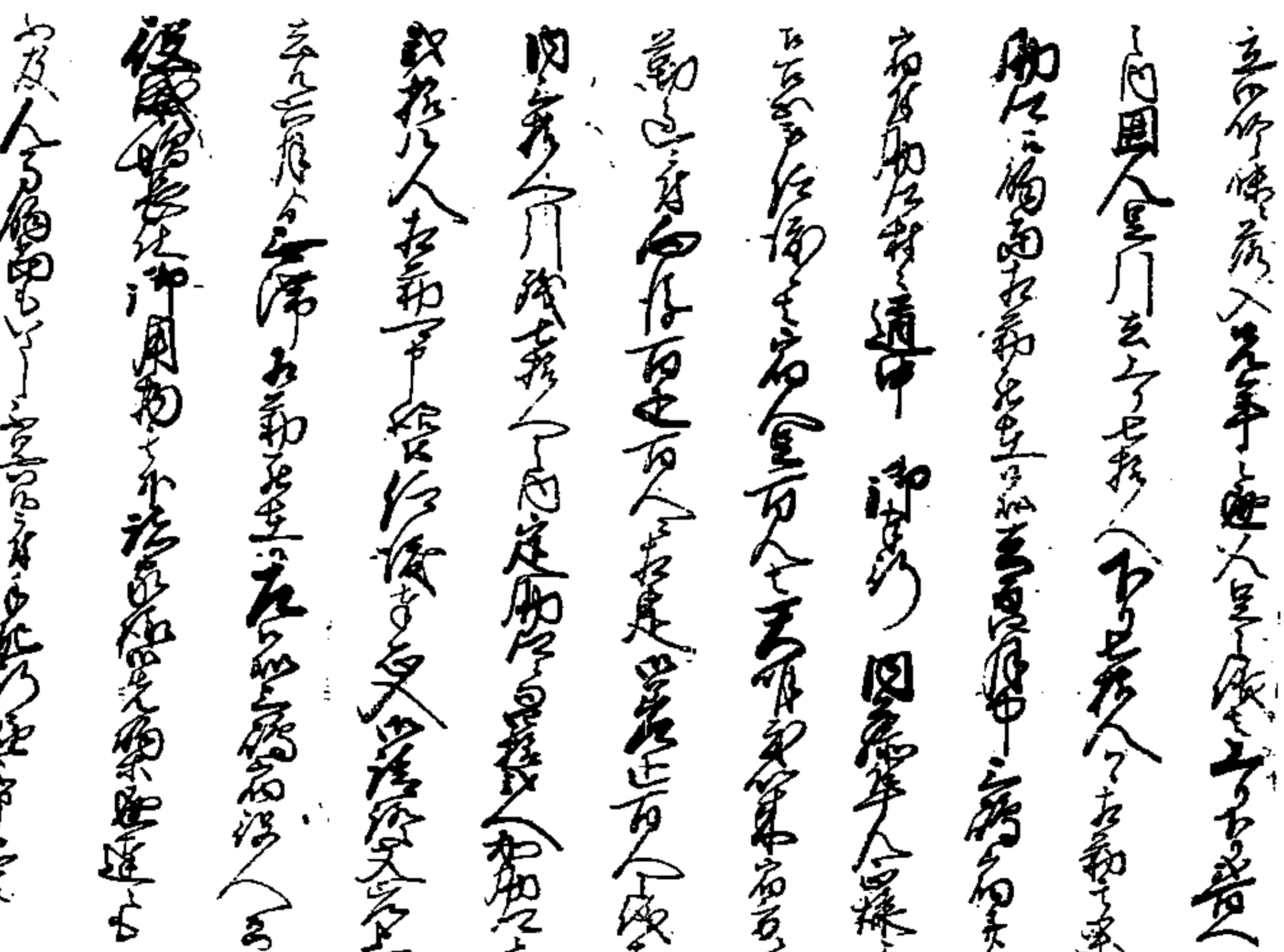
武八郎㊞

定助郷

御惣代中

乍恐以書付奉願上候

御知行所豆州田方郡柏谷村役人代兼仁田村名主
惣次郎申上げ奉り候　三嶌（しま）宿助郷之儀六拾七ヶ村ニて相勤め
来たり候処他宿助郷与違い下リ方之儀は五街道第一箱根
山中難場遠継ぎニて難渋之勤め方ニ之れ有り然る処先年ゟ
三嶋宿人馬勤め方百疋弐百人ヅツ相勤め来たり候得共　去ル
寛政之度ゟ引續き度々三嶋宿種々難渋之廉（かど）申立て
外宿並に百疋百人役相勤め度き旨
御公邊江御訴訟申上げ奉り候ニ付き　其砌（みぎり）助郷村々再三
道中　御奉行所江召し出され御糺し請け奉り候得共先年ゟ
仕来たり之事ニ付き其の旨御答申上げ奉り候間宿方申口難



立て御吟味ニ落入り　先年之通り人足之儀は上リ下リ弐百人
之内囲み人足引去り上リ七拾人下リ七拾人ツヽ相勤め其の余
助郷江触れ當て相勤め罷り在り候処去る酉四月中三嶋宿并に
宿付き助郷村々道中　御奉行　内藤隼人正様江
召出され仰せ渡され候は　宿人足百人は天明度以来宿方ニて
勤め過ぎニ付き向後百疋百人ニ相定め御差止め百人之儀は
内三拾人引残り七拾人之内定助郷ニて四拾弐人加助郷ニて
弐拾八人相勤め申す可き様仰せ渡され恐入り奉り御請け證文差上げ
去ル六月ゟ滞り無く相勤め罷り在り候　左候処三嶋宿役人ニて
役威増長仕り御用物其外諸家様御先触れ等通達にも
及ばず人馬触れ當てもいたし呉れず候ニ付き手配行き届き申さず上は

御議定等も相破ﾘ万端勝手之取計いを以って御定め人足をも

使い拂わず人馬立て辻日〆帳不正之認(したた)め方仕り候ニ付き調印（難）

相成り難く　去る八月中内藤隼人正様江御訴訟申し上げ奉り

依而(よって)宿役人共御召出し双方御吟味之上　宿助郷共人馬継ぎ立て

心得方書面を以って申し出可き様仰せ渡され候間前々ゟ助郷勤め方

之儀逸々申上げ奉り候得共　兎角宿方問屋善助我意申し

張り候ニ付き何分助郷惣代之もの捨置き難く種々申立て候得共

御留役御掛ﾘ金井伊太夫様宿方江熟談いたし候様

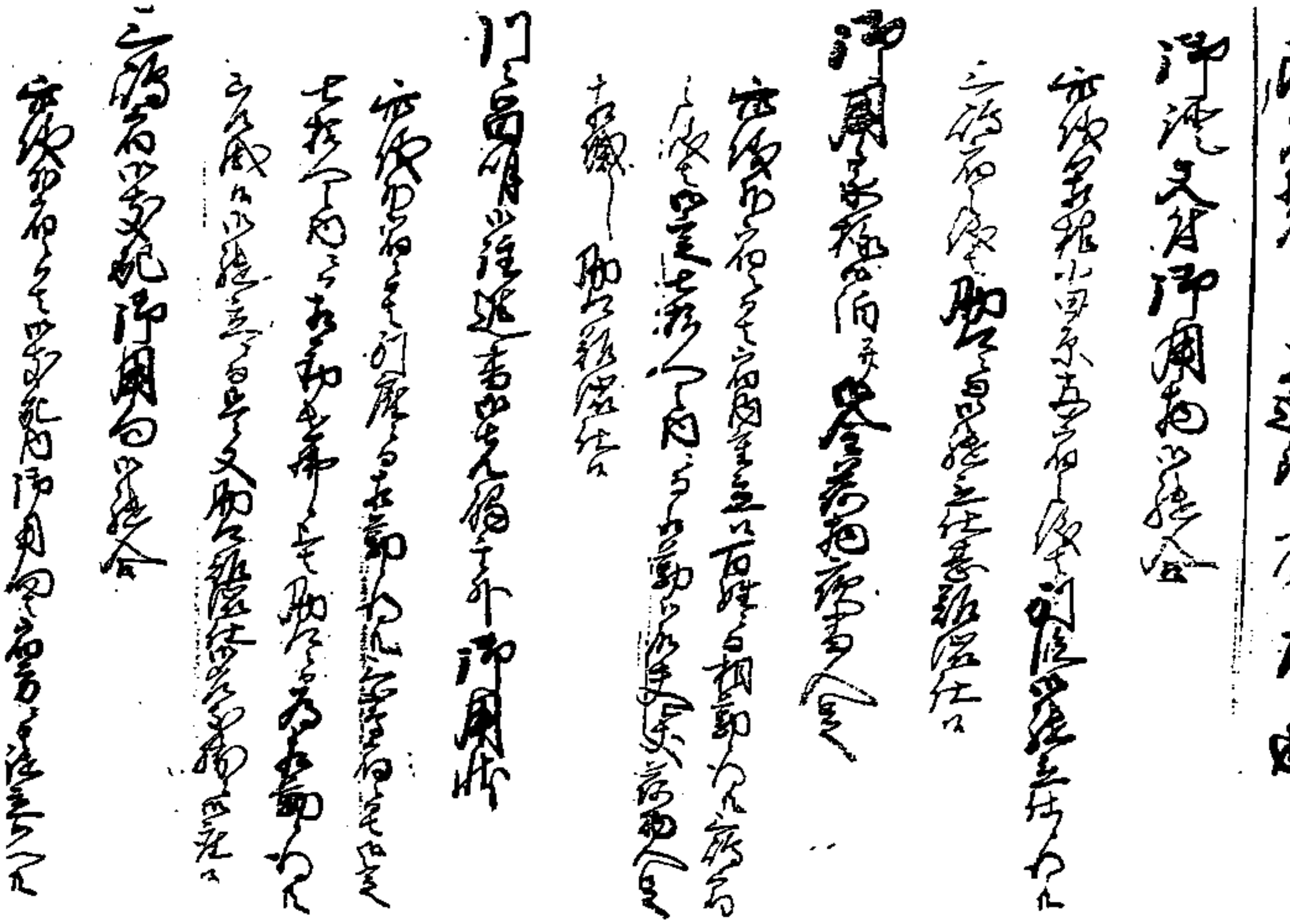
御利解仰せ渡され恐れ入り奉り候且つ助郷村々之儀も前条（奉）

申上げ奉り候通り山中難場八里之継合い御荷物御継立て時刻ニ

寄り一夜二夜之泊り役ニて必至と難渋ニ相成り殊更農

業仕附け之時節は□□□□□□□□□□□□□□□□

程之儀ニ之れ有り候処當節ニ及び候ては前々仕来たりニ拘らず宿人足
勝手ニ遣拂い多分之人馬倶ニ助鄕ニて相勤め候ニ付き御大切之
御賄い御差支え而已(のみ)出来雑費存外相掛り此の姿ニ成行き候上は
難渋弥(いよいよ)増し　詰りは村々退転に及ぶ外之れ無く十方(とほう)ニ暮(くれ)罷り在り候
右ニ付き六拾七ヶ村助鄕村々御料御私領其外給々相分かれ
候得共助鄕勤め方之儀は一体之儀ニ付き種々申談候處
此上宿方相手取り如何様申立て候ても御利解而已に御座候上は
詮無き事ニ付き然ル上は恐れ乍ら御進達願い上げ奉り度き趣
六拾七ヶ村役人共再會評決仕り候処三嶋宿ニて相勤め候
百人役助鄕加助鄕ニて相勤め候儀は　御裁許ニて仰付けられ候ニ付き
違背仕り候儀は毛頭之れ無く候得共右宿方役人共取計らい向き



隣宿振り合い与は相違いたし候廉々左之通り

御證文付き御用物御継合い

此儀箱根小田原両宿之儀は別段御継立て仕り候得共

三嶋宿之儀は助郷ニて御継立て仕り甚だ難渋仕り候

御用家様御泊まり并に御金荷物夜番人足

此儀外宿ニては宿内重立ち(おもだ)候百姓ニて相勤め候得共三嶋宿

之儀は御定め七拾人之内ニて相勤め候故夫レ丈荷物人足

相減らし助郷難渋仕り候

川々留明け御注進書御先触れ其外御用状

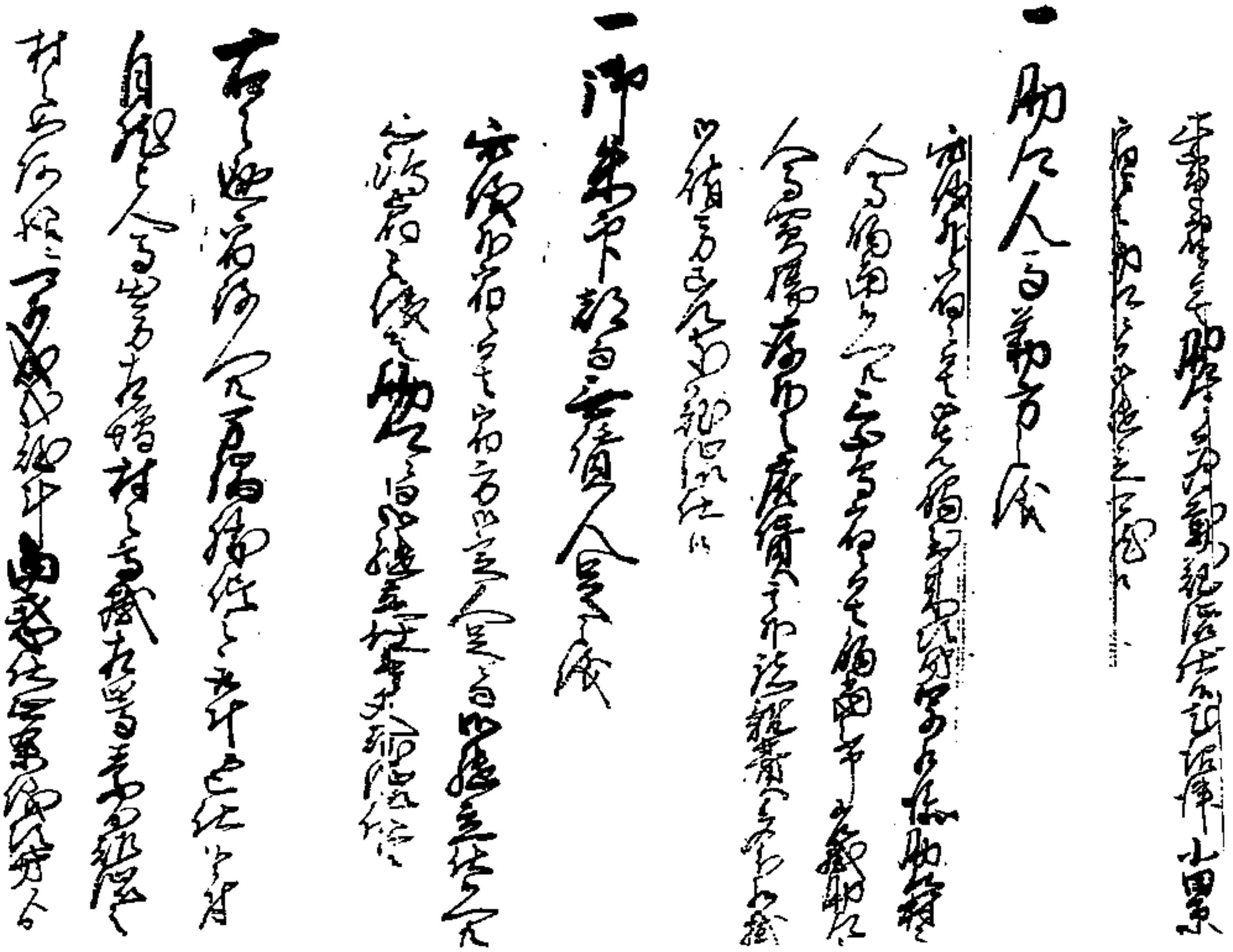
此儀外宿ニては別雇ニて相勤め候得共三嶋宿ニては御定め

七拾人之内ニて相勤め遣拂い候上は助郷ニて相勤めさせ候得共

差掛り候御継立てニて是又助郷難渋仕り御差支え勝ちニ御座候

三嶋宿御支配御用向き御継合い

此儀外宿ニては御支配内御用向きは宿方ニて継立て候へ共



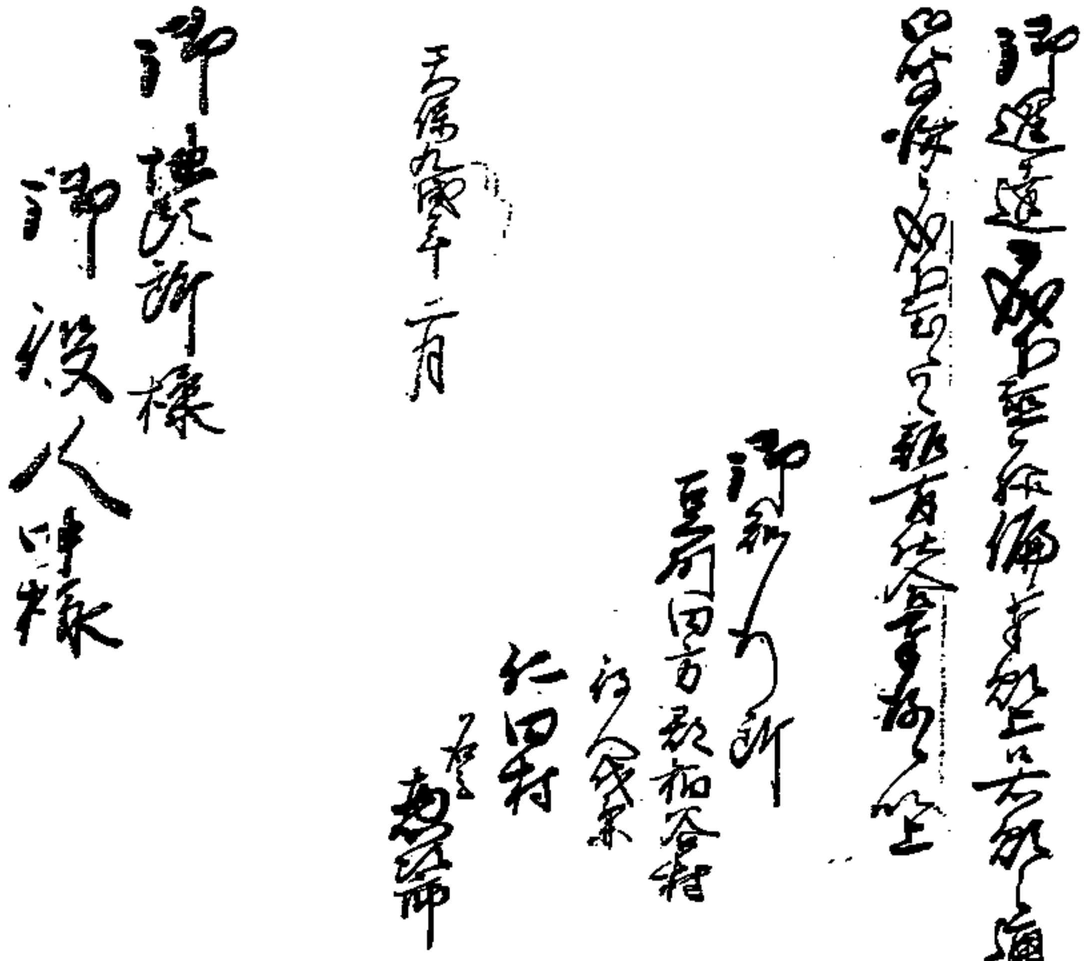
三嶋宿ニては助郷ニて勤めさせ難渋仕り候尤も沼津小田原
宿ニては助郷ニて御継立て然る可く候

一、助郷人馬勤め方之儀

此儀外宿ニては御先触れ至来次第写し相添え助郷村々
人馬触れ当て候へ共三嶋宿ニては触れ当て申さず差掛り助郷之
人馬買揚げ存外之雇賃其外諸雑費多分相掛り
御賄方差支え難渋仕り候

一、御朱印都而（すべて）無賃人足之儀

此儀外宿ニては宿方御定め人足ニて御継立て仕り候へ共
三嶋宿之儀は助郷ニて御継立て仕り是又難渋仕り候
右之通り宿役人共万端勝儘之取計らい而已仕り候ニ付き
自然と人馬出方相増し村々高掛り相嵩み素ゟ難渋之
村々如何様ニ相成る可き哉計り難く当惑仕り余儀無き次第ゟ

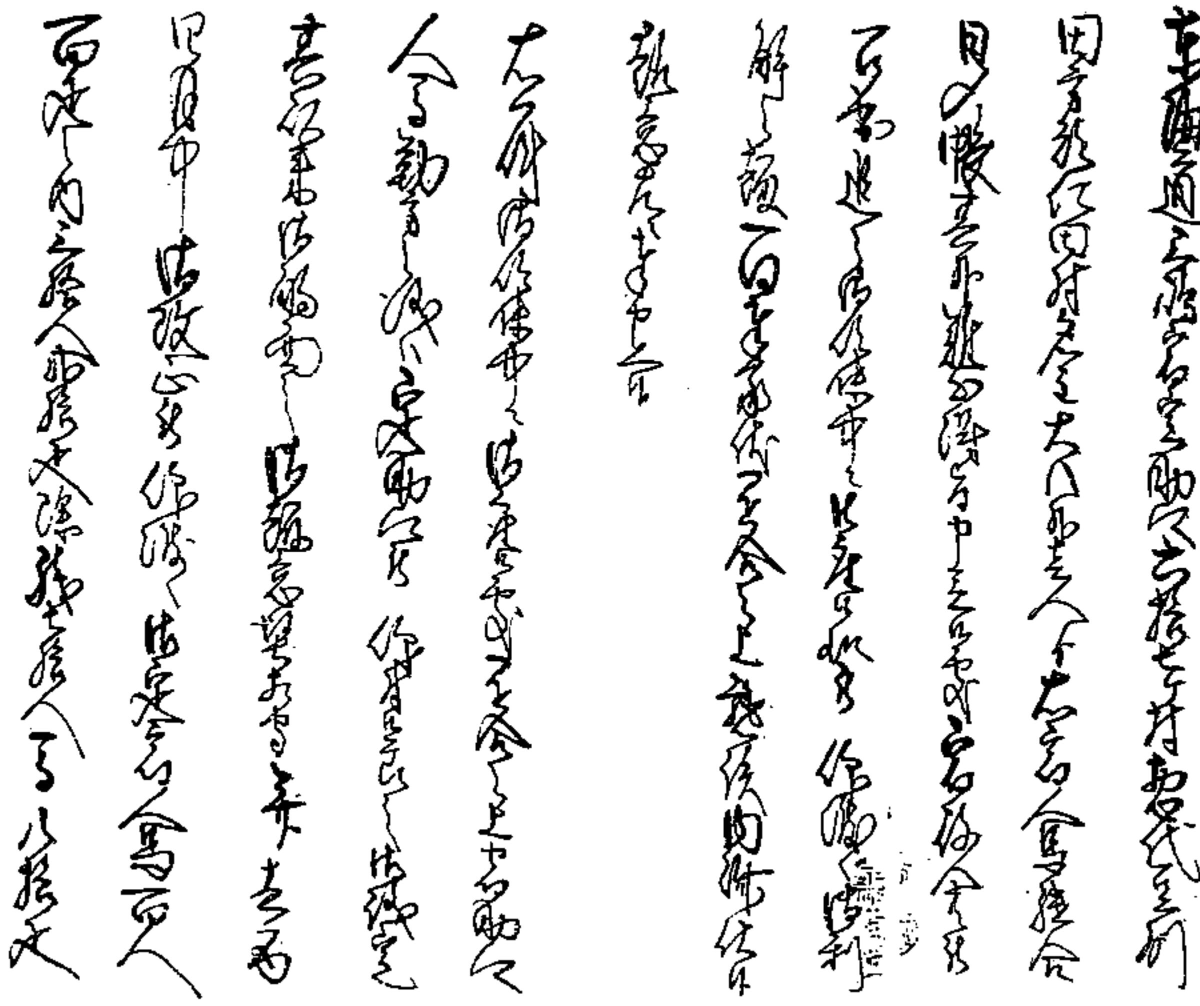


恐をも顧み奉らず願上げ奉り候助郷一同申談之通り何卒
格別之御慈悲を以って恐れ乍ら
御進達成し下し置かれ候様偏に願上げ奉り候　右願之通り
御聞き済み成し下し置かれ候ハヾ有難き仕合せに存じ奉り候以上

御知行所
豆州田方郡柏谷村
役人代兼
仁田村
名主
惣次郎

天保九戌年二月

御地頭所様
御役人中様

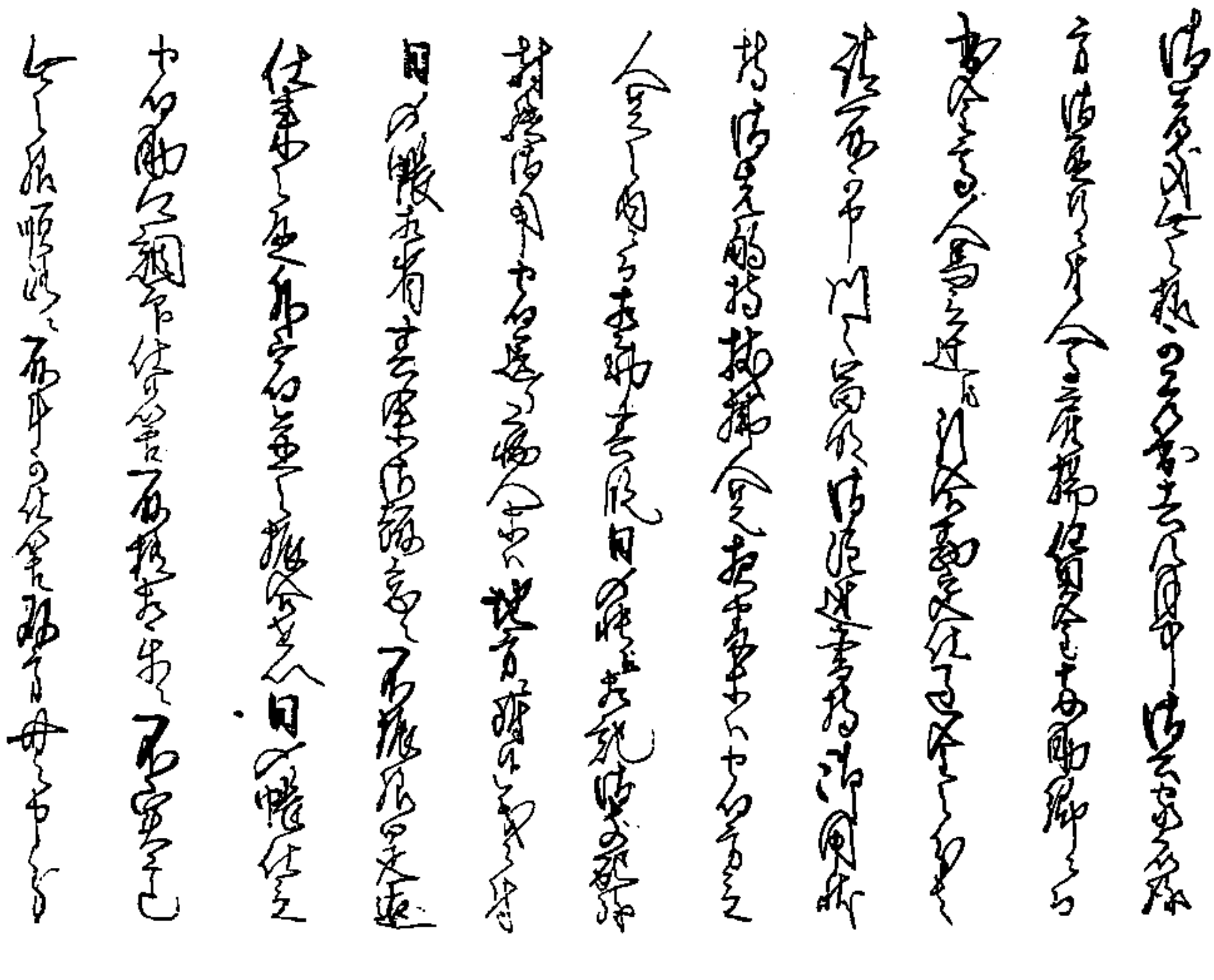


差上申濟口證文之事

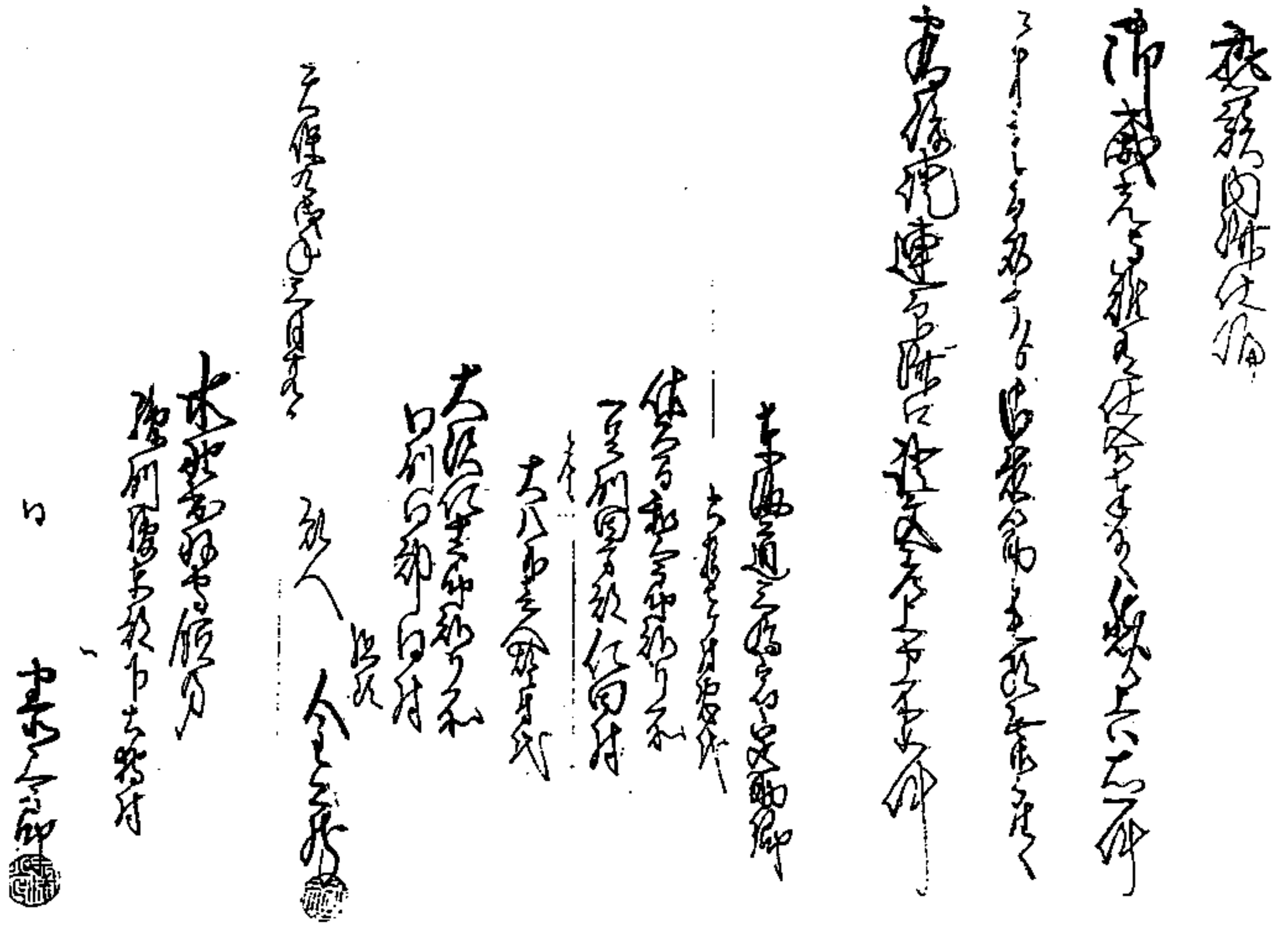
東海道三嶋宿定助郷六拾七ヶ村惣代豆州
田方郡仁田村名主大八外壱人ゟ右宿人馬継ぎ合い
日〆帳其外心得難き旨申立て候處宿役人共
召し出され追々御吟味中ニ御座候処仰せ渡され候御利
解之趣一同承伏奉り懸け合い之上熟談内濟仕り候
趣意左ニ申上げ奉り候

右一件御吟味中ニ御座候處懸け合い之上宿助郷
人馬勤め方之儀ハ定助郷仰付けられ候節之御議定
其以来御触れ面之御趣意堅く相守り并に去る酉
四月中御改正仰せ渡され候御定め宿人馬百人
百疋之内三拾人弐拾疋除き残り七拾人馬八拾疋

上下差別無く宿方ニて御継ぎ立て仕り其除之人馬
助郷江触れ當て次第差出し申す可く囲み人馬之儀は、
専ら御用筋非常之囲み方与相心得日々宿方江
備え置き自余之遣い拂いハ決し而致し間敷く御請證文
之通り是亦相守り且つ宝暦度之御触れ面之通り
宿方ゟ諸御通行御銘々御先触れ至来次第
写相廻し過人馬之れ無き様正路ニ触れ當て助郷ニてハ
右触れ當て次第、人馬遅参不参之れ無き様差出し
申す可く、都而(すべて)先前御触れ面并に昨年仰せ渡され候
御請け證文之通り堅く相守り御趣意ニ振れざる様急度
取計らい申す可く且つ御差止メ百人之内三拾人除き残って
七拾人両助郷ニて相勤め可き儀ハ、示談之上聊



御差支え之れ無き様差出す可く去る八月中御公家衆様
方御通行ニ付き人馬雇揚げ賃金両助郷ニて
出金高人馬立て辻ヱ引合勘定仕り過金之分は、
請け取り申す可く、川々留め明け御注進書持ち御用状
持ち、御先触れ持ち杖拂い人足夜番等ハ宿方立て
人足之内ニて相勤め其の段日〆帳ヱ相記し御支配様
村継ぎ御用宿送リ病人等ハ地方ニ附き候義ニ付き
日〆帳相省き其の余御趣意ニ振れざる様是迄
仕来り之通り外宿並之振り合いを以って日〆帳仕立て
宿助郷調印仕り候筈取り極め相互いニ不実意
之れ無き様順路ニ取り計らい仕る筈双方申し分無く

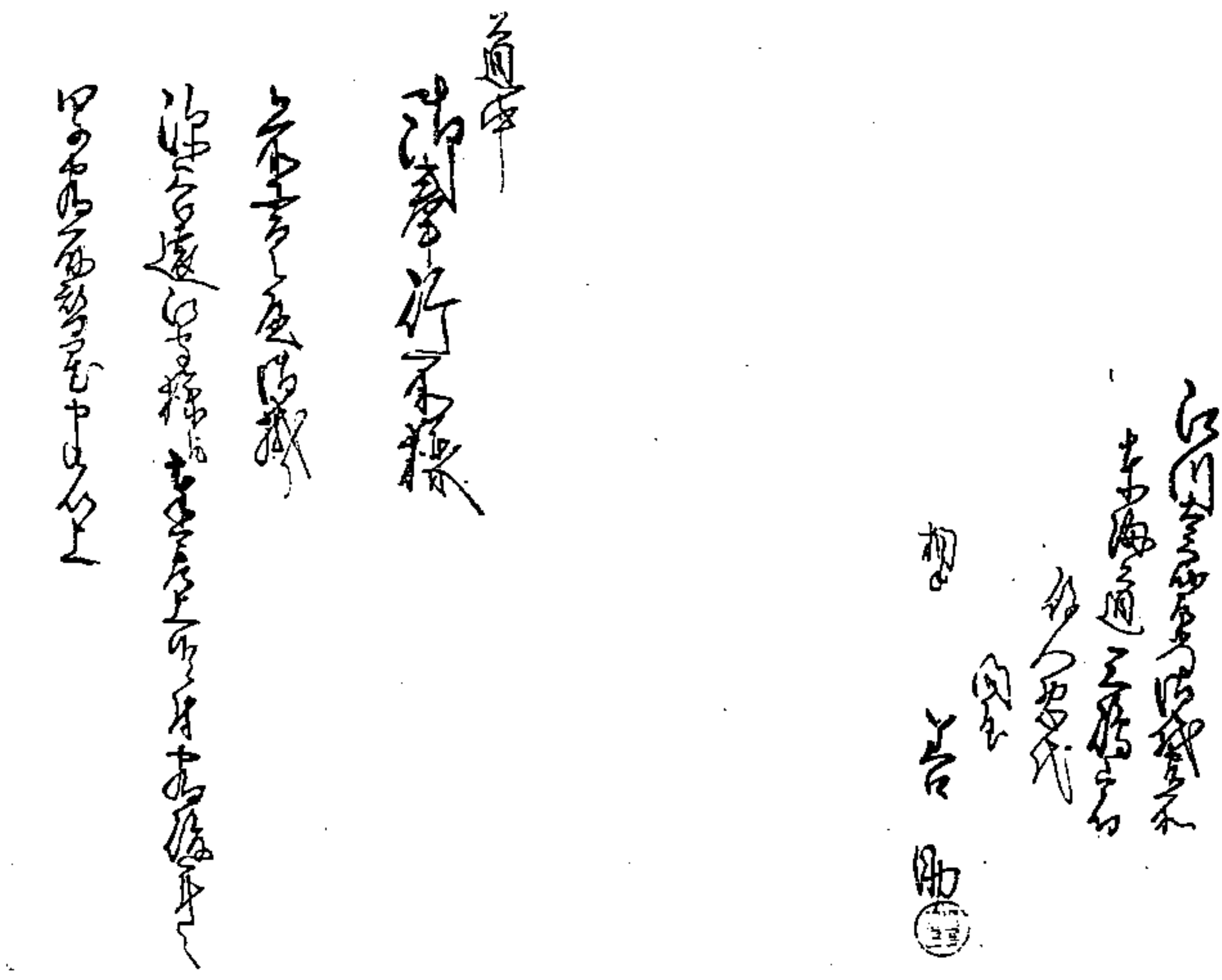


熱談内済仕り偏に
御威光与有難き仕合せに存じ奉り候、然ル上ハ右一件
ニ付き重(かさねて)而双方ゟ御願い筋毛頭御座無く候
後證の為連印済口證文差し上げ申す所件の如し

東海道三嶋宿定助郷
六拾七ヶ村惣代
佐久間和三郎知行所
豆州田方郡仁田村
名主
大八外壱人煩いに付き代
大沢仁十郎知行所
同州同郡同村
組頭
願人　金蔵㊞

天保九戌年三月廿九日

水野出羽守領分
駿州駿東郡下土狩村
〃
同　粂三郎㊞



江川太郎左衛門御代官所
東海道三嶋宿
役人惣代
問屋
相手　善　助㊞

道中
御奉行所様

前書之通り御掛リ
深谷遠江守様江差し上げ奉り候ニ付き後年之為
写為取替（とりかわせ）置き申し候以上

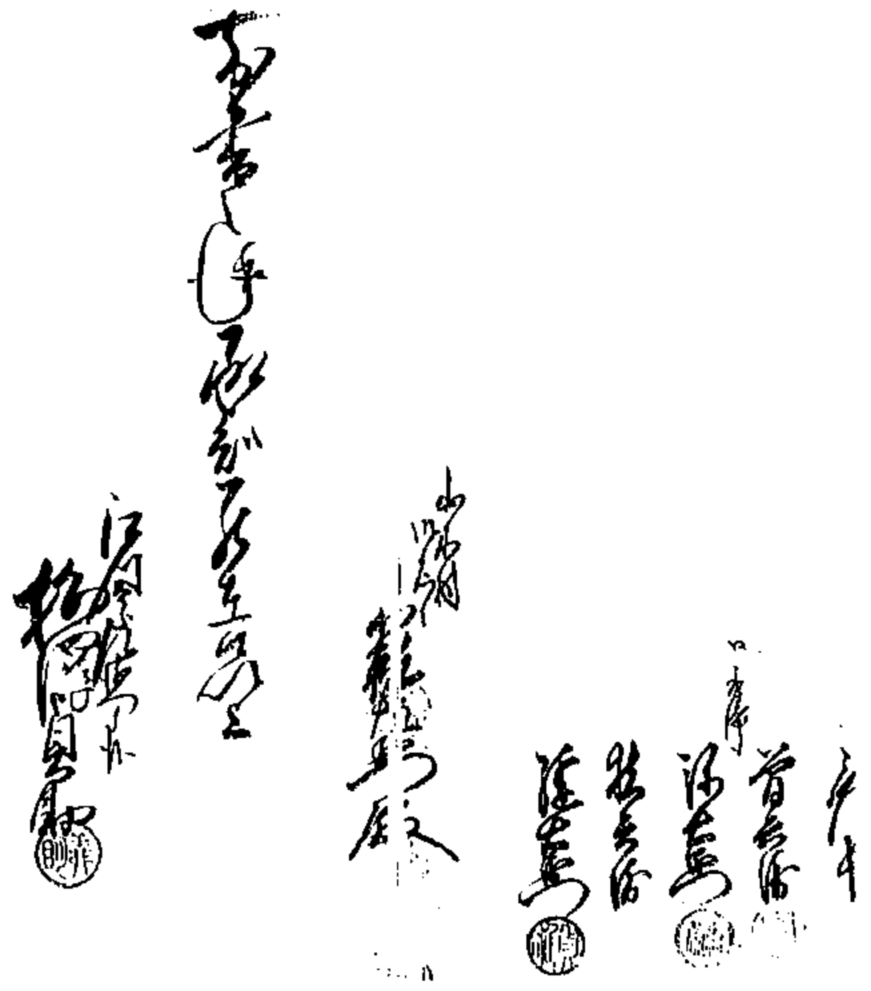
借用申金子證文之事

一、金五拾両也

右は定助郷人馬御賄賃金差支え候ニ付き
無拠貴殿江御無心申入れ書面の金子借用申す処
実正也　来ル九月晦日限り聊日限相違無く
元利取揃え急度返済仕る可く候　後日の為
助郷惣代連印　御出役様御奥印
證文差入れ申す処仍っ而件の如し

定助郷
惣代詰合

嘉永四亥年四月　茂兵衛㊞



彦　十

曽兵衛㊞

〃取締り
弥右衛門㊞

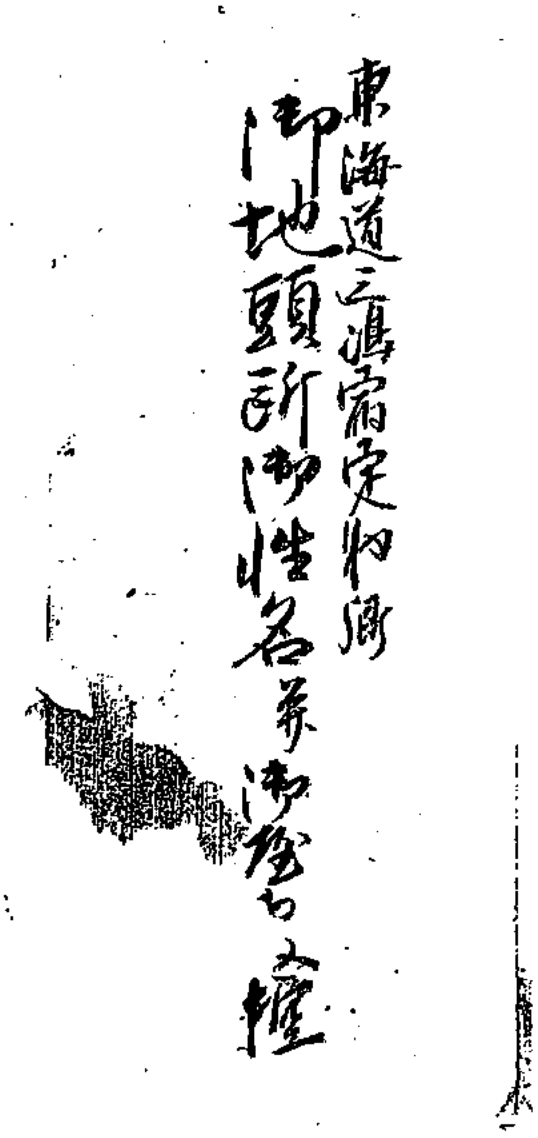
猪兵衛㊞

縫右衛門㊞

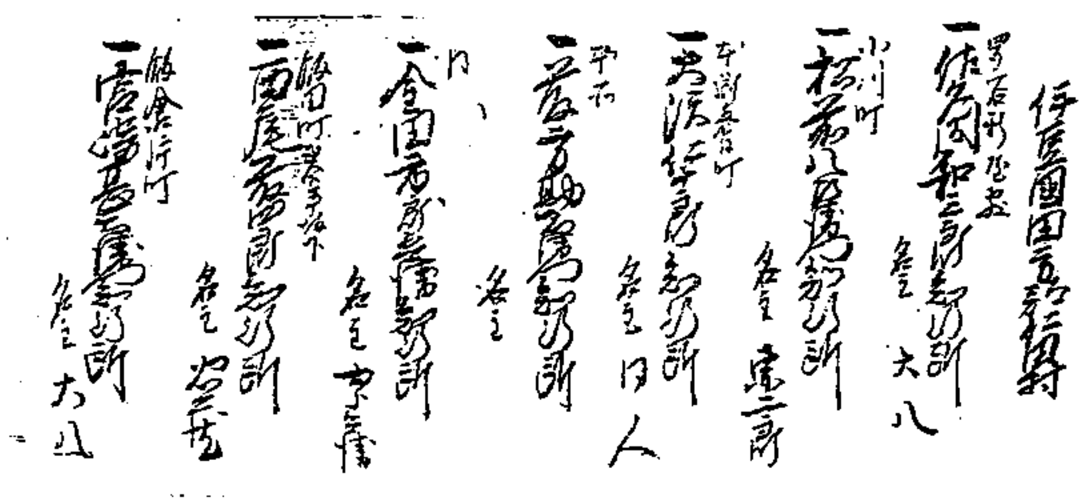
山木村
御名主
範左衛門殿

前書之趣承知罷り在り候以上

江川太郎左衛門手代
杉澤貞助㊞


東海道三嶋宿定助郷
御地頭所御姓名并御屋敷控

東海道三嶋宿定助郷
御地頭所御姓名并御屋敷控



伊豆國田方郡仁田村

一、四ッ谷新屋敷
佐久間和三郎知行所
名主 大八

一、小川町
松前八左衛門知行所
名主 宗二郎

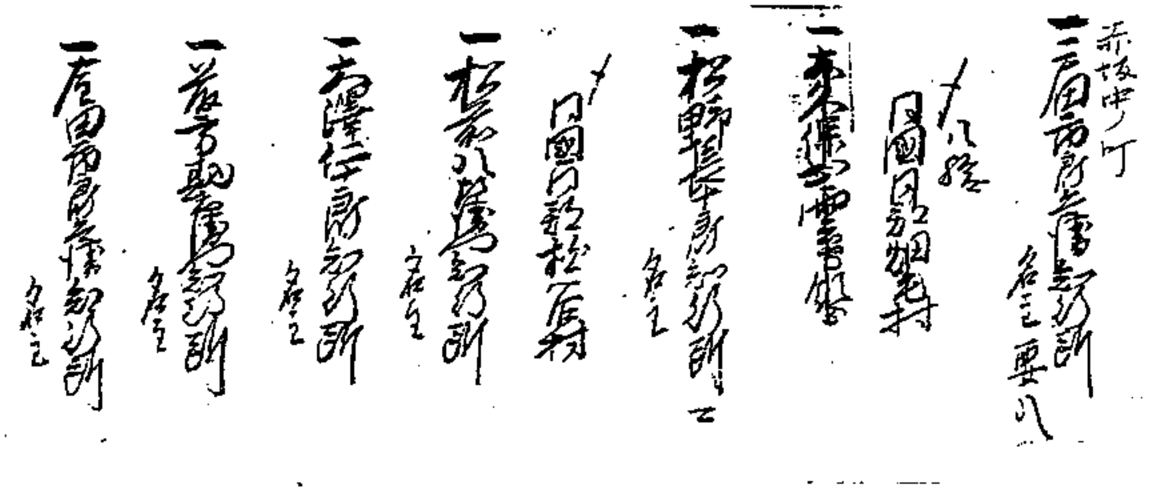
一、本郷春日町
大沢仁十郎知行所
名主 同人

一、本所
藤方勘右衛門知行所
名主

一、同
金田市郎兵衛知行所
名主 五郎兵衛

一、飯田町弐合半坂下
西尾藤四郎知行所
名主 忠蔵

一、飯倉片町
宮崎甚右衛門知行所
名主 大八



赤坂中ノ町

一、戸田市郎兵衛知行所　名主　要八

〆八給

同國同郡畑毛村

一、大久保出雲守領分

一、松野長十郎知行所　名主

〆

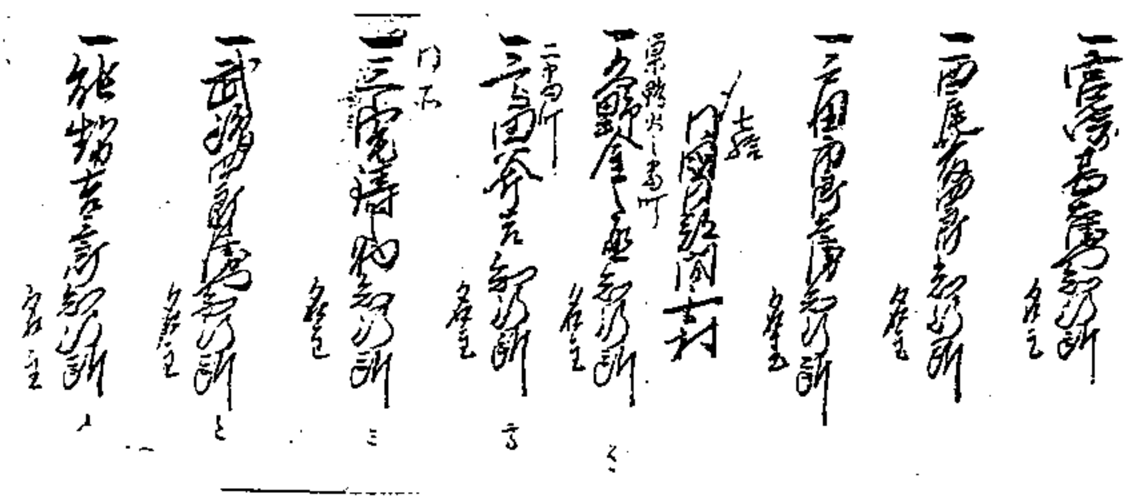
同國同郡柏谷村

一、松前八左衛門知行所　名主

一、大澤仁十郎知行所　名主

一、藤方勘右衛門知行所　名主

一、金田市郎兵衛知行所　名主



一、宮崎甚右衛門知行所　名主

一、西尾藤四郎知行所　名主

一、戸田市郎兵衛知行所　名主

〆七給　同國同郡間宮村

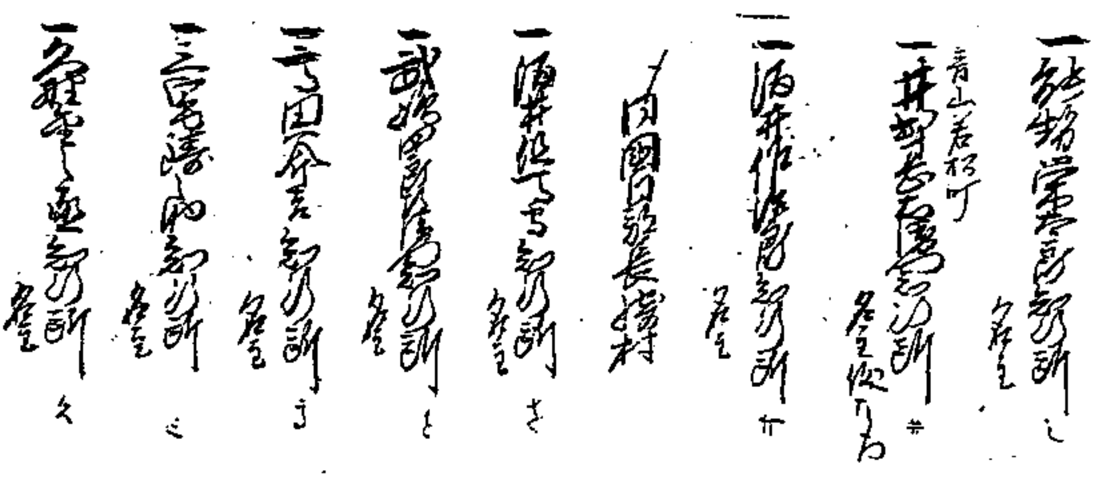
巣鴨火之番町
一、久野金之丞知行所　名主

二番町
一、高田斧吉知行所　名主

同所
一、三宅鑄之助知行所　名主

一、武嶋四郎左衛門知行所　名主

一、能勢吉三郎知行所　名主



一、能勢栄太郎知行所　名主

青山若松町
一、井出甚右衛門知行所　名主　儀右衛門

一、酒井作次郎知行所　名主

〃　同國同郡長﨑村

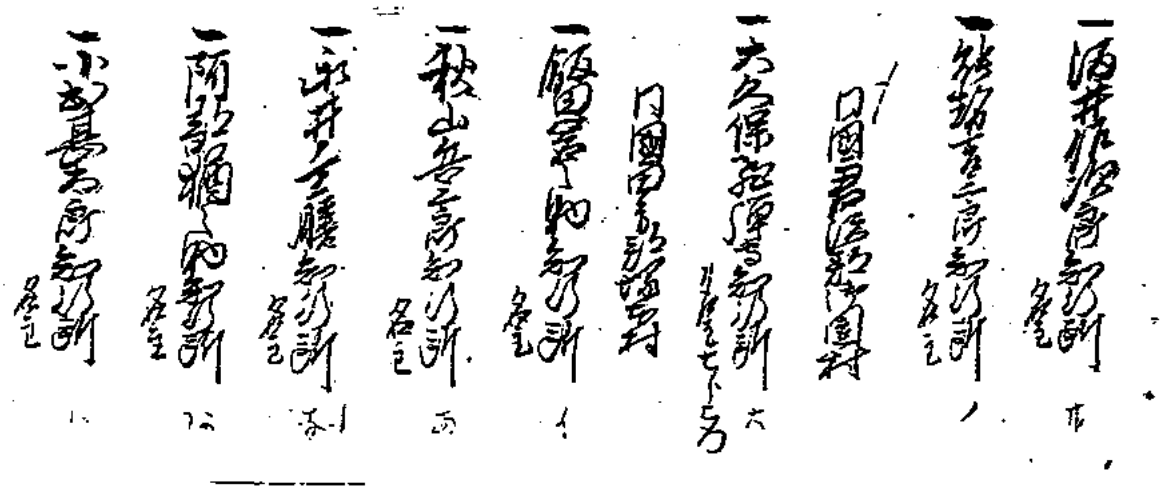
一、酒井但馬守知行所　名主

一、武嶋四郎左衛門知行所　名主

一、高田斧吉知行所　名主

一、三宅鋳之助知行所　名主

一、久野金之丞知行所　名主



一、酒井作次郎知行所
名主

一、能勢吉三郎知行所
名主

〆
同國君澤郡御園村

一、大久保飛驒守知行所
名主　七郎右衛門

同國田方郡塚本村

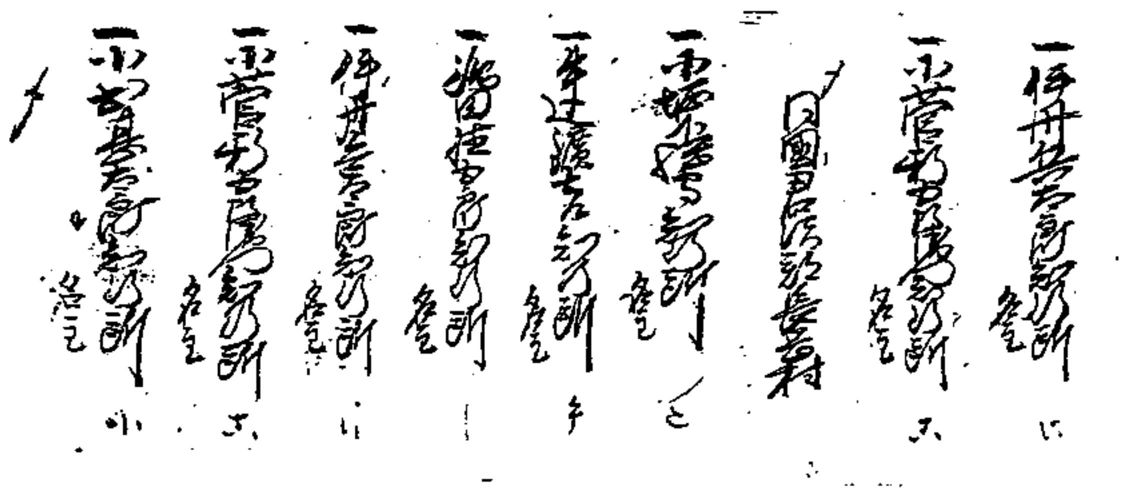
一、飯田岩之助知行所
名主

一、秋山兵三郎知行所
名主

一、永井主膳知行所
名主

一、阿部猶之助知行所
名主

一、小出甚太郎知行所
名主



一、伊丹兵太郎知行所　名主

一、小菅新五左衛門知行所　名主

〆

同國君沢郡長岡村

一、小堀下総守知行所　名主

一、牛込饒吉知行所　名主

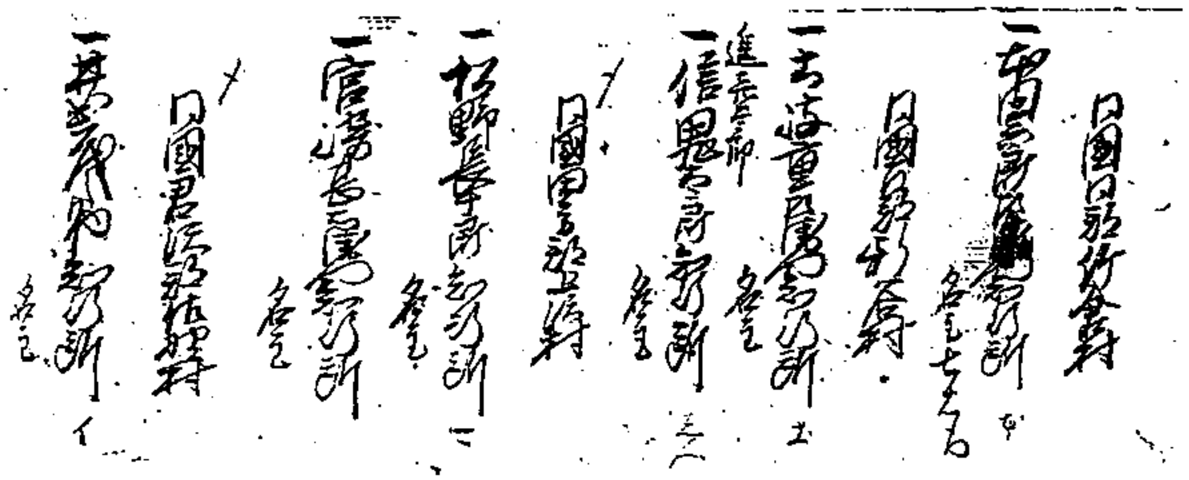
一、嶋田徳五郎知行所　名主

一、伊丹兵太郎知行所　名主

一、小菅新五左衛門知行所　名主

一、小出茜太郎知行所　名主

〆



同國同郡竹倉村

一、本田六郎左衛門知行所

名主　七右衛門

同國同郡新谷村

一、土岐重左衛門知行所

名主

進喜太郎

一、進鬼太郎知行所

名主

〆

同國同郡上沢村

一、松野長十郎知行所

名主

一、宮崎甚右衛門知行所

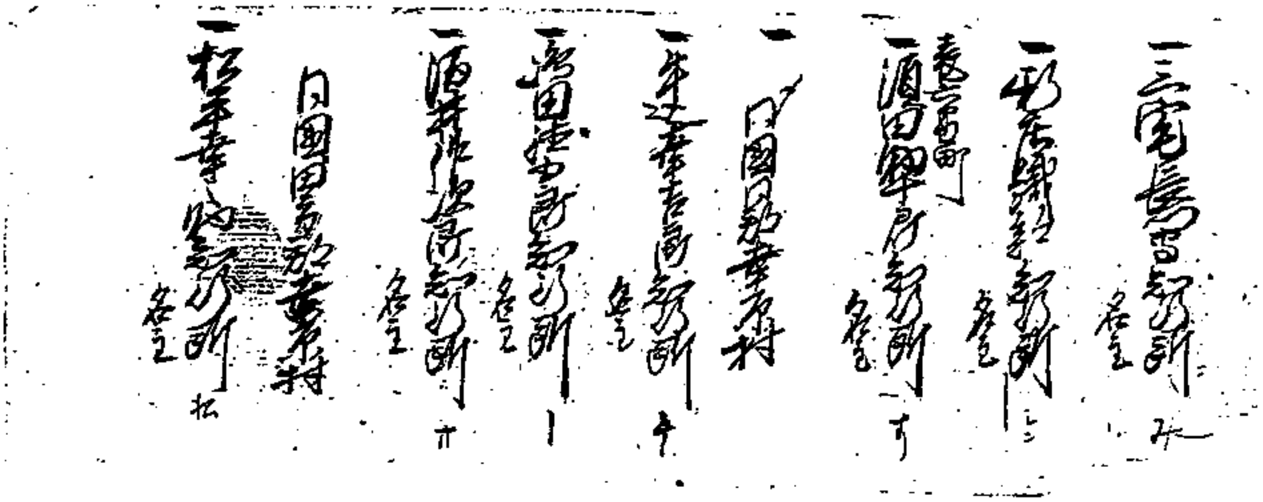
名主

〆

同國君沢郡佐野村

一、井出茂之助知行所

名主



一、三宅長門守知行所
名主

一、新庄織部知行所
名主

表六番町
一、酒田助十郎知行所
名主

一、〃
同國同郡幸原村

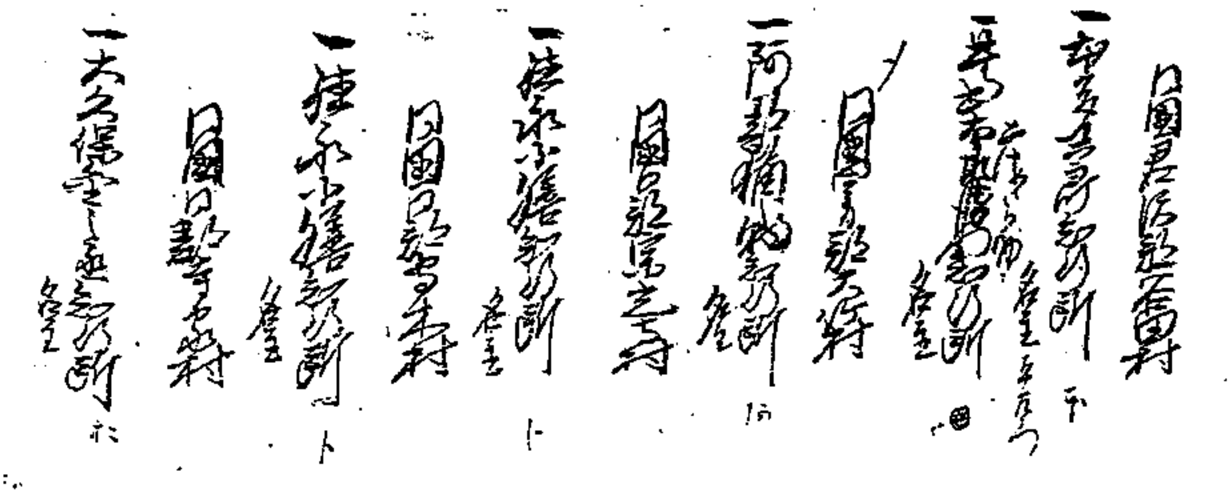
一、牛込幸吉郎知行所
名主

一、嶋田徳五郎知行所
名主

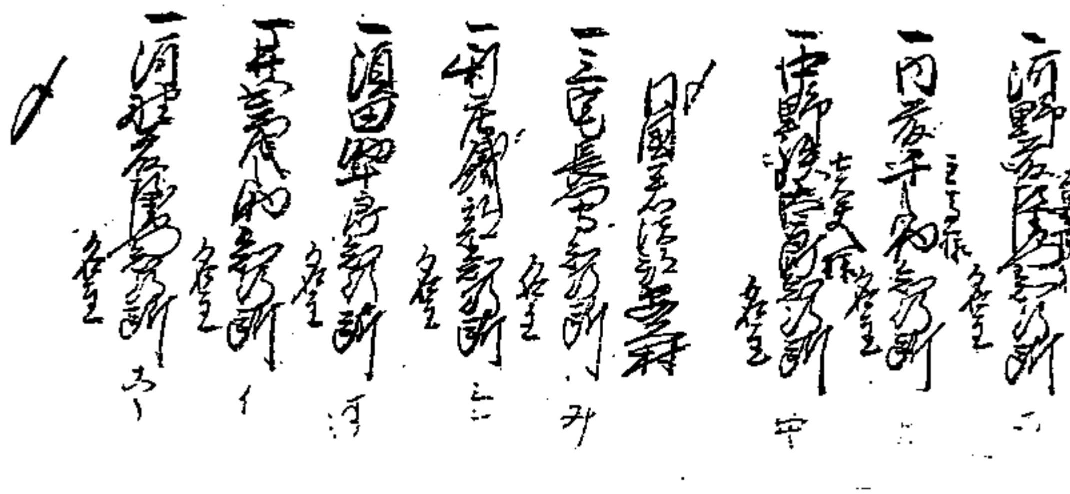
一、酒井作次郎知行所
名主

同國田方郡桑原村

一、松平幸之助知行所
名主



同國君沢郡谷田村
一、本多六郎知行所
名主　平左衛門
茂之助
一、井出□□□知行所
名主
〆
同國田方郡大竹村
一、阿部猪之助知行所
名主
同國同郡宗光寺村
一、徳永小膳知行所
名主
同國同郡守木村
一、徳永小膳知行所
名主
同國同郡寺家村
一、大久保金之丞知行所
名主



一、河野藤左衛門知行所 吉五郎様 名主

一、内藤千之助知行所 主馬様 名主

一、中野鉄太郎知行所 七太夫様 名主

〆

同國君沢郡安久村

一、三宅長門守知行所 名主

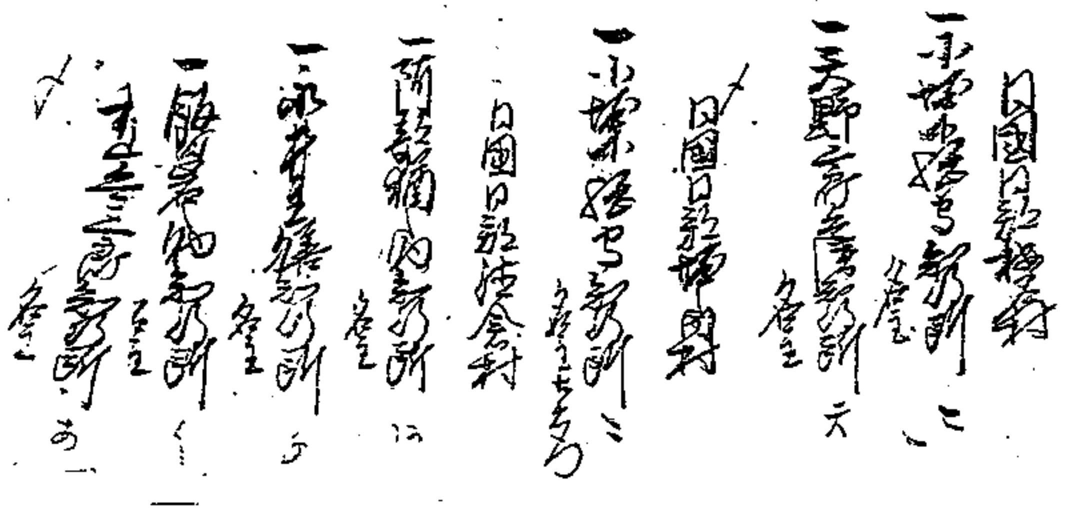
一、新庄織部知行所 名主

一、須田助十郎知行所 名主

一、井出茂之助知行所 名主

一、河野藤左衛門知行所 名主

〆



同國同郡梅名村

一、小堀下総守知行所　名主

一、天野三郎兵衛知行所　名主

〆

同國同郡堀之内村

一、小堀下総守知行所　名主　七右衛門

同國同郡徳倉村

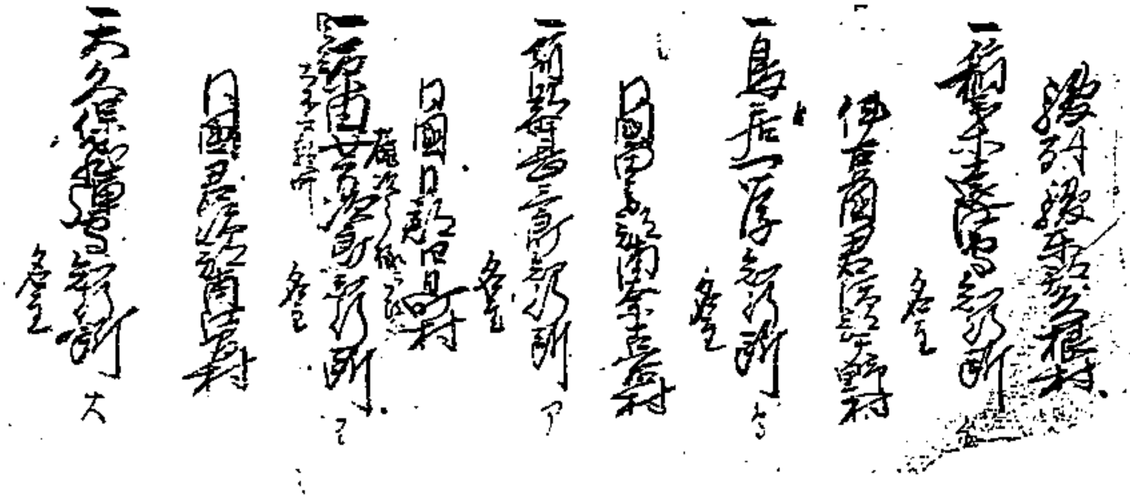
一、阿部猶之助知行所　名主

一、永井主膳知行所　名主

一、飯田岩之助知行所　名主

一、秋山兵三郎知行所　名主

〆



駿州駿東郡久根村

一、稲葉遠江守知行所

名主

伊豆國君沢郡天野村

一、鳥居一学知行所

名主

〆 同國田方郡奈古谷村

一、阿部甚三郎知行所

名主

同國同郡四日町村

一、原田芳次郎 龍次郎様与改名 知行所

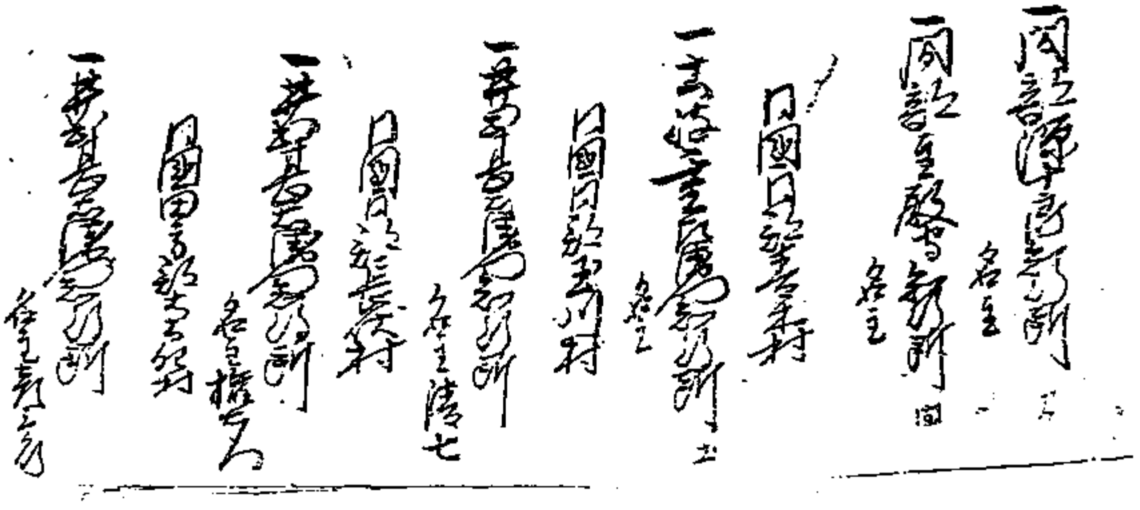
四ツ谷大木戸横町

名主

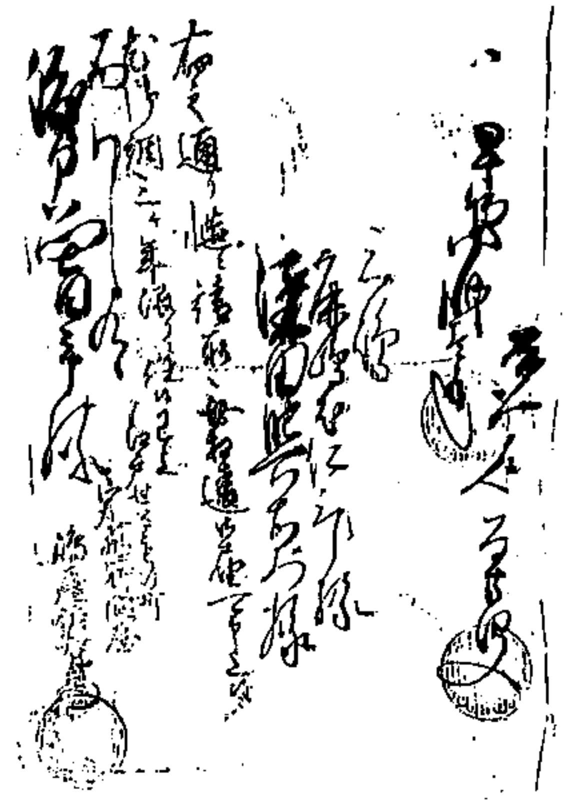
同國君沢郡南江間村

一、大久保飛驒守知行所

名主



一、間部源十郎知行所
名主
一、間部主殿守知行所
名主
同國同郡青木村
一、土岐重左衛門知行所
名主
同國同郡玉川村
一、井出甚右衛門知行所
名主　清　七
同國同郡長伏村
一、井出甚右衛門知行所
名主　権右衛門
同國同郡大土肥村
一、井出甚右衛門知行所
名主　彦三郎



□□□百廿四文㊞

一、早便御状壱通㊞

三嶋

鹿嶋屋仁三郎様

澤田與右衛門様

右之通リ慥ニ請取り相違無く御届け申上げ可く候

尤も御調三ヶ年限リニ仕り候已上

江戸せともの町

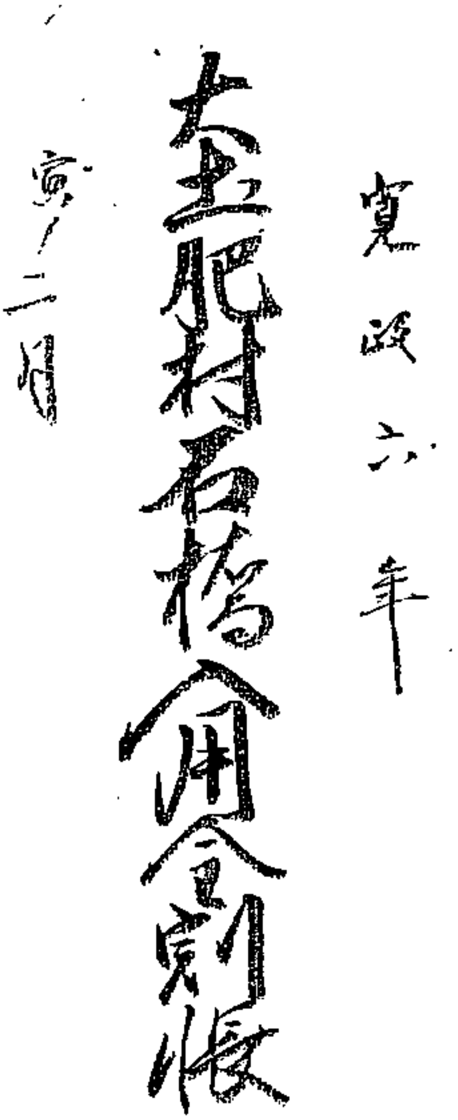
酉八月九日

定飛脚問屋

渡辺曽平様　嶋屋佐右衛門㊞

H 類

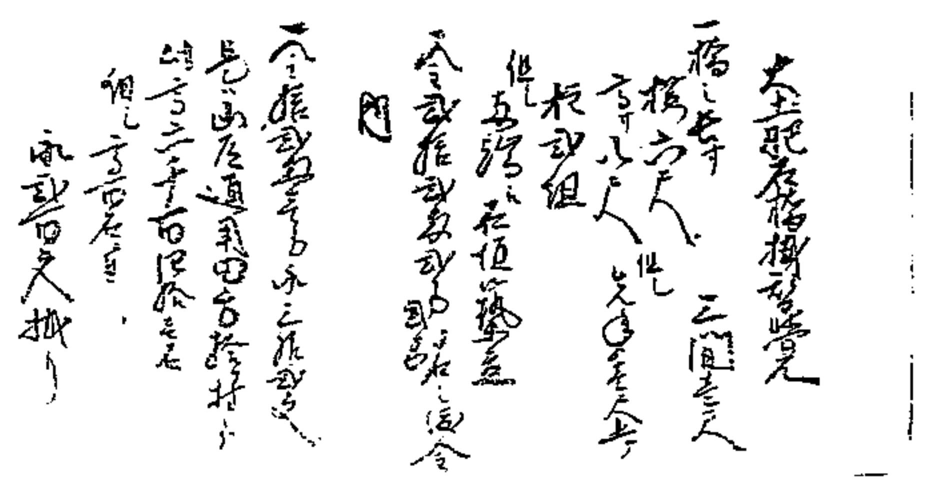
標題	差出人	請取人	年月日	
1、大土肥村石橋入用金割帳			寛政六年寅二月（一七九四）	257
2、差上申済口證文之事（堰所に関しての争論済口）	大土肥惣右衛門 他二名	御評定所	文化二年十二月（一八〇五）	268


寛政六年
大土肥村石橋入用金割帳
寅ノ二月

寛政六年

大土肥村石橋入用金割帳

寅ノ二月



大土肥石橋掛替え覚え

一、橋之長サ　三間壱尺

横　六　尺

高サ八尺　但シ　先年ゟ壱尺上ケ

柱弐組

但シ

両端江石垣築立て

一、金弐拾弐両弐分　右之渡金

弐朱

内

一、金拾弐両壱分三拾弐文

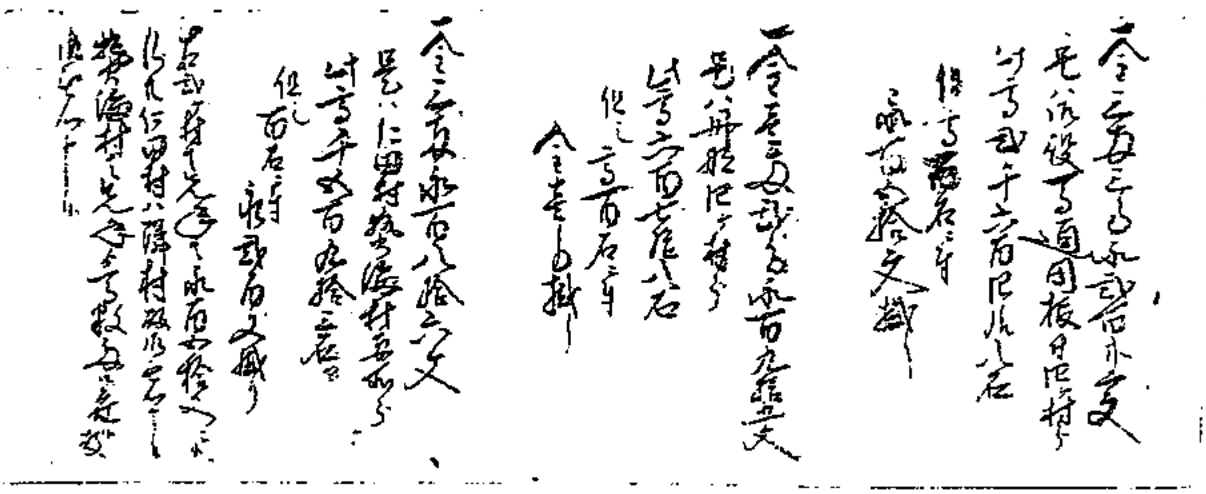
是ハ山道通用田方拾ケ村分

此高六千百四拾壱石

但シ

高百石ニ付き

永弐百文掛かり

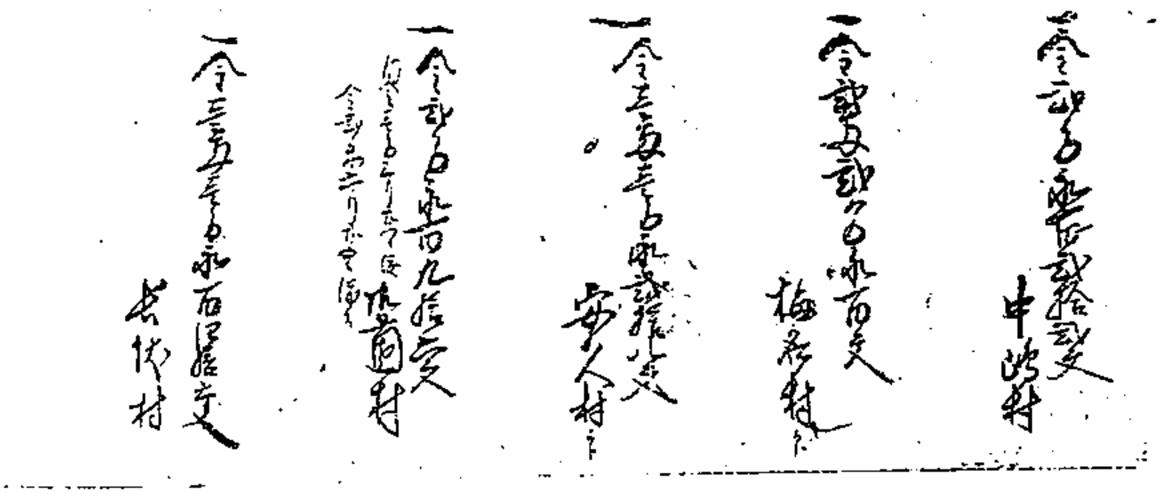


一、金三両三分永弐百廿二文
是ハ御役馬通用振り付け四ヶ村分
此高弐千六百四拾八石
但し高百石ニ付き
永百五拾文掛かり

一、金壱両弐分永百九拾五文
是ハ丹那四ヶ村分
此高六百七拾八石
但シ高百石ニ付き
金壱分掛かり

一、金三両永百八拾六文
是ハ仁田村熱海村両所分
此高千五百九拾三石
但シ
百石ニ付き
永弐百文掛かり

右弐ヶ村は先年は永百五拾文ニ候
得共仁田村ハ隣村故御無心申し候
熱海村は先年ゟ馬数多く御座候故
御無心申し候



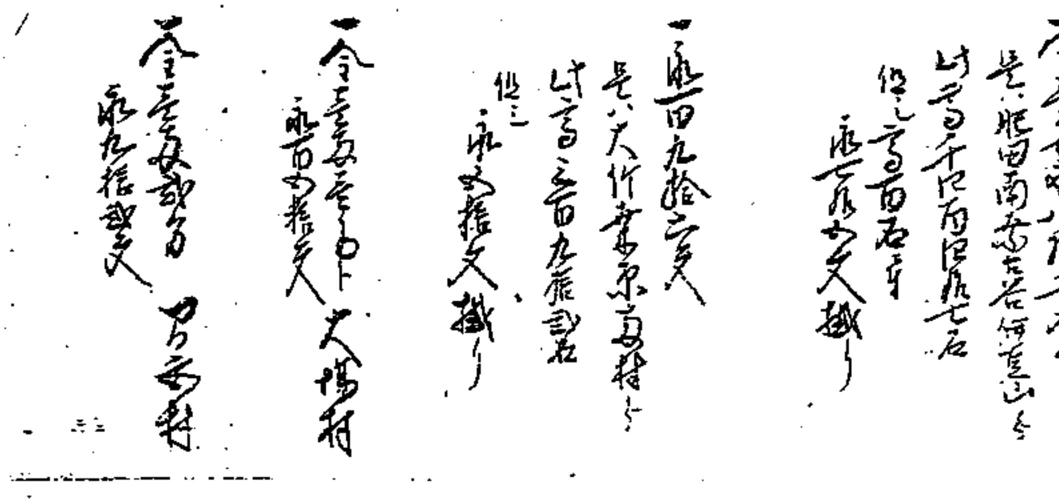
一、金弐分永百弐拾弐文　中嶋村

一、金弐両弐分永百文　梅名村

一、金壱両壱分永弐拾八文　安久村

一　金弐分永百九拾六文　御園村
内金壱分三月廿八日渡
金弐朱六月廿五日渡ス

一、金壱両壱分永百四拾六文　長伏村

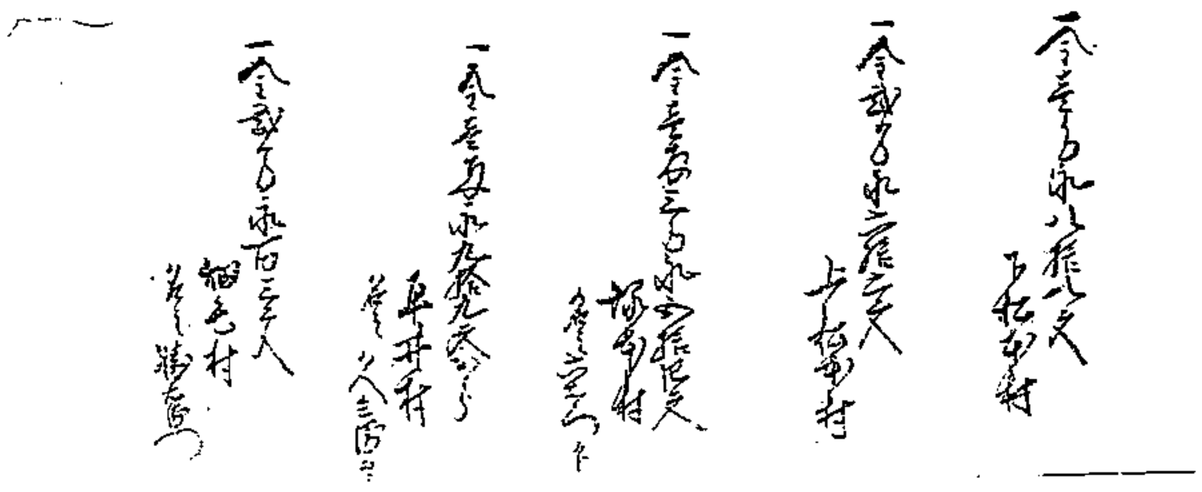


一、金壱両永八拾五文三分
是ハ肥田南奈古谷伊豆山分
此高千四百四拾七石
但シ高百石ニ付き
永七拾五文掛かり

一、永百九拾六文
是ハ大竹桑原両村分
此高三百九拾弐石
但シ
永五拾文掛かり

一、金壱両壱分ト　大場村
永百五拾文

一、金壱両弐分　間宮村
永九拾弐文



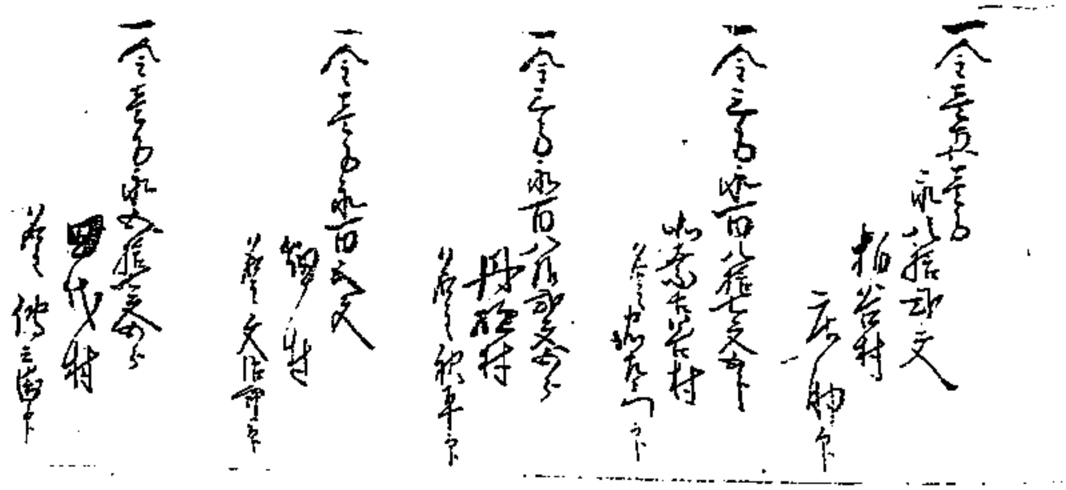
一、金壱分永八拾八文
下松本村

一、金弐分永六拾六文
上松本村

一、金壱両三分永五拾四文
塚本村
名主六右衛門印

一　金壱両永九拾九文五分
平井村
名主　久兵衛印

一、弐分永百三文
畑毛村
名主勝右衛門



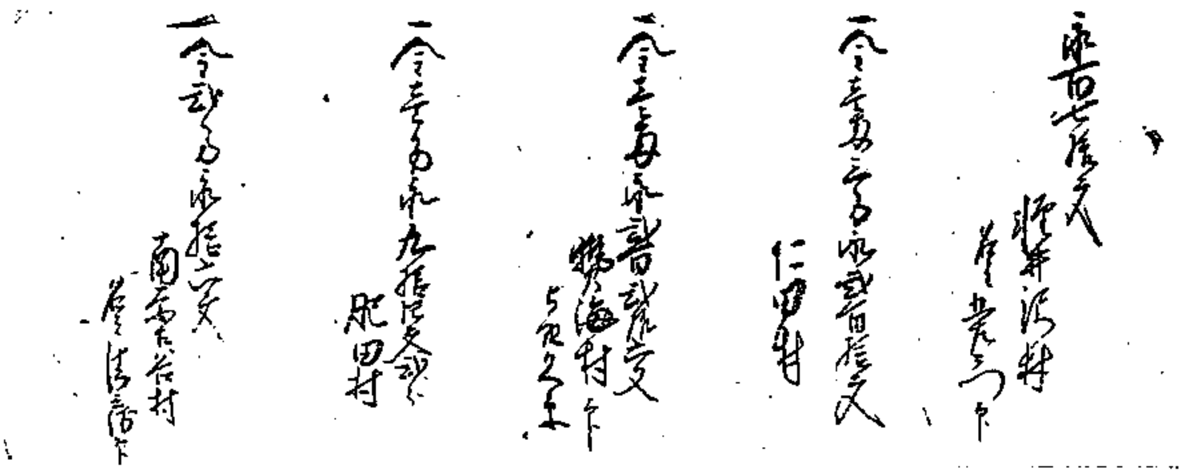
一、金壱両壱分
永八拾弐文
柏谷村
庄　助印

一、金三分永百八拾七文五分
北奈古谷村
名主 忠左衛門印

一、金三分永百八拾弐文五分
丹那村
名主秋　平印

一金壱分永百五文
畑　村
名主文治郎印

一、金壱分永五拾七文五分
田代村
名主傳兵衛印



永百七拾文

軽井沢村

名主 五左衛門 印

一、金壱両三分永弐百拾文

仁田村

一、金壱両永弐百弐拾六文

熱海村 印

組頭 久兵衛

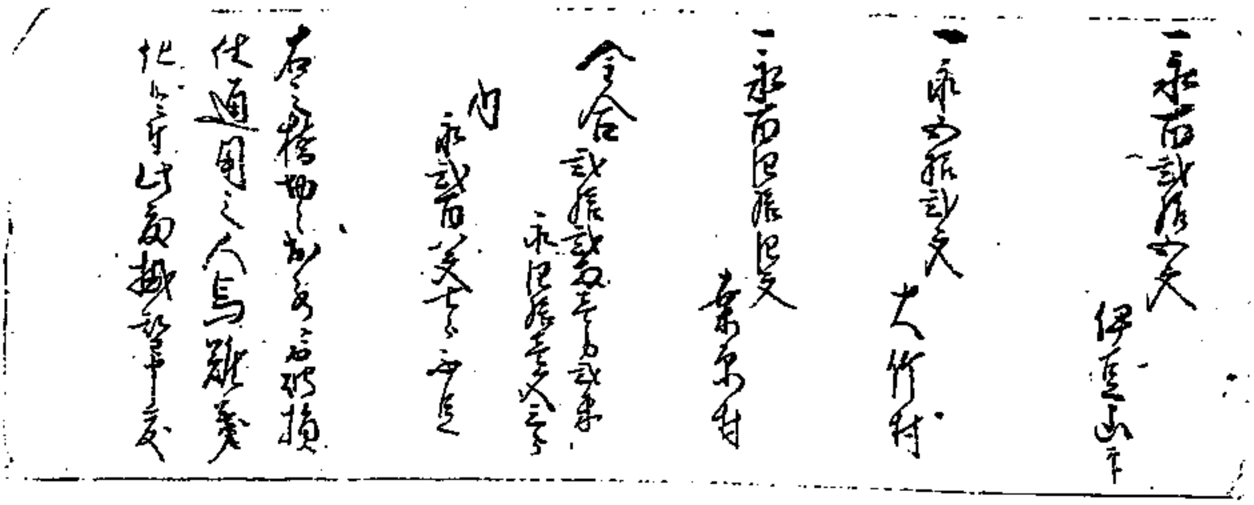
一 金壱分永九拾四文弐分

肥田村

一、金弐分永拾六文

南奈古谷村

名主 清兵衛 印



永百弐拾五文　伊豆山印

一、永五拾弐文　大竹村

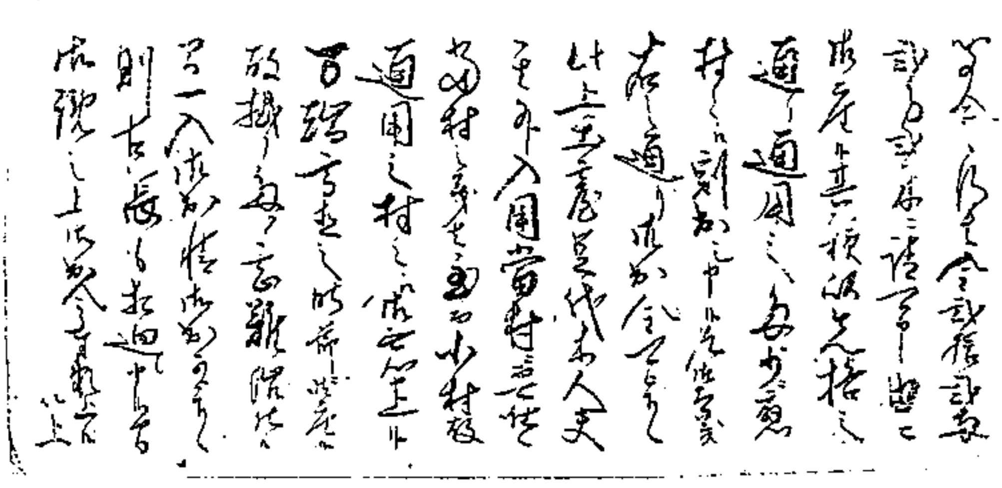
一、永百四拾四文　桑原村

金合弐拾弐両壱分弐朱

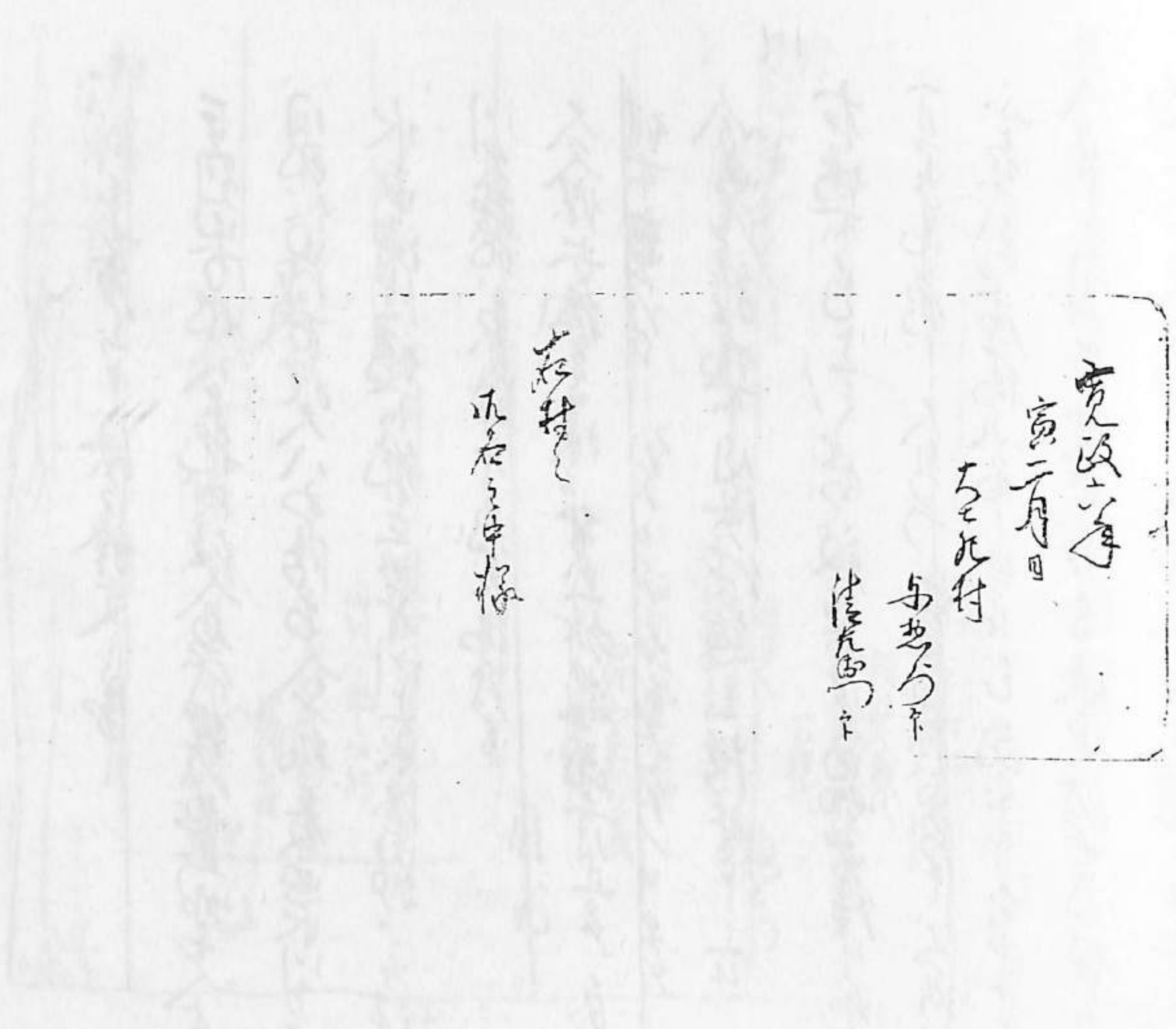
永四拾壱文三分

内
永弐百八文七分不足

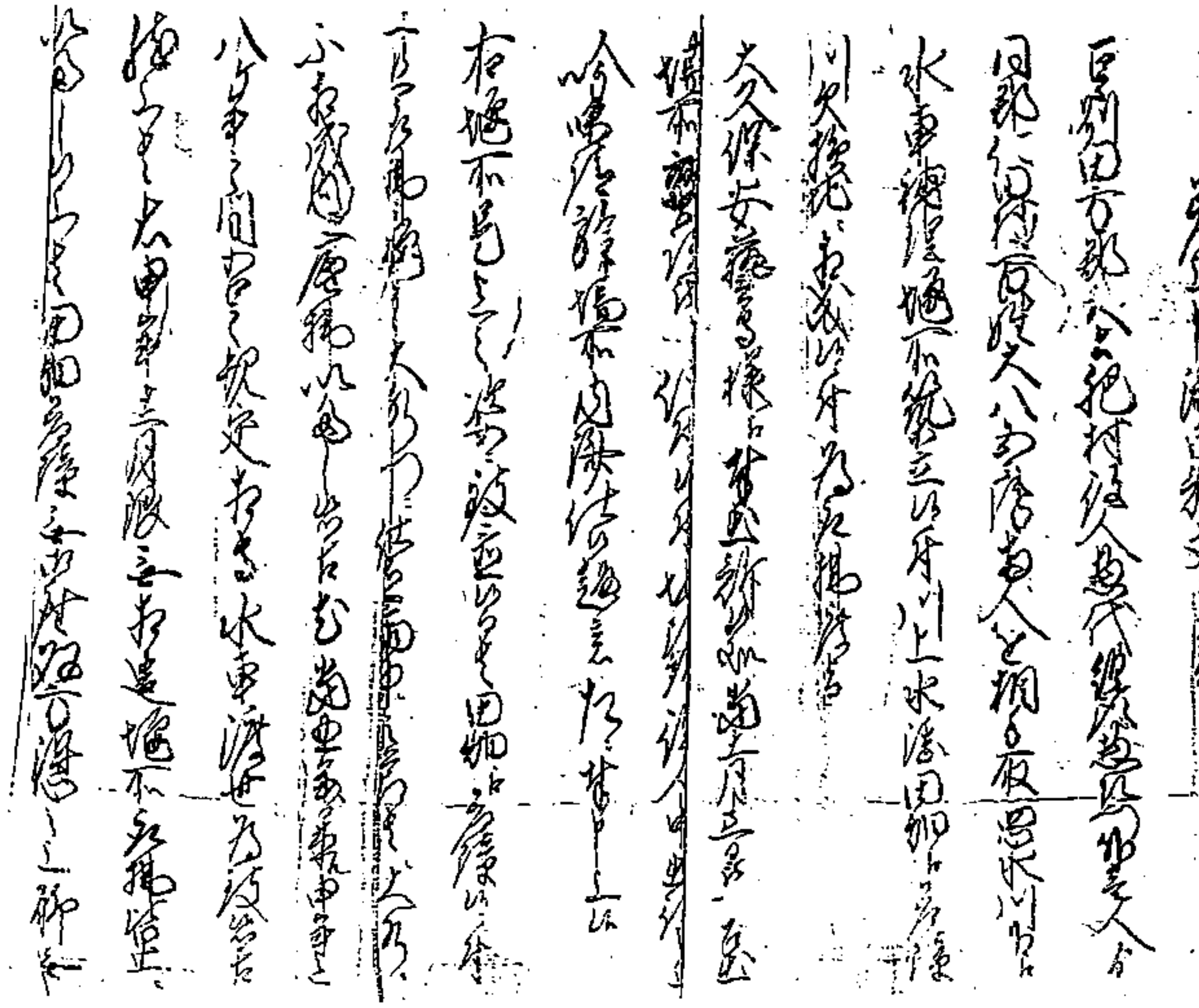
右之橋切々出水ニて破損
仕り通用之人馬難儀
仕り候ニ付き此度掛け替え申し度く



先達(せんだって)而村々江御咄し申入れ候
通り相談仕り　則ち石屋方江
問合せ候得ば　金弐拾弐両
弐分弐朱ニ請け申す可き由ニ
御座候　其積りを以って先格之
通り通用之多少ニ應じ
村々江割出し申し候　御大義乍ら
右之通り御出金下さる可く候
此の上土臺足伐木人夫
其外入用當村ニて仕る可く候
當村之儀は至って小村故
通用之村々江御無心申上げ候
万端高直之時節ニ御座候
故掛かり多く甚だ難渋仕り候
間一入御出精御出し下さる可く候
則ち古帳も相廻し申し候間
御覧之上御出金願上げ奉り候
以上

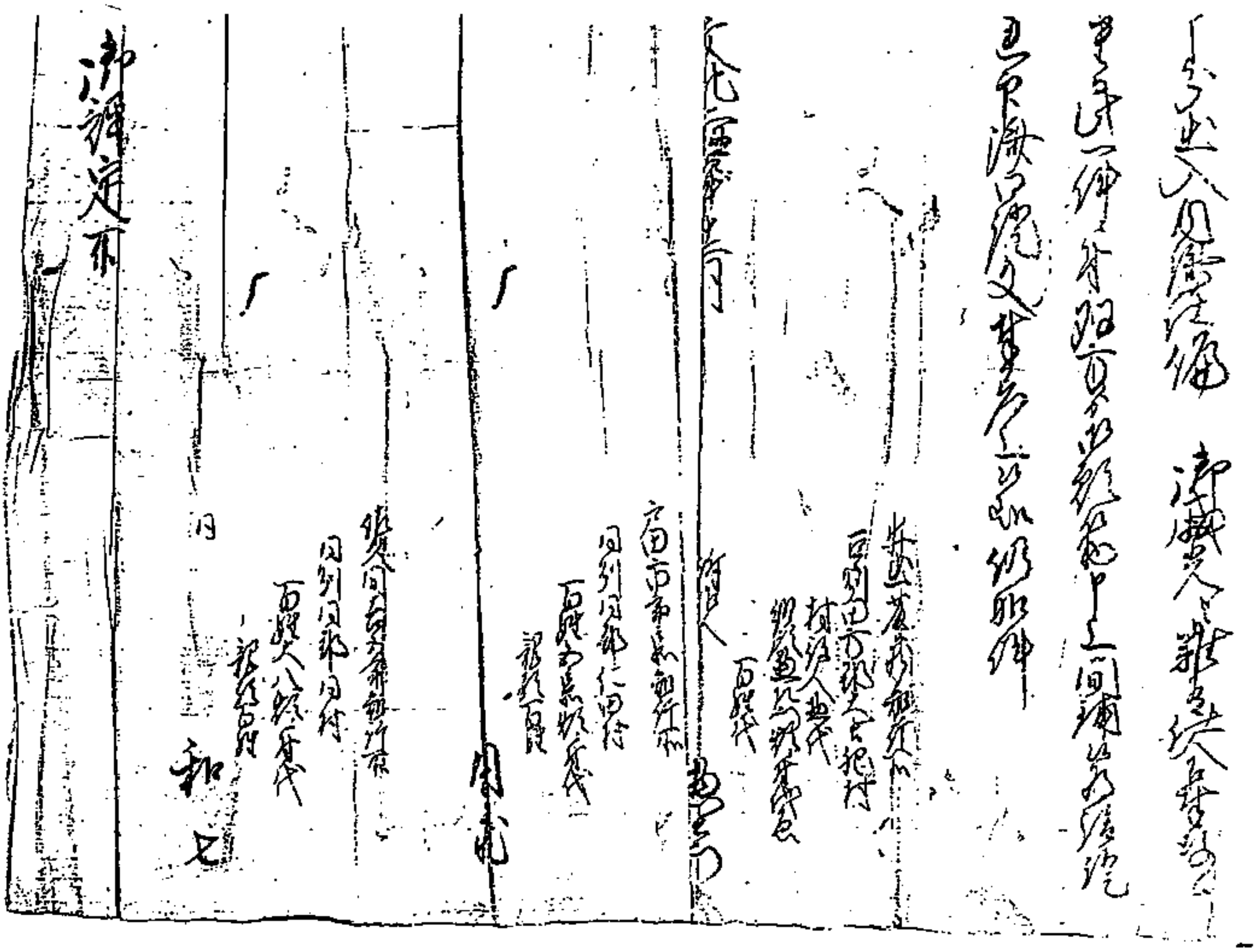


寛政六年
寅二月日
大土肥村
与惣右衛門印
清左衛門印
右村々
御名主中様



差上申済口證文之事

豆州田方郡大土肥村役人惣代組頭惣左衛門外壱人ゟ
同郡仁田村百姓大八　五兵衛両人を相手取り悪水川下江
水車補理堰所築立て候ニ付き川上水湛え田畑江差障り
川欠け損地ニ相成り候ニ付き取り拂わせ度き旨
大久保安芸守様江出訴奉り候処當十一月廿一日召出され
場所熟談仰付けられ候ニ付き地頭所役人中出役之上
吟味請け場所に於いて内済仕り趣意左ニ申上げ奉り候
右堰是迄之姿ニ致し置き候ては田畑江差障り候ニ付き
一旦取拂い堰は大水門ニ仕立て雨中之節は大水に
相成らざる内底拂いいたし候筈尤も當丑年ゟ来ル申年迄
八ヶ年之間右之規定相守り水車渡世致させ候筈
然る上は右申年十二月限り相違無く堰所取拂い皆止めニ
いたし候上は田畑差障り御座無く双方得心之上聊（無）



申分無く出入内済(ないさい)仕り偏(ひとえに)　御威光与(と)有難き仕合(しあわせに)存じ奉(たてまつり)候

遂而(ついては)此一件ニ付き双方ゟ御願い筋申上げ間鋪(まじく)候後證の為

連印済口證文差上げ奉り候処仍(よ)って件(くだん)の如し

文化二丑年十二月

訴訟人
井出藤蔵知行所
豆州田方郡大土肥村
村役人惣代
組頭惣左衛門煩ニ付き代兼
百姓代　惣右衛門

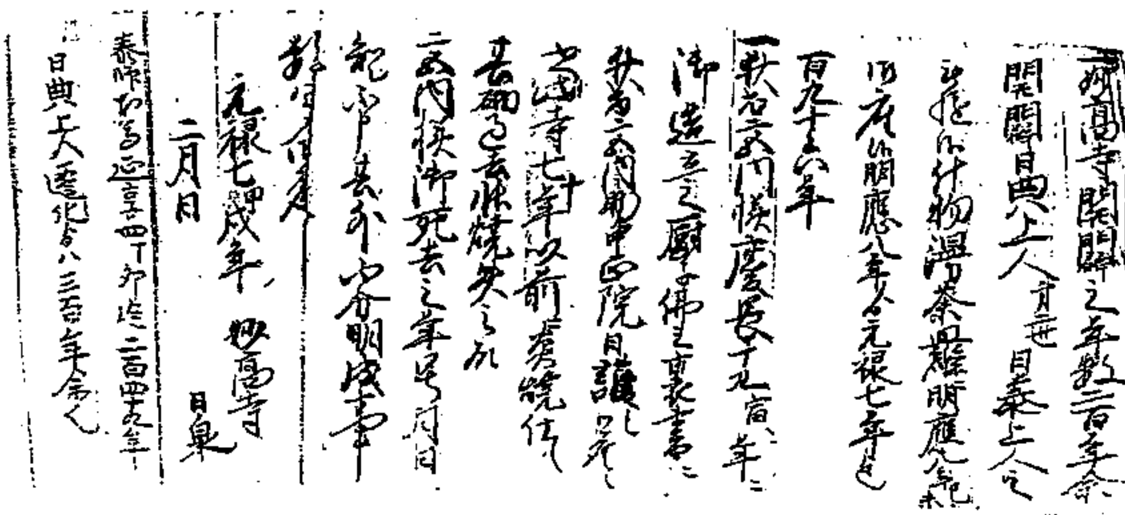
戸田市郎兵衛知行所
同州同郡仁田村
百姓五兵衛煩いニ付き代
親類百姓　周蔵

佐久間吉五郎知行所
同州同郡同村
百姓大八煩いニ付き代
親類百姓
同　和七

御評定所

K 類

標題	差出人	請取人	年月日	
1、（妙高寺縁起）	妙高寺日泉		元禄七年二月（一六九四）	271
2、八ッ溝堀水掛り			宝暦九年夘六月（一七五九）	272
5、申渡（番非人）	文五郎他		文政九年八月九日（一八二六）	275
6、御侘申一札之事（猫へ縄をかけ引きずり）				
7、風流見立狂句その他				



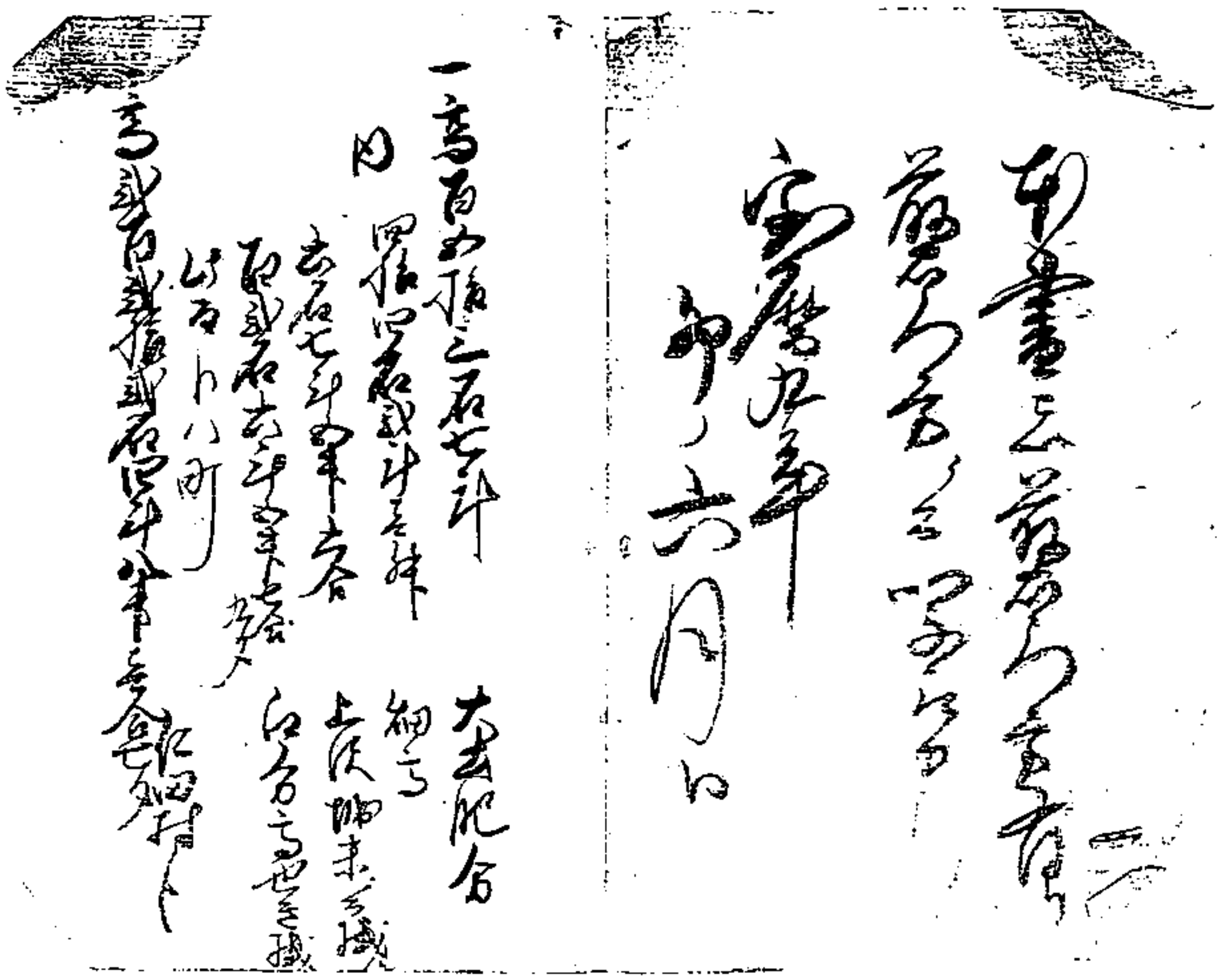
一、妙高寺開闢之年数二百年余
開闢日典上人第二世日泰上人之
遊ばされ候什物漫茶羅ニ明應八年己未（つちのと）
御座候明應八年ゟ元禄七年迄
百九十六年

一、井出宮内様慶長十九寅年ニ
御造立之廚子佛之裏書ニ
井出宮内助中正院日護と御座候
當寺七十年以前ニ炎焼仕り候
其砌過去帳焼失之故
宮内様御死去之年号月日
知れ申さず其外不分明成る事
数多く御座候

元禄七甲戌年　妙高寺

二月日　日泉

泰師本尊延享四丁卯迄二百四十九年
日典上人遷化ゟハ三百年余也



本書は藤右衛門方に有り

藤右衛門方ニて写し取り申し候

宝暦九年

卯ノ六月日

一、高百五拾三石七斗　大土肥分

内

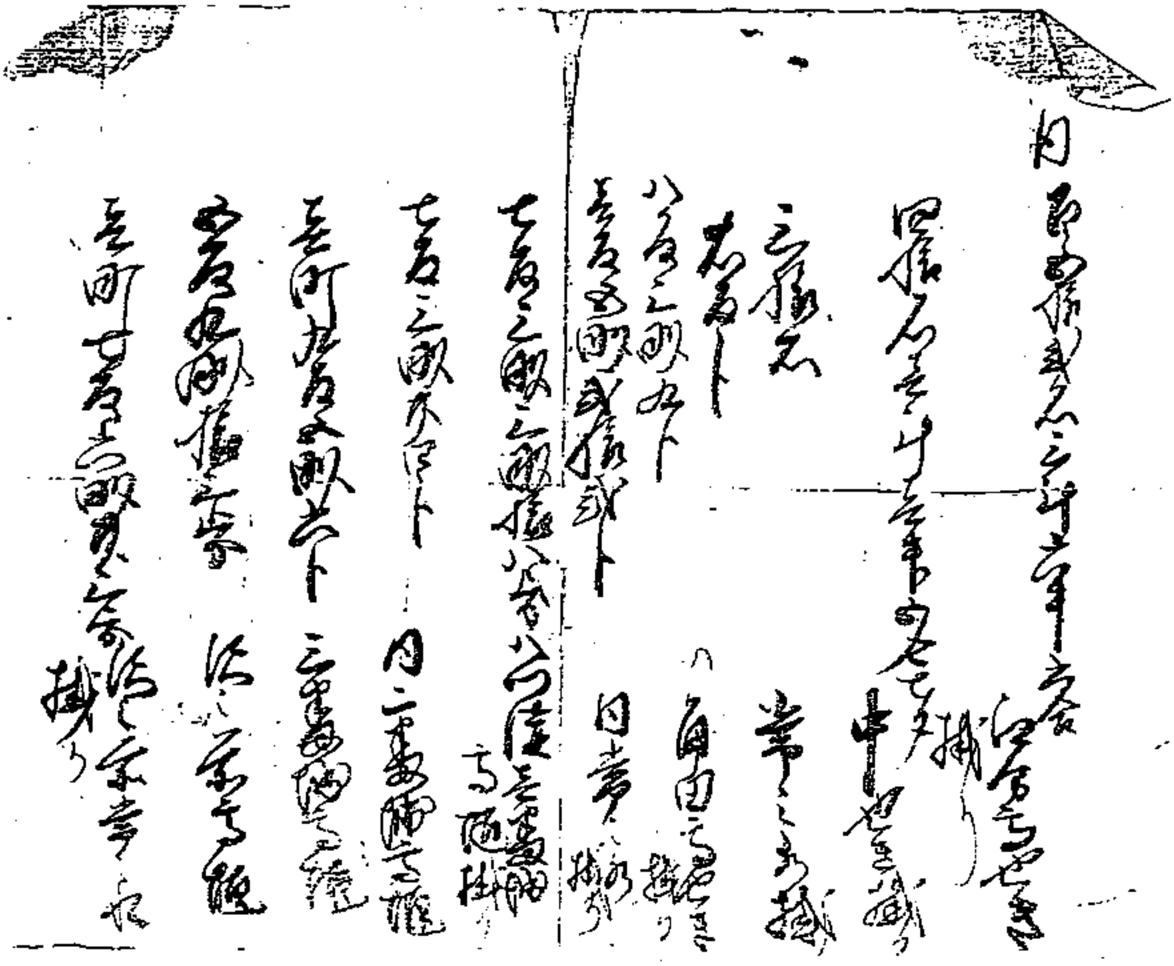
四拾四石弐斗壱升　畑高

六石七斗五升六合　上沢堀末ニて掛ル

百弐石六斗五升七合九勺　郷分高せき掛かる

此反分八町

一、高弐百弐拾弐石四斗八升壱合七勺　仁田村分



内　百五拾弐石三斗六升六合　郷分高せき掛かり

四拾石壱斗壱升五合七勺　中せき掛かり

三拾石　常之水掛かり

右反分

八反三畝九歩　角田高せき掛かり

壱反五畝弐拾弐歩　同常之水掛かり

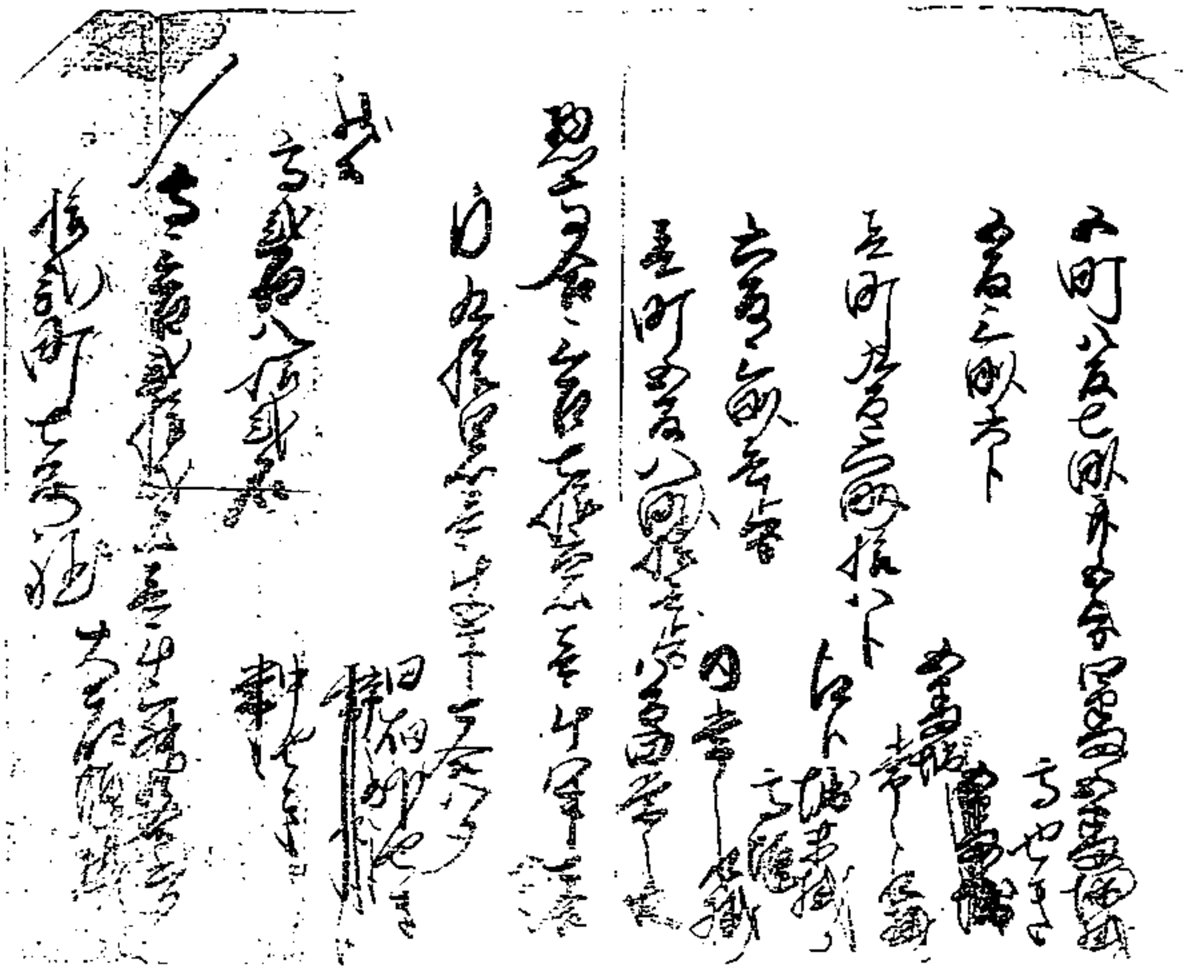
七反三畝三畝拾八歩　八ッ溝壱番堀高堰掛かり

七反三畝廿四歩　同二番堀高堰

壱町九反五畝六歩　三番堀高堰

五反九畝拾三歩　沢之前高堰

壱町七反六畝廿三歩　沢之前常之水掛かり



五町八反七畝廿五歩　四番五番堀掛かり
　　　　　　　　　　高せき

五反三畝六歩　五番堀
　　　　　　　常之水掛かル

壱町九反六畝拾八歩　郷分堀末掛かり
　　　　　　　　　　高堰

六反三畝壱歩　同常之水掛かり

壱町五反八畝拾壱歩　八反田常之水

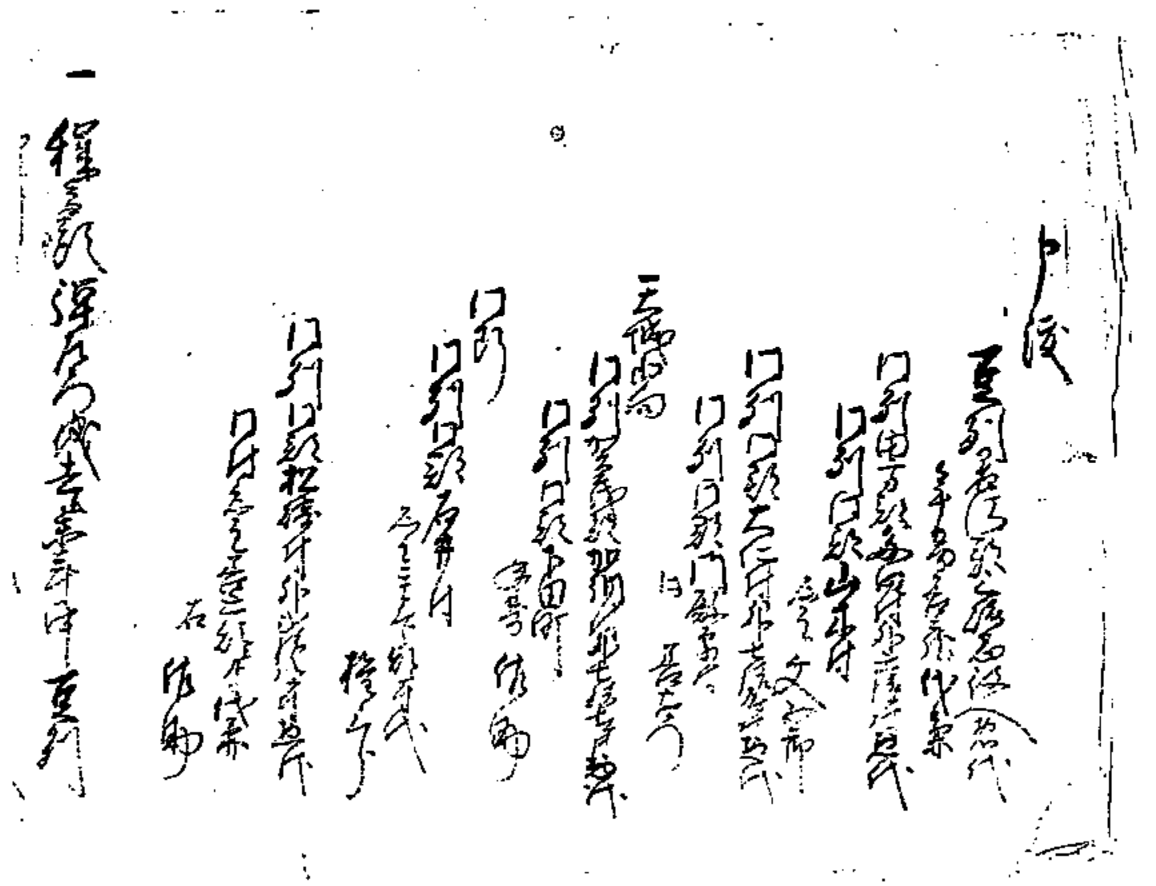
惣高合三百七拾六石壱斗八升七合
　　　　　　　　　　　　　　八勺

内九拾四石壱斗五升七合八勺　田畑外せき
　　　　　　　　　　　　　　常之水之分

残（のこって）而
高弐百八拾弐石　中せぎ
　　　　　　　　常水

〆高三百弐拾弐石壱斗三升九合六勺
　　　　　　　　　大土肥堰掛かり

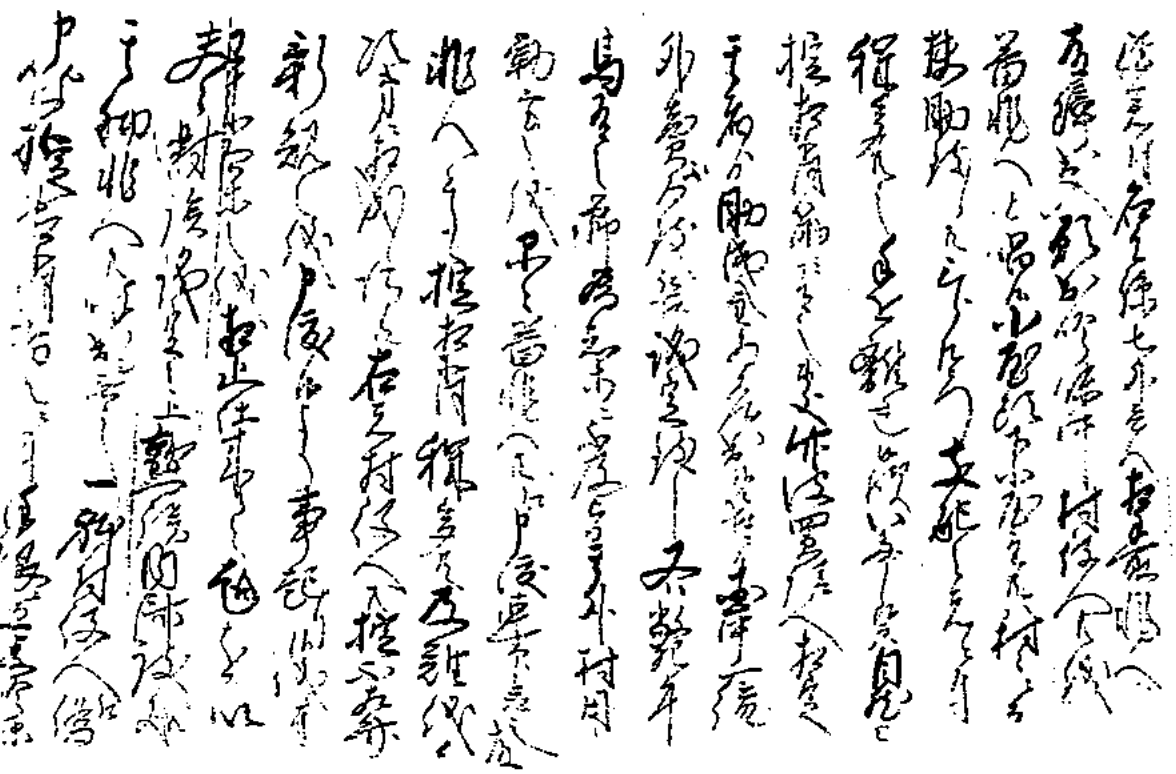
拾弐町七反殖



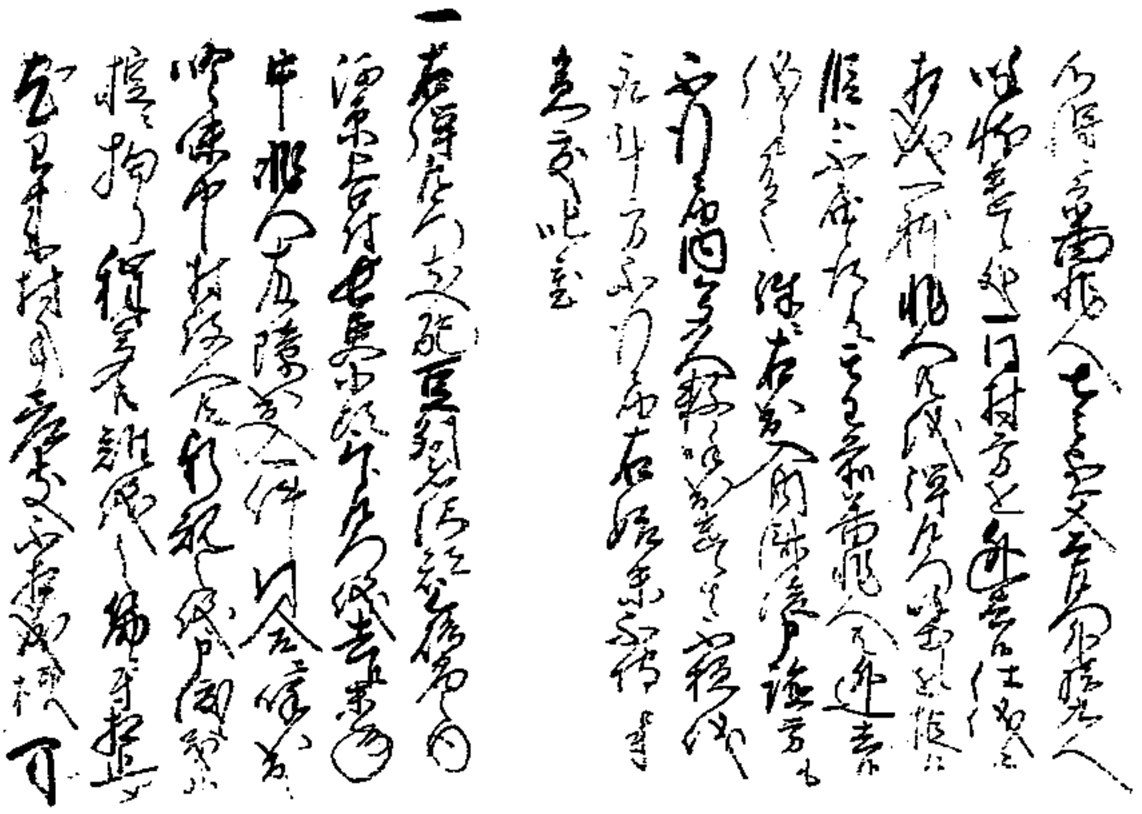
申渡

豆州君沢郡三嶋宿役人惣代
年寄善蔵代兼
同州田方郡多田村外六拾ヶ村惣代
同州同郡山木村
名主文五郎
同州同郡大仁村外七拾九ヶ村惣代
同州同郡門殿(ママ)原村
同　善右衛門
天城山向
同州賀茂郡加納村外七拾七ヶ村惣代
同州同郡下田町
年寄佐助
同断
同州同郡石井村
名主重三郎煩（わずらい）に付代
権三郎
同州同郡松崎村外弐拾八ヶ村惣代
同村名主善六煩に付き代兼
右佐助

一、穢多頭（えたがしら）弾左衛門儀、去ル未年中豆州

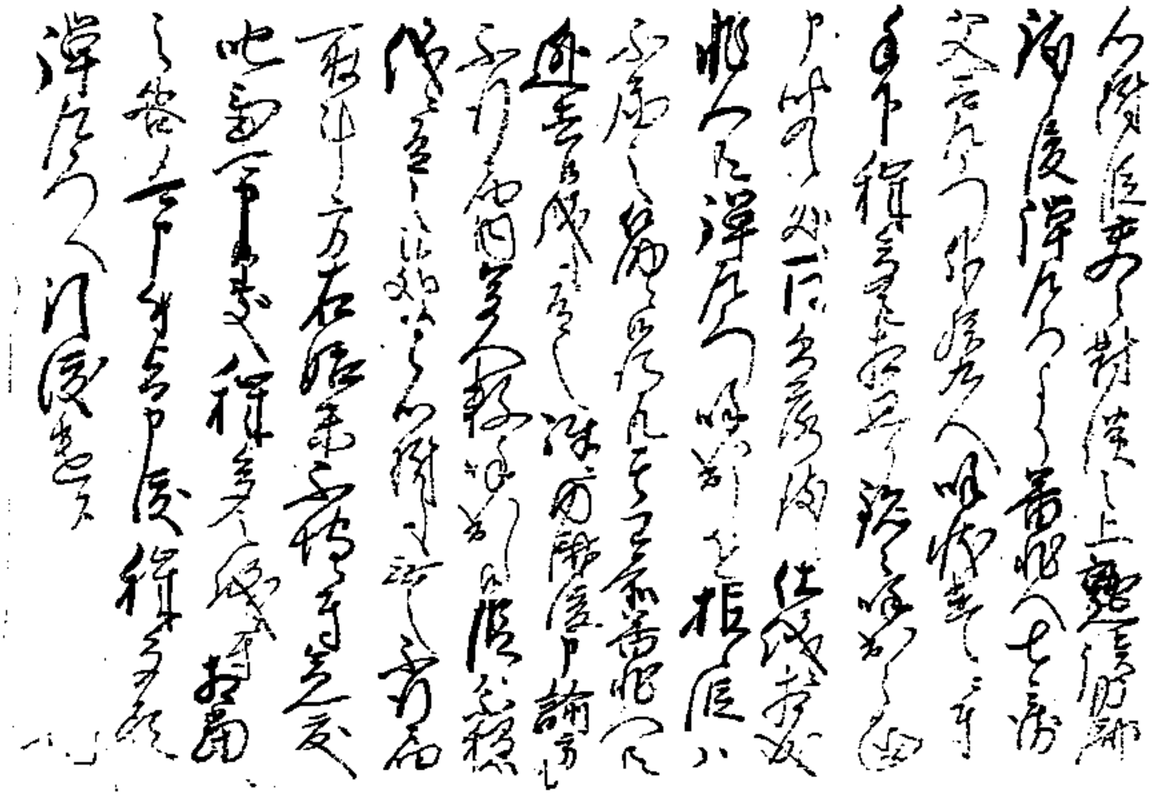


徳倉村名主孫七外壱人相手取り、非人故障出入り願い出吟味中村役人共儀番非人と唱え候、小屋頭下小屋主共ハ村々ニて扶助致し候共、三郎左衛門支配之者ニ付穢多共之手を離れ候様にいたし候てハ、自然と掟相背く筋にこれ有る処、竹皮買請人相定め其者ゟ助成金差し出させ候筈ニて国中一統外売り致させず筈議定致し、又ハ斃牛馬これ有る節、知らせ等ニ及ばざる旨、其外村用勤め方之儀、品々番非人共江申渡し連印これを取る故非人ども、掟相背き穢多共難儀に及ぶ次第ニ相成り候得共、右は村役人共掟相弁えず新規之儀申し渡し候より事起こり候儀ニ付以来右等之儀相止め仕来り之趣を以て夫々対談議定之上、熟談内済致す処其砌非人共呼び出シこれ無く一躰村役人江偽り申し聞け、掟相背く者共ニ付手限ニて吟味に及び

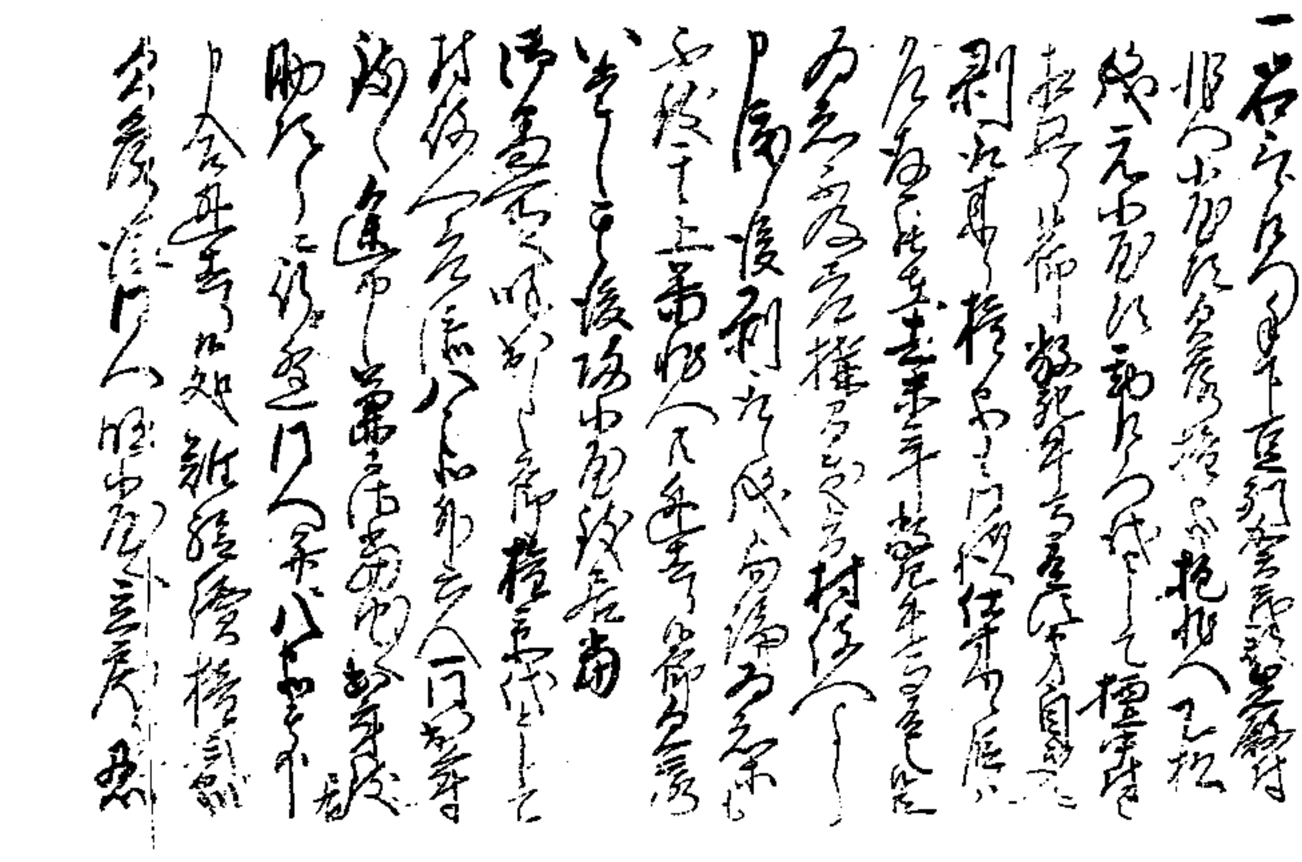


心得ニて番非人七兵衛父兵左衛門外拾九人
呼び状遣わし候処、一同村方を逃げ去り候仕儀ニ
相成り一躰非人共儀、騨左衛門呼び出しを拒み候
段ハ不届き候得共、其以前番非人共逃げ去り候、
儀もこれ有り、殊に右出入り内済後申し諭し方も
不行届き内多人数呼び出しを遣わし候は不穏儀
取り計らい方不行届き、右始末不埒（ふらち）に付き
急度叱り置く、

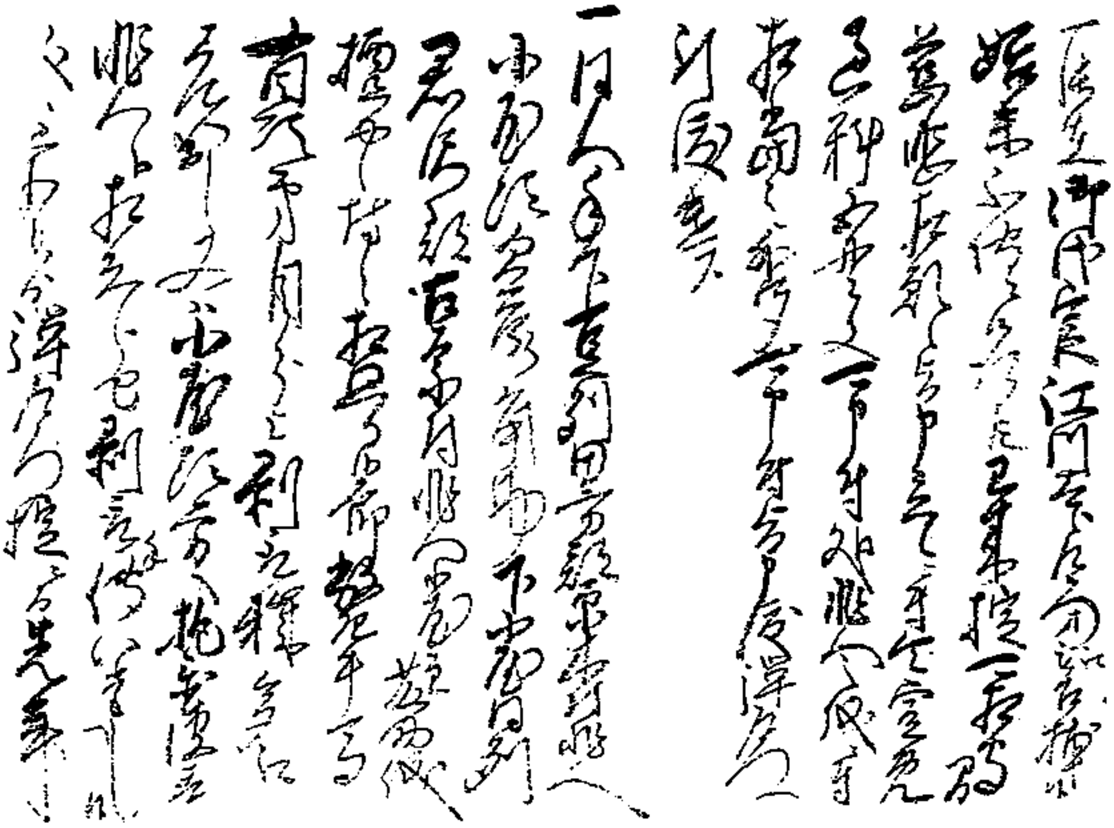
一、右騨左衛門支配豆州君沢郡三嶋宿之内
川原ヶ谷村長吏小頭三郎左衛門儀、去ル未年
中、非人故障出入り一件引合いニ呼び出し
吟味中村役人共、新規の儀申し渡し候義ハ
掟に拘わり穢多共難儀之筋ニ付き相止メ
尤も以来村用差し支え相成らざる様（可）



心附け可き段夫々対談之上熟談内済致し候後、弾左衛門より番非人七兵衛父兵左衛門外拾九人呼び状遣わし候ニ付手下穢多共相廻り、銘々呼び出し之趣申し聞け候処、一同欠落致候仕儀ニ相成り非人共、驒左衛門呼び出しを拒み候段ハ不届之筋ニ候得共、其以前番非人共逃げ去り候儀もこれ有り、殊ニ内済後申し諭し方も不行届き内多人数呼び出し候段ハ不穏儀ニこれ有り候、咎の心付けもこれ無く不行届き取り計らい方、右始末不埒に付き急度叱り置き申す可き処穢多之儀ニ付き相当之咎メ申し付け可き旨、申し渡し穢多頭驒左衛門へ引渡し遣わス

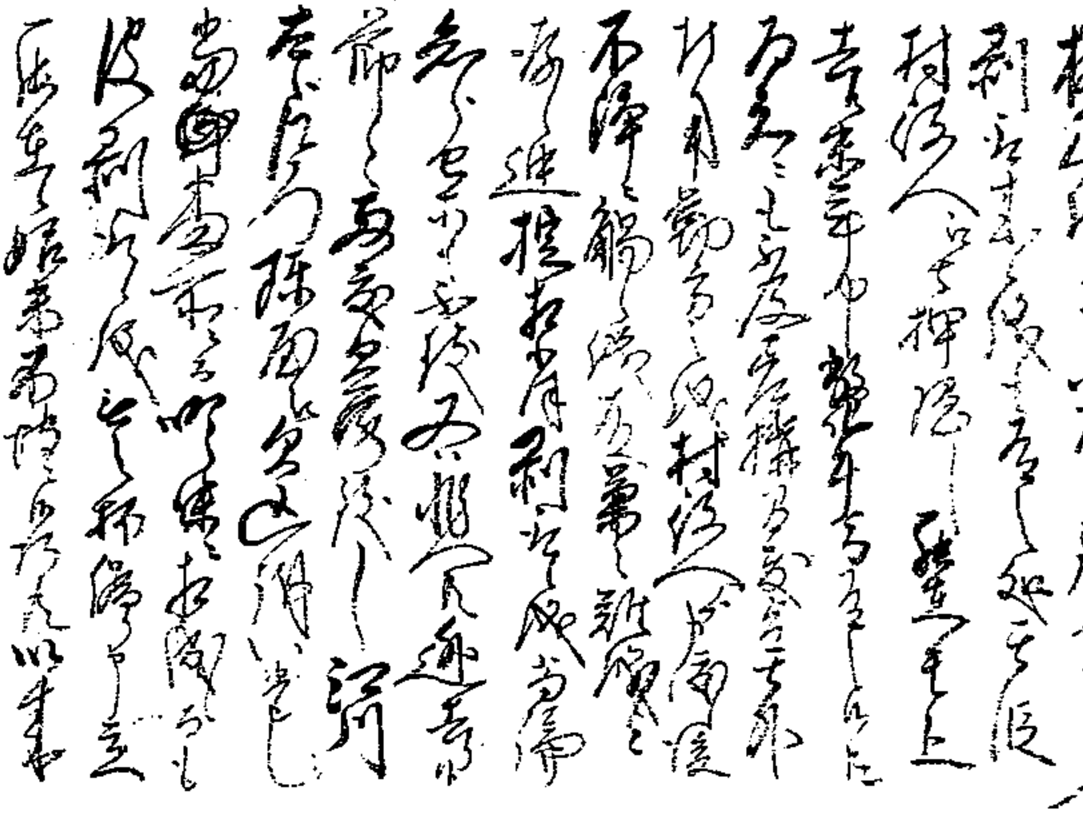


一、右三郎左衛門手下豆州賀茂郡岩殿村非人小屋頭欠落ち権兵衛抱え非人乙松儀、元小屋頭勘左衛門代わりとして檀中村ニ相廻り候節、斃牛馬有り次第自身ニ剥ぎ取り来たり、権兵衛も同様に仕来たり候段ハ存じ罷り在り乍ら去る未年斃牛馬これ有り候共為知（しらせ）に及ばず差し構え間敷き旨、村役人より申し渡し候後、剥ぎ取り候儀ハ勿論為知（しらせ）等も致さず、其上番非人共逃去ㇼ候節、欠落ちいたし其後帰り小屋致し居り、当御番所へ呼び出し之節、権兵衛代として村役人差添え八兵衛外六人一同出府致し候途中、兼て御当地へ出府致し居り助次郎ニ行逢い、同人並ニ八兵衛其の外申し合わせ逃げ去ㇼ候処、難給続権兵衛欠落ち候後同人明小屋へ立ち戻ㇼ忍び

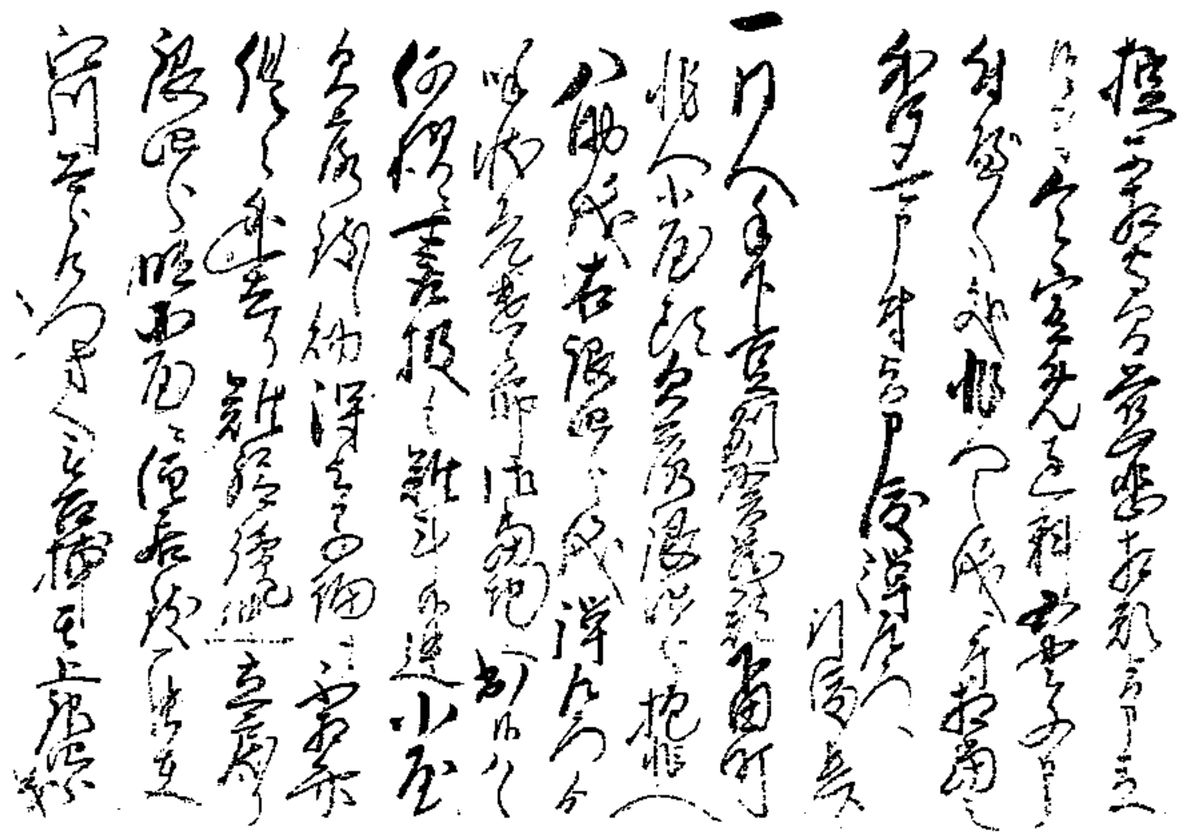


罷(まか)り在(あり)御代官江川太郎左衛門方江召し捕(とらえ)られ候
始末不埒ニ候得共、以来掟相守るべき間
慈悲相願い候旨申し立て候ニ付き、宥免(ゆうめん)せしめ
過料五貫文申し付け可き処、非人之儀ニ付き
相当之咎メ申し付け可き旨申し渡し、弾左衛門へ
引渡遣わス、

一、同人手下豆州田方郡原木村非人
小屋頭欠落角助、下小屋同州
君沢郡古奈村非人小屋主藤助儀
檀中村々相廻り候節、弊牛馬
有り次第自分と剥ぎ取り穢多江
差し出し、又ハ小屋頭方へ抱え置き、皮取り
非人江相知らせ剥ぎ取り手伝いいたし候
儀ハ前々ゟ弾左衛門掟ニて、先年

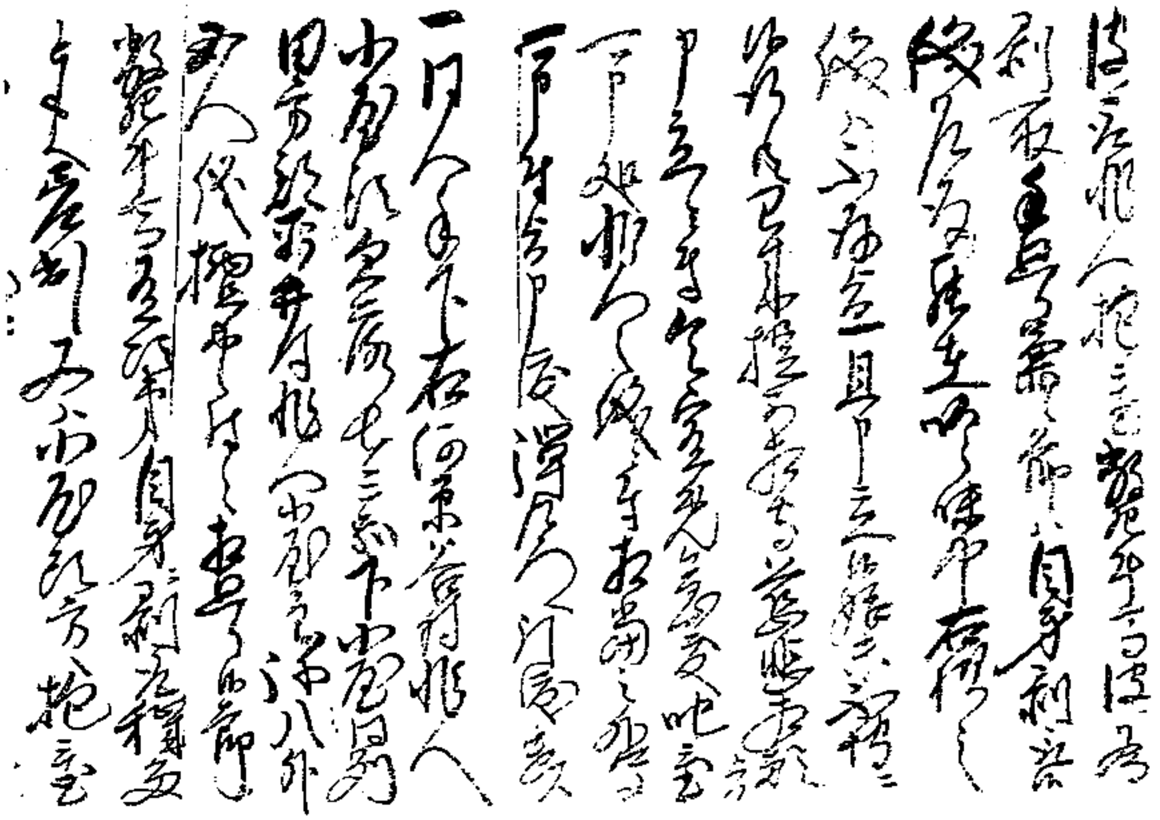


梅木村ニて下小屋主致し候節、自身ニ
剥ぎ取り来り候儀もこれ有る処、其段
村役人江は、押し隠し罷り在り其上
去ル未年中、弊牛馬これ有り候共
知らせニも及ばず差し構え間敷き旨、其の外
村用勤め方之儀、村役人ゟ申し渡し候後
不浄ニ触れ候儀故、兼々難儀と
存じ候迚、掟相背き剥ぎ取り候儀ハ勿論
知らセ等も致さず又ハ非人共逃げ去リ候
節々両度欠落ち致し、江川
太郎左衛門陣屋江欠け込み訴えいたし
当番所ニて吟味ニ相成り候ても
皮剥ぎ取り候儀これ無く抔(など)偽リ申し立て
罷り在り候始末、不埒ニ候得共、以来



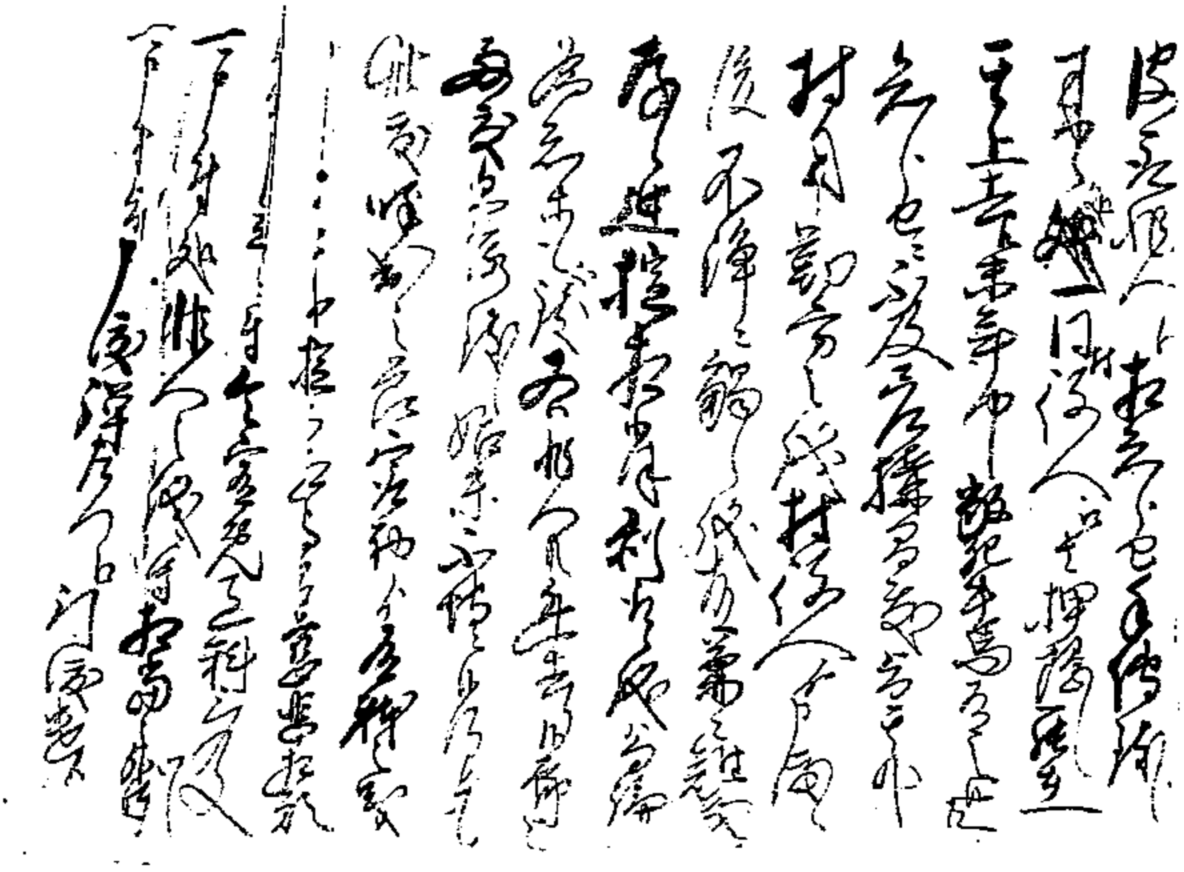
掟相守るべき間、慈悲相願う旨申し立て
候ニ付き、宥免せしめ過料五貫文申し
付けべく処、非人之儀ニ付き相當之
咎メ申し付け可き旨申し渡し驛左衛門へ
引渡し遣わス

一、同人手下豆州賀茂郡下田町
非人小屋頭欠落銀四郎抱え非人
八助儀右銀四郎儀驛左衛門ゟ
呼び状差し遣わし候節、御当地へ出(いで)候ハゞ
何様ニ取り扱うべきも計り難く候迚(とて)、小屋
欠落致し候砌(みぎり)、得(とく)と子細も相弁(わきま)えず
倶々逃げ去り給続難し候迚、立ち戻り
銀四郎明小屋ニ住居致し罷在り
江川太郎左衛門方へ召捕らえられ其上銀四郎義

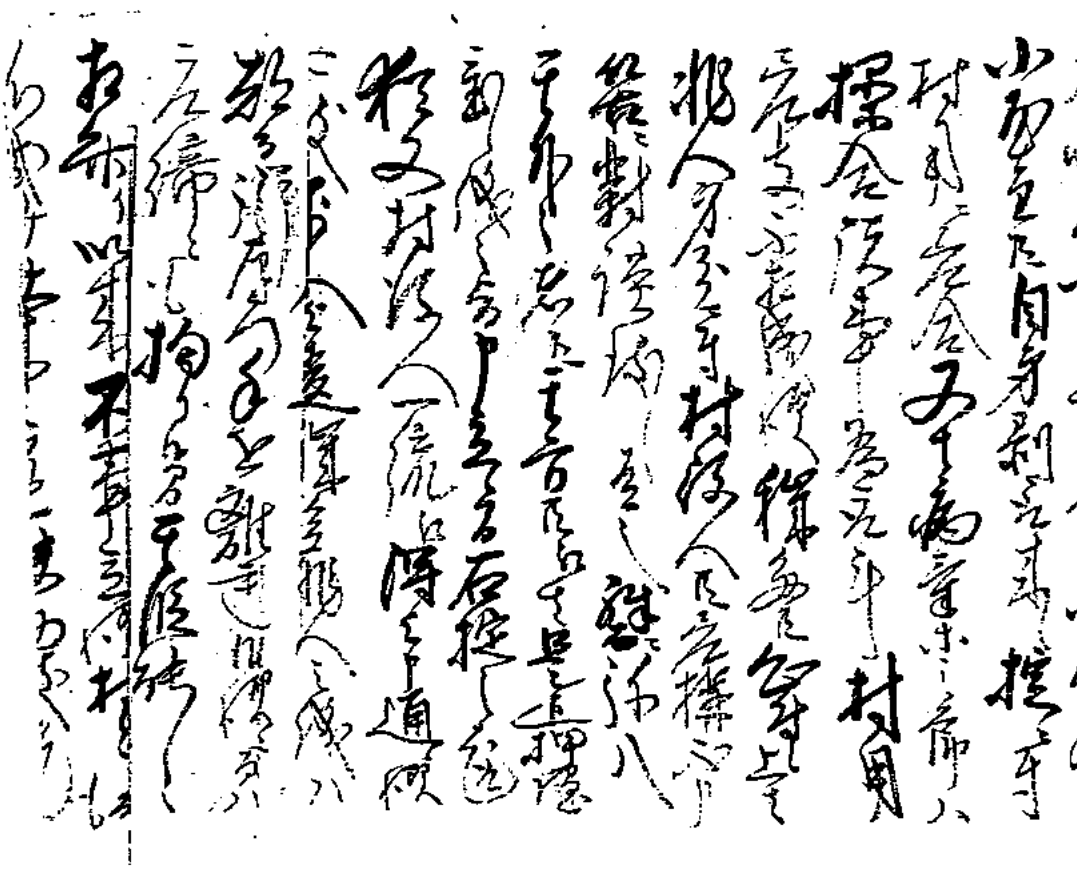


皮取り非人抱え置き弊牛馬皮
剥ぎ取らせ、手廻り兼ね候節ハ自身剥ぎ取り候
儀存じ乍ら罷り在り、吟味中右様之
儀ハ不存の旨、一旦申し立て候始末、不埒ニ
候得共、以来掟相守る可く慈悲相願う旨
申し立て候ニ付き宥免せしめ急度叱り置き
申す可き処、非人之儀ニ付き相当の咎メ
申付け可き旨申渡し、卿左衛門へ引渡し遣わス

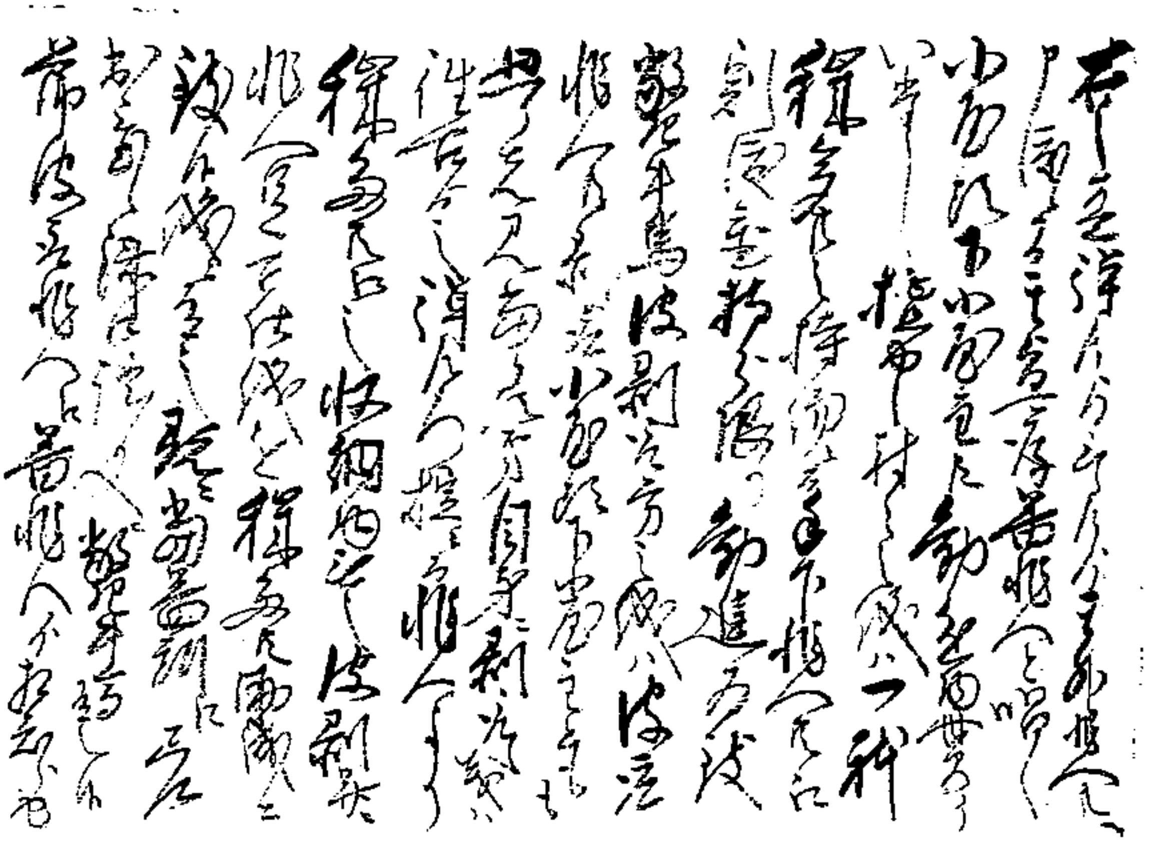
一、同人手下右河原谷村非人
小屋頭欠落七兵衛下小屋同州
田方郡平井村非人小屋主弥八外
五人儀檀中村々相廻り候節
弊牛馬有り次第自身ニ剥ぎ取り、穢多
どもへ差し出し、又ハ小屋頭方へ抱え置き



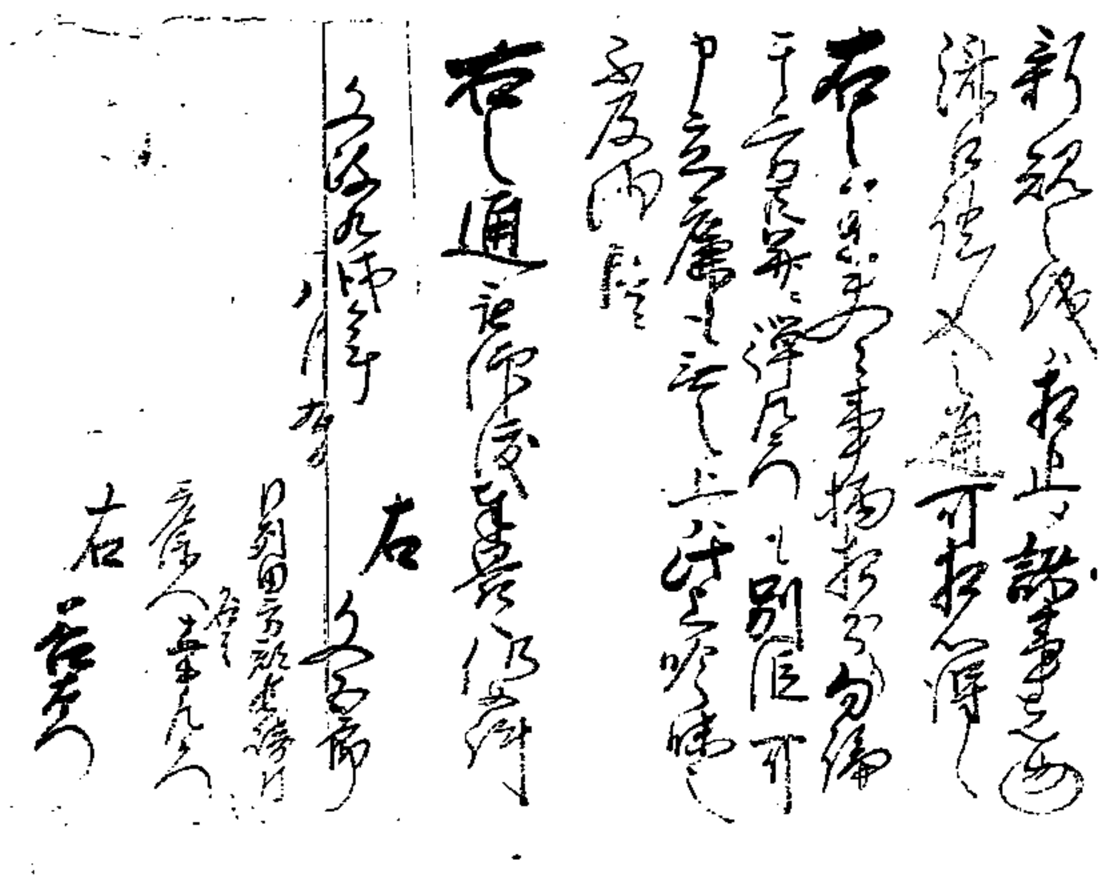
皮取り非人ヱ相知らせ手伝い致し
来たり候処、一同村役人ヱは押し隠し罷り在り
其上去ル未年中、弊牛馬これ有り候共
知らせニ及ばず差し構え間敷き旨其外
村用勤め方之儀村役人ゟ申し渡し候
後不浄ニ触れ候儀故、兼々難儀ニ
存じ候迚、掟相背き剥ぎ取り候儀ハ勿論
知らせ等も致さず、又ハ非人共逃去り候節は
両度欠落致し候始末不埒ニ候得ども
此の度呼び出し之節、最初ゟ有躰之儀
□□□□掟相守るべき間慈悲相願い
□□申し立て候ニ付き宥免せしめ過料三貫文ヅツ
申し付け可き処、非人之儀ニ付き相当之咎メ
申付け可き旨申し渡し騂左衛門ヱ引渡し遣わス



一、右非人不手廻りニ候節、小屋頭下
小屋主共自身剥ぎ取り来り候掟ニ付き
村用ニ差し合い、又は病気等之節ハ
操(くり)合わせ、諸事取り斗(はか)らわせ村用
差し支え相成らず様、穢多共心付け候上は
非人身分ニ付き村役人共差し構え申さず
筈ニ対談致しこれ有り、殊に右弥八
其外之者共、其方共江は是迫(まで)押し隠し
置き候儀之旨申し立て候間、右掟之趣
猶又、村役人一統江得と申し通し候様
致すべく候、人と違い穢多非人之儀ハ
都(すべ)而(て)驛左衛門手を離れ候様ニてハ
元締ニも拘り候間其段能々
相弁え以来、事立てざる様村々□□も
心掛け、仕来り之間扶助致し□候



右之意、騨左衛門、三郎左衛門其外非人共
申し渡し候間、其旨存ず可く、番非人と唱し
小屋頭、下小屋主共勧進内貰イ
致し檀中村々之儀ハ一躰
穢多共之持場ニて、手下非人共江
割り渡し置き、持分限リ勧進致させ
斃牛馬皮剥ぎ取り方之儀ハ皮取り
非人共剥ぎ取り、小屋頭下小屋主どもも
廻リ、先ず見当り次第自身ニ剥ぎ取り候義ハ
往古ゟ之騨左衛門掟ニて非人より
穢多共江之収納物之れ無く、皮剥ぎ并ニ
非人足召し仕儀を穢多共助成ニ
致し候儀ニ之れ有り、既ニ当番所江差し
出し置き候済口証文ニ斃牛馬之れ有り候
節、皮取り非人江番非人より相知らせ



新規之儀ハ相止メ諸事先年
濟口證文之通ｿ、相心得可く候
右之通り、夫々事柄相分かｿ勿論
其方共并ニ驛左衛門も別段
申し立つべき廉（かど）も之れ無き上ハ此上吟味之
沙汰ニ及ばず、

右

右之通り仰せ渡せられ畏（かしこ）み奉り候仍（よって）如件（くだんのごとし）、

文政九戌年　　　　文五郎
八月九日

同州田方郡長崎村
名主
差添人　幸左衛門
右　善右衛門

函南町古文書資料集 (二)

―大土肥・渡辺家古文書―

発行　函南町教育委員会
刊行　平成４年３月
印刷　三島市栄町３－30
　　　日研印刷

函南町立図書館
11088172 9